

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
家政学概論	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	かめい ゆうこ 亀井 佑子	単独	共通基礎科目 (社福主)	特になし	1, 11, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
生活科学としての家政学がもつ意義を概説し、本学家政科での両専攻での学びをよく理解する。人間生活にとって不可欠な要素である家族、家庭、それらと社会との関わり、衣食住、家族、保育、消費、環境などに関する知識と技術を、実践的な活動も入れて学習する。						家政学、食物栄養学を学ぶ学生として必要な家政学の基礎知識を修得することを目的としている。家庭を中心とした日常生活を幅広い視野で捉え、豊かな教養を形成するとともに社会の中で家政学に基づいた社会貢献ができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	本学家政科における学び	本学家政科で期待される学び、他専攻についての理解	シラバスを読んでもくる	キャンパスガイドや、シラバスを読んで復習する
2	家政学とは	現在の家政学、家政学と家庭科教育学	教科書の目次を読んでもくる	配布プリントについて復習する
3	家庭科教育	最近の家庭科教育についてその変遷を知る	配布プリントを読んでもくる	配布プリントについて復習する
4	家族・家庭について	日本の家族・家庭とその課題について知る。アサーショントレーニング	教科書P23～P34まで読んでもくる	教科書P77～P96を読んでおく。
5	保育について	保育の意義、生命の誕生、子どもの心身の発達と生活、子育て支援	教科書P61～P74まで読んでもくる	教科書P61～P74を読んでおく。
6	衣生活について	服飾文化、被服材料、着こなし、被服の安全	教科書P129～P132まで読んでもくる	教科書P129～P132を読んでおく。
7		衣服の購入、手入れ（洗濯、しみぬき）、保存	配布プリントを読んでもくる	配布プリントについて復習する
8	食生活について	食生活の現状、食と健康、食文化	教科書P129～P132まで読んでもくる	配布プリントについて復習する
9		食品の表示、選択、配膳とマナー、和食のワークショップ	配布プリントを読んでもくる	ワークショップについて復習する
10	食育について	食育基本法、学校における食育	配布プリントを読んでもくる	配布プリントについて復習する
11	住生活について	世界と日本の住まい、快適な住まい、健康で安全な住まい	配布プリントを読んでもくる	配布プリントについて復習する
12		住宅広告の読み取り、住宅の賃貸、購入、建築基準法、これからの住まい	配布プリントを読んでもくる	配布プリントについて復習する
13	家庭経済・消費	消費者、契約、メディア情報、独立して暮らす、保険	教科書P143～P153を読んでもくる	配布プリントについて復習する
14	環境	便利な生活と地球環境	教科書P143～P152を読んでもくる	配布プリントについて復習する
15	現代における家政学の課題と展望	家政学の社会貢献	配布プリントを読んでもくる	配布プリントについて復習する

教科書	日本家政学会家政教育部会編：『家族生活の支援－理論と実践－』 建帛社（2014）	参考書資料	関西家政学原論研究会編：『家政学のじかん』（2011）
------------	--	--------------	-----------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること 余儀なく欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること 意欲的に授業に取り組むこと 	レポート(60%) 課題 (20%) 授業態度(20%) の総合評価	現代の家政学を理解し、衣食住、家族、保育、消費、環境等に関する基本的知識を修得し、日常生活へ実践する態度が育成されれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
異文化と世界	選択	共通	1年 後学期	講義	2	わたなべ 渡辺 淳	単独	共通基礎科目	特になし	—
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要								授業の到達目標		
異文化理解についての基本的な考え方、その問題点を教科書により学びつつ、国際社会の成り立ちの変動の中での人々の価値観・文化の揺らぎを理解する。各種ホームページからの資料や国内・海外のテレビニュース等を利用する。授業進行は、議論の論理的構築及び話題性の両方を考慮して、柔軟に行っていくものとする。								私たちの日々の生活が外国(企業・人)との関係なしには成り立たなくなっているグローバル世界の現状と文化状況を理解し、その中で生きていくための知的土台を築くことができる。		

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	イントロダクション	なぜ「異文化と世界」を学ぶか	シラバスを読んでおく	授業計画の説明を再確認する
2	日常生活とグローバル化	消費生活, 雇用, 企業	配布プリントを読む	プリントを復習する
3	るつば、多文化主義、単一民族	米・仏・独・日における状況と経済的効率・政治的統合・文化的理念	配布プリントを読む	プリントを復習する
4		国民国家の神話の終焉	配布プリントを読む	プリントを復習する
5	グローバル経済と企業	経済のグローバル化、多国籍企業、英語社内公用語化問題	配布プリントを読む	プリントを復習する
6		金融マーケット、国家主権、民主主義の空洞化	配布プリントを読む	プリントを復習する
7	グローバル時代の家族・教育	海外子女、帰国子女と家族関係	配布プリントを読む	プリントを復習する
8		外国人教育、コミュニケーション教育、自国の価値観の再検討	配布プリントを読む	プリントを復習する
9	ナショナリズムと現代	グローバル化と対抗ナショナリズム	配布プリントを読む	プリントを復習する
10		ナショナリズムの歴史とパターン	配布プリントを読む	プリントを復習する
11	国際秩序の歴史	ウェストファリア条約、2つの大戦、冷戦、9.11テロと新興国	配布プリントを読む	プリントを復習する
12		2つの大戦の反省としての第2次世界大戦後の秩序	配布プリントを読む	プリントを復習する
13		地域統合：ヨーロッパ統合の進展と停滞、東アジアの現状	配布プリントを読む	プリントを復習する
14	各国、各地域の歴史と現在の位置、 未来へ向けて	ヨーロッパ(独仏を中心に)、アメリカ、イスラム圏諸国	配布プリントを読む	プリントを復習する
15		日本、中国、韓国、東南アジア諸国	配布プリントを読む	プリントを復習する

教科書	なし	参考書 資 料	必要に応じてプリント等を配布する
-----	----	------------	------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
積極的な発言が期待される。 遅刻厳禁。 私語は禁止。	取り組み姿勢 (30%) 提出物 (70%)	積極的に取り組み、提出課題を十分に仕上げ提出し、定期試験レポートにおいて、異文化にまつわる問題及び世界の動向について、基本的事項の理解が確認されれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
日本国憲法	選択 教職必修	共通	2年 前学期	講義	2	ともよせ 友寄	たかのぶ 隆信	単独 共通基礎科目	特になし	—
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
施行規則第66条の6に定める科目						日本国憲法				
授業の概要						授業の到達目標				
憲法の基本的枠組み（基本的人権、統治機構）を、出来るだけ身近な事例を取り上げて説明し、憲法とは何かを理解させたい。						憲法の基本を学ぶことにより、政治・社会で起きる様々な出来事に関して、自らの意見をまとめ、表明できるようにする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	憲法の歴史	憲法は何のために有るのか、近代憲法の誕生、日本国憲法の誕生	教科書該当箇所(P16～19、P24～32)を読むこと	参考書の該当箇所での復習
2	憲法の基本原理	憲法の三大原理、国民主権と象徴天皇	教科書該当箇所(P34～62)を読むこと	参考書の該当箇所での復習
3	平和主義	憲法9条の意義、憲法9条と自衛隊・日米安保条約	教科書該当箇所(P64～86)を読むこと	参考書の該当箇所での復習
4	基本的人権の原理	人権の意味と特徴、公共の福祉による制限、個人の尊重	教科書該当箇所(P88～97)を読むこと	参考書の該当箇所での復習
5	法の下での平等	法の下での平等の意味、一票の格差、男女の平等	教科書該当箇所(P98, 99)を読むこと	参考書の該当箇所での復習
6	思想信教の自由	政教分離、信教の自由と公共の福祉	教科書該当箇所(P104～107)を読むこと	参考書の該当箇所での復習
7	表現の自由	報道の自由、有害図書の指定、プライバシー権	教科書該当箇所(P102, 103, 108, 109)を読むこと	参考書の該当箇所での復習
8	経済的自由 財産権の保障	職業選択の事由、営業の自由とその規制	教科書該当箇所(P110, 111)を読むこと	参考書の該当箇所での復習
9	人身の自由	犯罪捜査における適正手続の保障、自白と証拠能力	池上参考書(P70～78)、配付プリントを読むこと	参考書の該当箇所での復習、配付プリントを復習
10	社会権 参政権	生存権、教育を受ける権利、労働権	教科書該当箇所(P114～121)、配付プリントを読むこと	参考書の該当箇所での復習、配付プリントを復習
11	国会	権力分立の原理、国権の最高機関	教科書該当箇所(P126～145)を読むこと	池上参考書の該当箇所を読むこと
12	内閣	議院内閣制と衆議院解散	教科書該当箇所(P146～153)を読むこと	池上参考書の該当箇所を読むこと
13	裁判所	司法権の独立、違憲審査制、裁判員制度	教科書該当箇所(P154～165)を読むこと	池上参考書の該当箇所を読むこと
14	地方自治 財政	地方自治のしくみ、財政民主主義	教科書該当箇所(P166～171)を読むこと	池上参考書の該当箇所を読むこと
15	まとめ	最高法規、憲法改正	教科書該当箇所(P174～189)を読むこと	配付プリントをよく読んで理解すること

教科書	木山泰嗣：『マンガでわかる日本国憲法』池田書店（最新版）	参考書資料	池上彰：『超訳 日本国憲法』新潮新書（2015） 伊藤真：『伊藤真の日本一わかりやすい憲法入門』中経出版（最新版） 石ノ森章太郎：『改訂版 石ノ森章太郎のまんが日本国憲法』講談社（最新版）
------------	------------------------------	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
授業中、前後の質問大歓迎。	定期試験(60%)、授業態度(40%)の総合評価。	日本国憲法についての基本的理解ができていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
女性と社会	卒業必修	共通	1年前学期	講義	2	たけうち 竹内	ゆきこ 由紀子	単独	共通基礎科目	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
女性が一生で遭遇する人生の転機を取り上げ、現代人がどのような選択をする傾向にあるのか、多様な実態を学ぶ。そのような個人的な選択が、社会全体とどのように関わり、どのような問題が生じているのか各自で考える。その上で、自分はどのように生きたいのか、自分の将来を見つめて思考を深めていく。						現代に生きる私たちは、多様な価値と多様な人生の選択肢にとりまかれた環境に生きている。選択肢の多い現代社会の中で周囲の雰囲気にならされず、自分らしい生き方を見つけることができるようになる。女性のライフコースの上にある、さまざまにある選択肢を学びながら、自分の将来を考え、豊かな人生を自分が拓いていくという意識を持てるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	人生の選択肢	現代社会における女性の生き方を考える	自分は将来どのように生きたいか、就職や恋愛、結婚等、自分の考えをまとめておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
2	他者との共生のために	「他者」とは 自分を尊重する アサーティブに生きる	自分は自分を大事にできているか振り返って考えをまとめておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
3	「大人」とは	「大人」とは何かを再考する	「大人」とはどのような人をいうのか、自分の考えをまとめておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
4	社会人になること	仕事をするこの意味 現代若者の就業状況	短期大学卒業後、自分はどのように過ごしたいか、再考する。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
5	恋愛とは	恋愛とは何か 現代若者の恋愛事情	「恋愛」について自分はどのような考えを持っているのか、まとめておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
6	結婚の意味	結婚の変遷 夫婦関係の変化 結婚観の変化	「結婚」について自分はどのような考えを持っているのか、まとめておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
7	妊娠・出産の諸問題	セクシュアリティ 家族計画 少子化	子どもを持つことについて自分はどのような考えを持っているのか考えをまとめておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
8	出産の医療化	産む／産ませてもらう 生殖補助医療	「妊活」とは何か調べ、自分の考えをまとめておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
9	子育ての社会環境	母性 育児のサポート	子育てについての自分の考えをまとめておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
10	ドメスティック・バイオレンス	愛情と支配と暴力 デートDV 児童虐待	ドメスティック・バイオレンスとは何か調べておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
11	老いを考える	高齢社会の文化	高齢社会の抱える問題点について調べてまとめておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
12	認知症サポーター養成講座	認知症サポーター養成講座を受講する	高齢者と接した経験で困ったこと、とまどったこと等、自分の体験をまとめておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
13	現代社会における「死」	現代社会における「死」の意味を再考する	自分が身近で体験した「死」についての経験、「死」についての考えをまとめておく。	受講前に考えていたことと比較し、どのような気付きが新たにあったか整理しておく。
14	レポートの書き方	単位レポートの書き方・文献の探し方	単位レポートのテーマを考えておく。	指示に従ってレポートの準備を進める。
15	将来のビジョンをもつこと	人生のビジョンをもつことの意味	レポート作業でわからないこと、質問をまとめておく。	指示に従ってレポートの準備を進める。

教科書	教科書なし 授業中にプリントを配付する	参考書資料	授業中に紹介する
------------	---------------------	--------------	----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
私語厳禁。携帯電話使用厳禁。毎週、授業終了時に小レポートを書いてもらう。	受講態度・取組み姿勢 (20%) 定期試験レポート (80%)	受講態度が良く、毎回の小レポートで省察ができている。定期試験レポートは、①人生の諸問題を把握したうえで、自分の問題設定ができている、②適切に参考文献が選択できている、③自分の意見が論理的に書けている、以上ができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
運動と健康 I	卒業必修 教職必修	共通	1年 後学期	講義	2	きとう 佐藤	ひさの 久乃	単独 共通基礎科目	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
施行規則第66条の6に定める科目						体育				
授業の概要						授業の到達目標				
自分の体について知り、どのようにしたら健康を保持増進できるかを考える。そして、どのような運動をしたらより効果的かを考え、実践できるようにする。						運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、日常生活で実践することができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	現代社会と健康	運動・休養と健康	シラバスを読んでくる。	プリントの復習。
2	現代社会と健康	健康に関わる意思決定と行動選択	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	プリントの復習。
3	人体解剖生理の雑学	骨格系	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	プリントの復習。
4	人体解剖生理の雑学	筋肉系	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	プリントの復習。
5	人体解剖生理の雑学	肥満・やせと健康	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	プリントの復習。
6	人体解剖生理の雑学	からだのクイズ	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	プリントの復習。
7	社会の変化とスポーツ	現代社会とスポーツの意義	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	日常生活の中で取り入れられる運動を考える。
8	社会の変化とスポーツ	社会の変化とスポーツ	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	日常生活の中で取り入れられる運動を考える。
9	社会の変化とスポーツ	ライフスタイルとスポーツの関わり	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	日常生活の中で取り入れられる運動を考える。
10	社会の変化とスポーツ	スポーツライフの設計	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	日常生活の中で取り入れられる運動を考える。
11	社会の変化とスポーツ	スポーツライフの設計	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	日常生活の中で取り入れられる運動を考える。
12	体ほぐしの意義と体力の高め方	体づくり運動	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	日常生活の中で取り入れられる運動を考える。
13	体ほぐしの意義と体力の高め方	体力の高め方	日頃から健康のために良い行動パターンを考える。	日常生活の中で取り入れられる運動を考える。
14	体ほぐしの意義と体力の高め方	総合的な体力の高め方	プリントの復習。	プリントの復習。
15	体ほぐしの意義と体力の高め方	体力の高め方と安全	プリントの復習。	プリントの復習。

教科書	なし	参考書 資料	必要に応じてプリントを配布
-----	----	-----------	---------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻をしないように体調管理をきちんとすること。 プリントへの記入を必ず行うこと。 	定期試験(80%) 取り組み姿勢(20%)	運動を取り入れた健康づくりの基本を理解し、授業中に行うプリントを提出する。定期試験によりその成果を確認できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
運動と健康Ⅱ	卒業必修 教職必修	共通	2年 前学期	実技	1	きとう ひさの 佐藤 久乃	単独	共通基礎科目	特になし	6・7,9,12
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
施行規則第66条の6に定める科目						体育				
授業の概要						授業の到達目標				
体づくり運動、エアロビクスを通じて運動を楽しむ。また、運動不足、疲労、ストレスの状態などの身体の状態の変化に気づき、日常生活に適度に運動を取り入れることで、健康的な美しさや体調を保つことに効果があることを認識する。						軽い全身運動、下肢、上肢、体幹などの部位別の運動、グループゲームを行う。また、エアロビクスのベーシックステップ、ルーティーン練習を行い、すべての動きができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス、ストレッチ	授業の進め方、内容説明、ストレッチ	シラバスを讀んでくる。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
2	体づくり運動、エアロビクス	グループゲーム、ストレッチ、基本ステップ	基本ステップの復習。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
3		ストレッチ、筋力トレーニング、基本ステップ	基本ステップの復習。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
4		ストレッチ、筋力トレーニング、基本ステップ	基本ステップの復習。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
5		ストレッチ、筋力トレーニング、基本ステップ	基本ステップの復習。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
6		ストレッチ、筋力トレーニング、基本ステップ	基本ステップの復習。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
7		グループゲーム、ストレッチ、ルーティーンの練習	ルーティーンのイメージトレーニング。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
8		ストレッチ、筋力トレーニング、ルーティーンの練習	ルーティーンのイメージトレーニング。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
9		ストレッチ、筋力トレーニング、ルーティーンの練習	ルーティーンのイメージトレーニング。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
10		ストレッチ、筋力トレーニング、ルーティーンの練習	ルーティーンのイメージトレーニング。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
11		ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	ルーティーン全体の復習。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
12		ストレッチ、グループでのルーティーンの練習	ルーティーン全体の復習。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
13		ストレッチ、筋力トレーニング、ルーティーンの練習	ルーティーン全体の復習。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。
14		グループ発表	ストレッチ、グループ発表	ルーティーン全体の復習。
15	ストレッチ、グループ発表		ルーティーン全体の復習。	ストレッチなど、日常生活の中に取り入れる。

教科書	なし	参考書 資料	なし
-----	----	-----------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻をしないように体調管理をきちんとすること。 髪は邪魔にならないようにまとめる。 先の尖ったピンなどの使用禁止。 	定期試験(60%) 取り組み姿勢(40%)	動きをすべて覚え正確に演技ができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
英語コミュニケーションⅠ	卒業必修 教職必修	共通	1年 後学期	演習	1	渡辺 淳 りちやーど おすてん Richard S. Austen	複数 共通基礎科目	特になし	7, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
施行規則第66条の6に定める科目						外国語コミュニケーション			
授業の概要						授業の到達目標			
習熟度別の2クラス編成とし、リスニング・スピーキングと文法・リーディングの授業を交互に行う。リスニング・スピーキングの授業では、ネイティブスピーカーと話すことにより英語を楽しみ、異文化を知りつつ、「使える英語」を学ぶ。履修者の状況に対応した課題を設定する。						英語基礎力の定着に加えて、英語を使うことに喜びと自信を持てるようになる。世界の国々における生活のさまざまな話題となることについて、英語で理解するのに必要な能力を身につけることができる。			

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	イントロダクション	授業についての説明	シラバスの該当ページを読む	課題の演習
2	食べ物・飲み物	リスニング・スピーキング(1)	指定されたプリントの予習	課題の演習
3	天候	文法・リーディング・ライティング(1)	指定されたプリントの予習	課題の演習
4	趣味	リスニング・スピーキング(2)	指定されたプリントの予習	課題の演習
5	健康・病気	文法・リーディング・ライティング(2)	指定されたプリントの予習	課題の演習
6	音楽	リスニング・スピーキング(3)	指定されたプリントの予習	課題の演習
7	職業	文法・リーディング・ライティング(3)	指定されたプリントの予習	課題の演習
8	家族	リスニング・スピーキング(4)	指定されたプリントの予習	課題の演習
9	オリンピック	文法・リーディング・ライティング(4)	指定されたプリントの予習	課題の演習
10	動物とペット	リスニング・スピーキング(5)	指定されたプリントの予習	課題の演習
11	犯罪	文法・リーディング・ライティング(5)	指定されたプリントの予習	課題の演習
12	気持ち	リスニング・スピーキング(6)	指定されたプリントの予習	課題の演習
13	マス・メディア	文法・リーディング・ライティング(6)	指定されたプリントの予習	課題の演習
14	有名人、映画スター	リスニング・スピーキング(7)	指定されたプリントの予習	課題の演習
15	天災・人災	文法・リーディング・ライティング(7)	指定されたプリントの予習	課題の演習

教科書	大坂 四郎：『First Steps to English Grammar』 南雲堂（最新版）	参考書 資 料	必要に応じてプリントを配付する
-----	---	------------	-----------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①毎回課題を出すので、まじめに取り組むこと。 ②積極的な授業参加を特に求める。	取組姿勢(25%) 小テスト(35%) 定期試験(40%)	授業に積極的に取り組み、小テスト・定期試験にて短期大学相当の総合的英語力の習得が確認されれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
英語コミュニケーションⅡ	選択 教職必修	共通	2年 後学期	演習	1	わたなべ 渡辺 淳	単独	共通基礎科目	なし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
施行規則第66条の6に定める科目						外国語コミュニケーション				
授業の概要						授業の到達目標				
eラーニング利用により受講者各々のレベルに配慮し、A1、A2、B1の3つのコースに分割し、個人の意志と努力により、最高で740点まで目指せる内容とする。仕事・生活における会話表現の学習を深めていく。						eラーニングを利用した授業である。レベルチェックを行い、3段階のうちの適切なレベルで各々が学習できる。TOEIC Bridgeテストのレベルをまず習得し、TOEICテストの比較的平易なを解くことができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	イントロダクション	eラーニング及び機器使用の仕方等についての説明	シラバスの該当ページを読む	テキストの指定されたページを読む
2	レベル決定	レベルチェックテスト	配布されたプリントを読む	テキストの指定されたページを読む
3	写真描写問題	Step 1-5	配布されたプリントを読む	課題の演習
4		Step 6-10	配布されたプリントを読む	課題の演習
5	文法・語彙問題	Step 1-4	配布されたプリントを読む	課題の演習
6		Step 5-7	配布されたプリントを読む	課題の演習
7		Step 8-10	配布されたプリントを読む	課題の演習
8	応答問題	Step 1-5	配布されたプリントを読む	課題の演習
9		Step 6-10	配布されたプリントを読む	課題の演習
10	会話問題	Step 1-4	配布されたプリントを読む	課題の演習
11		Step 5-7	配布されたプリントを読む	課題の演習
12		Step 8-10	配布されたプリントを読む	課題の演習
13	読解問題	Step 1-4	配布されたプリントを読む	課題の演習
14		Step 5-7	配布されたプリントを読む	課題の演習
15		Step 8-10	配布されたプリントを読む	課題の演習

教科書	田原博幸：『Eラーニングで身につける英語の基礎』 株式会社ニュートン（2011）	参考書 資料	プリントを必要に応じて配布する
-----	--	-----------	-----------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。 ・英和及び和英辞典の持参が必要。 ・第2回までに、目標とすべき自主的なeラーニング学習のペースを支持する。 ・eラーニングによる積極的な予習復習(毎日約10分)が必要となる。 	取組姿勢（15%） 課題web提出(15%) 小テスト（30%） 定期試験（40%）	積極的に取り組み、提出課題を十分に仕上げ提出し、定期試験及び小テストにおいて、TOEICテストを受験するうえでの英語の基本的事項の理解が確認されれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
ボランティア論	選択	共通	1年前学期	講義	2	なかの 中野	みやこ 都	単独 共通基礎科目	特になし	11,17
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
ボランティアの理念、目的、原則、意義、現状、問題点を学ぶとともに、履修生がボランティア活動に参加する機会を作り、参加後にはディスカッションの場を設けボランティア活動に対する理解を深める。また、社会的な活動を通して社会に貢献すること、コミュニケーション能力の向上及び自己実現に向けての機会を得ることとはどのようなことなのかについて共に考える。						講義で学ぶ理論とボランティア活動の実践を通して得られた知識及び技術を合わせて、社会貢献することを目標とする。ボランティア活動は活動する側にとっても様々な活動を通じて自己、他者を知ることができ、コミュニケーション能力の向上及び自己実現の機会となることを理解し、活動の場を広げることができるようにする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ボランティア活動について	ボランティアの理念・目的	シラバスを讀んでくる。	ボランティアの理念と目的について復習する。
2		ボランティア活動の基本原則	配布資料の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考えながら復習する。
3		実際のボランティア活動	配布資料の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考えながら復習する。
4		ボランティア参加の意義	配布資料の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考えながら復習する。
5		ボランティア活動と公共	配布資料の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考えながら復習する。
6		ボランティア活動とNPO法人（特定非営利活動）	配布資料の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考えながら復習する。
7		NPO法人の種類とその具体的な活動	配布資料の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考えながら復習する。
8		ボランティアセンターの役割と機能	配布資料の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考えながら復習する。
9		自分にあったボランティア活動とは	配布資料の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考えながら復習する。
10		ボランティアの心構え	配布資料の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容をボランティアの場でどのように活かせるか考えながら復習する。
11	ボランティア活動の実践	国際ボランティア活動とは	配布資料の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容を復習する。
12		JICA国際協力出前講座	講師の派遣国について把握して出前講座に臨む。	出前講座内容を復習する。
13		国内でできる国際ボランティア活動についてのディスカッション	JICA国際協力出前講座内容を見直しておく。	学習した内容を復習し、自分が参加できる国際ボランティア活動について考えをまとめる。
14		学外ボランティア活動の実践	参加するボランティア活動について内容を把握しておく。	参加したボランティア活動内容をまとめ、レポートを完成させる。
15		学外ボランティア活動報告会	参加したボランティア活動内容についてまとめておく。	報告会の内容を振り返り、自分が興味あるボランティア活動について理解を深める。

教科書	授業中に資料・プリントを配布する。	参考書資料	金子郁容著：『ボランティア-もうひとつの情報社会』 岩波新書（最新版） 岡本榮一、菅井直也他編：『学生のためのボランティア論』 社会福祉法人大阪ボランティア協会（最新版）等
------------	-------------------	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 講義を受けるだけでなく、日常生活の中でボランティア活動の実践に取り組む。 授業中の携帯電話の使用及び飲食、私語は禁止する。 	定期試験(40%) ボランティア体験の活動報告書・レポート(40%) 受講態度(20%)	授業内で取り扱ったボランティア活動の基礎的事項について理解が得られ、実践活動に参加し、レポートが提出されれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
心理学	選択	共通	1年前学期	講義	2	さとう あきこ 佐藤 秋子	単独 共通基礎科目	特になし	—
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
基本的に講義形式である。心理学の基本的な事項をわかりやすく学べるように、心理学の全体像を解説する。						心理学は「こころ」の問題を総合的に扱う学問の分野の一つです。心理学の知見が日常生活のなかで役立つように気づくこと。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	心理学とは	授業内容の紹介、心理学の歴史	シラバスを読んでくる	授業への感想や意見を述べる
2	発達の理論	フロイトの精神発達理論、エリクソンの精神発達理論、ピアジェの発達理論	授業の中から課題を一つ選択してコメントを記述	授業内容に関する小課題をまとめる（用紙配布）
3	生涯発達（1）	発達の概要、乳幼児期、児童期の特徴	自己の成長について考える	DVD鑑賞後小課題をまとめる
4	生涯発達（2）	思春期、青年期、成人期の特徴	自己の反抗期について述べる	授業内容に関する小課題をまとめる
5	学習・認知・知覚	錯覚、ワーキングメモリー、嗅覚と味覚	「おいしい」と感じるには	授業内容に関する小課題をまとめる
6	学習・記憶	脳の構造と機能、シナプスと神経伝達物質	授業の課題を一つ選択し小レポートとする（以下同様）	DVD鑑賞後小課題をまとめる
7	学習	強化理論、認知理論、動機づけと学習意欲	自己の勉強方法についてまとめる	授業内容に関する小課題をまとめる
8	性格（1）	パーソナリティのとらえ方、類型論、特性論	授業の中から課題を一つ選択してコメントを記述	授業内容に関する小課題をまとめる
9	性格（2）	性格検査、適応と不適応	授業の中から課題を一つ選択してコメントを記述	授業内容に関する小課題をまとめる
10	人間関係	現代青年の人間関係、コミュニケーション。自己実現	自己の夢について述べる	授業内容に関する小課題をまとめる
11	臨床（1）	子どもの発達障害	発達障害のイメージについて記述する	DVD鑑賞後小課題をまとめる
12	臨床（2）	子どもの問題行動	子どもに関する新聞切り抜きにコメントを述べる	授業内容に関する小課題をまとめる
13	臨床（3）	精神疾患、心身症、メンタルヘルス	自己のストレスについて述べる	授業内容に関する小課題をまとめる
14	臨床（4）	遊戯療法、行動療法、来談者中心療法	授業の中から課題を一つ選択してコメントを記述	授業内容に関する小課題をまとめる
15	まとめ	授業の補足および振り返り	これまでの授業で学習したことを復習する	授業内容に関する小課題をまとめる

教科書	必要に応じてプリントを配布します	参考書資料	必要に応じて講義内で紹介する
------------	------------------	--------------	----------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
「私語を禁じます」「遅刻厳禁」「携帯使用厳禁」「毎週課題を出します」	筆記試験(80%) 事前事後課題(20%)	積極的に授業に取り組み、課題を提出し授業の内容を十分に理解していれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
キャリア形成 I	卒業必修	共通	1年 後学期	演習	1	おだしま 小田島 祐美子	単独 共通基礎科目	特になし	15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
<p>社会人になるために必要な心構えやマナー、身だしなみ、言葉遣いを学ぶ。 就職活動の流れ、基礎知識、自己分析、企業研究の方法、履歴書の書き方を学び、就職活動に必要な事項の習得を行う。</p>						<ul style="list-style-type: none"> 自分のキャリアデザインについて、具体的に考えることができるようになる。 就職活動を行うにあたり基本となる知識と心得を身につけることができるようになる。 自分を知り、適切な自己表現ができるようになる。 企業研究の方法を学び、就職活動に必要な企業の情報を得ることができるようになる。 学内企業研究会を参加することにより、企業説明会の参加方法を知ることができるようになる。 			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	授業の目的、内容、今後の予定、キャリア形成・キャリアデザインとは	シラバスを読んでくる。	自分のキャリアデザインについて考える。
2	就職活動の流れ・自己分析	就職活動の流れ、自己分析、セミナーの案内	教科書 p 2～16まで読んでくる。	自己分析方法について復習する。
3	キャリアデザイン	セミナー(1) (生活設計について)	将来の生活設計について考えてくる。	将来の生活設計について具体的に考える。
4	自己分析と自己PR	自分史の作成と自己分析	教科書 p 2～16を読んでくる。	自分史、長所、短所についてのシートを仕上げる。
5		自己PRの作成(自己分析からアピールポイントの探求) セミナーの案内	教科書 p 2～17を読んでくる。	自己PRシートを仕上げる。
6	業界・企業研究	セミナー(2) (企業研究、業界と業種)	教科書 p 32～62を読んでくる。	セミナーの内容を復習する。
7	キャリア支援室、履歴書について	キャリア支援室の使い方、履歴書表面の作成、セミナーの案内	教科書 p 80～81、p 40～61を読んでくる。	履歴書表面を完成する、希望職種を考える。
8	卒業生セミナー	卒業生セミナー(体験談の聴講)	希望職種のOGに対しての質問事項を考えてくる。	希望職種について考える。
9	履歴書の作成	書き方の説明、履歴書裏面の作成	教科書 p 80～81を読んでくる。	履歴書の裏面を書く。
10		履歴書裏面の作成、セミナーの案内	教科書 p 80～81を読んでくる。	履歴書の裏面を完成させる。
11	就職活動のマナー	セミナー(3) (就職活動のマナーについて)	教科書 p 18～30を読んでくる。	セミナーの内容を復習する。
12	就職活動のマナー、企業研究	就職活動のマナー、企業研究、業界と業種	セミナーの配布資料と教科書 p 32～39を読んでくる。	企業研究シート(1)を仕上げる。
13	企業研究	企業研究、業界と業種、学内企業説明会の案内	教科書 p 32～39、p 68～69を読んでくる。	企業研究シート(2)を仕上げる。
14	学内企業研究会	企業研究会参加	企業と自分の訪問順序について確認する。	企業研究会の参加方法について振り返る。
15	履歴書の作成、まとめ	履歴書提出、まとめ	就職活動の流れについて復習する。	就職に向けて活動を開始する。

教科書	『ユニキャリアマガジン(大学生の就活編)』(株)ディスコ(最新版)	参考書資料	授業内に適宜指示、プリントで配布
------------	-----------------------------------	--------------	------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> やむを得ず欠席した場合は、次回までに連絡事項や提出物について聞きに来ること。 体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、携帯電話使用禁止。 進行の都合により、内容が前後することがある。 	受講態度(50%) 提出物(50%)	授業に積極的に取り組み、課題をすべて提出していれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
キャリア形成Ⅱ	選択	共通	2年前学期	演習	1	しんやま 新山 みつ枝	単独 共通基礎科目	特になし	8, 15, 17
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
就職活動の流れに沿い、スケジュール確認、身だしなみ、立ち居振る舞いを含めた面接対応及び実践練習を行う。時事問題、時候の挨拶、敬語等会社訪問や面接の際に好感をもたれる言葉遣いやマナーも習得する。						<ul style="list-style-type: none"> 就職活動において、適切な時期に適切な行動を自発的に行えるようになる。 実際の面接で的確な対応ができるようになる。 身につけた知識や技能が必要な場面で発揮できるようになる。 			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	授業の目的、内容、今後の予定、就職活動のスケジュール	シラバスをよく読む	自分の就職活動のスケジュールを考える
2	企業セミナー（外部）参加	合同企業セミナー（外部）の案内、身だしなみとマナー、企業研究	「キャリア形成1」で学んだことを復習する	合同セミナー参加の計画書を完成させる
3		合同企業セミナー参加	合同セミナー参加の心得を確認する	合同セミナー参加の報告書をまとめて提出する
4	就職活動にむけて	合同企業セミナー参加後の振り返り 就職セミナーの案内	合同セミナー報告書の発表準備をする	合同セミナーのまとめをする
5		就職セミナー(1) 面接の心構え	面接の心構えP88～93を読んてくる	就職セミナー(1)で学んだことをまとめる
6		就職セミナー振り返り、就職セミナーの案内、電話のマナーとかけ方	電話のマナーとかけ方P24～25を読んてくる	就職セミナー(1)の報告書をまとめる
7	面接試験の形式と心得	就職セミナー(2) 面接について	面接についてP94～100を読んてくる	就職セミナー(2)で学んだことをまとめる
8		就職セミナー振り返り、面接について	就職セミナーの報告書の発表準備をする	就職セミナー(2)の報告書をまとめる
9	模擬面接	模擬面接の説明、面接のロールプレイ	面接のロールプレイについて資料を読む	模擬面接の報告書を書く
10		模擬面接(1)	模擬面接の準備をする	反省点をまとめる
11		模擬面接(2)	反省点を生かした模擬面接の準備をする	反省点をまとめる
12	模擬面接(3)	模擬面接(3)	反省点を生かした模擬面接の準備をする	模擬面接の報告書を書く
13	模擬面接の反省と対策	模擬面接の反省と対策	模擬面接報告書を発表できるように準備する	模擬面接の対策をまとめる
14	SPI試験	SPI試験	SPI試験の準備をする	試験の結果から今後の対策を考える
15	お礼状の書き方、まとめ	お礼状の書き方、まとめ	教科書P108～109を読む	添削されたお礼状を清書する

教科書	『ユニキャリアマガジン(大学生の就活編)』 (株)ディスコ (最新版)	参考書資料	授業内に適宜指示する
-----	-------------------------------------	-------	------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 新聞やニュースなどを日常的に見聞きし、政治・経済を中心としたニュースに関心を持つこと。 報告書は事前にまとめ発表できるようにする。 やむを得ず欠席した場合は、授業内容と連絡事項を必ず聞きに来ること。 授業の進捗によっては、スケジュールを変更することがある。 	就職活動及び面接についての理解 (60%) 受講態度 (20%) 報告書 (20%)	基本的なマナーを身につけ、面接模擬試験で自己PRや志望動機などが話せ、就職活動に積極的に取り組むことができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
情報技術 I	卒業必修 教職必修	共通	1年 前学期	演習	1	まえだ 前田	やすとも 康智	単独 共通基礎科目	なし	6・7,14
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
施行規則 6 6 条の 6 に定める科目						情報機器の操作				
授業の概要						授業の到達目標				
文書作成ソフトウェアによる各種文書の作成、表計算ソフトウェアによる各種帳票の作成、帳票に必要な計算式・関数の作成、プレゼンテーションソフトウェアによる発表資料の作成についてそれぞれ練習を繰り返し行い、演習課題を通じて理解につなげる。						一般社会（生活面・仕事面）において、さらに大学のほぼ全ての授業において、全ての学生は情報機器の基本的な操作ができることが前提になりつつある。当授業では、情報機器の基本的な操作について、大学生として求められる ICT（情報や通信に関する技術）の利活用（リテラシー）について学び、それらができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	文書の作成と管理	新規文書の作成・保存・印刷、文字の装飾	シラバスを読んてくる	Wordの装飾を復習する
2	一般的なビジネス文書の作成	社外・社内文書の書き方、文字位置（インデント、タブ）	教科書の該当ページを読んてくる	Wordのインデント・タブを復習する
3	レポート・報告書の作成	大学レポートの書き方、段落設定、書式設定	教科書の該当ページを読んてくる	Wordの段落設定、書式設定を復習する
4	他データを利用した文書の作成	他文章、Excel、写真の挿入と編集	教科書の該当ページを読んてくる	Wordから写真の挿入と編集を復習する
5	表作成の基本動作	文字・数値・数式の入力、ブックの保存	教科書の該当ページを読んてくる	Excelの数式の入力を復習する
6	表の編集操作	幅の調整、表構成の変更、セル内編集	教科書の該当ページを読んてくる	Excelの表の入力・編集を復習する
7	数式・関数による集計表の作成	絶対・相対参照、平均、最大・最小	教科書の該当ページを読んてくる	Excelの基本関数と絶対相対参照を復習する
8	グラフの作成・編集	グラフのラベル・目盛、要素の書式	教科書の該当ページを読んてくる	Excelのグラフの作成と編集を復習する
9	プレゼンテーションの基本操作1	スライドのデザイン、箇条書き、段落番号の作成・編集	教科書の該当ページを読んてくる	PowerPoint (PP)の基本入力を復習する
10	プレゼンテーションの基本操作2	特殊の文字やイラストの挿入、表やグラフの挿入	教科書の該当ページを読んてくる	PPのグラフ、表の挿入を復習する
11	プレゼンテーションの基本操作3	図形の挿入、アニメーション効果	教科書の該当ページを読んてくる	PPの図形の挿入とアニメーションを復習する
12	プレゼンテーションデザイン	センスアップのためのレイアウトデザイン	教科書の該当ページを読んてくる	訴求効果のあるPPの書き方を復習する
13	イラスト・写真の活用と編集	イメージを伝えるためのイラスト・写真の編集操作	教科書の該当ページを読んてくる	PPのイラスト写真の編集・操作を復習する
14	情報操作総復習	Word2010、Excel2010、PowerPoint2010総復習	教科書、配布資料を全て読んてくる	今までの授業の操作全てを復習する
15	情報操作演習課題	情報操作演習課題 (Word2010、Excel2010、PowerPoint2010)	総復習で使用した資料を読んてくる	今までの授業の操作全てを復習する

教科書	『情報利活用 コンピュータリテラシー Office 2013/2010対応』 日経BP社（最新版）	参考書資料	なし
------------	---	--------------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・2クラスに分けて授業を行う。クラスの分け方について、ガイダンスで説明するか、あるいは履修登録期間中にa, bいずれかのクラスを掲示する。 ・毎回の授業に演習課題を課す。 ・14回目の授業では情報操作の総復習の問題を課し、15回目の授業では情報操作の総合演習課題を課す。 	受講態度 (20%) 毎回授業の課題提出 (40%) 情報操作演習課題 (40%)	情報機器の操作として、文書作成・表計算・プレゼンテーション資料の作成ができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
情報技術Ⅱ	選択 教職必修	共通	1年 後学期	演習	1	まえだ 前田	やすとも 康智	単独 共通基礎科目	情報技術Ⅰ単位取得者で、教職履修者以外の受講 であっても教職履修レベルであることが望ましい	6・7,14
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
施行規則66条の6に定める科目						情報機器の操作				
授業の概要						授業の到達目標				
情報モラルとマナーとして、個人情報保護、著作権に関する理解、安全に利用するためのウイルス対策とセキュリティ対策、および携帯、スマホ等によるモバイルマナー、さらに、学校生活や教職現場に出たときに必要とされる定型文書の書き方、学校関連でよく使われるデータ処理、プレゼンの仕方の順で構成される。上記項目について総合的に学習し、練習問題を課す。						(1)教職員免許法で定められた『情報機器の操作』において、教育現場で求められる情報機器の基本操作は前期で到達したが、後期の当授業は、教育現場の「あらゆる科目」で「効果的に」利活用できるようになる。 (2)短大の学習活動において、「あらゆる科目」で調査、検索、レポート等の作成、提出、発表などに利活用できるようになる。 (3)一般社会において求められる情報モラル・マナーと情報セキュリティを理解し実践できるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	個人情報1/パソコン部品の名称	個人情報とは何か/コンピュータ(PC)の分類、ハード、ソフト	シラバスを讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
2	個人情報2/PC入出力/教務文書1	個人情報を守る/PC入力装置と出力装置/教員向け文書	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
3	個人情報3/PC操作/教務文書2	他人の個人情報を尊重, 写真Web公開/PCキー操作と名称/教員向け文書	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
4	著作権1/PCソフト/保護者向け文書	著作権とは何か/PCのOSとアプリ/保護者向けおたより作成	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
5	著作権2/PCドライブ/学習指導案	レポートと著作権/PCドライブ、フォルダ、ファイル操作/ひな形作成	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
6	著作権3/学校行事ポスターの作成	引用の範囲、学校の成績と個人情報/条件に基づいたポスター作成	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
7	著作権4/成績表の作成と関数	デジタルコピー、学園祭と著作権/成績表の作成	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
8	著作権5/成績表の編集と関数	番組録画、電子書籍の自炊/成績表の件数計算	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
9	スマホマナー1/グラフ選択、関数	店内、授業の撮影/書くべきグラフの選択、成績表の編集	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
10	メールマナー/分岐関数による評価	ビジネスメールの書き方/成績表の評価と分岐関数	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
11	SNSマナー/順位関数による評価	SNSの長所短所、禁止事項/成績表の順位関数	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
12	スマホマナー2/条件分岐関数	スマホ紛失時の対応/成績表の条件分岐による件数計算	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
13	セキュリティ管理1/関数まとめ	情報流出防止、デジタル機器廃棄/EXCEL関数まとめ	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
14	ウイルス対策/作表テクニック	ウイルスとは、防止と感染対策/縦書き、結合、セル内改行	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する
15	セキュリティ管理2/ネットと検索	学校以外の試験問題の作成/インターネットとLAN、検索方法	教科書の該当ページと配布資料を讀んでくる	教科書の該当ページと配布資料を復習する

教科書	『情報モラル&情報セキュリティ』 FOM出版 (最新版)	参考書 資 料	なし (適宜プリントを配布する)
-----	------------------------------	------------	------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業に演習課題を課す。 授業時間を半分に分け、前半は情報モラルと情報セキュリティの内容、後半は情報機器の操作の内容とする。 	受講態度(20%) 課題提出(40%) 定期試験(40%)	情報モラルとマナーに関する知識、学校生活や教職現場に出たときに必要とされる文書作成とデータ処理を習得・実践できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
教養基礎演習Ⅰ	必修	共通	1年前学期	演習	1	三星・亀井・新山・江木・渡辺・竹内・神田・畑・平尾 複数	共通基礎科目	特になし	6・7, 8, 12
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
近い将来、社会へ出る短期大学生が、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身につけることは必要不可欠である。建学の精神・校訓の意味を学んだ上で、日常生活におけるマナーや生活に必要な技術を学ぶ。自己紹介の仕方、文章の書き方、聴く姿勢やプレゼンテーションの能力を磨き、実践力を身につける。また、各自が1回以上の社会体験を行い、最終プレゼンテーションでその体験について発表する。						<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会常識や日常生活に必要なマナーなどの基礎的知識・技術が理解できるようになる。 ・聴く・話す・書く・プレゼンテーション（発表）するためのコミュニケーション能力が身につくようになる。 			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	愛国学園の建学の精神・校訓を学ぶ、授業の進め方、社会体験の説明をする	シラバスを読んでもくる。	授業の内容を振り返り、習得を確実にする。
2	日常生活におけるマナーと技術	挨拶の仕方、美しい所作、言語礼法、冠婚葬祭のマナーを学ぶ	礼儀が必要な場面で気を付けることを3つ考えてくる。	授業で学んだことを日常生活で必ず実践する。
3		生活に必要な裁縫技術の基本を身につける	衣服に関する縫い方を見てくる。	身の回りを点検して技術を実践する。
4		レポートの書き方、ファイリングの方法	プリントを読んでもくる。	レポートを完成させ、提出する。
5		挨拶・訪問・接客等をロールプレイング方式で学ぶ	社会人の話し方を観察しておく。	日常生活で必ず実践する。
6	プレゼンテーションの実践(1)	自己紹介、一分間スピーチなどを行う 各回に出される課題について発表する	スピーチの題材について考えてくる。	スピーチについて振り返り、反省をまとめて提出する。
7			スピーチの題材について考えてくる。	スピーチについて振り返り、反省をまとめて提出する。
8			スピーチの題材について考えてくる。	スピーチについて振り返り、反省をまとめて提出する。
9			スピーチの題材について考えてくる。	スピーチについて振り返り、反省をまとめて提出する。
10	プレゼンテーションの実践(2)	テーマに沿ったスピーチ原稿を作成し、発表する	社会体験について振り返り、まとめる。	まとめた内容を提出し、発表の原稿の構成を考える。
11			原稿の内容をまとめる。	清書した原稿を提出する。
12			発表の練習をする。	課題を見つける。修正した原稿を清書して提出する。
13			発表の練習をする。	発表を見直す。最終原稿を清書して提出する。
14	プレゼンテーションを聴く	教養基礎演習Ⅱの発表を聴き、プレゼンテーションの実際を学ぶ	プレゼンテーションに必要なことを振り返る。	感想を書いて提出する。
15	まとめ	授業内容のまとめ・確認	これまでの内容を各自で振り返る。	各自の定着度を確認し、日常的に実践する。

教科書	なし	参考書資料	各授業の講師が必要に応じて資料を配布
-----	----	-------	--------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容により、担当教員が指定したクラス分けを行って実施する。 ・スケジュール、講師はクラスによって異なることがある。 ・講師の都合等により、授業の順序が変更になることもある。 ・授業中の携帯電話の使用および私語は禁止する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとに評価を行い、総合評価は担当教員全員で行う。 ・課題、発表(70%)、マナーの実践(30%)の総合評価。 	各課題を提出し、日常生活に必要なマナーを理解して実践でき、コミュニケーション能力を身につけるなどの各内容を習得できていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
教養基礎演習Ⅱa	卒業必修	共通	2年前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独	共通基礎科目	特になし	3, 12, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
各自決定したテーマに沿って講義および演習の実践方法を講述する。演習では、個人あるいはグループで資料・情報の収集、選択・整理、分析とまとめを行い、レポート作成、プレゼンテーションの方法を教員の指導の下に行う。最終的にテーマに沿った要旨をまとめ、プレゼンテーションを行う。なお、この最終の発表会は学生が企画し役割を決定して運営するため、企画・実践力を養うことができる。						教養基礎演習Ⅱでは、コミュニケーション能力を高めることを目標としている。この授業では短大生として専門的な知識を調べて相手に説明できるようにするため、身の回りにある興味・関心のある事柄をテーマとして設定し、それらの情報を自主的に集めて分析・整理し、プレゼンテーション（発表）を行うことができるようになる。また、発表会の企画・準備・運営もできるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	全 体：授業の目的・進め方・レポート作成の指導 クラス別：具体的な進め方指導・テーマの選択	シラバスの該当ページを読む	配布されたプリントを読む
2			配布プリントを読む	情報の収集
3	テーマの選定 情報収集・整理分析・まとめ 発表の準備(発表原稿・ パワーポイント・ ハンドアウト・ 要旨集作成)	指導内容：家族に関する諸問題 次の項目等について、テーマを選択し調査し、まとめて発表する。 また、最終的には卒業演習論文としてまとめる。 項目： ① 家族変動、配偶者選択、結婚、離婚、役割構造、家族関係、家庭内虐待、さまざまな家族、ワークライフバランス、女性の雇用労働力化やこれらについての国際比較など。 ② 悪質商法、特殊詐欺、多重債務、消費者運動、責任ある消費者、消費者行政、企業の消費者対応など。	テーマを選ぶ	情報の収集収集
4			パワーポイントハンドアウトの作成	情報の収集
5			パワーポイントハンドアウトの作成	情報の収集
6			パワーポイントハンドアウトの作成	情報の収集
7			論文の作成	情報の整理
8			論文の作成	情報の整理
9			論文の作成	情報の分析
10			論文の作成	論文の全体バランスの検討
11			論文の作成	論文の細部の修正
12			要旨の作成	論文の細部の修正
13			要旨の作成	パワーポイントハンドアウトの仕上げ
14	プレゼンテーションの準備	発表の準備：発表会企画決定(司会等の役割決定、要旨集原稿の作成等)	発表の練習	発表用非公式原稿の作成、音読
15		発表の準備：発表の練習・発表会の運営確認	発表の練習	発表用非公式原稿の作成、音読

教科書	なし	参考書資料	必要に応じプリント配布
------------	----	--------------	-------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 学習目標の周知と発表は全体で行う。その他の講義・演習はクラス毎に分かれて情報収集・分析・まとめを行う。 私語・携帯電話の使用・飲食は厳禁。 課題は必ず指定された日時に提出する。 欠席した場合は後日、授業の配布プリント、課題を受け取りに来る。 	授業ごとに担当者が評価を行い、総合評価は担当教員全員で行う。発表準備10%、発表態度10%、発表要旨10%、成果物50%、受講態度20%の総合評価	各課題を提出し、テーマを発表することができ、プレゼンテーションの基本的なことを習得しており、発表会企画の参加態度が協力的であれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
教養基礎演習Ⅱb	卒業必修	共通	2年前学期	演習	1	かめい ゆうこ 亀井 佑子	単独	共通基礎科目	特になし	3, 12, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
各自決定したテーマに沿って講義および演習の実践方法を講述する。演習では、個人あるいはグループで資料・情報の収集、選択・整理、分析とまとめを行い、レポート作成、プレゼンテーションの方法を教員の指導の下に行う。最終的にテーマに沿った要旨をまとめ、プレゼンテーションを行う。なお、この最終の発表会は学生が企画し役割を決定して運営するため、企画・実践力を養うことができる。						教養基礎演習Ⅱでは、コミュニケーション能力を高めることを目標としている。この授業では短大生として専門的な知識を調べて相手に説明できるようにするため、身の回りにある興味・関心のある事柄をテーマとして設定し、それらの情報を自主的に集めて分析・整理し、プレゼンテーション（発表）を行うことができるようになる。また、発表会の企画・準備・運営もできるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	全 体：授業の目的・進め方・レポート作成の指導 クラス別：具体的な進め方指導・テーマの選択	シラバスの該当ページを読む	配布されたプリントを読む
2			配布プリントを読む	情報の収集
3	テーマの選定 情報収集・整理分析・まとめ 発表の準備(発表原稿・ パワーポイント・ ハンドアウト・ 要旨集作成)	指導内容：衣生活、住生活、保育、教育に関する諸問題 次の項目等について、テーマを選択し調査し、まとめて発表する。 また、最終的には卒業演習論文としてまとめる。 項目：衣生活—着装、被服材料、被服管理、服飾文化、ファッション、デザイン、色彩、手芸など 住生活—住空間、住環境、インテリアデザインなど 保育—子どもの発達と保育、子どもの生活、子どもの福祉、子育て支援など 教育—教育全般など	テーマを選ぶ	情報の収集収集
4			パワーポイントハンドアウトの作成	情報の収集
5			パワーポイントハンドアウトの作成	情報の収集
6			パワーポイントハンドアウトの作成	情報の収集
7			論文の作成	情報の整理
8			論文の作成	情報の整理
9			論文の作成	情報の分析
10			論文の作成	論文の全体バランスの検討
11			論文の作成	論文の細部の修正
12			要旨の作成	論文の細部の修正
13			要旨の作成	パワーポイントハンドアウトの仕上げ
14	プレゼンテーションの準備	発表の準備：発表会企画決定(司会等の役割決定、要旨集原稿の作成等)	発表の練習	発表用原稿の作成、音読
15		発表の準備：発表の練習・発表会の運営確認	発表の練習	発表用原稿の作成、音読

教科書	なし	参考書資料	必要に応じプリント配布
------------	----	--------------	-------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 学習目標の周知と発表は全体で行う。その他の講義・演習はクラス毎に分かれて情報収集・分析・まとめを行う。 私語・携帯電話の使用・飲食は厳禁。 課題は必ず指定された日時に提出する。 欠席した場合は後日、授業の配布プリント、課題を受け取りに来る。 	授業ごとに担当者が評価を行い、総合評価は担当教員全員で行う。発表準備10%、発表態度10%、発表要旨10%、成果物50%、受講態度20%の総合評価	各課題を提出し、テーマを発表することができ、プレゼンテーションの基本的なことを習得しており、発表会企画の参加態度が協力的であれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
教養基礎演習Ⅱc	卒業必修	共通	2年前学期	演習	1	はせがわ 長谷川	あつひこ 篤彦	単独 共通基礎科目	特になし	3, 12, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
各自決定したテーマに沿って講義および演習の実践方法を講述する。演習では、個人あるいはグループで資料・情報の収集、選択・整理、分析とまとめを行い、レポート作成、プレゼンテーションの方法を教員の指導の下に行う。最終的にテーマに沿った要旨をまとめ、プレゼンテーションを行う。なお、この最終の発表会は学生が企画し役割を決定して運営するため、企画・実践力を養うことができる。						教養基礎演習Ⅱでは、コミュニケーション能力を高めることを目標としている。この授業では短大生として専門的な知識を調べて相手に説明できるようにするため、身の回りにおける興味・関心のある事柄をテーマとして設定し、それらの情報を自主的に集めて分析・整理し、プレゼンテーション（発表）を行うことができるようになる。また、発表会の企画・準備・運営もできるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	全 体：授業の目的・進め方・レポート作成の指導 クラス別：具体的な進め方指導・テーマの選択	シラバスを読んでもくる	各自テーマを考えて調べる
2			各自テーマを考えて調べる	テーマを検討する
3	テーマの選定 情報収集・整理分析・まとめ 発表の準備 ・発表原稿 ・パワーポイント ・ハンドアウト ・要旨集作成	指導内容：人や動物に見られる病気の解析 病気は人や動物の生命や生活を脅かし、生涯に大きく影響を及ぼす問題となる。したがって、教養として病気に関心を抱き、病気を理解するすべを身に着ける。 次の項目等について、テーマを選択し調査し、まとめて発表する。 また、最終的には卒業演習論文としてまとめる。 項目：各自がある特定の疾病を選択して、その疾病の概要を明らかにし、問題点を検討する。このことを通じて病気理解における種々の問題についての考えを深める。	調べる内容を考える	広く文献などを調べる
4			調べる内容を考える	調べる内容を考える
5			内容を調べて考えまとめる	発表を考えてまとめにかかる
6			発表の準備をする	発表の準備をする
7			発表の準備をする	発表の準備をする
8			発表の準備をする	発表の準備をする
9			発表の準備をする、要旨作成の準備する	発表の準備をする 要旨を考える
10			発表の準備をする、要旨と論文作成にかかる	発表の準備をする、要旨と論文作成にかかる
11			発表の準備をする、要旨と論文作成にかかる	発表の準備をする、要旨と論文作成にかかる
12			発表の準備をする、牝牛と論文作成にかかる	発表の準備をする、要旨と論文作成にかかる
13	発表準備をする、論文作成にかかる、要旨を完成する	発表の準備をする、論文作成にかかる		
14	プレゼンテーションの準備	発表の準備：発表会企画決定(司会等の役割決定、要旨集原稿の作成等)	発表の準備をする、論文作成にかかる	発表の準備をする、論文作成にかかる
15		発表の準備：発表の練習・発表会の運営確認	発表の準備を完了する、論文を完成する	要旨、発表、論文を検討確認する

教科書	なし	参考書 資料	木村哲、喜田宏編：『改訂版人獣共通感染症』 医薬ジャーナル社（2011） 南嶋洋一、吉田真一、長淵正法：『微生物学』 医学書院（2016）
------------	----	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 学習目標の周知と発表は全体で行う。その他の講義・演習はクラス毎に分かれて情報収集・分析・まとめを行う。 私語・携帯電話の使用・飲食は厳禁。 課題は必ず指定された日時に提出する。 欠席した場合は後日、授業の配布プリント、課題を受け取りに来る。 	授業ごとに担当者が評価を行い、総合評価は担当教員全員で行う。発表準備10%、発表態度10%、発表要旨10%、成果物50%、受講態度20%の総合評価	各課題を提出し、テーマを発表することができ、プレゼンテーションの基本的なことを習得しており、発表会企画の参加態度が協力的であれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
教養基礎演習Ⅱd	卒業必修	共通	2年前学期	演習	1	きとう せいいち 佐藤 成一	単独	共通基礎科目	特になし	3, 12, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
各自決定したテーマに沿って講義および演習の実践方法を講述する。演習では、個人あるいはグループで資料・情報の収集、選択・整理、分析とまとめを行い、レポート作成、プレゼンテーションの方法を教員の指導の下に行う。最終的にテーマに沿った要旨をまとめ、プレゼンテーションを行う。なお、この最終の発表会は学生が企画し役割を決定して運営するため、企画・実践力を養うことができる。						教養基礎演習Ⅱでは、コミュニケーション能力を高めることを目標としている。この授業では短大生として専門的な知識を調べて相手に説明できるようにするため、身の回りにある興味・関心のある事柄をテーマとして設定し、それらの情報を自主的に集めて分析・整理し、プレゼンテーション（発表）を行うことができるようになる。また、発表会の企画・準備・運営もできるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	全 体：授業の目的・進め方・レポート作成の指導 クラス別：具体的な進め方指導・テーマの選択	シラバスを讀んでくる	配布された資料などをよく読む
2			テーマを想定し、調査項目など質問事項をまとめる	同上
3	テーマの剪定 情報収集・整理分析・まとめ 発表の準備 ・発表原稿 ・パワーポイント ・ハンドアウト ・要旨集作成	指導内容：食用油脂、タンパク質、アミノ酸、地球環境問題 次の項目等について、テーマを選択し調査し、まとめて発表する。 また、最終的には卒業演習論文としてまとめる。 食用油脂 ・サラダ油用の大豆油や菜種油、風味油のオリーブ油やごま油、加工用油脂のパーム油やカカオ脂などの原料、製造方法、性質、利用、栄養価など、 タンパク質、・アミノ酸の日常の生化学 ・酵素のはたらき、血液生化学検査など 地球環境問題 ・地球温暖化、温暖化防止対策、環境破壊、エネルギー問題など	調査する項目を決める	調査した結果をまとめる
4			新たに調査する項目を決める	調査結果をまとめ、更に調査が必要な点を整理する
5			同上、質問する疑問点をまとめる	調査結果や理解できた点をまとめる
6			同上	同上
7			同上	同上
8			論文構成案を考える	論文構成の目次案を検討する
9			論文構成を決定する	論文作成に着手する
10			論文作成、疑問点や不明な点を整理する	論文作成、理解できた点をまとめる
11			論文のまとめ方を検討する	論文構成が論理的かチェックする
12			発表用パワーポイント案の作成	発表用パワーポイント案の修正
13	発表用パワーポイントの作成	発表用パワーポイントの流れをチェックする		
14	プレゼンテーションの準備	発表の準備：発表会企画決定（司会等役割分担）、要旨集原稿作成	発表要旨の作成	発表要旨集のまとめ
15		発表の準備：発表練習、発表会の運営確認	パワーポイント発表練習	発表会運営の役割確認

教科書	なし	参考書資料	藤田哲：『食用油脂とその利用と油脂食品』 幸書房(2011)、藤代俊幸：『生活と環境』、東京教学社(2010)
------------	----	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 学習目標の周知と発表は全体で行う。その他の講義・演習はクラス毎に分かれて情報収集・分析・まとめを行う。 私語・携帯電話の使用・飲食は厳禁。 課題は必ず指定された日時に提出する。 欠席した場合は後日、授業の配布プリント、課題を受け取りに来る。 	授業ごとに担当者が評価を行い、総合評価は担当教員全員で行う。発表準備10%、発表態度10%、発表要旨10%、成果物50%、受講態度20%の総合評価	各課題を提出し、テーマを発表することができ、プレゼンテーションの基本的なことを習得しており、発表会企画の参加態度が協力的であれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
教養基礎演習Ⅱe	卒業必修	共通	2年前学期	演習	1	たつの 龍野	ひきこ 久子	単独	共通基礎科目	特になし	3, 12, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
各自決定したテーマに沿って講義および演習の実践方法を講述する。演習では、個人あるいはグループで資料・情報の収集、選択・整理、分析とまとめを行い、レポート作成、プレゼンテーションの方法を教員の指導の下に行う。最終的にテーマに沿った要旨をまとめ、プレゼンテーションを行う。なお、この最終の発表会は学生が企画し役割を決定して運営するため、企画・実践力を養うことができる。						教養基礎演習Ⅱでは、コミュニケーション能力を高めることを目標としている。この授業では短大生として専門的な知識を調べて相手に説明できるようにするため、身の回りにある興味・関心のある事柄をテーマとして設定し、それらの情報を自主的に集めて分析・整理し、プレゼンテーション（発表）を行うことができるようになる。また、発表会の企画・準備・運営もできるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習		
1	オリエンテーション	全 体：授業の目的・進め方・レポート作成の指導 クラス別：具体的な進め方指導・テーマの選択	シラバスを読み、春季休暇に関心のあるテーマを探す。	授業の内容と日程確認、自分のテーマを検討する		
2			自分のテーマに関する論文を探す。	自分のテーマ（2つ）を決定する。		
3	①卒業演習論文「章立て書式」の説明 ②情報収集・整理分析・まとめ ③発表の準備 (発表要旨・パワーポイント 発表原稿・・・ハンドアウト) ④卒業演習論文作成	指導内容：ライフステージにおける健康と栄養の問題 次の項目等について、テーマを選択し調査し、まとめて発表する。 また、最終的には卒業演習論文としてまとめる。 ・生活と習慣 ・食と人間形成 ・食行動 ・食環境 ・健康と疾病 ・公衆栄養活動	<練習>発表のテーマに関する論文探す。。	<練習>発表論文の要旨をまとめる		
4			<練習>発表論文の要旨からパワーポイントを作成	<練習>発表パワーポイント修正、口頭発表の練習。		
5			<練習>要旨の確認と口頭発表の練習。	<練習>要旨と口頭発表について自己評価する。		
6			発表テーマの検討。	発表テーマの確定。		
7			発表テーマに関連する論文・書籍・情報検索 (1)	収集資料の分析と検討 (1)		
8			発表テーマに関連する論文・書籍・情報検索 (2)	収集資料の分析と検討 (2)		
9			発表テーマに関連する論文・書籍・情報検索 (3)	収集資料の分析と検討 (3)		
10			収集資料の分析とまとめ最終評価。卒業演習論文作成	卒業演習論文の作成。		
11			卒業演習論文・要旨原稿・口頭発表原稿の作成。	卒業演習論文・要旨原稿・口頭発表原稿の検討。		
12			パワーポイント作成。	パワーポイントの検討。		
13			パワーポイント・発表要旨原稿・口頭発表原稿の完成	卒業演習論文の完成。		
14			プレゼンテーションの準備	発表の準備：発表会企画決定(司会等の役割決定、要旨集原稿の作成等)	パワーポイント内容の確認、口頭発表の練習。	パワーポイント内容の修正、口頭発表の再確認練習。
15				発表の準備：発表の練習・発表会の運営確認	パワーポイントと口頭発表の時間調整等と確認。	パワーポイント、発表要旨、卒業演習論文の提出。

教科書	なし	参考書資料	参考書：授業中に紹介する。 資料：必要に応じて適宜配布する
------------	----	--------------	-------------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 学習目標の周知と発表は全体で行う。その他の講義・演習はクラス毎に分かれて情報収集・分析・まとめを行う。 私語・携帯電話の使用・飲食は厳禁。 課題は必ず指定された日時に提出する。 欠席した場合は後日、授業の配布プリント、課題を受け取りに来る。 	授業ごとに担当者が評価を行い、総合評価は担当教員全員で行う。発表準備10%、発表態度10%、発表要旨10%、成果物50%、受講態度20%の総合評価	各課題を提出し、テーマを発表することができ、プレゼンテーションの基本的なことを習得しており、発表会企画の参加態度が協力的であれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
教養基礎演習Ⅱf	卒業必修	共通	2年前学期	演習	1	わたなべ 渡邊	ただし 正	単独	共通基礎科目	特になし	3, 12, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
各自決定したテーマに沿って講義および演習の実践方法を講述する。演習では、個人あるいはグループで資料・情報の収集、選択・整理、分析とまとめを行い、レポート作成、プレゼンテーションの方法を教員の指導の下に行う。最終的にテーマに沿った要旨をまとめ、プレゼンテーションを行う。なお、この最終の発表会は学生が企画し役割を決定して運営するため、企画・実践力を養うことができる。						教養基礎演習Ⅱでは、コミュニケーション能力を高めることを目標としている。この授業では短大生として専門的な知識を調べて相手に説明できるようにするため、身の回りにおける興味・関心のある事柄をテーマとして設定し、それらの情報を自主的に集めて分析・整理し、プレゼンテーション（発表）を行うことができるようになる。また、発表会の企画・準備・運営もできるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習	
1	オリエンテーション	全 体：授業の目的・進め方・レポート作成の指導 クラス別：具体的な進め方指導・テーマの選択	シラバスを読んでくる。	授業の日程、自分のテーマ設定の時期を確認する。	
2			シラバスを読んでくる。	講義内容と絡ませて、自分のテーマを考える (1)	
3	テーマの剪定 情報収集・整理分析・まとめ 発表の準備 ・発表原稿 ・パワーポイント ・ハンドアウト ・要旨集作成	指導内容（クラステーマ）：地球と生活 次の項目等について、テーマを選択し調査し、まとめて発表する。 また、最終的には卒業演習論文としてまとめる。 ・地球の自転・公転に伴う四季、二十四節気と年中行事、初物・旬について ・生活に欠かせない太陽エネルギーの利用と現行の発電方法(原子力・火力・水力・太陽光など)の理解 ・身体が日々必要とする基礎代謝量の理解、生活上必要な家庭の電気代請求書・都市ガス使用代請求書・上下水道料金請求書の読み方 ・代謝機能と増殖機能(生き物・ウイルス・無生物)の観点からヒトを理解する ・遺伝情報、アミノ酸、蛋白質の役目と働き ・元素の周期表、原子の構造、分子や高分子 ・生存環境に感応する五感(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)の役割と個々の働き(色の三要素/音の三要素/味覚・嗅覚・触覚の種類など)	シラバスを読んでくる。	講義内容と絡ませて、自分のテーマを考える (2)	
4			シラバスを読んでくる。	講義内容と絡ませて、自分のテーマを考える (3)	
5			自分のテーマ名を用意し、調査項目を考える。	テーマ名の修正、調査項目の修正や追加。	
6			自分のテーマの確定。調査の開始。	調査方法のチェック。	
7			自分のテーマに沿って資料収集 (1)	収集資料の吟味と調査方法のチェック (1)	
8			自分のテーマに沿って資料収集 (2)	収集資料の吟味と調査方法のチェック (2)	
9			自分のテーマに沿って資料収集 (3)	収集資料の吟味と調査方法のチェック (3)	
10			収集資料の分析とまとめ。	資料の分析とまとめの再検討。	
11			発表要旨原稿作成と卒業演習論文の作成 (1)	要旨原稿、論文原稿の検討 (1)	
12			発表要旨原稿作成と卒業演習論文の作成 (2)	要旨原稿、論文原稿の検討 (2)	
13			発表スライド、要旨原稿、卒業演習論文の作成。	発表スライド、要旨原稿、論文原稿の内容検討	
14			発表会の企画(司会等の役割決定、要旨集の冊子原稿の完成等)	発表スライド作成。発表要旨原稿の完成。	発表スライドの完成。卒業演習論文の完成。
15			発表準備(口頭発表の練習・発表会の運営確認)	発表スライド内容の確認、口頭発表の練習。	発表スライド内容の修正、口頭発表の再確認練習。

教科書	なし	参考書資料	授業に必要な表やグラフなどの資料は、プリントにして適宜配布
------------	----	--------------	-------------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 学習目標の周知と発表は全体で行う。その他の講義・演習はクラス毎に分かれて情報収集・分析・まとめを行う。 私語・携帯電話の使用・飲食は厳禁。 課題は必ず指定された日時に提出する。 欠席した場合は後日、授業の配布プリント、課題を受け取りに来る。 	授業ごとに担当者が評価を行い、総合評価は担当教員全員で行う。発表準備10%、発表態度10%、発表要旨10%、成果物50%、受講態度20%の総合評価	各課題を提出し、テーマを発表することができ、プレゼンテーションの基本的なことを習得しており、発表会企画の参加態度が協力的であれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
教養基礎演習Ⅱg	卒業必修	共通	2年前学期	演習	1	きくちただのぶ 菊地忠信	単独	共通基礎科目	特になし	3, 12, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
各自決定したテーマに沿って講義および演習の実践方法を講述する。演習では、個人あるいはグループで資料・情報の収集、選択・整理、分析とまとめを行い、レポート作成、プレゼンテーションの方法を教員の指導の下に行う。最終的にテーマに沿った要旨をまとめ、プレゼンテーションを行う。なお、この最終の発表会は学生が企画し役割を決定して運営するため、企画・実践力を養うことができる。						教養基礎演習Ⅱでは、コミュニケーション能力を高めることを目標としている。この授業では短大生として専門的な知識を調べて相手に説明できるようにするため、身の回りにおける興味・関心のある事柄をテーマとして設定し、それらの情報を自主的に集めて分析・整理し、プレゼンテーション（発表）を行うことができるようになる。また、発表会の企画・準備・運営もできるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	全 体：授業の目的・進め方・レポート作成の指導 クラス別：具体的な進め方指導・テーマの選択	テーマについての文献、資料の調査	テーマのしぼりこみ
2			テーマについての文献、資料の調査	テーマのしぼりこみ
3	テーマの剪定 情報収集・整理分析・まとめ 発表の準備 ・発表原稿 ・パワーポイント ・ハンドアウト ・要旨集作成	指導内容：先人の他者への思いやり文化に学ぶ。 次の項目等について、テーマを選択し調査し、まとめて発表する。 また、最終的には卒業演習論文としてまとめる。 項目：①訪問「真行草の札」「言葉遣い」「包み方・渡し方」 ②江戸っ子の心遣い「江戸しぐさ」 ③剣道・柔道・華道・茶道等の「道」と「様式の美」 ④諸行事の「所作」 ⑤日本料理の「はし・椀」「発酵・麴」「出汁」「食事作法」 ⑥世界文化遺産「和食」	テーマに沿った文献、資料の研究	テーマの文献研究
4			テーマに沿った文献、資料の研究	テーマの文献研究
5			テーマに沿った文献、資料の研究	テーマの文献研究
6			論文に沿った文献の研究	論文の作成準備
7			論文に沿った文献の研究	論文の作成準備
8			論文に沿った文献の研究	論文の作成準備
9			論文に沿った文献の研究	論文の作成準備
10			論文に沿った文献の研究	論文の作成準備
11			要旨、パワーポイント作成準備	要旨、パワーポイント修正
12			要旨、パワーポイント作成準備	要旨、パワーポイント修正
13			プレゼンテーションの原稿作成準備	要旨、パワーポイント修正
14	プレゼンテーションの準備	発表の準備：発表会企画決定(司会等の役割決定、要旨集原稿の作成等)	プレゼンテーションの練習	プレゼンテーションの準備
15		発表の準備：発表の練習・発表会の運営確認	論文、要旨、パワーポイント修正	パワーポイント、発表要旨、卒業演習論文の提出。

教科書	なし	参考書資料	プリント配布
------------	----	--------------	--------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 学習目標の周知と発表は全体で行う。その他の講義・演習はクラス毎に分かれて情報収集・分析・まとめを行う。 私語・携帯電話の使用・飲食は厳禁。 課題は必ず指定された日時に提出する。 欠席した場合は後日、授業の配布プリント、課題を受け取りに来る。 	授業ごとに担当者が評価を行い、総合評価は担当教員全員で行う。発表準備10%、発表態度10%、発表要旨10%、成果物50%、受講態度20%の総合評価	各課題を提出し、テーマを発表することができ、プレゼンテーションの基本的なことを習得しており、発表会企画の参加態度が協力的であれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
衣生活論	卒業必修 教職必修	家政	1年 前学期	講義	2	かめい ゆうこ 亀井 佑子	単独 家政専攻科目	特になし	6・7,16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教科に関する科目（中学校家庭）						被服学（被服製作実習を含む）			
授業の概要						授業の到達目標			
人間が被服を身につけるようになってから現代までの服装の変遷、健康と被服、被服材料、被服構成、ファッション、デザイン、服飾文化、洗濯や取り扱いの仕方などの被服整理、被服心理、消費、資源としての被服、環境とのかかわり等について学ぶ。特に日本の伝統的服飾文化を知るという観点から、手拭いを利用したミニ浴衣の製作も行う。						有史以来どのような経緯で現在の服装が着装されるに至ったか、また、衣服の素材、性能、取扱方法、管理、ファッション、デザイン、縫製、服飾文化等についての知識を知り、より快適な衣生活を営むための基礎知識を得ることができる。教職課程履修者は、この衣生活に関わる基礎的知識を中学生に教授する方法を理解し、実践することができるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習	
1	装うということ	衣服の起源と基本型	シラバスを読んでくる	キャンパスガイドや、シラバスを読んで復習する	
2	被服構成	洋服、和服の構成、	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	
3	被服の変遷	日本服飾史(1)、	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	
4		日本服飾史(2)、	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	
5		日本服飾史(3)、	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	
6		ミニ浴衣製作：裁断、おくみ縫い、脇縫い	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	
7		世界の服飾史(西洋の服飾を中心に) (1)、	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	
8		世界の服飾史(西洋の服飾を中心に) (2)	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	
9		ミニ浴衣製作：すそ、衿下、衿つけ、袖縫い、袖付け、仕上げ、評価、発表	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	
10		被服と健康	被服気候、身体の拘束、快適性、	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する
11		ファッション	色、文様、デザイン、着装、	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する
12	被服構成	採寸、型紙、縫製、着装、	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	
13	服飾文化	地域による服飾、ライフステージによる服飾、年中行事による被服	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	
14	被服心理	被服の心理的側面、流行	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	
15	消費行動	選択、表示、消費、廃棄、環境	配布プリントを読んでくる	配布プリントについて復習する	

教科書	適宜プリントを配布する。	参考書 資料	岡田宣子他：『ビジュアル衣生活論』 建帛社（2010）
-----	--------------	-----------	-----------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること 余儀なく欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること 毎時間進度チェックを行う。進度が遅れている場合は、授業以外の時間に実習し、追いつくこと 教職課程履修者は教師を目指すものとしての自覚をもち、意欲的に授業に取り組むこと 	定期試験 (60%) ミニ浴衣作品 (20%) 授業態度 (20%)の総合評価	各回の内容について理解し、提出物等完成度が高く、試験において所定の学力が確認できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
ファッション造形実習Ⅰ	選択 教職必修	家政	1年 前学期	実習	1	かめい ゆうこ 亀井 佑子	単独 家政専攻科目	特になし	6・7, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教科に関する科目—中学校家庭						被服学（被服製作実習を含む）			
授業の概要						授業の到達目標			
洋服がどのように、構成、縫製されているかをT型シャツとハーフパンツの製作を通して学ぶ。最初に基礎縫い実習を行い、その後、採寸、型紙作り、衣服材料の選定、裁断、しるしつけ、本縫い、仕上げ、着装を行う。PDCAサイクルを活用している。						日常で着用している衣服について、その構成、材料を知る。自分の体のサイズに合った、上半身をおおう衣服としてT型シャツと下半身をおおうハーフパンツの縫製が実践できるようになる。教職課程履修者は、簡単な衣服の縫製方法について、中学生に教授できるように、教授法も併せて学ぶことができるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	衣服の構成・材料	衣服の構成(平面構成と立体構成)と製作方法、衣服材料	シラバスを読んてくる	身近な被服材料を調べてくる
2	基礎縫い	手縫い	教材を用意する。教科書の該当部分を読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
3		ミシン縫い	配布プリント、教科書の該当部分を読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
4	製作計画を立てる。(P) パターン作成、裁断(D)	採寸、型紙作成、布の扱い、裁断	配布プリント、教科書の該当部分を読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
5	しるしつけ(D)	しるしつけ	配布プリントを読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
6	T型シャツの本縫い(D)	ロックミシンによる縫い代のしまつ、肩縫い、衿づくり	配布プリントを読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
7		衿つけ	配布プリントを読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
8		袖つけ	配布プリントを読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
9		袖下、わき縫い	配布プリントを読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
10		袖口、裾縫い	配布プリントを読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
11	ハーフパンツの本縫い(D)	また上、また下縫い	配布プリントを読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
12		胴回りのしまつ	配布プリントを読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
13		すそのしまつ、ゴム通し	配布プリントを読んてくる	進度が遅れている場合は追いつくようにする
14	仕上げ(D、C、A)・レポート作成	仕上げ後、レポートの作成	レポート作成の準備をする	進度が遅れている場合は追いつくようにする
15	着装・発表会	着装して発表会	着装のための品物を用意する	発表の反省をする

教科書	流田直、亀井佑子他：『家庭科の基本』 学研教育みらい（2012）	参考書資料	プリント、【中学校教科書】佐藤文子他：『新しい技術・家庭 家庭分野』 東京書籍（最新版）
-----	----------------------------------	-------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること 余儀なく欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること 毎時間進度チェックを行う。予定進度より遅れている場合は、授業以外の時間に実習し、追いつくこと 教職課程履修者は教師を目指すものとしての自覚をもち、意欲的に授業に取り組むこと 	作品 (60%) レポート (20%) 受講態度 (20%)の総合評価	本実習で学んだ方法で、授業中に作品を作製し、期日までに完成度の高い作品とレポートを提出し、着装の発表が適正に実施されれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
ファッション造形実習Ⅱ	選択 教職必修	家政	1年 後学期	実習	1	はた 畑 久美子	単独	家政専攻科目	ファッション造形実習Ⅰの成績B以上	7, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
教科に関する科目（中学校家庭）						被服学（被服製作実習を含む）				
授業の概要						授業の到達目標				
日本の伝統衣装である和服の種類や材料、制作技法について学び、大裁女物単衣長着（浴衣）を制作する。和服を仕立てるために必要な反物の扱いと道具の使い方をはじめ、模様配置の仕方、縫い方、くけ方の基本を理解し、各自の寸法で1着制作する。作品の完成後、着付けを学んで着装し、寸法の確認や、模様配置が適当であるかを判断する。和服のたたみ方、着こなし、保管方法なども学ぶ。						<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統技法である和裁についての基礎的知識と技法を、浴衣の制作を通して習得し、和服への理解と関心を深められる。 浴衣制作に必要な材料、制作方法、着用方法、保管方法などを学び、浴衣を制作し、着用したのち適切に保管できるようになる。 教職課程履修者は、習得した知識を教育実習及び就職後の授業において適切に活かすことができる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	和服と和裁の基礎知識	和服の種類と名称、和裁の道具・材料について、採寸	反物を用意しておく。和服に関心を持つ。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
2	裁断	寸法見積り、柄合わせ、裁断	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
3	袖	標付け、袖下袋縫い、袖底～袖口下縫い	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
4		袖丸み縫いと丸みの始末、袖の躰、袖口の三折ぐけ	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
5	身頃	前後身頃標付け	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
6		背縫い、脇縫い	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
7		脇の始末（かくしじつけ、耳ぐけ）	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
8	衿	肩当・居敷当ての縫い付け、周囲の始末	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
9		柄合わせ、衿と衿の裁ち分け、衿標付け	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
10		衿付け、衿付け始末（耳ぐけ）、衿下三つ折りぐけ	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
11	衿	衿と共衿の裁ち分け、衿の標つけ、衿つけ	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
12		三衿芯の入れ方、縫い込めのとじ方、衿先の始末と衿ぐけ	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
13	袖付け	共衿のかけ方、裾ぐけ	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
14		袖付け、袖付けの始末、仕上げ	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	所定の作業過程まで終わらなかった場合には、次回までに仕上げしておく。
15	着装	着装、本たたみ、提出、浴衣のお手入れと保管について	次回の作業箇所を教科書で確認し、必要な用品・用具を準備しておく。	着装とたたみ方を復習し、自分でできるようにする。

教科書	初回授業にてプリント配布	参考書資料	授業内に適宜指示する
------------	--------------	--------------	------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ファッション造形実習Ⅰの内容を修得している前提で授業を進める。 浴衣の生地は各自で購入となります。（購入に関する説明はします。） 作業に遅れが生じた場合は、授業外の時間を使い進めておくこと。 進行の都合により、内容が前後することがある。 	作品（70%） 受講態度（30%）	授業および作品制作に積極的に取り組み、期日までに完成作品を提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
クラフト実習 I	選択	家政	1,2年 後学期	実習	1	あきやま 秋山	あつこ 敦子	単独 家政専攻科目	特になし	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
ミシンを使って布地の作品を、手編みで編み物の作品を製作し、ミシンの基本的な使い方と手編みの基礎的な知識と技術を習得する。布地の作品では、巾着とトートバッグを自分でデザインして製作する。編み物の作品では、かぎ針編みでコースターや鍋敷きなどの小さな敷物、棒針編みで自分のヘッドサイズに合った帽子を製作する。製作を通して、布地と編み物の構成や性質、取り扱い方の理解を深める。						<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの基本的な使い方を習得し、布を用いて、生活に役立つものを創造的に製作できるようになる。 ・手編み（かぎ針編み、棒針編み）の基礎的な知識と技術を習得し、編み物の作品を製作できるようになる。 ・製作することの楽しさを理解することができるようになる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	授業内容の説明	シラバスを読んてくる	授業内容を理解しておく
2	布地の作品	基礎縫い、デザイン	裁縫道具を用意する、デザインを考えてくる	授業内容を理解しておく
3		巾着製作（型紙作り、裁断、本縫い）	授業に必要なものを用意する（布地、ミシン糸）	授業内に終わらなかったことは終わらせておく
4		巾着製作（本縫い）	授業に必要なものを用意する	授業内に終わらなかったことは終わらせておく
5		トートバッグ製作（型紙作り、裁断、本縫い）	授業に必要なものを用意する（布地、ミシン糸）	授業内に終わらなかったことは終わらせておく
6		トートバッグ製作（本縫い）	授業に必要なものを用意する	授業内に終わらなかったことは終わらせておく
7		編み物の作品（かぎ針編み）	編み方の練習、記号図の読み方	編み方のプリントに目を通してくる
8	作品製作（コースター、鍋敷きなどの敷物）		デザインを考えてくる	授業内に終わらなかったことは終わらせておく
9	編み物の作品（棒針編み）	編み方の練習、記号図の読み方	編み方のプリントに目を通してくる	編み方の復習をする
10		編み方の練習	編み方を確認する	編み方の復習をする
11		帽子製作（頭の採寸、ゲージを編む、作り目数の割り出し）	授業に必要なものを用意する（毛糸）	授業内に終わらなかったことは終わらせておく
12		帽子製作（編み始める）	授業に必要なものを用意する	授業内に終わらなかったことは終わらせておく
13		帽子製作（編み進める）	授業に必要なものを用意する	授業内に終わらなかったことは終わらせておく
14		帽子製作（編み進める）	授業に必要なものを用意する	授業内に終わらなかったことは終わらせておく
15		帽子製作（目数を減らし綴じる、仕上げ）	授業に必要なものを用意する	授業内に終わらなかったことは終わらせておく

教科書	なし	参考書 資料	適宜プリントを配布する
------------	----	-------------------	-------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の使用禁止。 ・材料は各自で準備する。 ・忘れ物をしないこと。 ・進行の都合により、授業内容が前後することがある。 	作品(70%)、授業に対する姿勢(30%)で総合的に評価する。	積極的に授業に取り組み、授業内容を理解して実習することができ、期日までに全ての作品を提出すれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
クラフト実習Ⅱ	選択	家政	2年前学期	実習	1	はた 畑	くみこ 久美子	単独 家政専攻科目	特になし	3, 4, 8, 9, 11, 12, 14, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
<p>手工芸や伝統工芸の種類と技法を知り、自分の手で作品を作ることの楽しさと完成した時の喜びを体験する。この授業では特に染色と織りの技法を学び、必要な道具や用品、材料などの選び方・扱い方を修得する。個々のオリジナル作品のデザインをするところから始め、制作を行う。</p>						<ul style="list-style-type: none"> ・様々な手工芸があることを知り、手工芸で生活を豊かにすることに興味を持てるようになる。 ・伝統工芸の偉大さを知り、伝統工芸を大切にすることを育てる。 ・染色と織りの種類や特徴が分かるようになる。 ・染色と織りの道具や用具が使えるようになり、材料を選び、自らのデザインで制作ができるようになる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	染めと織りの手工芸	手芸・工芸とは、手工芸の分類、作品制作について	手工芸や伝統工芸の図書や作品に触れ関心を高める	学修した内容に基づいた視点で身の回りの手工芸に目を向ける。
2	染色	デザイン	手工芸や伝統工芸の図書や作品に触れ関心を高める	作業の遅れは進めておく
3		染めの準備工程（型紙制作、型の準備、絞り、等）	次の作業の準備をしておく	作業の遅れは進めておく
4			次の作業の準備をしておく	作業の遅れは進めておく
5			次の作業の準備をしておく	作業の遅れは進めておく
6		浸染作業	次の作業の準備をしておく	作業の遅れは進めておく
7	織り	デザイン	手工芸や伝統工芸の図書や作品に触れ関心を高める	作業の遅れは進めておく
8		手織り作業（裂き織り、ビーズ織り、等）	次の作業の準備をしておく	作業の遅れは進めておく
9			次の作業の準備をしておく	作業の遅れは進めておく
10			次の作業の準備をしておく	作業の遅れは進めておく
11			次の作業の準備をしておく	作業の遅れは進めておく
12		手織り布を用いた作品制作	次の作業の準備をしておく	作業の遅れは進めておく
13			次の作業の準備をしておく	作業の遅れは進めておく
14	次の作業の準備をしておく		作業の遅れは進めておく	
15	まとめ	作品発表、講評	作品を完成させておく	完成作品を振り返る

教科書	プリントを配布する	参考書資料	授業内に適宜指示する
------------	-----------	--------------	------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸染作業時は実験室で行い、それ以外は被服室で行う。 ・ 作業に遅れが生じた場合は、授業外の時間を使い進めておくこと。 ・ 進行の都合により、内容が前後することがある。 	作品 (70%) 受講態度 (30%)	授業および作品制作に積極的に取り組み、期日までに完成作品をすべて提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
服飾デザイン演習 I	卒業必修	家政	1年 後学期	演習	2	はた 畑	くみ 久美子	単独 家政専攻科目	特になし	3, 7, 9, 14, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
はじめに、服飾デザインを学ぶ上で考え方の基礎となる、デザインの定義、歴史を学び、デザインとは何か、服飾デザインとは何か、を理解する。服飾デザインの実務を行うにあたり、流行について、衣服の種類と形態について学び、2年次の服飾系の授業や資格取得、卒業後の実務において応用できるようにする。アイデア表現方法の基本となるデザイン画の描画方法を習得する。						<ul style="list-style-type: none"> ・アパレル製品の企画・設計に必要なデザインの基礎知識を学び、デザインとは何かを理解できるようになる。 ・デザインの基礎的なプロセスに関わる演習を通して、実務へ結びつく技術を養う。 ・自分のアイデアを的確に第三者へ伝えることができるようになる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	デザインの定義	服飾デザインとは何か、作品制作のための基礎知識	教科書を読み、不明な語句については各自調べてくる。	プリントやノートを見直し理解を深める。
2	デザインの歴史	近代デザインの変遷	教科書を読み、不明な語句については各自調べてくる。	プリントやノートを見直し理解を深める。
3		20世紀、現代デザイン	教科書を読み、不明な語句については各自調べてくる。	プリントやノートを見直し理解を深める。
4	デザインとファッション	流行と服飾文化	教科書を読み、不明な語句については各自調べてくる。	プリントやノートを見直し理解を深める。
5		ファッションイメージ	教科書を読み、不明な語句については各自調べてくる。	プリントやノートを見直し理解を深める。
6		イメージマップ制作	教科書を読み、不明な語句については各自調べてくる。	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
7	衣服の種類と形態	アイテムの種類	教科書を読み、不明な語句については各自調べてくる。	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
8		ディテールによる分類	教科書を読み、不明な語句については各自調べてくる。	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
9		ハンガーイラスト	教科書を読み、不明な語句については各自調べてくる。	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
10	デザイン画の描き方	デザイン画とは、裸婦を描く、ポーズのバリエーション	次の作業の準備をしておく	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
11		着装(1)衣服の描き方(基礎)	次の作業の準備をしておく	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
12		着装(2)衣服の描き方(着装のバリエーション)	次の作業の準備をしておく	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
13		着色(1)裸婦の着色	次の作業の準備をしておく	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
14		着色(2)衣服の着色	次の作業の準備をしておく	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
15		提出作品制作	次の作業の準備をしておく	完成作品を振り返る

教科書	玉田真紀、宮武恵子、畑久美子：『生活デザインの体系』 三共出版（2012）	参考書資料	プリント等で配布する。授業の進行に応じて適宜紹介する。
------------	---------------------------------------	--------------	-----------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
・私語、携帯電話使用、忘れ物厳禁。他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。	作品（60%） 演習課題（20%） 受講態度（20%）	各課題や作品の制作意図を理解し、積極的に取り組み、完成作品を提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
服飾デザイン演習Ⅱ	選択	家政	2年 後学期	演習	2	はた 畑	くみこ 久美子	単独 家政専攻科目	特になし	3, 9, 11, 12
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
ワークペーパーを使って色彩によるコーディネート、素材やイメージによるコーディネートを学び、課題制作を通じて感覚を養う。ファッションコーディネートの法則性を学び、商品企画に重要なイメージマップを作成し、プレゼンテーションを行う。						<ul style="list-style-type: none"> ・服飾デザイン演習Ⅰで学んだ基礎知識を基に、アパレル業界での実務において応用できる能力を身に付ける。 ・被服のコーディネートの基礎知識を学び、TPOやライフスタイルに合わせたコーディネートができるようになる。 ・プレゼンテーションを通して、自分のアイデアを的確に第三者へ伝えることができるようになる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	服飾のソフト・デザイン	衣服と服装、コーディネートとは	街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	復習し理解に努める。
2	アパレル企画シミュレーション演習	ターゲット企画、ターゲットマップの作成	街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
3		コンセプト企画、コンセプトマップの作成	街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
4		アイテム企画	街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
5		デザイン画、企画書	街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
6		ディスプレイ企画	街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
7		ディスプレイデザイン	街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
8		プレゼンテーション	街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
9		ワードローブ計画演習	ワードローブ調査	街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め
10	パーソナルカラー(1)		街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
11	パーソナルカラー(2)		街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
12	ワードローブ・コーディネート計画		街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
13	デザイン画		街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
14	作品プレゼンテーションと講評		街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	作品および課題制作などで授業内に終わらなかった場合は次回までに完成させる。
15	まとめ	作品の振り返り、講評	街頭のファッションやショップを観察したり、ファッション雑誌に目を通すなどして、流行への関心を高め	完成作品を振り返る

教科書	玉田真紀、宮武恵子、畑久美子：『生活デザインの体系』 三共出版（2012）、その他プリント配布	参考書 資料	ファッション雑誌、授業内でプリント配布する
------------	---	-------------------	-----------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・私語、携帯電話使用、忘れ物厳禁。他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 ・不要になったファッション雑誌がある場合は使用するの取っておいてください。 	課題・作品 (50%) 発表 (30%) 受講態度 (20%)	各課題や作品の制作意図を理解し、積極的に取り組み、完成作品を提出・発表できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
カラーコーディネート 演習	選択	家政	2年 前学期	演習	2	はた 畑	くみ 久美子	単独 家政専攻科目	特になし	14, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
色とは何か、色が見える仕組み、色の分類など、色彩学の基本を学び、色についての理解を深める。色の三属性、色彩体系、配色理論を学び、ファッションやアパレルの仕事や日常生活において応用できる実践力を養う。習得した知識により、ファッション色彩能力検定3級または2級に合格することを目指す。						<ul style="list-style-type: none"> ・色彩に関する基本的事項が理解できるようになる。 ・日常生活において色彩を役立てることができるようになる。 ・ファッションやアパレルの仕事において実践的に色彩を応用できるようになる。 ・習得した知識により、ファッション色彩能力検定3級または2級に合格する。 				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	色彩のはたらき	検定試験について（検定申込受付）、生活における色彩の役割	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
2		ファッションにおける色彩の役割	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
3	色彩の体系	色の三属性、演習課題	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
4		色彩体系、純色・清色・濁色、ヒュー&トーン	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
5		小テスト、解説	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
6	色彩理論	色の成り立ち、光と色、三原色と混色	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
7		視覚と色、色彩と心理	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
8		小テスト、解説	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
9	色彩の技術	配色の基礎	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
10		色彩構成の基礎	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
11		配色演習	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
12	ファッション産業と色彩	ファッション産業における色彩の役割、企画・生産・流通の各段階の色彩	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
13	まとめ	模擬試験	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
14		解説	次回の授業内容は教科書で予習しておく。色に対する関心を高めておく。	授業で行った内容は必ず問題集で復習する。
15		まとめ	これまでに学んだことを復習しておく	模擬試験を振り返り、検定試験に備える

教科書	(財)日本ファッション教育振興協会：『ファッション色彩[Ⅰ]』（最新版） (財)日本ファッション教育振興協会：『ファッション色彩能力検定試験3級問題集』（最新版）	参考書 資料	玉田真紀、宮武恵子、畑久美子：『生活デザインの体系』 三共出版（2012） その他、色彩学やカラーコーディネートに関する図書
------------	--	-------------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・私語、携帯電話使用、忘れ物厳禁。他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 ・小テスト、模擬テストを行う。 ・検定試験の日程に合わせ、授業スケジュールを変更することがある。 	小テスト・模擬テスト(50%) 演習課題(30%) 受講態度(20%)	小テスト・模擬テストを受けて学習内容を理解していることが確認でき、完成させた課題を提出すれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
アパレル素材・管理学	卒業必修 教職必修	家政	1年 前学期	講義	2	はた くみこ 畑 久美子	単独	家政専攻科目	特になし	5, 14, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
教科に関する科目（中学校家庭）						被服学（被服製作実習を含む）				
授業の概要						授業の到達目標				
アパレル製品を取り扱う際に必要な、材料、洗浄、保管などの知識を学ぶ。はじめに、材料の種類と分類、性質、デザインとの関係などについて学び、主要な材料である織物について、その構造と種類、文化的背景を学ぶ。織物以外のアパレル素材とアパレル製品の部品について知り、適切な取り扱いを理解する。次に、被服着用後の、洗浄、乾燥、保管などの被服の管理を正しく行い、繰り返し清潔で整った状態で被服を着用できるための知識を養う。洗濯のしくみと洗剤の成分・はたらきについて、科学的側面から学び、実験によって理解を深める。衣類の廃棄と環境問題、再利用について関心を深める。						<ul style="list-style-type: none"> 糸や布の種類、構造、特性を理解し、被服の選択や取り扱いに活かすことができる。 被服管理とは何かを理解し、被服の正しい取扱い方法を学び、日常生活に活かすことができる。 素材の性質、洗濯のしくみ、洗剤の性能などについて、科学的な理解を深め、実験方法を理解し、適切なレポートを書く技術が身に付く。 習得した知識を、中学校家庭科での教職実務に適切に活かすことができる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	アパレル素材と種類	アパレル素材の分類、素材とデザイン、歴史と変遷	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
2	繊維素材	繊維について	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
3		糸について	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
4		布地について(1)織物	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
5		布地について(2)ニット、レース	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
6	非繊維素材	皮革、毛皮、アパレル副資材	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
7	衣類の汚れと被服衛生	汚れの種類と性質、衣服内環境	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
8	洗濯の科学	汚れが落ちる仕組み、洗濯水について	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
9	洗剤の成分とはたらき	洗剤の種類と選び方、洗剤の成分	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
10		界面活性剤のはたらき	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
11	漂白としみ抜き	しみの種類と用剤について	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
12	洗濯後の仕上げ	柔軟剤のはたらき、糊仕上げ、アイロンの温度	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
13	衣類の保管	アパレル製品の素材と季節による保管について	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
14	アパレル製品と環境	繊維リサイクル、循環型被服管理	教科書を読み、分からない語句の意味を調べておく	学習した内容を復習し、理解を深めておく
15	まとめ	全体の復習	これまでに学んだことをまとめ、復習しておく	試験に向けて準備をする

教科書	大野静江、石井照子、他：『衣生活の科学—衣生活編— 初版第6刷』建帛社（2007）	参考書 資料	アパレル素材論、被服管理学、被服衛生学、等の図書
------------	---	-------------------	--------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
私語、携帯電話使用、忘れ物厳禁。他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。	定期試験(40%) レポート(40%) 受講態度(20%)	アパレル素材とその管理についての基本的な科学知識と仕組みを理解し、実験レポートを完成させて提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
アパレル素材論	卒業必修 教職必修	家政	2年 前学期	講義	2	はた 畑	くみこ 久美子	単独 家政専攻科目	特になし	5, 14, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
教科に関する科目（中学校家庭）						被服学（被服製作実習を含む）				
授業の概要						授業の到達目標				
アパレル製品の生産に必要な素材および材料について、その概要と分類、デザインとの関係、歴史について学び、種類と性質を知る。アパレル素材として最も取り扱いの多い織物について、その構造と種類、文化的背景を学ぶ。織物以外のアパレル素材とアパレル製品の部品について知り、適切な取り扱いを理解する。アパレル製品を扱うに当たり、環境問題との関係性を学ぶ。						<ul style="list-style-type: none"> 被服の材料となる糸や布の種類、構造、特性を理解し、被服の選択や取り扱いに活かすことができる。 被服素材の変遷や開発、環境との関係などについて学び、衣生活の質を向上させる。 習得した知識を、家庭科教員やアパレル業界での仕事に適切に活かすことができる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	アパレル素材とは	アパレル素材の分類	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
2		アパレル素材とデザイン	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
3		アパレル素材の歴史と変遷	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
4	繊維について	繊維の分類、天然繊維の性質(1) 植物繊維	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
5		天然繊維の性質(2) 動物繊維、新天然繊維	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
6		化学繊維の性質(1) 再生繊維	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
7		化学繊維の性質(2) 合成繊維、半合成繊維	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
8	糸について	糸の形態的分類とその特徴、太さと撚り	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
9	織物について	織物の構造と三原組織	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
10		織物の種類と文様	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
11		日本の織物、世界の織物、アパレル素材としての生地の種類	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
12		織物の付加機能と加工	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
13	織物以外のアパレル素材	皮革、毛皮、ニット、アパレル部品	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
14		環境問題、開発状況	教科書を読み、予習しておく。周囲の被服材料に関心を向ける。	教科書やノートを参照し、レポートが課された場合は完成させておく。
15	まとめ	全体の復習	15回の内容を振り返る。	15回の内容を振り返る。

教科書	大野静江、石井照子、他：『衣生活の科学—衣生活編— 初版第6刷』建帛社（2007）	参考書 資 料	アパレル素材論、被服管理学、被服衛生学、等の図書
------------	---	--------------------	--------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
私語、携帯電話使用、忘れ物厳禁。他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。	定期試験(40%) レポート(40%) 受講態度(20%)	アパレル素材の歴史、種類、それぞれの性質や特徴、デザインや環境との関係性などについて理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
被服管理学演習	選択	家政	2年前学期	演習	2	はた 畑	くみ 久美子	単独 家政専攻科目	特になし	5, 14, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
被服を着用した後、洗濯、漂白、しみ抜き、乾燥、アイロン、収納という被服の管理を正しく行い、繰り返し清潔で整った状態で被服を着用できるための知識を養う。洗濯のしくみと洗剤の成分・はたらきについて、科学的側面から学び、実験によって理解を深める。漂白としみ抜きについて、基礎的な科学的知識を得、演習を行い確認する。洗濯後の仕上げ、保管について学び、衣類の廃棄と環境問題、再利用について関心を深める。						<ul style="list-style-type: none"> 被服管理とは何かを理解し、実際の被服管理に役立てることができるようになる。 被服の正しい取扱い方法を学び、日常生活およびアパレル産業の実務に活かせるようになる。 被服管理に関する実験を行い、洗濯のしくみや洗剤の性能などについて科学的な理解を深める。 実験方法を理解し、適切なレポートを書く技術が身につく。 				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	被服の管理	被服管理学とは、適切な被服の管理	教科書を読み、予習しておく	学習した内容を復習し理解しておく
2	洗濯の科学	汚れの種類、繊維の種類	教科書を読み、予習しておく	学習した内容を復習し理解しておく
3		取扱絵表示について	教科書を読み、予習しておく	学習した内容を復習し理解しておく
4		洗濯のしくみ	教科書を読み、予習しておく	学習した内容を復習し理解しておく
5		軟水と硬水について、比較実験	教科書を読み、予習しておく	教科書やノートを参照し実験のレポートを書く
6		家庭洗濯と商業洗濯	教科書を読み、予習しておく	学習した内容を復習し理解しておく
7	洗剤の成分とはたらき	洗剤の種類と選び方、洗剤の成分	教科書を読み、予習しておく	学習した内容を復習し理解しておく
8		界面活性剤のはたらき、実験	教科書を読み、予習しておく	教科書やノートを参照し実験のレポートを書く
9		汚染布作成	教科書を読み、予習しておく	学習した内容を復習し理解しておく
10		ターゲットメーターによる洗濯実験	教科書を読み、予習しておく	教科書やノートを参照し実験のレポートを書く
11	漂白としみ抜き	漂白剤について、漂白演習	教科書を読み、予習しておく	教科書やノートを参照し実験のレポートを書く
12		しみの種類と溶剤について、しみ抜き演習	教科書を読み、予習しておく	教科書やノートを参照し実験のレポートを書く
13	洗濯後の仕上げ	柔軟剤のはたらき、糊仕上げ、アイロンの温度測定演習	教科書を読み、予習しておく	教科書やノートを参照し実験のレポートを書く
14	循環型被服管理について	衣類の保管と廃棄、再利用	教科書を読み、予習しておく	学習した内容を復習し理解しておく
15	まとめ	全体の復習	これまで学習した内容をまとめておく	全体的に復習をし試験に備える

教科書	増子富美、齊藤昌子、他：『生活科学テキストシリーズ 被服管理学』朝倉書店（2012）	参考書資料	林雅子：『被服管理学及び実験』文化出版局（2004） 平松峻ほか：『被服整理の理論と実験』化学同人（1988）
------------	--	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 私語、携帯電話使用、忘れ物厳禁。他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 進行の都合により、内容が前後することがある。 	定期試験(40%) レポート(40%) 受講態度(20%)	被服管理の各過程についての基礎的な科学知識と仕組みを理解し、実験レポートを完成させて提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
ファッション販売演習	選択	家政	1年 後学期	演習	2	はた 畑	くみ 久美子	単独 家政専攻科目	特になし	3, 4, 8, 11, 12, 14, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
小売業における販売業務に携わるために必要な知識と技術を学ぶ。はじめに、小売業界全体について、マーチャндаイジング、マーケティング、接客、ストアオペレーション、販売における計数などを学ぶ。その後、ファッション商品、ファッション業界、ファッション商品のマーケティングなど、特にファッション商品販売の仕事に携わる場合に必要とされる知識と技術を学ぶ。小テストを行い、学習成果が身に付いているか確認する。アパレルショップの観察・調査を行い、実務の現場を知る。						<ul style="list-style-type: none"> ・ファッション商品販売業務に必要とされる基本的なファッション商品知識、販売知識、接客知識を習得し、実務に活かせるようになる。 ・商品の流通やマーケティングの概要を学び、小売業のしくみが理解できるようになる。 ・ファッション販売能力検定試験（3級）やリテールマーケティング（販売士）検定試験（3級）の合格を目指す。 				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ファッション販売とは	検定試験について、小売業とは、ファッションとは、アパレルとは	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
2		ファッション業界について	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
3	小売業の種類	小売業の構造、ファッション小売業と店舗	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
4		商品の流通、各小売業種について	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
5	マーチャндаイジング	商品計画、仕入計画、品揃え、在庫管理の知識	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
6		販売スタッフの事務と商品管理	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
7	マーケティング	マーケティングの基礎知識、リテール・マーケティングとは	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
8		お客様の購買動機、購買心理	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
9	店舗演出とVP展開	店舗（売り場）環境づくりと演出	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
10		ウェアリング（着こなし方）の提案について	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
11		商品陳列、ラッピング	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
12	販売技術	接客の基本動作とセールステクニック基礎	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
13		お客様との接し方演習	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
14	経営管理	販売に関する法令、計数管理、損益計算	教科書の該当ページを読み、分からない語句の意味を調べておく。	学習した内容を復習し、問題集を繰り返し解く。問題集でできなかった箇所は質問したり調べたりして
15	まとめ	模擬試験、課題提出について	これまでに学んだことをまとめ、復習しておく	検定試験に備える

教科書	(財)日本ファッション教育振興協会：ファッション販売[Ⅰ]改訂版(最新版) (財)日本ファッション教育振興協会：ファッション販売能力検定試験問題集3級 改訂版(最新版)	参考書資料	織研新聞、月間『ファッション販売』（商業界）、各種ファッション雑誌
------------	---	--------------	-----------------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・私語、携帯電話使用、忘れ物厳禁。他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。 ・小テスト、模擬テストを行う。 ・検定試験の日程に合わせ、授業スケジュールを変更することがある。 	小テスト・模擬テスト(50%) 演習課題(30%) 受講態度(20%)	小テスト・模擬テストを受けて学習内容を理解していることが確認でき、完成させた課題を提出すれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
住生活論	卒業必修 教職必修	家政	1年 前学期	講義	2	やまむら 山村	みほり 美保里	単独 家政専攻科目	特になし	15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
教科に関する科目（中学校家庭）						住居学				
授業の概要						授業の到達目標				
風土に適した住まいとその移り変わりから、住宅の役割を学ぶ。更に、災害や安全、環境、ライフスタイル等の住まいの計画に必要な要素についての理解を深める。						住いの機能、歴史、計画の基礎事項を理解し、実生活に活かせるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	講義の目的及び方針、基礎事項の解説等	シラバスを読んでおく	プリントを復習する
2	風土と住まい	自然環境に適応した世界の伝統的住居	伝統的住居について図書を参照する	プリントを復習する
3		日本の気候風土と家づくり	伝統的住居について図書を参照する	プリントを復習する
4			伝統的住居について図書を参照する	プリントを復習する
5	日本の住まいの変遷	古代から中世まで	伝統的住居について図書を参照する	プリントを復習する
6		中世から江戸時代まで	伝統的住居について図書を参照する	プリントを復習する
7		西洋建築との出会いと住宅改善運動	伝統的住居について図書を参照する	プリントを復習する
8		防災と都市計画	伝統的住居について図書を参照する	プリントを復習する
9		モダニズムと戦後の復興、高度成長	伝統的住居について図書を参照する	プリントを復習する
10		現代の住宅事情及び住宅政策	伝統的住居について図書を参照する	プリントを復習する
11	住いの安全	現代における住まいの危険と防災について	住いの危険について考えておく	プリントを復習する
12	住環境	まちづくりの関連法案と景観	住んでいる町を観察しておく	プリントを復習する
13		住宅におけるユニバーサルデザイン	住んでいる町を観察しておく	プリントを復習する
14	これまでの復習	確認テスト	これまでのプリントを復習する	プリントを復習する
15	総括	振り返り	これまでのプリントを復習する	プリントを復習する

教科書	必要な資料は適宜配布	参考書資料	小宮容一他 『新しい住まい学』 井上書院（2016）
------------	------------	--------------	----------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
携帯電話の操作、私語等の授業進行の妨げとなる行為を慎み、授業環境を良好に保つことを心掛けること。	受講態度(30%) レポート(15%) 小テスト(55%)	確認テスト及びレポートによって、住まいの機能、歴史、計画の基礎事項を理解できていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
住空間デザイン演習	選択	家政	1年 後学期	演習	2	やまむら 山村 美保里	単独	家政専攻科目	住生活論履修者	4,7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
近代住宅の名作とうたわれている前川邸について、平面図の読み取り、現地見学会及び模型を作成することによって、その優れたデザイン性を理解する。						近代住宅を理解し、模型製作の基礎をマスターする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	授業の目的及び方針	シラバスを読んでおく	授業方針を確認する
2	模型を作成する住宅について	模型のモデルとなる前川邸について、コンセプトやデザインを学ぶ 見学会（予定）で実物の家を内覧する	戦後に建てられた家を観察する	授業内容を確認する
3			戦後に建てられた家を観察する	授業内容を確認する
4			戦後に建てられた家を観察する	授業内容を確認する
5			戦後に建てられた家を観察する	授業内容を確認する
6			平面図の見方	平面図に用いられる約束事を学ぶ
7	模型製作	模型作成の手順と必要事項の確認を行う	カッター使いを練習しておく	授業内容を確認する
8		I材料の扱いの練習(1)	カッター使いを練習しておく	授業内容を確認する
9		II材料の扱いの練習(2)	カッター使いを練習しておく	授業内容を確認する
10		IIIパーツの作成(1)	カッター使いを練習しておく	授業内容を確認する
11		IVパーツの作成(2)	カッター使いを練習しておく	授業内容を確認する
12		V組み立て	カッター使いを練習しておく	授業内容を確認する
13		VI土台	庭木の観察をしておく	授業内容を確認する
14		VII外構・装飾	庭木の観察をしておく	授業内容を確認する
15	総括	反省及び仕上がが具合の調整	庭木の観察をしておく	授業内容を確認する

教科書	必要な資料は適宜配布する	参考書 資料	藤木庸介編：『名作住宅で学ぶ建築製図』 学芸出版社（2008）
------------	--------------	-------------------	---------------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
携帯電話の操作、私語等の授業進行の妨げとなる行為を慎み、授業環境を良好に保つことを心掛けること。	受講態度(30%) 模型製作(60%) 小提出物(10%)	簡単な住宅の平面図の基本を理解し、その示す空間構成を理解できるようにになれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
インテリアコーディネート演習	卒業必修	家政	2年後学期	演習	2	やまむら 山村 美保里	単独	家政専攻科目	特になし	11、12
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
前半では、インテリアを構成する各要素の基礎事項と、プランニングの一般的なルールを学ぶ。後半では学んだことを基に、各々が好むインテリアコーディネートについて分析して、プレゼンテーションボードを作成する。						インテリアの基礎事項を理解し、実生活のコーディネーターとに活かせるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	授業の目的及び方針	シラバスを読んでおく	授業方針の確認をする
2	色彩	色彩の組合せと効果	色彩の基礎を参照しておく	学習した内容を確認する
3	家具	家具の種類と役割、配置のポイント等	家の家具や家具売り場を見ておく	学習した内容を確認する
4		著名な家具とそのデザイン及びスケッチ	家の家具や家具売り場を見ておく	学習した内容を確認する
5	窓周り	窓周りの基礎知識	家の窓周りを見ておく	学習した内容を確認する
6	照明	照明の種類と役割、組み合わせと演出される雰囲気	家が店舗やレストランの照明をみておく	学習した内容を確認する
7		著名な照明とデザイナーについて	家が店舗やレストランの照明をみておく	学習した内容を確認する
8	コーディネートの見方	コーディネートされた部屋の分析の仕方	学習したインテリアの基礎事項を復習する	学習した内容を確認する
9			学習したインテリアの基礎事項を復習する	学習した内容を確認する
10	プレゼンボードの作成	インテリア雑誌から、好きなインテリアを選び分析してプレゼンテーションボードを作成する	自分の好きなインテリアの雰囲気を観察する	学習した内容を確認する
11			自分の好きなインテリアの雰囲気を観察する	学習した内容を確認する
12			自分の好きなインテリアの雰囲気を観察する	学習した内容を確認する
13			自分の好きなインテリアの雰囲気を観察する	学習した内容を確認する
14	プレゼンテーション	プレゼンテーション	自分の好きなインテリアの雰囲気を観察する	学習した内容を確認する
15	総括	振り返りとまとめ	自分の好きなインテリアの雰囲気を観察する	学習した内容を確認する

教科書	必要な資料は適宜配布	参考書資料	『素敵なインテリアの基本レッスン』 主婦の友社（最新版）
-----	------------	-------	------------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
携帯電話の操作、私語等の授業進行の妨げとなる行為を慎み、授業環境を良好に保つことを心掛けること。	受講態度(30%) 授業時間に行う課題(70%)	インテリアコーディネートの基礎事項を理解したプレゼンテーションボードを作成できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
建築CAD/グラフィック演習	選択	家政	2年後学期	演習	2	まえだ 前田	やすとも 康智	単独 家政専攻科目	住空間デザイン実習の単位取得者が望ましい	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
本授業は、家政専攻の住分野として、前半部分はCADソフトを用いた住居に関する建築製図を行う。具体的には、作図の基本を経て、平面図、立面図の作図を行う。能力によっては、希望すれば建築CAD検定3級受験を推進する。後半部分は三次元グラフィックソフトを用いた基本的な住居の制作を行う。制作には、基本図形の制作練習を経て、測定から描画まで決められた手順に沿って、様々な種類の住居を制作していく。						コンピューターを用いた三次元グラフィックや設計が身近で、かつ容易になった現在において、生活分野に関する設計として、特に住居の三次元グラフィックスや住空間の製図(住空間CAD)が注目されている。家政専攻の住分野について、三次元グラフィックソフトやCADソフトの使い方を学び、具体的に住空間の設計と生活用品の制作ができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	住居三次元グラフィックス1	三次元グラフィックソフトの操作練習、基本図形の制作練習	シラバスを読んでくる	操作手順が間違っていないかを確認する
2	住居三次元グラフィックス2	基本図形の制作練習、家の外形の作成練習	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
3	住居三次元グラフィックス3	家の外観モデルの作成	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
4	住居三次元グラフィックス4	家の詳細モデルの作成1	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
5	住居三次元グラフィックス5	家の詳細モデルの作成2	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
6	住居三次元グラフィックス6	家の詳細モデルの作成3、色素材の活用、アニメーション等の作成	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
7	住居CAD1	建築製図の基本、CAD作図ソフトの基本、製図の準備	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
8	住居CAD2	CADソフトによる作図と編集の練習	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
9	住居CAD3	平面図の作図1	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
10	住居CAD4	平面図の作図2	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
11	住居CAD5	平面図の作図3	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
12	住居CAD6	断面図の作図1	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
13	住居CAD7	断面図の作図2	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
14	住居CAD8	立面図の作図1	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する
15	住居CAD9	立面図の作図2	資料にある操作手順を確認する	操作手順が間違っていないかを確認する

教科書	なし（毎回資料を配布する）	参考書資料	なし
------------	---------------	--------------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア操作の説明後、各自操作し、課題に取り組む。授業の最後に保存し、次回以降は続きを行う。 初回授業でマウス操作で大きく遅れる、又は、細かい操作が難しければ履修変更を勧めることがある。 三次元グラフィックス終了後、住居CAD終了後にそれぞれ授業中の課題が残っている場合は宿題を課すことがある。 	授業中の課題提出(70%) 授業態度(30%)	ソフトウェア使用を通じて、住居グラフィックの制作と住居設計の基本が理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
生活数理演習	選択	家政	1年前学期	演習	1	まえだ 前田	やすとも 康智	単独 家政専攻科目	なし	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
本演習は、家政専攻科目における必須知識、特に最重要とされる数学・科学的知識に焦点をあてて、ものの長さ・面積の測り方、重さ・容積の量り方、濃度、希釈に関する考え方などについて、細かい手先の作業や科学実験を通じて繰り返し練習し、他の専攻科目への導入とする。						(1)デザイン面の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、できるようになる。 (2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、できるようになる。 (3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識を活用できるようになる。 (4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、実行できるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	型切り(1)	はさみ、カッターを使い、型切りを行う(被服室)	シラバスを讀んでくる	カッター、はさみの使い方を確認する
2	長さを測る、線を引く	長さの単位の理解、竹定規で長さを測る、直線を引く(被服室)	カッター、はさみの使い方を確認する	長さの単位、定規の使い方を確認する
3	型切り(2)	はさみ、カッターを使い、型切りを行う(被服室)	長さの単位、定規の使い方を確認する	カッター、はさみの使い方を確認する
4	長さを分ける(分数)	等分、倍の理解、紐、テープを等分に分ける(被服室)	カッター、はさみの使い方を確認する	長さを分ける方法について確認する
5	スプーン、カップで容積を測る	容積の単位の理解、液体個体のかさを量る、スプーンの使い方(実験室)	長さを分ける方法について確認する	容積の単位と計量スプーンの使い方を確認する
6	ハカリで重さを量る	重さの単位の理解、電子上皿天秤で液体と固体の重さを量る(実験室)	容積の単位と計量スプーンの使い方を確認する	重さの単位と重さの量り方を確認する
7	三・四角形、平行・垂直線の作成	三角・四角形の作成、定規で垂直、平行の線を引く(被服室)	重さの単位と重さの量り方を確認する	各種図形の線引きの方法を確認する
8	型切り(3)	はさみ、カッターを使い、型切りを行う(被服室)	各種図形の線引きの方法を確認する	カッター、はさみの使い方を確認する
9	多角形の作成、型切り(4)	折り紙による多角形作成と細微な模様切り(はさみの練習)(被服室)	カッター、はさみの使い方を確認する	多角形の形と模様切りの方法を確認する
10	水溶液とは、食塩水濃度の計算	水溶液の理解、食塩水の濃度の計算(実験室)	多角形の形と模様切りの方法を確認する	水溶液、濃度の計算について確認する
11	食塩水濃度と洗剤濃度の計算	食塩水の濃度と洗剤(液体・粉末)濃度の計算(実験室)	水溶液、濃度の計算について確認する	濃度の計算について確認する
12	型切り(5)、総復習	型切りを行う、2、4、7、9回授業の総復習(被服室)	濃度の計算について確認する	カッター、はさみの使い方を確認する
13	長さを決められた比で分ける	比についての理解、紐、テープをある比で分け、はさみで切る(被服室)	カッター、はさみの使い方を確認する	比の計算について確認する
14	希釈の計算、電卓計算	希釈の理解、調味料等による希釈の計算、電卓計算(被服室)	比の計算について確認する	希釈、電卓計算の方法について確認する
15	実技試験と筆記試験対策	測量と測定の実技試験、定期試験(筆記)のための対策(被服室)	希釈、電卓計算の方法について確認する	電卓計算の方法について確認する

教科書	なし(毎回資料を配布する)	参考書 資料	なし
------------	---------------	-------------------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 授業回によっては、被服室と実験室を使い分けて行う。 毎回演習課題を課す。 15回目の授業では実技試験を行い、筆記試験対策を行う(定期試験では筆記に関する試験を行う)。 	受講態度(20%) 課題提出(20%) 実技試験(30%) 筆記試験(30%)	家政専攻に求められる前提知識として、長さ、重量、線・図形の解釈および濃度・希釈計算、さらに、竹定規、はさみ他、各測量・測定道具が、正確かつ速く使えることができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
食生活論Ⅰ	卒業必修 教職必修	家政	1年 前学期	講義	2	しんやま 新山 みつ枝 ^え	単独 家政専攻科目 (FC)	特になし	5, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教科に関する科目(中学校家庭)						食物学(栄養学・食品学及び調理実習を含む)			
授業の概要						授業の到達目標			
健康の保持・増進や疾病予防には、望ましい食習慣と自己管理能力を身につけることが重要である。本授業は家政専攻必修科目であると同時に中学校教諭二種免許状(家庭)取得のための必修科目でもあるため、消費者や中学生の視点を取り入れながら食生活を概観し、豊かな食生活を送るための基礎的事項を学習する。食事調査も取り入れてこれまでの食生活を振り返り、自身の今後の食生活に役立てる。						<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の意義や食文化について関心を持つことができる ・食品と栄養・健康の関連について理解することができる ・ライフステージに応じた健康的な献立作成ができる ・望ましい食物摂取と食環境についての課題を認識することができる 			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	食生活の意義	食生活と食生活論の意義、食事の役割、食事調査の実施、味覚	シラバスをよく読む	食事調査の実施計画を立て実施する
2	食生活の変遷と食文化	世界の食文化	世界の食文化について調べる	世界の食文化についてまとめる
3		行事食と郷土料理、伝統的な加工食品、地産地消	日本の食文化について調べる	日本の食文化につおてまとめる
4	食生活と栄養	栄養素の構造と働き、消化と吸収、小テスト①	配布プリントを読む	小テストの復習をする
5		食物と栄養・健康、小テスト②	配布プリントを読む	小テストの復習をする
6		生活習慣病と食生活小テスト③	配布プリントを読む	小テストの復習をする
7	食品の安全性・選択	食中毒、食品添加物、食品の表示、保健機能食品、食品添加物等	食品の安全についての最近のニュースを調べる	食品の安全性についてまとめる
8	食べ物と嗜好	食べ物のおいしさと調理、食嗜好の形成、味覚実験	味わうということについて調べる	味覚についてのレポートをまとめる
9	望ましい食物摂取と食生活	3色食品分類、6つの基礎食品、食事バランスガイド小テスト④	配布プリントを読む	小テストの復習をする
10		食品の重量と栄養計算、廃棄率小テスト⑤	配布プリントを読む	小テストの復習をする
11		ライフステージと食物摂取(母性、乳幼児期)、ベビーフードの試食	ベビーフードについて調べる	母性、乳幼児期の食物摂取の特徴をまとめる
12		ライフステージと食物摂取(学童期、思春期)	小・中学校の給食の献立を集めてくる	学童期、思春期の食物摂取の特徴をまとめる
13		ライフステージと食物摂取(成人期、老年期)、介護食の試食	介護職について調べる	成人期、老年期の食物摂取の特徴をまとめる
14		献立作成のポイント、献立作成	食事調査から自分の食生活の改善点を考える	献立作成を仕上げる
15	食生活と環境、これからの食育	安全と環境、食のリサイクル、これからの食育と食教育	これからの食生活について考える	今までのまとめと試験準備をする

教科書	必要に応じてプリントを配布	参考書資料	文部科学省：『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』(H20告示)、【中学校教科書】佐藤文子他：『新しい技術・家庭 家庭分野』東京書籍(最新版)日本フードコーディネーター協会編：『フードコーディネーター教本2016 3級資格 認定試験対応テキスト』柴田書店(2015)
-----	---------------	-------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の出席を原則とする、やむなく欠席した場合は連絡すること ・事前学習、事後学習に努める ・授業で学んだことを自分の食生活改善に生かす 	定期試験(60%) 受講態度(20%) 課題(20%)	食生活の意義や食文化、食品と栄養・健康の関連、望ましい食物摂取と食環境について、基本的事項を理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
食生活論Ⅱ	選択	家政	2年前学期	講義	2	えぎのぶこ 江木 伸子	単独	家政専攻科目 (FC)	特になし	13, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
食物が有する栄養、嗜好を学ぶことにより食事が果たす役割を学ぶ。食生活の歴史や文化、食習慣と現在の我が国の食生活の問題点を学び、健康な生活を送るために必要な食生活のありかたを理解する。						生活の中で食事が果たす役割が理解でき、より良い食生活を選択することができ、それを実践するための能力を身に付けることができるようにする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	食生活の変遷(1)	食生活の歴史と和食について	シラバスを読んでくる	プリントをまとめる
2	食生活の変遷(2)	食生活の変化	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
3	食生活の変遷(3)	食品消費の変化	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
4	食物について(1)	食物と栄養	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
5	食物について(2)	食材の知識：肉	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリントをまとめる
6	食物について(3)	食材の知識：魚介類	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリント問題を解く
7	食物について(4)	食材の知識：豆	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリントをまとめる
8	食物について(5)	食材の知識：野菜・きのこ・海草	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリントをまとめる
9	食物について(6)	食材の知識：乳・乳製品・卵	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリント問題を解く
10	食物について(7)	食材の知識：穀物	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリントをまとめる
11	食物について(8)	食材の知識：酒・ドリンク類・調味料・香辛料など	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリントをまとめる
12	食物について(9)	食材の知識：加工食品・機能性食品	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリント問題を解く
13	食生活と健康(1)	栄養素の働き	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
14	食生活と健康(2)	6つの基礎食品群・食事摂取基準	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
15	食生活と健康(3)	食生活と健康づくり・食事バランスガイド	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く

教科書	遠藤 金次他：『食生活論 改訂第2版』 南江堂（2003）	参考書 資料	日本フードコーディネーター協会編：『フードコーディネーター教本2017 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店（2016）
------------	-------------------------------	-------------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、私語や携帯操作を禁じる。 ・授業項目の終了毎に内容の要約と覚えるべき用語をプリントで提示し、これらの理解度を確認しながら授業を進める。定期試験は配布したプリントの中から出題するので紛失しないようにする。 ・授業の進捗によってはスケジュールを変更することがある。 	定期試験(50%)、ノート・プリントの整理(30%)、授業態度(20%)の総合評価。	積極的に授業に取り組み、我が国の食生活の変遷と変化がもたらした問題点の特徴を理解でき、バランスのよい食事、健康的な食生活が理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
調理学（家政）	卒業必修 教職必修	家政	1年 前学期	講義	2	ひらお かずこ 平尾 和子	単独 家政専攻科目 (FC)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教科に関する科目（中学校家庭）						食物学(栄養学・食品学及び調理実習を含む)			
授業の概要						授業の到達目標			
<p>家庭生活の中で、美味しく、栄養のある、安全な食事が調理できれば、家族の健康・幸福を得ることができ、本授業では科学的で効率の良い調理学実習を効果的に行うために、食品の調理性、調理操作、調味操作、調理器具・食器等についての理論を学ぶ。また、食文化を背景とした各国の食事様式、食事計画の基礎および新しい食品素材や環境への配慮についても、今後の生活で利用できるように説明する。</p>						<p>調理学の理論を学び、次のことを理解できるようにする。①調理学の目的である食品の栄養性、安全性および嗜好性を向上させる方法、②食品のおいしさを感じる要因、③各国の食文化および食事様式を背景とした食事計画の方法、④各食品の調理性、⑤調理操作、調味操作ならびに調理器具・食器等について、④食品の衛生的な取り扱いおよび保存法等、⑤新規食品の利用法、⑥環境への調理上の配慮。</p>			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	調理学の意義、調理と環境	調理学の意義・目的、エコロジックッキング	教科書p. 1～5、p. 179～190を読んで予習する。	食環境とエコロジー調理について整理する。
2	調理と嗜好性、調味操作	おいしさの要因・嗜好性の評価、調味操作	教科書p. 112～126を読んで予習する。	おいしさの要因・嗜好性および調味操作について、内容を整理する。
3	調理操作と調理器具	非加熱操作・加熱操作、新調理システム	教科書p. 127～149を読んで予習する。	調理操作、調理器具について整理する。
4	植物性食品の調理性	米、米粉	教科書p. 14～23を読んで予習する。	米・米粉の特性について整理する。
5		いも類	教科書p. 24～29を読んで予習する。	いも類の特性について整理する。
6		小麦粉、その他の穀類・雑穀	教科書p. 30～47を読んで予習する。	小麦粉、他の穀類・雑穀の特性について整理する。
7		豆・豆製品、野菜、果実	教科書p. 47～53を読んで予習する。	豆・豆製品、野菜、果実の特性について整理する。
8		種実類、きのこ、藻類、山菜	教科書p. 53～58を読んで予習する。	種実類、きのこ、藻類、山菜の特性の整理をする。
9		小テスト	テスト範囲の内容を復習する。	テストで解答できなかった内容を復習する。。
10	動物性食品の調理性	肉類	教科書p. 59～71を読んで予習する。	魚介類の特性について整理する。
11		魚介類	教科書p. 71～79を読んで予習する。	肉類の特性について整理する。
12		卵類、乳・乳製品	教科書p. 80～88を読んで予習する。	卵類、乳・乳製品の特性について整理する。
13	成分抽出素材の調理性	デンプン・ゼリー形成素材(寒天・カラギーナン他)	教科書p. 89～97を読んで予習する。	デンプン、ゲル化剤の特性について整理する。
14		砂糖、油脂、嗜好飲料、うま味調味料など	教科書p. 97～110を読んで予習する。	調味料、油脂、だし汁、混合調味料、嗜好飲料類について整理する。
15	食事計画、食文化と食生活	献立作成の条件・手順、日本と外国の食文化、行事食	教科書p. 8～13、p. 152～178を読んで予習する。	食事計画および日本の食事と歴史、外国の食事と歴史、行事食の要点について整理する。定期試験の準備をする。

教科書	長尾慶子編：『調理を学ぶ(改定版)』 八千代出版（2015） 日本フードコーディネーター協会編：『新版フードコーディネーター教本 2017 3級資格認定試験対応テキスト』 柴田書店（2016）	参考書資料	高橋節子、平尾和子編著：『新調理学実習・実験－基礎から応用まで－』 時事通信社（2016） 必要に応じてプリントを配布する。
------------	---	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 授業進行上、講義項目の順番を変更する場合がある。 授業中、私語や携帯電話の操作を禁じる。 	定期試験(45%)、小テスト(45%)、授業参加態度(10%)の総合評価。	食文化、食事計画、各食品の調理性、だし・調味料、調理操作、調味操作、設備、器具・食器および調理と環境等の基礎的な調理理論の概念が理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
調理学実習	選択 教職必修	家政	1年 後学期	実習	1	みつばし 三星	さおり 沙織	単独 家政専攻科目 (FC)	基礎調理学実習の履修が望ましい	6・7,16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
教職に関する科目（中学校家庭）						食物学（栄養学・食品学及び調理実習を含む）				
授業の概要						授業の到達目標				
理論に基づいた調理操作を科学的視野で学び、安全で衛生的に実習を行う。さまざまな調理素材、器具の特徴を理解し、素材の組み合わせや基本的な器具の扱い方を学ぶ。また伝統料理の意義や調理法を理解し、行事食の実習を行う。到達度を評価するため、テーマに応じた献立の立案および実習を行い、その内容をレポートにまとめる。						<ul style="list-style-type: none"> ・調理学で学んだ食品の調理性に関する理論を土台として基礎的な調理手法の要点を科学的に学び、調理操作と理論の結びつきが理解できるようになる。 ・様々な食材や調味材料の特徴、組み合わせ及び調理法を学び、適切な調理・調味操作ができるようになる。 ・日本・西洋・中国料理及び行事食の特徴を理解し、家庭調理における献立作成の基礎力が身に付くようになる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、計量、実習	オリエンテーション、計量、カップケーキ、マセドアンサラダ	シラバスを読んでくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
2	白飯、根菜の調理、煮魚(味噌煮)	白飯、けんちん汁、鯖の味噌煮	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
3	麺類(パスタの茹で方)、鶏ガラ出汁	スパゲティーミートソース、コンソメスープ、クッキー(生地づくり)	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
4	魚の調理(ムニエル)、ルウの調理①	コンソメジュリエヌ、鮭のムニエル、粉ふき芋、いんげんのソテー	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
5	味付け飯、つみれ、野菜の調理	キノコご飯、いわしのつみれ汁、青菜の胡麻和え、(栗の扱い方)	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
6	強飯、揚げ物調理、乾物の扱い方	赤飯、天ぷら(天つゆ)、大豆とひじきの煮物	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
7	寿司飯、卵の希釈、蒸し物調理	ちらし寿司、茶碗蒸し	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
8	炒め調理、小麦粉・乾物の調理	木樨炒飯、鍋貼餃子、干貝湯	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
9	煮込み調理、ルウの調理②	ポークシチュー、サラダ(ヴィネグレットソース)、ブラマンジェ	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
10	ひき肉の調理、ピラフ、大麦の調理	ハンバーグステーキ、バターライス、ダッチアップルケーキ	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
11	行事食、正月料理①	栗金団、錦蒲鉾、雑煮	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
12	行事食、正月料理②	田作り、伊達巻、紅白なます、煎鶏	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
13	いかの調理、酢の物、ゼラチンの調理	八宝菜、拌三絲、黒胡麻プディング	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
14	揚げ物調理、寒天の調理	春捲、桂花西紅柿湯(トマト入りかき玉スープ)、杏仁豆腐	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
15	自由献立・実習テスト	テーマに応じた自由献立の立案と実習、クッキー(焼成)	実習テストの内容を試作し、手順等を確認しておく。	テスト内容について指定した項目のレポートをまとめる。

教科書	高橋節子・平尾和子：『新調理学実習・実験—基礎から応用まで—』時事通信出版局（2013） 日本フードコーディネーター協会編：『フードコーディネーター教本2017 3級資格認定試験対応テキスト』柴田書店（2016）	参考書資料	参考書：長尾慶子編著：『調理を学ぶ』八千代出版（2009） 中学校技術・家庭科用文部省検定済教科書：開隆堂、東京書籍（平成27年検定済） 高橋幸資・山辺重雄編者：『新ポケット食品・調理実験辞典』幸書房（2016）
------------	---	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①材料発注の都合で授業の順番が変更になる場合がある。 ②授業開始前に身支度を整えて入室し、台の準備を行う。貴重品は責任をもって管理すること。 ③欠席が事前にわかる場合は欠席届を出し、当日欠席の場合は、電話で連絡する。 ④資料として、必要に応じてプリントを配布する。	ノート(60%)、実習テスト・レポート(30%)、受講態度(10%)の総合評価。	基本的な調理操作、器具の取り扱い、献立構成を理解して実習することができ、実習テストに参加し、指定した内容のノート・レポートを提出すれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
食品加工学実習	選択	家政	2年 後学期	実習	1	みつほし 三星	さおり 沙織	単独 家政専攻科目	特になし	6・7,9,12
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
前半は、食生活論Ⅰ・Ⅱ等で学んだ内容を基に、各食品中の成分や特徴を利用した食品の加工・保存等の実習を製造原理に基づき行う。製造した製品については市販品と比較して官能評価を行い、品質等を評価して考察する。 後半は、各自または各グループで一つの食品に焦点を絞り、販売を想定した製品開発に取り組む。開発は、計画・実施・評価・改善のPDCAサイクルを意識して進める。最終的に完成した製品についてプレゼンテーションを行う。						<ul style="list-style-type: none"> 各種食品の成分や特徴を理解して、食品の加工や保存ができるようになる。 本科目で取り上げた加工食品の製造原理が説明できるようになる。 これまでに学んだ食品に関する知識と技術を活用して製品を開発することができるようになる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、味噌の仕込み	授業の概要、シラバスの説明、味噌	シラバスを読んでもくる。味噌の製造原理と手順を確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
2	乳の加工(1)	ヨーグルト、カッテージチーズ、バター、乳酸飲料	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
3	果物の加工と保存(1)、びん詰	ジャム(びん詰)	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
4	穀類の加工(1)	パン	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
5	畜肉の加工	ソーセージ	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
6	豆類の加工(1)	納豆、豆腐、おからドーナツ	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
7	いも類の加工、種実類の加工	こんにゃく、ピーナッツクリーム	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
8	果物の加工と保存(2)、缶詰	果物のシラップ漬け(缶詰)、ピーナッツタフィ	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
9	穀類の加工(2)	うどん・中華めん	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
10	豆類の加工(2)	小豆あん、天草寒天	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
11	製品開発	調査、企画、製品コンセプトの決定、準備	開発したい製品について事前調査をしてくる。	企画内容、試作に必要なものをまとめ、提出する。
12		製品の試作、問題点の改善	試作手順について確認してくる。	試作を振り返り、問題点の改善法を考案して提出する。
13			試作手順について確認してくる。	試作を振り返り、問題点の改善法を考案して提出する。
14		レシピの決定、パッケージデザインの検討と決定	最終手順の確認とパッケージの事前調査をしてくる。	今回の開発について全体を振り返り、発表内容をまとめる。
15	成果発表(プレゼンテーション)	開発した製品についての成果発表	発表内容の確認と準備をしてくる。	他班の発表に対する感想とコメントをまとめて提出する。

教科書	谷口亜樹子編著：『食品加工学と実習・実験 第2版』 光生館 (2016)	参考書 資料	参考書：高橋幸資、山辺重雄編著：『新ポケット食品・調理実験辞典』 幸書房 (2016) 資料：必要に応じてプリントを配布する。
------------	--------------------------------------	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①材料発注の都合で授業の順番を変更する場合がある。 ②調理ができる身支度を整えて、名札をつけて入室すること。貴重品は各自で管理すること。 ③欠席が事前にわかる場合は欠席届を出し、当日欠席の場合は電話で連絡すること。	課題・レポート(60%)、成果発表(20%)、受講態度(20%)の総合評価。	食品の成分や特徴を理解して製造原理が説明できるとともに、適切な加工操作や保存操作を行うことができ、成果をまとめた発表を行って、全てのレポート・課題を提出すれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
食品衛生学(家政)	選択	家政	2年 後学期	講義	2	えぎ 江木	のぶこ 伸子	単独 家政専攻科目 (FC)	特になし	—
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要								授業の到達目標		
食品の安全性の現状と食品衛生の正しい知識を身ににつけ、日常における食の衛生管理を実行できるようにする。								食の外部化により、食の安全性は家庭で守る以外の要因も増えているのが現状である。食品の変質や微生物汚染の防止方法をはじめとして、食品添加物やアレルギーについて学ぶことにより食からの危険を防ぐ方法を理解できるようにする。		

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	食品の安全性	我が国の食品衛生の現状	シラバスを読んでくる	プリントをまとめる
2	食品の変質	油脂の酸化・調理による化学変化	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
3	食中毒について(1)	分類・発生状況	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
4	食中毒について(2)	細菌性食中毒・ウイルス性食中毒	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
5	食中毒について(3)	細菌性食中毒・ウイルス性食中毒	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリントをまとめる
6	食中毒について(4)	寄生虫	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリント問題を解く
7	食中毒について(5)	自然毒	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリントをまとめる
8	食中毒について(5)	化学毒	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリントをまとめる
9	食品汚染(1)	カビ・農薬・抗生剤・抗菌剤	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリント問題を解く
10	食品汚染(2)	放射線物質・ダイオキシン・有害金属・内分泌かく乱物質	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリントをまとめる
11	食品添加物(1)	食品添加物の目的	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリントをまとめる
12	食品添加物(2)	おもな食品添加物	該当する教科書と参考資料のページを読んでくる	プリント問題を解く
13	食品表示(1)	表示の読み方	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
14	食品表示(2)	輸入食品・遺伝子組み換え食品など	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
15	まとめ	演習	プリントを読んでくる	プリント問題を解く

教科書	植木幸英・野村秀一：NEXT『食品衛生学 第4版』 講談社 (2016)	参考書資料	日本フードコーディネーター協会編：『フードコーディネーター教本2017 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2016)
------------	--------------------------------------	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、私語や携帯操作を禁じる。 ・授業項目の終了毎に内容の要約と覚えるべき用語をプリントで提示し、これらの理解度を確認しながら授業を進める。定期試験は配布したプリントの中から出題するので紛失しないようにする。 ・授業の進捗によってはスケジュールを変更することがある。 	定期試験(50%)、ノート・プリントの整理(30%)、授業態度(20%)の総合評価	積極的に授業に取り組み、配布プリント中の演習問題と定期試験により理解していると判断できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
食文化論（家政）	卒業必修	家政	1年 後学期	講義	2	たけうち 竹内	ゆきこ 由紀子	単独 家政専攻科目 (FC)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
人類が積み上げ、作り上げてきた現代の食文化。その意味・意義を理解するためには、食文化の歴史、地域によって異なる食文化の違いと気候風土、伝統などとの深い結びつきについての理解を深めていく必要がある。この科目では、食文化の歴史、地域による食文化の多様性について多面的に学び、当たり前のように思われる現代日本の食文化を相対化できるような視点を育む。						食文化についての基礎的な知識を身に付け、食文化の伝承に寄与できるようになる。食文化の知識を実生活に活用し、食生活を豊かにすることができるようになる。また、その現代日本の食文化の課題・問題について、自分なりの考えを示せるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	はじめに	食文化論で学ぶ内容の概説	「食文化」とは何か、自分なりの考えをまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
2	人類文化としての食文化	人類が発展させてきた食料獲得法の歴史を概観する	大雑把に世界地図を頭に入れておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
3	日本食文化の歴史(1)	先史～古代の食文化を学ぶ	高校日本史の教科書で縄文～平安時代までを確認して、どのような時代だったか理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
4	日本食文化の歴史(2)	中世の食文化を学ぶ	高校日本史の教科書で鎌倉・室町時代までを確認して、どのような時代だったか理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
5	日本食文化の歴史(3)	近世の食文化を学ぶ	高校日本史の教科書で江戸時代がどのような時代だったかを確認し、理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
6	日本食文化の歴史(4)	近現代の食文化を学ぶ(日本における西洋料理も含む)	高校日本史の教科書で明治時代～現代までにどのような変遷があったかを確認し、理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
7	日本の伝統文化と食	日本料理を理解する上で必要な伝統文化（暦・年中行事など）を学ぶ	自分の知っている行事食を挙げてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
8	和菓子の歴史	和菓子の歴史について学ぶ	自分の知っている和菓子にはどのようなものがあるか挙げてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
9	中国食文化の歴史	中国食文化の歴史を学ぶ	高校世界史の教科書で中国の歴史を確認し、理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
10	中国料理の特徴	中国料理の特徴、各地域の料理の特徴などを学ぶ	自分の知っている中国料理についてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
11	ヨーロッパ食文化の歴史	ヨーロッパの食文化史を学ぶ（パンの歴史を含む）	高校世界史の教科書でヨーロッパの歴史を確認し、理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
12	西洋料理の特徴	西洋料理の特徴を学ぶ	自分の知っている西洋料理についてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
13	洋菓子の歴史	洋菓子の歴史を学ぶ	自分の知っている洋菓子にはどのようなものがあるか挙げてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
14	世界各地の食文化	世界各地の食文化を学ぶ	自分の知っているエスニック料理にはどのようなものがあるか挙げてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
15	まとめ	本科目において学んだことを概観し、確認する	授業で取り上げた話題についての質問等を考えて整理しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。

教科書	日本フードコーディネーター協会編：『フードコーディネーター教本2017：3級資格認定試験対応テキスト』柴田書店（2016）	参考書資料	授業時に指示する。
------------	---	--------------	-----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 私語厳禁。 携帯電話使用厳禁。 授業内に小レポート・小テスト等を実施する。 	受講態度・取組み姿勢(10%) 授業中の小レポート(10%) 定期試験(80%)	授業に積極的に取り組み、課題を提出し、食文化について基本的な用語、考え方、大まかな歴史の流れが理解できていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
家庭経営学	卒業必修 教職必修	家政	2年 前学期	講義	2	しんやま 新山 みつ枝	単独 家政専攻科目	特になし	3, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教科に関する科目(中学校家庭)						家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)			
授業の概要						授業の到達目標			
人間の生活の営みを家族・経済・消費の側面から講義する。生活の諸課題の解決方法について、グループや全体で話し合い、理解を深める。まとめとしてグループで生活設計の立案・発表を行った後、各自で自分のライフプランの作成をおこなう。						<ul style="list-style-type: none"> ・家庭経営に関する専門知識を身につける ・家族、子ども、高齢者、衣食住生活、生活プランなどに関する課題について主体的に考える事ができるようになる ・自分のライフプランを作成することができる 			

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	家庭経営の考え方	家庭経営学の内容、「生活」のとらえ方	シラバスをよく読む	生活についてのとらえ方をまとめる
2	家族の変化	家族の機能と役割、ライフスタイルの変化	教科書P5～P14を読む	自分のライフスタイルについて考える
3	生活時間	生活時間の意味、生活時間調査	教科書P15～P20を読む	生活時間調査を実施し報告書①を書く
4		ワーク・ライフ・バランス	教科書P20～P21を読む	自分のワークライフバランスについて考える
5		ライフコースの考え方、ライフキャリアレインボーから考える人生	教科書P21～P28を読む	自分の理想とするライフコースについて考える
6	高齢者の生活	人口の高齢化と高齢者の生活実態	教科書P29～P37を読む	高齢者の生活実態についてまとめる
7		高齢者の生活福祉と社会参加	教科書P37～P42を読む	高齢者の福祉についてまとめる
8	現代の結婚	配偶者選択・結婚、伴侶性の形成	身近な人に結婚についてのインタビューをしてくる	自分の生活設計の中で結婚についてまとめる
9		夫婦関係の破たん、これからの結婚・離婚	教科書P50～P57を読む	結婚について報告書②をまとめる
10	子どもと家族	子どもと家族の現状、育児における課題	最近の育児についての課題をニュースなどから集める	発表された子育てについての現代的課題をまとめる
11		子育て世帯の家計、日本の子どもの現在と未来	教科書P59～P71を読む	子育てにかかる費用について報告書③をまとめる
12	衣食住の課題	衣生活と健康・日本の住宅事情	教科書P129～P131、P167～P171を読む	衣生活・住生活の課題についてまとめる
13		食生活の現状と課題	教科書P148～P151を読む	食生活の課題についてまとめる
14	生活プラン	それぞれの家族シチュエーションによる生活設計の立案・発表	配布プリントを読む	発表のまとめをする
15		自分のライフプランの作成	配布プリントを読む	自分のライフプランを完成させる

教科書	赤星礼子・奥村美代子編：『新版 生活経営学』九州大学出版会（2013）	参考書資料	授業時に配布する
-----	-------------------------------------	-------	----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の出席を基本とする。 ・積極的に授業に取り組み、学習したことが必ず自分の身につくように努力する。 ・事前学習と事後学習に努める。 	受講態度(20%) 提出物(30%) ライフプランの作成(50%)	積極的に取り組み、示された課題を十分に仕上げ提出し、家庭経営学について基本的事項の理解が確認できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
家庭経済学	卒業選択 教職必修	家政	2年 前学期	講義	2	わたなべじゆん 渡辺 淳 しんやま 新山 みつ枝	オム ニバ ス	家政専攻科目	なし	3, 12, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
教科に関する科目(中学校家庭)						家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)				
授業の概要								授業の到達目標		
DVD、ビデオ等を使用しつつ、少子高齢社会における家庭経済の学習を進める。テキストは、事例の豊富なものを使用するとともに、タイムリーなトピックをDVD等で紹介していく。消費者としての身を守るよう学習を進めるうちに、より広い社会の変化を理解するとともに、加害者としての消費者にはならぬよう精神の涵養に努める。家庭経済学とともに履修すると効果的である。東京都消費社会総合センターへの見学を含む。								1. 暮らしと関係の深い経済現象について基本的な理解をするとともに、変わりつつある社会における人生の中で遭遇する家庭の経済的課題に対する対処の仕方を理解することができるようになる。 2. 私たちが日々行なっている「消費」について多面的に検討し、賢く責任感ある消費者になるための必須事項を習得することができる。		

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当	事前学習	事後学習
1	国民経済における家庭経済	家庭経済の役割、消費行動決定の要因、家計と企業のつながり	渡辺	シラバスの該当ページを読む	課題プリントの演習
2		就業と賃金、職業選択、ライフステージ、収入、消費、貯蓄	渡辺	配布されえたプリントを読む	課題プリントの演習
3	税と社会保障	税の分類、社会保障制度と財政負担・人口構造	渡辺	配布されえたプリントを読む	課題プリントの演習
4	長期資産管理	生涯収入(専業主婦・パート・キャリア)、資産形成	渡辺	配布されえたプリントを読む	課題プリントの演習
5	子育て費用	子育て費用	渡辺	配布されえたプリントを読む	課題プリントの演習
6	住宅費用	住宅取得に関連する要因	渡辺	配布されえたプリントを読む	課題プリントの演習
7	消費者問題の基礎知識	消費者問題とは何か、歴史と現状、消費者行政、企業の消費者対応	渡辺	テキストの指定されたページを読む	課題プリントの演習
8		契約、無店舗販売、悪質商法、クーリング・オフ、特殊詐欺	渡辺	テキストの指定されたページを読む	課題プリントの演習
9	商品の安全性、広告・表示	電気・ガス用品・自動車等の安全性、様々なマーク(1)	渡辺	テキストの指定されたページを読む	課題プリントの演習
10	消費者信用	月賦販売、クレジットカード、多重債務	新山	テキストの指定されたページを読む	課題プリントの演習
11	消費者の責任	消費者運動、フェアトレード	新山	テキストの指定されたページを読む	課題プリントの演習
12	環境問題	地球温暖化、水質汚染、大気汚染、様々なマーク(2)	渡辺	テキストの指定されたページを読む	課題プリントの演習
13		循環型社会、電力需要、スローライフ、環境問題とビジネス	渡辺	テキストの指定されたページを読む	課題プリントの演習
14	これからの消費者教育	これからの消費者教育	渡辺	配布されたプリントを読む	課題プリントの演習
15	これからの環境教育	これからの環境教育	渡辺	配布されたプリントを読む	課題プリントの演習

教科書	吉田良子編、藤井昭子、山田幸子、好光陽子著：『消費者問題入門』建帛社(最新版)	参考書 資料	(社)日本家政学家庭経済学部会関東地区会 編：『少子高齢社会と生活経済』建帛社(最新版)江見康一・伊藤秋子 編：『テキストブック家庭経済学』有斐閣(最新版)
-----	---	-----------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
遅刻厳禁 私語は禁止	取組み姿勢 (30%) 提出物・小テスト (40%) 定期試験レポート (30%)	積極的に取り組み、提出課題を十分に仕上げ提出し、小テストにおいて、家庭経済について、基本的事項の理解が確認されれば合格。積極的に取り組み、提出課題を十分に仕上げ提出し、小テストにおいて、消費生活に関する諸問題に関して、基本的事項の理解が確認されれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
介護・医療の生活経済	選択	家政	2年 後学期	講義	2	わたなべ 渡辺 淳	単独	家政専攻科目	なし（ただし家庭経済学を履修しておくことが望ましい）	—
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
各種文献、ホームページからの資料等を利用し、生活経済においてますます比重を増す介護・医療に関して、現状と対策を学習する。また、生活者としての理解に加えて、今後に求められる方向性を含め、考え話し合える力を身につけていく。						介護及び医療に関連した生活経済の諸問題について、基本的事項を習得し、変化する状況の中で、生活者として、適切なする方法は何か、考え、話し合い、行動するための土台を身につけることができる。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	イントロダクション	家庭経済における介護と医療	シラバスの該当ページを読む	課題プリントの演習
2	生活経済におけるリスク	生活経済におけるリスク	配布されたプリントを読む	課題プリントの演習
3			配布されたプリントを読む	課題プリントの演習
4	介護の生活経済	公的介護保険・民間介護保険	配布されたプリントを読む	課題プリントの演習
5		労働と介護	配布されたプリントを読む	課題プリントの演習
6		在宅介護と諸費用	配布されたプリントを読む	課題プリントの演習
7		高齢者施設の利用と諸費用	配布されたプリントを読む	課題プリントの演習
8			配布されたプリントを読む	課題プリントの演習
9	医療の生活経済	健康と費用	指定されたテキストのページを読む	課題プリントの演習
10		生活経済・国民経済と医療費	指定されたテキストのページを読む	課題プリントの演習
11		公的医療保険と生命保険	指定されたテキストのページを読む	課題プリントの演習
12		先進医療・混合診療	指定されたテキストのページを読む	課題プリントの演習
13		がん保険・三大疾病保険	指定されたテキストのページを読む	課題プリントの演習
14		医薬品の費用、ジェネリック医薬品	配布されたプリントを読む	課題プリントの演習
15	これからの介護・医療の生活経済	今後の見通しと対策	配布されたプリントを読む	課題プリントの演習

教科書	なし（プリントを配布する）	参考書 資料	藤井泰輔：『あなたの生命保険は払い過ぎ！』 かんき出版（最新版）
-----	---------------	-----------	----------------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 積極的な発言が期待される。 遅刻厳禁。 私語は禁止。 予習すべき内容を授業ごとに指示す 	取り組み姿勢 (30%) 提出物 (70%)	積極的に取り組み、提出課題を十分に仕上げ提出し、介護及び医療の生活経済の問題について基本的事項の理解が確認できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
社会福祉概論（家政）	卒業必修	家政	1年前学期	講義	2	なかの 中野	みやこ 都	単独 家政専攻科目 (社主事)	特になし	15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
生活するとはどういうことなのか、生活する上で社会福祉はどのように関与しているのかについて基本的な考え方・理念を学ぶとともに、具体的な援助活動の特性を理解する。社会福祉サービスの多様化・専門化が進んでいる現代社会では、保健・医療・福祉・介護等の関係専門職との連携・協働が必要であることを理解し、社会福祉に携わる専門職種について学ぶ。						社会福祉の基本的な知識を得た上で、生活の視点で履修生一人ひとりが社会福祉について自分との関係を考えることを目標とする。一社会人として社会保障について理解するとともに、社会福祉サービスの多様性・専門性と保健・医療・福祉・介護の分野との連携の重要性について理解できるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	社会福祉とは	社会福祉の理念	シラバスを讀んでくる。	社会福祉の理念について復習する。
2		社会福祉の歴史	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
3	社会福祉制度	子どもの福祉	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
4		障がい者の福祉	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
5		高齢者の福祉	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
6		貧困と福祉、生活保護制度	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
7	社会保障とは	社会保障の概念	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
8		日本の社会保障制度	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
9		江戸川年金事務所出前講座	年金保険制度について見直しておく。	レポート作成する。
10	地域福祉の推進	地域福祉の推進主体と諸活動	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
11	社会福祉の課題と動向	日本の動向	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
12		世界の動向	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
13	保健・医療・福祉・介護等の連携	社会福祉人材の倫理と専門性	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
14		連携のかたち	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
15		社会福祉サービスの実際	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容が生活の場面でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。

教科書	松本峰雄、小野澤昇編著：『はじめて学ぶ社会福祉 第二版』 建帛社（2016）	参考書資料	厚生労働省：『厚生労働白書』（最新版） 社会福祉法規研究会：『社会福祉六法』 新日本法規出版（最新版）
------------	--	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 講義を受けるだけでなく、新聞、テレビなど社会福祉に関する記事やニュースに常に興味をもつこと。 授業中の携帯電話の使用及び私語は禁止する。 	定期試験(60%) 受講態度(30%) 授業内レポート(10%)	授業内で取り扱った社会福祉に関する基礎的事項について理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
ユニバーサルデザイン概論 (ユニバーサルデザインと装い)	選択	家政	2年 後学期	講義	2	はた 畑	くみこ 久美子	単独 家政専攻科目	特になし	7, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
ユニバーサルデザインの発祥と変遷、意義、考え方、原則などを学び、現代社会における必要性を知る。自治体や企業におけるユニバーサルデザインの取り組みや事例などを知り、利用者と提供者の両面から考え、意見を出し合う。多様な状態の利用者を知り、疑似体験によって理解を深める。ユニバーサルデザインコーディネーターの仕事について、事例をもとに理解する。身近な生活におけるユニバーサルデザインの必要性について、演習を行うことで理解と関心を深め、多様な利用者の利便性を考える。						<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの意義、考え方、原則など、概要を知り、現代社会における必要性を理解できるようになる。 生活と関連付け、取り組みや事例などを知り、問題意識を持って生活を送ることができるようになる。 理論を修得し、それを応用できる力をつけ、ユニバーサルデザインコーディネーター3級合格を目指す。 				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	ユニバーサルデザインの理解	ユニバーサルデザインとは何か、バリアフリーとの違い	次回の授業内容は教科書で予習しておく。 日常生活の中でユニバーサルデザインに関心を持つ。	授業で行った内容を復習する。
2		ユニバーサルデザインの7原則	次回の授業内容は教科書で予習しておく。 日常生活の中でユニバーサルデザインに関心を持つ。	授業で行った内容を復習する。
3		事例研究、街頭調査	次回の授業内容は教科書で予習しておく。 日常生活の中でユニバーサルデザインに関心を持つ。	授業で行った内容を復習する。
4	生活とユニバーサルデザイン	利用者の理解と疑似体験	次回の授業内容は教科書で予習しておく。 日常生活の中でユニバーサルデザインに関心を持つ。	授業で行った内容を復習する。
5		カラーユニバーサルデザイン、視認性	次回の授業内容は教科書で予習しておく。 日常生活の中でユニバーサルデザインに関心を持つ。	授業で行った内容を復習する。
6		環境への配慮	次回の授業内容は教科書で予習しておく。 日常生活の中でユニバーサルデザインに関心を持つ。	授業で行った内容を復習する。
7		衣のユニバーサルデザイン	次回の授業内容は教科書で予習しておく。 日常生活の中でユニバーサルデザインに関心を持つ。	授業で行った内容を復習する。
8	ユニバーサルデザインコーディネーター	ユニバーサルデザインコーディネーターとは	次回の授業内容は教科書で予習しておく。 日常生活の中でユニバーサルデザインに関心を持つ。	授業で行った内容を復習する。
9		ユニバーサルデザインコーディネーターの仕事と実際	次回の授業内容は教科書で予習しておく。 日常生活の中でユニバーサルデザインに関心を持つ。	授業で行った内容を復習する。
10	ユニバーサルデザインの発想	生活調査と課題の発見	次の作業の準備をしておく。	作業に遅れが生じた場合は時間外に進めておく。
11		企画	次の作業の準備をしておく。	作業に遅れが生じた場合は時間外に進めておく。
12		表現	次の作業の準備をしておく。	作業に遅れが生じた場合は時間外に進めておく。
13		発表	次の作業の準備をしておく。	作業に遅れが生じた場合は時間外に進めておく。
14	まとめ	模擬テスト	これまでに学んだことを復習しておく。	模擬試験を振り返り、検定試験に備える。
15		模擬テスト解説、理論のまとめとユニバーサルデザインの今後	これまでに学んだことを復習しておく。	模擬試験を振り返り、検定試験に備える。

教科書	宮入賢一郎・実利用者研究機構 著『トコトンやさしいユニバーサルデザインの本 第2版』日刊工業新聞社 (2014)	参考書資料	適宜プリントを配布する
------------	--	--------------	-------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
私語、携帯電話使用、忘れ物厳禁。他の学生の迷惑になる行為をした場合は退出を求めることがある。	模擬テスト (40%) 演習課題 (40%) 受講態度 (20%)	授業に意欲的に取り組み、ユニバーサルデザインコーディネーター3級合格と同等の知識を取得し、応用力を身に付け演習課題を完成させて提出。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
介護食実習	選択	家政	2年 後学期	実習	1	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独 家政専攻科目	特になし	6・7,8,9,15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
咀嚼機能や嚥下機能が低下した高齢者や障がい者の方は、食形態を調整しないと上手に食べる事ができない。本授業では、高齢者や障がい者の身体的、精神的特徴を理解し、それらに適した調理の基本技術をマスターするため、歯茎でつぶせる硬さのものからゼリー状の形状のものまで様々な形状のものを実習し、高齢者・障がい者に適した食事作りの実習を行う。実習毎に介護食としての調理の工夫についてまとめる。						<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障がい者の身体的、精神的特徴について理解できるようになる。 ・高齢者・障がい者をもつ方のための安全で美味しい食事作りの基本知識と技術を身に付けることができるようになる。 			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス、調理学実習基礎1	ガイダンス、実習の目的、心得、実習の基礎（計量、包丁の持ち方、出汁のとり方）、市販品の試食	シラバスについて読んでくる。	計量、包丁の持ち方、出汁のとり方について復習する。
2	調理学実習基礎2	塩味の比較、野菜の切り方、介護食に適した魚の料理法	配布された資料について読んでくる。	野菜の切り方について復習する。
3	高齢者の普通食の基本料理法1	栗のポターージュ、ふわふわオムライス、柿	配布されたレシピについて読んでくる。	高齢者の心理の変化と調理の工夫について復習する。
4	高齢者の普通食の基本料理法2	ミネストローネ、スパゲティ、りんごのコンポート	配布されたレシピについて読んでくる。	高齢者の身体の変化と調理の工夫について復習する。
5	高齢者の普通食の基本料理法3	蟹のふわふわご飯、鱈のツルツル蒸し、ヨーグルトゼリーの人参ソースかけ	配布されたレシピについて読んでくる。	高齢差とのコミュニケーションと調理の工夫について復習する。
6	高齢者の軟菜食の基本料理法4	粥、オクラのとりみ汁、豆腐饅頭、野菜ジュースゼリー	配布されたレシピについて読んでくる。	高齢者の食への支援と調理の工夫について復習する。
7	高齢者の軟菜食の基本料理法5	かつ丼、れんこんのすり流し汁、三色なます	配布されたレシピについて読んでくる。	嚥下しやすくする工夫と調理の工夫について復習する。
8	高齢者の軟菜食の基本料理法6	パン、クリームコーンの簡単ポターージュ、海老白菜ロール、ポテトサラダ	配布されたレシピについて読んでくる。	咀嚼しやすくする工夫と調理の工夫について復習する。
9	行事食：年越しそば	とろろそば、天ぷら、アンパン入り豆乳シェイク	配布されたレシピについて読んでくる。	食べやすい野菜の切り方、下ごしらえと調理の工夫について復習する。
10	行事食：お正月料理	お雑煮、松風焼き風、ゆずきんとん	配布されたレシピについて読んでくる。	調理法で食べやすくする工夫について復習する。
11	行事食：クリスマス料理（立案）	クリスマス料理の立案と試作	クリスマス料理の献立とレシピについて考えてくる。	立案した献立について修正をする。
12	行事食：クリスマス料理（テスト）	クリスマス料理実習テスト	作成する料理の手順について見直してくる。	実習テストのレポートを作成する。
13	予防食：減塩食	粥、根菜汁、焼売、かぼちゃ羊羹	配布されたレシピについて読んでくる。	減塩食と調理の工夫について復習する。
14	予防食：便秘予防食	ひじきご飯、納豆汁、おからの煮物、オクラの和え物	配布されたレシピについて読んでくる。	便秘予防食と調理の工夫について復習する。
15	ムース食	粥、味噌汁、焼き鮭、ほうれん草のおひたし	配布されたレシピについて読んでくる。	食事介助と調理の工夫について復習する、

教科書	プリントを配布する	参考書資料	必要に応じてプリントを配布する
-----	-----------	-------	-----------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容と順番を変更する場合がある。 ・貴重品は身に付け、責任をもって管理する。 ・欠席が事前にわかる場合は、事前に連絡をする。また、当日欠席する場合は電話連絡をする。 ・授業中の携帯電話操作を禁ずる。 	授業態度(60%) 実技試験(30%) 授業後提出シート(10%)	高齢者や障がい者の方の特徴と介護食の工夫について把握し、積極的に実習に取り組み、実技試験に合格できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
福祉住環境コーディネーター概論	選択	家政	2年前学期	講義	2	やまむら 山村	みほり 美保里	単独 家政専攻科目	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
福祉住環境コーディネーター3級に必要な知識全般を基礎から学ぶ。						福祉住環境コーディネーターは、高齢者や障がい者の生活全体を配慮した住環境を提案できる技能を有するものである。そのために必要な福祉、医療、建築の基礎知識とサービスや制度についての必要事項を習得し、日常生活において活用できるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	暮らしやすい住環境をめざして	少子高齢社会と共生社会への道	シラバスを読んでおく	授業方針を確認する
2		福祉住環境整備の重要性と必要性	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
3		在宅生活の維持とケアサービス	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
4	健康と自立をめざして	高齢者の健康と自立	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
5		障がい者の生活と自立	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザイン	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
7		共用品と福祉用具	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
8	安全・安心・快適な住まい	屋内の段差解消	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
9		インテリア	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
10		玄関から屋外	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
11	住生活とまちづくり	ライフスタイルの多様化	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
12		住環境整備	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
13		人にやさしいまちづくり	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
14	理解度の確認	理解度の確認	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する
15	実例の検証	バリアフリー整備された実例について検討する	教科書の該当箇所を読んでおく	授業内容を復習する

教科書	東京商工会議所編：『福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト』東京商工会議所(最新版)	参考書資料	なし
-----	--	-------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
携帯電話の操作、私語等の授業進行の妨げとなる行為を慎み、授業環境を良好に保つことを心掛けること。	受講態度 (30%) 小テスト (60%) 提出物 (10%)	福祉に配慮した住宅に関する基礎内容について、理解度の確認のテストで基準点以上得点できれば合格、

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
医療事務	選択	家政	1年前学期	講義	4	ないとうまき 内藤 麻紀	単独	家政専攻科目	技能認定振興協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とし、全15回の授業に参加する者（遅刻・欠席・早退不可）	—
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
医療保険制度を基礎から学習し、専門職としての知識を身につける。主に勉強することは、医療機関が診療行為を請求する際に作成するレセプト（請求のための用紙）の書き方と請求費用の計算方法についてである。書き方と計算方法は「注射」「手術」「検査」など医療行為によって異なるため、行為ごとに学ぶ。						病院等の医療機関で事務員として働くために必要な知識を身につけ、技能認定振興協会の主催する「医療事務管理士技能認定試験」に合格できるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	医療制度と請求業務	各項目に関する診療報酬の算定方法とレセプトの書き方について学ぶ	医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
2	点数算定の原則・診察料(1)		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
3	診察料(2)・医学管理(1)		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
4	医学管理(2)・在宅医療		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
5	投薬(1)		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
6	投薬(2)・注射		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
7	処置(1)		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
8	処置(2)・リハビリテーション・検査(1)		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
9	検査(2)		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
10	病理診断・手術(1)		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
11	手術(2)		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
12	麻酔・画像診断(1)		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
13	画像診断(2)・精神科専門療法・放射線治療		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
14	入院		医療事務に関する用語を調べておく。	復習には十分な時間をかけ、疑問点については、必ず次の授業までに確認すること。
15	他制度・レセプトの点検		レセプトの点検方法	医療事務に関する用語を調べておく。

教科書	株式会社ソラスト作成 医療事務講座テキスト一式	参考書資料	なし
-----	-------------------------	-------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業で新しいことを学ぶため、各授業での内容を理解した上で次の授業に臨むこと。 教材を使い、各自、授業内容の理解に努めること。 毎回、レポートを課すので、次回の授業までに作成すること。 資格試験に合格することを目標とするため、全15回の参加を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 14回分のレポート提出と添削内容(50%) 受講態度(25%) 定期試験(25%) 	レセプト作成に関する技術を持ち、正確な点数算定ができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
基礎調理学実習	選択	共通	1年前学期	実習	1	みつほし 三星	さおり 沙織	家政専攻科目 食物栄養専攻科目	家庭科教職課程履修者は履修が望ましい	6・7,9,16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
各自が家庭で調理を実践できるよう日常の献立を取り上げ、基本的な調理素材・調理器具の取扱い方ならびに調理および調味操作について実習する。各料理様式別の調理について系統的に実習し、また調理学で学ぶ各種食品の調理性に関する理論を反映させた実習を行う。実習テストは、グループ実習テストとして課題献立の調理を行い、自由献立として各自が「お弁当」をテーマに、中身(主食・主菜・副菜)の企画立案から実習までを行う。また、毎回の実習前に各自が個々の目標を決めて取り組み、実習後に振り返りを行って反省点を次の授業に活かすことを意識して進める。						<ul style="list-style-type: none"> 各料理様式別の特徴や献立構成、素材の組み合わせを学び、日常の献立が組むことができるようになる。 食品素材、調理器具の特徴や基本的な取り扱い方、ならびに調理および調味操作を修得し、家庭で自分一人で調理を実践できるようになる。 各種食品の調理性および基礎的調理・調味手法を科学的に学び、調理理論を実習で実践できるようにする。 				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、清掃	オリエンテーション、基礎技能確認、ロールパンサンド	シラバスを読んでくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
2	日本料理(1)肉の調理、煮干出汁	豚の生姜焼き、味噌汁(基礎技能確認)	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
3	日本料理(2)魚の調理、混合出汁	白飯、鰯の塩焼き、胡瓜の酢の物、合わせ味噌汁	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
4	日本料理(3)卵の調理、野菜の調理	親子丼、青菜のお浸し、潮汁	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
5	日本料理(4)すし飯、かつお出汁	信田巻、海苔巻、かきたま汁	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
6	日本料理(5)魚の調理、乾物の調理	白飯、煮魚、高野豆腐の味噌汁、即席香の物	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
7	西洋料理(1)包み焼き・野菜の調理	鮭のホイル焼き、コールスロー、タピオカ入りコンソメスープ	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
8	西洋料理(2)煮込料理、ゼラチンの調理	ホワイトシチュー、トマトサラダ、コーヒーゼリー	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
9	西洋料理(3)麺類・野菜・卵の調理	トマトソーススパゲティ、フルーツサラダ、カスタードプディング	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
10	西洋料理(4)冷凍食品の調理・野菜の調理	シーフードグラタン、温野菜サラダ、ブルスケッタ	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
11	西洋料理(5)揚げ物調理	鶏の唐揚げ、ミモザサラダ、ヨーグルトゼリー	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
12	中国料理(1)炒菜、湯菜、寒天の調理	青椒牛肉絲、酸辣湯、牛乳かん	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
13	中国料理(2)炒菜、湯菜、米粉の調理	麻婆豆腐、玉米湯、白玉団子のココナツミルクぜんざい	該当する内容の調理手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容の調理ノートをまとめる。
14	課題・自由献立(実習テスト)	課題献立(グループ実習テスト)・基礎技能確認②	実践可能な環境に配慮した調理について考えてくる。	テスト内容について指定した項目のレポートをまとめる。
15		各自で自分の弁当を作る(飯に合う主菜、副菜2品)	実習テストの内容を試作し、手順等を確認しておく。	テスト内容について指定した項目のレポートをまとめる。

教科書	高橋節子・平尾和子：『新調理学実習・実験—基礎から応用まで—』時事通信出版局(2013) 高橋幸資・山辺重雄編者：『新ポケット食品・調理実験辞典』幸書房(2016)	参考書資料	参考書：中学校技術・家庭科用文部省検定済教科書：開隆堂、東京書籍(平成27年検定済) 資料：必要に応じてプリントを配布する
------------	---	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①材料発注の都合で授業の順番が変更になる場合がある。 ②授業開始前に身支度を整えて入室し、台の準備を行う。貴重品は責任をもって管理すること。 ③欠席が事前にかかる場合は欠席届を出し、当日欠席の場合は、電話で連絡する。	ノート・提出物(60%)、実習テスト・レポート(30%)、受講態度等(10%)の総合評価。実習テストは、実習に必ず参加し、レポートを提出した場合に成績を評価する。	調理理論に基づいて、食品素材、調理および調味操作、調理器具等の基本知識を理解して調理を行うことができ、実習テストに参加してレポートを提出し、指定の項目を満たした全ての回のノートを提出すれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
フードコーディネーター 実習	選択	共通	2年 後学期	実習	1	のせ 能勢 みさこ 美佐子	単独 家政専攻科 (FC) 食物栄養専攻科 (FC)	特になし	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
テーブルコーディネーターに必要な食器の知識や具体的なコーディネートスタイル、またサービスに必要な知識やマナーについて学ぶ。						フードコーディネーターとして必要な食空間とコーディネート、さらにはサービスとマナーについて、実践的知識と技術を身につけられるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	コーディネーターの世界とは	コーディネーターの実際の仕事についての講義	シラバスを読んでおく	授業の復習
2	「おいしい」とは何か	「おいしさ」と「食空間」のありかたについて	次回授業の予習	授業の復習
3	テーブルコーディネーターとは	テーブルコーディネーターとはどういうものかについて	次回授業の予習	授業の復習
4	「カラー」とは	色のもつ意味について	次回授業の予習	授業の復習
5	コーディネーターとは	コーディネーターの約束事やアイテムについて	次回授業の予習	授業の復習
6	コーディネータースタイルとは	様々なスタイルについて	次回授業の予習	授業の復習
7		コーディネーターに必要なアイテムについて	次回授業の予習	授業の復習
8	食卓の記憶	コーディネーターのプランニングについて(1)	次回授業の予習	授業の復習
9		コーディネーターのプランニングについて(2)	次回授業の予習	授業の復習
10	テーブルマナーとは	テーブルマナーの大切さについて	次回授業の予習	授業の復習
11	サービスとは	サービスに必要な基本知識について	次回授業の予習	授業の復習
12	食の世界を知る(1)	実際にテイasting等を行い、レポートを作成(1)	次回授業の予習	授業の復習
13	食の世界を知る(2)	実際にテイasting等を行い、レポートを作成(2)	次回授業の予習	授業の復習
14	プレゼンテーション	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	授業の復習
15	プレゼンテーション	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備	授業の復習

教科書	日本フードコーディネーター協会編： 『フードコーディネーター教本2016 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2015)	参考書 資料	日本フードコーディネーター協会編： 『フードコーディネーター教本2017 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2016)
------------	--	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
私語厳禁 携帯電話の操作厳禁	プレゼンテーション(60%) 授業時提出物等(レポート含)(20%) 授業態度(10%)	授業に積極的に取り組み、課題等を提出し、コーディネーターやサービス、マナーについての知識を身につけられるようになれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
フードデザイン・マネジメント論	選択	共通	1年 後学期	講義	2	のせ 能勢	みさこ 美佐子	家政専攻科 (FC) 食物栄養専攻科 (FC)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
フードサービスビジネスに必要な食空間のデザインやマネジメントの基本を講義し、空間プランニングやマネージメント実務を学習する。						経営的立場に立って、フードサービス事業の立ち上げから運営までをマネジメントできるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	フードマネジメントの世界とは	マネジメントとはどういうことかについて	シラバスを読んでおく	授業の復習
2	フードサービスビジネスにおける食空間	食空間の役割について	次回授業の予習	授業の復習
3	プランニングから開店まで	フードサービスビジネスのプランニングについて(1)	次回授業の予習	授業の復習
4		フードサービスビジネスのプランニングについて(2)	次回授業の予習	授業の復習
5		フードサービスビジネスのプランニングについて(3)	次回授業の予習	授業の復習
6	フードサービス産業の歴史	フードサービスの歴史について	次回授業の予習	授業の復習
7	経営の基礎知識	経営の基礎知識について(1)	次回授業の予習	授業の復習
8		経営の基礎知識について(2)	次回授業の予習	授業の復習
9	業態開発	業態開発とは何かについて	次回授業の予習	授業の復習
10	出店戦略	出店時に必要な戦略について	次回授業の予習	授業の復習
11	事業計画書の作成	事業計画書について	次回授業の予習	授業の復習
12	開店業務	開店時に必要な業務について(1)	次回授業の予習	授業の復習
13		開店時に必要な業務について(2)	次回授業の予習	授業の復習
14	販売促進	販売促進について	次回授業の予習	授業の復習
15	総まとめ	総まとめ	今までの授業の分からない部分をまとめておく	授業の復習

教科書	日本フードコーディネーター協会編： 『フードコーディネーター教本2017 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2016)	参考書 資料	なし
------------	--	-------------------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
私語厳禁 携帯電話の操作厳禁	定期試験(70%) 小テスト(20%) 授業態度(10%)	授業態度が良く、フードマネジメントについて理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
フードプランニング論	選択	共通	1年 後学期	講義	2	のせみさこの 能勢美佐子	単独 家政専攻科 (FC) 食物栄養専攻科 (FC)	特になし	6・7, 11, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
フードプランニングに必要な基本的な流れと、企画を実践するために必要不可欠なスキルについて講義し、最後は各人が実際に企画書を作成してプレゼンテーションを行う。						フードコーディネーターとして必要なプランニングの基本的な知識を学び、企画書の作成とプレゼンテーションができるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	プランニングの世界とは	プランニングの実際の仕事内容紹介	シラバスを読んでおく	授業の復習
2	メニュープランニングとトレンド	メニュープランニングの流れとトレンドの読み方について	次回授業の予習	授業の復習
3	食品流通とメニューづくり	食品流通とメニューづくりについて	次回授業の予習	授業の復習
4	メニュープランニングの事例	プランニング事例の紹介	次回授業の予習	授業の復習
5	食の企画と流れ	食に関する企画事例と流れについて	次回授業の予習	授業の復習
6		プランニングシート作成(1)	次回授業の予習	授業の復習
7		プランニングシート作成(2)	次回授業の予習	授業の復習
8	企画・立案のコツ	企画・立案のポイントについて(1)	次回授業の予習	授業の復習
9		企画・立案のポイントについて(2)	次回授業の予習	授業の復習
10	企画書に必要な項目	具体的な企画書作成のポイントについて(1)	次回授業の予習	授業の復習
11		具体的な企画書作成のポイントについて(2)	次回授業の予習	授業の復習
12	プランニング実習	プランニングシートを使い実際に行う(1)	今までの授業の復習をする	授業の復習
13		プランニングシートを使い実際に行う(2)	今までの授業の復習をする	授業の復習
14		プランニングシートを使い実際に行う(3)	今までの授業の復習をする	授業の復習
15		プランニングシートを使い実際に行う(4)	今までの授業の復習をする	授業の復習

教科書	日本フードコーディネーター協会編： 『フードコーディネーター教本2017 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店 (2016)	参考書 資料	なし
-----	--	-----------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
私語厳禁 携帯電話の操作厳禁	期末レポート(50%) 授業時提出物(レポート含)(40%) 授業態度(10%)	授業態度が良く、フードプランニングについて理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
家族関係学	(家政)卒業必修 (食栄)選 択 教職必修 択	共通	1年 後学期	講義	2	たけうち 竹内	ゆきこ 由紀子	単独 家政専攻科目 食物栄養専攻科目	特になし	11, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
教科に関する科目 (中学校家庭)						家庭経営学 (家族関係学及び家庭経済学を含む)				
授業の概要						授業の到達目標				
はじめに、家族の通時的・共時的研究を紹介し、人類の家族の普遍性と多様性を学び、現代人がもっている「家族」概念の再検討を行う。現代家族をめぐるさまざまな側面を理解するために、心理学的な側面から家族の傾向性を学ぶ。学んだことを踏まえて、家族の現代的な問題を紹介してそれをもとに学生同士で議論して理解を深めていく。						現代日本の家族は、現代社会の変化に応じて大きく変化している。家族の機能や役割も変化し、そうした中で家族が抱える問題も社会問題として注目を集めている。こうした家族の問題を捉えるために、家族についての基本的な概念が理解できるようになる。また、現代家族が抱える諸問題について関心を持ち、自分なりの考えを表明できるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	はじめに	自分の家族を振り返る	自分の家族についての考え方をまとめておく。	授業で学んだことを復習しておく。
2	家族の起源、家族の文化	家族の起源・文化による家族の意味の相違を学ぶ	人間にとって「家族」とは何かを考え、まとめておく。	授業で学んだことを復習しておく。
3	家族の歴史	日本における家族の歴史をたどる	高校日本史の教科書で日本の歴史を確認しておく。	授業で学んだことを復習しておく。
4	「近代家族」の歴史	現代人の持つ家族イメージが歴史的に作られたものであることを知る	時代によって「家族」が違ってくるのはなぜか自分なりに考えてまとめておく。	授業で学んだことを復習しておく。
5	「近代家族」の終焉	「近代家族」の理想が崩壊した社会的背景を学ぶ	どのような「家族」が理想と考えるか、自分の考えをまとめておく。	授業で学んだことを復習しておく。
6	現代家族の多様化	現代において家族が多様化している実態を学ぶ	最近の報道から「家族」に関するものを探して持参する。	授業で学んだことを復習しておく。
7	結婚と家族	結婚の意味の変化から家族を考える	「結婚」とは何か、自分の考えをまとめておく。	授業で学んだことを復習しておく。
8	夫婦のコミュニケーション	夫婦間のコミュニケーションを考える	どのような「夫婦」が理想と考えるか、自分の考えをまとめておく。	授業で学んだことを復習しておく。
9	離婚・再婚	離婚・再婚と家族について学ぶ	離婚や再婚についての自分の考えをまとめておく。	授業で学んだことを復習しておく。
10	家計と夫婦	家計と夫婦の関係を考える	家計はどう運営すべきかを考えてまとめておく。	授業で学んだことを復習しておく。
11	育児期の家族	育児期の家族の実態を学ぶ	最近の報道から「育児」に関するものを探して持参する。	授業で学んだことを復習しておく。
12	父親の役割	家族における父親・父親の育児参加について考える	男性の子育て参加について、自分の考えをまとめておく。	授業で学んだことを復習しておく。
13	親子の関係	成長後の子どもと親との関係について学ぶ	自分の体験に基づいて、子どもの成長と親との関係について考察してまとめておく。	授業で学んだことを復習しておく。
14	家族の問題を越えて	DV・児童虐待・機能不全家族等、現代家族の問題を考える	最近の報道からDV・児童虐待等に関するものを探して持参する。	授業で学んだことを復習しておく。
15	まとめ	本科目において学んだことを概観し、確認する	授業で取り上げた話題についての質問等を考えて整理しておく。	授業で学んだことを復習しておく。

教科書	なし (プリントを配布する)	参考書 資 料	授業中に紹介する
-----	----------------	------------	----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。 ・携帯電話使用厳禁。 ・授業の中で随時、意見を述べてもらう。 ・授業終了時には毎回、小レポートをおこなう。 	受講態度・取組み姿勢 (小レポート・授業中の発言・質問) (20%) 定期試験 (80%)	積極的な発言・質問ができ、講義の内容を踏まえた意見が書け、家族についての基本的な用語や概念、重要なトピックについて理解できていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
妊娠と出産の科学	選択	共通	2年前学期	講義	2	いわくら こうき 岩倉 弘毅	単独	家政専攻科目 食物栄養専攻科目	特になし	—
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要								授業の到達目標		
①主として口頭による講義、筆記による説明を行う。 ②ビデオを用い出産の様子を供覧する。 ③各種プリントを用いる。 ④妊産婦用の参考パンフレットを用いる。								女性のライフサイクルを理解し、その中で、妊娠・出産に関する生理および病理の知識を習得し、将来の自分自身にあてはめて考えられるようになる。		

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	女性のライフサイクルについて	女性の一生涯における体の変化	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
2	思春期の諸問題	思春期の生理、月経の発来、性感染症、性教育	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
3	妊娠の症状と診断	妊娠の成立、診断の方法	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
4	正常妊娠の経過	胎児の発育、妊婦健診の流れ	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
5	異常妊娠（初期）	妊娠初期に起こり易い異常（薬物、感染による）	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
6	異常妊娠（中期・後期）	妊娠中後期に起こり易い異常（高血圧症、糖尿病など）	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
7	出産の定義と経過	経膈分娩の経過、分娩の三要素	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
8	出産への取り組み	経膈分娩の経過（ビデオ、無痛分娩）	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
9	異常出産(1) 母体の異常	母体合併症、ハイリスク妊娠	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
10	異常出産(2) 胎児の異常	胎位、多胎、奇形児など	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
11	異常出産(3) 急速遂娩	帝王切開、吸引分娩、鉗子分娩	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
12	産褥の生理	産褥期母体の変化	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
13	新生児の生理	新生児の管理、授乳など	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
14	母児保健の主な統計	人口動態、妊産婦死亡、周産期死亡、合計特殊出生率など	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。
15	関係法規について	母子保健法、労働基準法、母体保護法など	妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。	授業で習ったことを復習する。妊娠・出産に関する専門書、新聞、TVなどの報道に関心をもつ。

教科書	特になし	参考書 資料	今関節子他：『新看護学－母子看護』 医学書院（最新版） 母子保健事業団：『母子保健の主なる統計』（最新版）
-----	------	-----------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法
・私語厳禁 ・携帯電話操作厳禁 ・遅刻厳禁	受講態度(30%)、定期試験(70%)の総合評価。 妊娠の成立と胎児発育及び経膈分娩の経過を理解することが出来れば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
保育学	(家政)卒業必修 教職必修 (食栄)選 択	共通	1年 後学期	講義	2	かわかみ よしこ 川上 美子	単独 家政専攻(社主事) 食物栄養専攻	特になし	6・7, 11, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教科に関する科目(中学校家庭)						保育学(実習を含む)			
授業の概要						授業の到達目標			
保育の意義と方法、家庭環境、発達の過程、遊びの意義、保育施設等について学習する。保育実習やDVDを教材にして、実際に生きて動く子どもの実態からも授業を展開する。学生は授業で学んだことや課題について毎回レポートを作成し、教員は添削指導し、次の授業で重要な事柄を確認しさらに理解を深める。						保育とは、乳幼児の養護と教育という二つの意味をもっている。 ・出生から入学前の乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期であることができるようになる。 ・子どもの育ちを支える適切な態度、子ども理解、家族のあり方、保育環境について考えることができるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	保育とは何か	命の大切さ、子どもという存在	シラバスを読む。授業で何を学びたいか考えておく。	自分の誕生時の話を聞く。
2		育つこと、育てること、子ども時代のエピソード	子どもの時楽しかったこと 厭だったことを思い出す	保育を学ぶ意義を確認する。
3	子どもの心身の発達	子どもの発達の特性	教科書の該当するところを読んでおく。	生理的早産と養育について復習する。
4		子どもの発達過程	教科書の該当するところを読んでおく。	子どもの精神発達について復習する。
5	子どもを育てる	愛着と信頼感の形成、コミュニケーションの始まり	教科書の該当するところを読んでおく。	授業内容を復習し、理解をする。
6	子どもの生活と遊び	子どもの生活習慣の形成、食生活	自分の家庭の教育で大切にされていたことを考える。	教科書を読んで復習する。
7		遊びの意義	子どもの時の遊びについて考えてくる。	遊びの現状を教科書を読んで復習する。
8		j児童文化財(おもちゃ、テレビ、絵本)	絵本を1冊推薦し、持参する。	教科書の該当するところ読んで復習する。
9	子ども理解のための実習	乳児保育の基本	保育園の役割について調べる。	乳児保育の基本を確認し習得する。
10		実習のためのオリエンテーション、子どもの発達の実際	保育実習の心構えについて考えてくる。	保育実習の意味を確認する。
11		実習 ①子どもと生活や遊びを共にする ②保育の実際を知る	実習の準備や心構えを確認する。	実習の記録用紙に記入する。
12			実習経験から学ぶ	実習記録を仕上げる。
13	これからの社会と保育の課題	児童福祉、子育て支援	子どもや保育に関する新聞記事を持参する。	新聞記事について考えを深める。
15		子どもが健やかに生まれ、育つための環境作り、保育の心	保育にまつわる現代の課題を考える。	保育に関し、広い視野で自分の考えを深める。

教科書	岡野雅子他著：『新保育学改訂5版』南山堂(2014)	参考書資料	適宜プリントを配布
-----	----------------------------	-------	-----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 健康管理に気を付け、欠席や遅刻をしない。欠席が多いと実習ができないこともある。 意欲的に授業に取り組む。 子どもに関心を持ち、子どもと接する機会をもつよう努力してほしい。 新聞、テレビなど保育に関わる記事やニュースに関心をもってほしい。 	受講態度(20%)、保育実習(10%)、授業内レポート(20%)、定期試験(50%)の総合評価	保育実習や定期試験により、保育の意義と方法、子どもの発達や遊びと保育施設や制度についての理解が確認できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
介護概論	(家政)卒業必修 (食米)選択	共通	2年前学期	講義	2	なかの 中野	みやこ 都	家政専攻科目(社主事) 食物栄養専攻科目(社主事)	特になし	15, 17
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
高齢化の急速な伸びと同時に、寝たきりや認知症といった要介護者の増加が顕著となっている現代社会においては、介護を社会的に支援する必要がある。高齢者の身体的特性及び心理を学び、介護の役割と範囲を理解し、看護・医療及び家政との関係を具体的な展開過程を活用して考える。						講義で学ぶ理論と老人保健施設におけるふれあい体験活動の実践を通して得られたことを活かし、「介護」とは何かについて述べるができるようになる。また、日常生活において支援が必要な高齢者に対して積極的な援助活動ができるよう介護に対して理解を深め、行動できることを目標とする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	介護の概念	介護の理念と定義	シラバスを讀んでくる。	介護の理念と定義について復習する。
2		介護の対象	教科書の該当箇所を讀んでくる。	介護の対象について復習する。
3	高齢者の全体像	高齢者の身体的特性	教科書の該当箇所を讀んでくる。	高齢者の身体的特性について復習する。
4		高齢者の心理的特性	教科書の該当箇所を讀んでくる。	高齢者の心理的特性について復習する。
5	高齢者の全体像生活実態の把握	生活(衣食住)と介護	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。
6		介護の社会化	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。
7		介護保険制度	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。
8		介護の実態と課題	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。
9		寝たきり高齢者の生活実態	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。
10		認知症高齢者の生活実態	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。
11	介護を支える技術	生活行為を成立させるための技術	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。
12		家事機能を維持拡大する生活技術	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。
13	介護の過程	ケアマネジメントの必要性	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。
14	施設における介護	老人保健施設におけるふれあい体験	老人保健施設の概要を把握しておく。	施設見学レポートを作成する。
15	在宅における介護	在宅援助の基本 福祉住環境整備の重要性	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容を実際の介護の場でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。

教科書	澤田信子、西村洋子編著：『新・社会福祉士養成テキストブック 介護概論』 ミネルヴァ書房 (最新版)	参考書資料	適宜資料を配布
------------	---	--------------	---------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者介護に関する新聞記事やニュースに常に興味をもち、介護に対する意識を高め、資料収集する。 授業中は携帯電話の使用及び私語は禁止する。 	定期試験(50%) 受講態度(30%) 授業内レポート(20%)	介護の概念及び高齢者の生活実態の基本的事項について理解ができ、施設における介護を体験し、レポートが提出されれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
社会福祉概論（食栄）	選択	食栄	2年 後学期	講義	2	なかの 中野	みやこ 都	食物栄養専攻科目 （社主事） （栄養士）	特になし	15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
生活するとはどういうことなのか、生活する上で社会福祉はどのように関与しているのかについて基本的な考え方・理念を学ぶとともに、具体的な援助活動の特性を理解する。社会福祉サービスの多様化・専門化が進んでいる現代社会では、保健・医療・福祉・介護等の関係専門職との連携・協働が必要であることを理解し、社会福祉に携わる専門職としての栄養士のあり方を考える。						社会福祉の基本的な知識を得た上で、保健・医療・福祉・介護の分野との関連性、連携の実際について理解することを目標とする。生活の視点で社会福祉について履修生一人ひとりが自分なりの考えを持ち、一社会人として社会保障について理解するとともに、社会福祉専門職としての栄養士の使命、倫理について考えることができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	社会福祉とは	社会福祉の理念	シラバスを讀んでくる。	社会福祉の理念について復習する。
2		社会福祉の歴史	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
3	社会福祉制度	生活保護	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
4		児童福祉	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
5		障がい者福祉	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
6		老人保健福祉	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
7		介護保険制度の概要	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
8	社会保障とは	社会保障の概念	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
9		日本の社会保障制度	年金保険制度について見直しておく。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
10		江戸川年金事務所出前講座	年金保険制度について見直しておく。	レポート作成する。
11	地域福祉の推進	地域福祉の推進主体と諸活動	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
12	社会福祉の課題と動向	日本の動向、世界的動向	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
13	保健・医療・福祉・介護等の連携	社会福祉人材の倫理と専門性	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
14		社会福祉サービスの事例	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
15		社会福祉サービスと栄養教育・指導	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容が生活の場面でどのように活かせるかを考えながら、復習を行う。

教科書	宇山勝儀、森長秀編：『三訂 社会福祉概論』 光生館（最新版）	参考書 資料	厚生労働省：『厚生労働白書』（最新版） 社会福祉法規研究会：『社会福祉六法』 新日本法規出版（最新版）
------------	--------------------------------	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 講義を受けるだけでなく、新聞、テレビなど社会福祉に関係する記事やニュースに常に興味をもつこと。 授業中の携帯電話の使用及び飲食、私語は禁止する。 	定期試験(60%) 受講態度(30%) 授業内レポート(10%)	授業内で取り扱った社会福祉に関する基礎的事項について理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
解剖生理学 I	選択	食栄	1年前学期	講義	2	ふるたに 古谷	あきこ 彰子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
解剖生理学 I は、解剖学と生理学を統合し、人体の構造と機能を学ぶ学問である。人体の精密な構造を理解して、いかに人体との調和のある一連の機能を営んでいるかを解明するためには、栄養学と医学的な科目の習得を必要とする。本講義では、総論、骨、筋肉、中枢神経、末梢神経について講義する。						1. 細胞の細微構造を挙げ、その機能が説明できるようになる。 2. 組織の種類を挙げ、それぞれの特徴や働きが説明できるようになる。 3. 全身の骨の名前と働きが説明できるようになる。 4. 全身の主な筋肉の名前と働きが説明できるようになる。 5. 中枢神経の構造と働きが説明できるようになる。 6. 末梢神経の構造と働きが説明できるようになる。 7. 感覚器の構造と働きが説明できるようになる。 8. 呼吸器の構造と働きが説明できるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス、解剖生理学総論	人体の解剖的表現の基本的語彙	シラバスを讀んでくる	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
2	細胞の構造と機能	細胞、組織、器官、血液、体液	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
3	種々の組織	上皮組織、骨組織、その他組織	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
4	骨格	骨格総論、各論	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
5	筋肉	筋肉総論、各論	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
6	血液	血液の働き	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
7	中枢神経①	神経系の分類、構造、機能に基づく分類	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
8	中枢神経②	脳、脳神経	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
9	脊椎神経	脊髄の構造と機能	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
10	自律神経①	交感神経、副交感神経	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
11	自律神経②	自律神経の働き	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
12	感覚器①	視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
13	呼吸器①	呼吸器の構造	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
14	呼吸器②	呼吸器の機能	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
15	解剖生理学 I 総括	全講義の復習	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る

教科書	志村二三夫、岡純、山田和彦編：『解剖生理学 人体の構造と機能』 羊土社（2014年）	参考書資料	志村二三夫、岡純、山田和彦編：『解剖生理学ノート 人体の構造と機能』 羊土社（2014年）
------------	--	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
・私語厳禁	定期試験(70%)、授業態度(30%)の総合評価。 定期試験の一部は栄養士実力認定試験に準ずる内容とする。	解剖生理学総論、骨、筋肉、中枢神経、末梢神経について学ぶことができたなら合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
解剖生理学Ⅱ	選択	食栄	1年 後学期	講義	2	ふるたに 古谷	あきこ 彰子	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
解剖生理学Ⅱは解剖生理学Ⅰを基礎とし、解剖学と生理学を統合して人体の構造と機能を学ぶ。人体の精密な構造を理解して、いかに人体との調和のある一連の機能を営んでいるかを解明するためには、栄養学と医学的な科目の習得を必要とする。本講義では、総論、循環器、消化器、呼吸器、泌尿生殖器、内分泌器、血液について講義する。						1. 心臓の各部の名称や主要な動脈の名称が言えるようになる。 2. 心臓の機能や循環器の働きが説明できるようになる。 3. 腎臓の構造や働きが説明できるようになる。 4. ホルモンの分泌器官や働きが説明できるようになる。 5. 生殖器の構造や働きが説明できるようになる。 6. 消化の仕組みが説明できるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス、睡眠	睡眠の構造と機能	シラバスを讀んでくる	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
2	循環器①	総論、心臓、体循環・肺循環	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
3	循環器②	動脈・静脈、リンパ系	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
4	泌尿器	総論、腎臓、尿管、膀胱、尿道	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
5	内分泌器①	松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、副腎皮質、副腎髄質、ランゲルハンス島	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
6	内分泌器②	男性生殖器、女性生殖器	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
7	内分泌器③	卵巣、精巣	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
8	代謝	エネルギー代謝	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
9	体温	熱の発生と体温	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
10	消化器①	肝臓、胆のう、腹膜	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
11	消化器②	消化、吸収	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
12	免疫①	抗体	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
13	免疫②	血液型	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
14	免疫③	免疫力を用いた治療法	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
15	解剖生理学Ⅱの総括	全講義の復習	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る

教科書	志村二三夫、岡純、山田和彦編：『解剖生理学 人体の構造と機能』 羊土社（2014年）	参考書資料	志村二三夫、岡純、山田和彦編：『解剖生理学ノート 人体の構造と機能』 羊土社（2014年）
------------	--	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
・私語厳禁	定期試験(70%)、授業態度(30%)の総合評価。 定期試験の一部は栄養士実力認定試験に準ずる内容とする。	解剖生理学総論、循環器、消化器、呼吸器、泌尿生殖器、内分泌器、血液、免疫について学ぶことが出来たら合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
解剖生理学実験	選択	食栄	2年前学期	実験	1	ふるたに 古谷	あきこ 彰子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士)	解剖生理学Ⅰ・Ⅱの履修者	5, 9, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
講義において、人体の精密な構造を理解して、いかに人体との調和のある一連の機能を営んでいるかを学んだ。本実験を通してより深く、人体の持つ緻密な仕組みを知り、理解できるようにする。自分の体に興味を持ち、見つめなおす機会を設けたい。レポートは学生が理解できるまで再提出させ、確実に理解させる。						解剖生理学Ⅰ、Ⅱで学習した生体内での各器官の機能的役割 実験で取り扱った項目の手順・内容の詳細を理解し、説明および解剖学的な知識を実験を通して、解剖学および生理学をより深く理解することができるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	グループ分け、実験準備、片付けなどについて	シラバスを讀んでくる	レポート作成により、学習内容を定着させる。
2	神経	カフェインの効果	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
3	細胞と組織①	組織標本のスケッチ作製・観察	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
4	細胞と組織②	組織標本の作製、観察	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
5	身体観察、計測	体表面積、基礎代謝量、生体インピーダンス法による体脂肪測定	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
6	泌尿器	尿検査と諸条件による変化を実験	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
7	循環①	心電図・血圧測定	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
8	循環②	心電図・血圧測定	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
9	循環③	血糖値測定	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
10	呼吸	各種条件下における呼吸検査	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
11	感覚①	各自感覚器についての実験	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
12	感覚②	各自感覚器についての実験	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
13	感覚③	各自感覚器についての実験	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。
14	授業の総括	授業の復習	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	授業の復習により、学習内容を定着させる。
15	レポート評価	レポート総括・評価	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する。	レポート作成により、学習内容を定着させる。

教科書	プリント配布	参考書資料	志村二三夫、岡純、山田和彦編：『解剖生理学 人体の構造と機能』 羊土社（2014年）
------------	--------	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
・私語厳禁	レポート(60%)、授業態度(40%)の総合評価。	解剖学的な知識を実験を通して、解剖学および生理学をより深く理解することが出来、レポートが提出できたら合格。実験の上手下手ではなく、実験への熱心な参加状況とレポートの提出状況を評価基準とする。レポートは、結果に対して自分自身でしっかりと考えられているかを評価する。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
生化学	卒業必修	食栄	1年 後学期	講義	2	えぎ 江木	のぶこ 伸子	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
タンパク質、糖質、脂質の代謝、生体エネルギーの生成、体成分の生成について学ぶ。またこれらに関係する酵素、ビタミンの作用を学ぶ。さらに遺伝子、ホルモン、免疫にかかわる器官と機能について学ぶ。						食品に含まれる栄養成分が体の中でどのように利用されるのか、体を構成する細胞の仕組みを学ぶことにより理解できるようになる。また、体の内部環境の維持、生体防御の仕組み、遺伝情報の発現・保存のメカニズムを理解できるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	人体の構造と代謝の概要(1)	細胞と器官	シラバスを読んでくる	プリントをまとめる
2	人体の構造と代謝の概要(2)	生体成分と食品成分の代謝、生体エネルギー	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
3	糖質の構造と代謝(1)	糖質の構造	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
4	糖質の構造と代謝(2)	エネルギー生成、エネルギーを生成しない代謝、血糖値の調節	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
5	脂質の構造と代謝(2)	脂質の構造	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
6	脂質の構造と代謝(2)	エネルギー生成と貯蔵、不飽和脂肪酸、コレステロールの合成	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
7	タンパク質の構造と代謝(1)	タンパク質の構造	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
8	タンパク質の構造と代謝(2)	体タンパク質の合成と分解、特殊生成物への変換	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
9	タンパク質の構造と代謝(3)	酵素の構造と機能	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
10	ビタミンの作用	代謝への関わり、過剰および欠乏	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
11	まとめ	1～10の確認	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題復習
12	核酸、遺伝子の構造と代謝(1)	DNAの構造と機能	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
13	核酸、遺伝子の構造と代謝(2)	RNAの構造と機能	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
14	恒常性の機能と調節機構	ホルモンの分類と作用機構	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
15	生体防御機構	免疫、アレルギー	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く、プリント問題総復習

教科書	小野廣紀ら：『はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ 生化学』 化学同人 (2011)	参考書 資料	適宜プリントで配布
------------	--	-------------------	-----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、私語や携帯操作を禁じる。 ・授業項目の終了毎に内容の要約と覚えるべき用語をプリントで提示し、これらの理解度を確認しながら授業を進める。定期試験は配布したプリントの中から出題するので紛失しないように整理する。 ・授業の進捗によってはスケジュールを変更することがある。 	定期試験(70%)、授業態度(30%)の総合評価。授業態度には配布プリントの整理と演習問題への取り組みを含む。	積極的に授業に取り組み、栄養素代謝、生体エネルギー、生体成分の生成が理解でき、酵素、遺伝、ホルモン、アレルギーの基本事項が分かれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
生化学実験	卒業必修	食栄	2年後学期	実験	1	えぎ 江木	のぶこ 伸子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士)	生化学履修者	5, 9, 15.
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
食物中の三大栄養素の生体内での働きや性質を実験を通して深く学ぶ。また、生体の機能についての理解を深めるため、生体内で営まれる代謝の一つである酵素反応について実験をおこなう。						タンパク質、脂質、糖質の構造や種類、性質と代謝により起こる変化を学ぶことにより、これら栄養素の生体内での機能についての理解を深める。酵素を使った実験の手法を理解できるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	授業の概要の説明	実験の概要と授業の進め方、機器と器具の使い方	シラバスを読んでくる	プリントをまとめる
2	体細胞観察	顕微鏡による細胞標本の観察	該当するプリントのページを読んでくる	プリントをまとめる
3	糖質と酵素	糖質の種類と定性試験	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
4		酸によるでんぷんの分解と還元糖の生成	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
5		アミラーゼによるでんぷんの分解と還元糖の生成	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
6	油脂と酵素	油脂の種類と脂肪酸の分析	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
7		油脂のケン化	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
8		リパーゼによる油脂の分解と脂肪酸の生成	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
9	タンパク質と酵素	タンパク質の種類とアミノ酸の定性試験	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
10		トリプシンによるタンパク質の分解とアミノ酸・ペプチドの生成	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
11		トリプシンの作用	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
12		ペプシンの作用	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
13	酵素反応速度	基質濃度の影響	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
14		ミカエリス定数の求め方	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを書く
15	まとめ	実験結果について考察・総括	全レポートを確認する	プリント、レポートをまとめる

教科書	プリントで配布	参考書資料	小野廣紀ら：『はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ 生化学』 化学同人 (2011)
------------	---------	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・白衣を着用し、長い髪はまとめる。実験の説明中は私語を禁じる。グループ内で協力して実験する。 ・配布物はなくさないように整理する。レポートはためないで、項目毎に速やかに提出すること。 ・授業の進歩によってはスケジュールを変更することがある。 	レポート(70%)、授業態度、取り組み姿勢(30%)の総合評価。	積極的に授業に取り組み、タンパク質、脂質、糖質の酵素処理と講義により学習したこれら栄養素の代謝についての内容が理解できてレポートが提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
運動生理学	選択	食栄	1年後学期	講義	2	かんの 菅野	こうし 公司	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士)	特になし	—
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
エネルギーの摂取と放出に生体がどのように関与し、その効果を上げるための理論と実践について講義する。						健康を維持・増進させるためには、栄養と運動が大切である。エネルギーの摂取と放出に生体がどのように関与しているかを理解することを目標とする。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	序論	運動生理学とは	教科書の当日講義予定の部分（10ページ程度）を読ん で来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
2	健康、体力づくりの意義と運動の効用	健康・体力とは、健康と体力づくりの3本柱	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
3		運動に関する健康増進政策の変遷、運動不足の悪影響、運動と QOL	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
4		健康・体力と身体諸機能および生体内代謝との関係	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
5	運動・トレーニングと身体の応用	運動、トレーニングによる 身体諸機能の変化①（神経・感覚 器）	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
6		運動、トレーニングによる 身体諸機能の変化②（骨格・筋肉）	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
7		運動、トレーニングによる 身体諸機能の変化③（呼吸・循環 器）	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
8		運動、トレーニングによる 身体諸機能の変化④（内分泌・消化 器・泌尿器）	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
9		運動、トレーニングによる 身体諸機能の変化⑤（体温調節機 能・免疫）	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
10	トレーニングと生体内代謝	運動、トレーニングによる 生体内代謝の変化①（エネルギー）	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
11		運動、トレーニングによる 生体内代謝の変化②（三大栄養素と ビタミン・無機質）	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
12	トレーニングと食生活総論	トレーニングの基本的な考え方	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
13	トレーニングと食生活各論	食生活の基本的な考え方、成長期のトレーニングと食生活	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
14		成人期のトレーニングと食生活、高齢者のトレーニングと食生活	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。
15		競技者のトレーニングと食生活、有疾患者のトレーニングと食生活	配付プリント及び教科書の当日講義予定の部分（10 ページ程度）を読んで来ること。	その回の講義で特に重要と指摘された項目、言葉に ついて再確認すること。

教科書	高松薫、山田哲雄編：『Nブックス 改訂 運動生理・栄養学』 建帛社（最新版）	参考書 資料	プリントを配布する。
------------	--	-------------------	------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、居眠り、私語の禁止。 予習をしてくること。 質問は歓迎。 	定期試験(80%) 受講態度(20%)	生体各臓器の重要な生理機能を知り、運動と栄養が健康にどのよう に関与しているかを理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
食品学 I	卒業必修	食栄	1年前学期	講義	2	えぎ 江木	のぶこ 伸子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士、FS、FC)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
食品中に含まれる成分の特性や機能、食品成分による味、香り、色などの嗜好や品質などのかかわりを学ぶ。さらに調理、加工、保存中におこる食品成分の変化やそれに伴い起こる嗜好成分に変化や物性の変化についても学ぶ。食品がもつ栄養性、嗜好性、機能性について学ぶ。						食品にはどのような成分が含まれているのか理解できるようになる。食品に含まれる成分が調理・加工の工程や保存中にどのように変化するか理解できるようになる。食品が有する栄養成分、嗜好性、機能性について理解できるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	食品とは	食品の機能と成分	シラバスを読んでくる	プリントをまとめる
2	食品の成分：水(1)	食品中の水の状態、水の機能	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
3	食品の成分：タンパク質(2)	アミノ酸、ペプチド、タンパク質の構造と種類、	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
4	食品の成分：タンパク質(3)	酵素、タンパク質の変化、(2)～(3)まとめ	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
5	食品の成分：糖質(4)	単糖類、少糖類、多糖類	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
6	食品の成分：糖質(5)	機能性、糖質の変化、(4)～(5)まとめ	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
7	食品の成分：脂質(6)	脂肪酸、油脂、複合脂質、不ケン化物	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
8	食品の成分：脂質(7)	油脂の酸化、(7)～(8)まとめ	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
9	食品の成分：ビタミン(8)	ビタミンの種類と機能	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
10	食品の成分：無機質、その他(9)	無機質の種類と機能、核酸について、(8)～(9)まとめ	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
11	食品中の嗜好成分と有害成分	味・香り・色の成分、有害物質	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
12	食品成分の化学変化	食品成分間の相互作用、酵素作用	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
13	食品の物性	コロイド、レオロジー、テクスチャー	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
14	食品の栄養成分と機能性	食品成分表の目的と利用、機能性表示食品について	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
15	まとめ	主要項目の復習	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く、プリント問題総復習

教科書	森田潤司他著：『食べ物と健康① 食品学総論（第3版）』 化学同人（2016）	参考書資料	香川 明夫（監修）：『七訂食品成分表2017』 女子栄養大学出版部（2017）
------------	--	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、私語や携帯操作を禁じる。 ・授業項目の終了毎に内容の要約と覚えるべき項目をプリントで提示し、これらの理解度を確認しながら授業を進める。定期試験は配布したプリントの中から出題するので紛失しないように整理する。 ・授業の進捗によってはスケジュールを変更することがある。 	定期試験(70%)、授業態度(30%)の総合評価。授業態度には配布プリントの整理と演習問題への取り組みを含む。	積極的に授業に取り組み、食品成分の性質や調理・加工・保存中の変化が理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
食品学Ⅱ (食品加工学を含む)	必修	食栄	1年 後学期	講義	2	みつほし 三星	さおり 沙織	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士、FS、FC)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
食生活を支える食品の数は非常に多く、日本食品標準成分表2015年版(七訂)追補2016年に記載されているだけでも2222品目と膨大である。食品中の成分や性質について学んだ食品学Ⅰを基に、各食品の素材としての特徴や栄養・健康機能に関わる成分および加工方法の原理などについて学習する。						<ul style="list-style-type: none"> 食品の分類と種類および各種食品の特徴が説明できるようになる。 各種食品の特性や加工利用例を知って食品への関心を高め、食生活に活用することができるようになる。 食品の加工・保存の目的および意義を理解し、各種加工方法や製造原理が説明できるようになる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	食品の分類、表示と規格	シラバス説明、食品の分類、食品の表示と規格制度	シラバスを讀んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
2	畜産食品の種類と加工	食肉類	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
3		卵類、乳類①	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
4		乳類②	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
5	水産食品の種類と加工	魚介類、藻類	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
6			授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
7	農産食品の種類・特徴と加工	穀類	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
8		いも類、種実類	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
9		豆類、野菜類	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
10		果実類、きのこ類	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
11	微生物利用食品	アルコール飲料、発酵調味料、その他	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
12			授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
13	加工食品とその素材	油脂類、糖類	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
14		甘味料、調味料、香辛料、嗜好食品、加工食品	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。
15	食品の加工法、保存法	加工法、保存原理、保存法	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	授業を振り返り、内容を整理する。

教科書	瀬口正晴、八田一編：『新食品・栄養科学シリーズ 食品学各論』 化学同人（最新版） 日本フードコーディネーター協会編：『フードコーディネーター教本2017 3級資格認定試験対応テキスト』 柴田書店（2016）	参考書資料	香川芳子監修：『七訂食品成分表2017』 女子栄養大学出版部（2017） 西村公雄、松井徳光編：『食べ物と健康3 食品加工学』第3版、化学同人（2016） 谷口亜樹子編著：『食品加工学と実習・実験 第2版』 光生館（2016）
------------	--	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 私語の禁止。 携帯電話の操作禁止。 指示に応じて食品成分表を持参すること。 各分野の区切りごとに小テストを実施する。 	定期試験(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)の総合評価。	各食品について、その特性や加工利用などを把握し、各種加工方法や製造原理、保存、加工中における化学的、生物的、物理的变化などが理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
食品学実験 I	卒業必修	食栄	1年 後学期	実験	1	えぎ 江木	のぶこ 伸子	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士、FS)	食品学 I の履修者が望ましい	5, 9, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要								授業の到達目標		
食品成分表の測定に利用されている分析方法と理論を学び、適切に実験をおこない、食品に含まれる成分を理解をする。基本的な実験手法やレポートの書き方を学習する。								食品成分表の成分値の測定方法を理解する。基本的な実験手法を理解し、適切に行うことができる。指示した項目に従い適切な表現でレポートが作成できるようになる。		

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	授業の概要の説明	実験の概要と授業の進め方、注意事項、レポートの書き方	シラバスを読んでくる	プリントをまとめる
2	実験の準備	実験器具の取り扱い、試薬の調製	該当するプリントのページを読んでくる	プリントをまとめる
3		標準試薬の調製と評定	該当するプリントのページを読んでくる	プリントをまとめる
4	食品の一般分析	水分の定量	該当するプリントのページを読んでくる	プリントをまとめる
5		灰分の定量	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを作成する
6		実験結果まとめ・レポート作成	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを作成する
7		タンパク質の定量	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを作成する
8		脂質の定量	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを作成する
9		全糖の定量	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを作成する
10		実験結果まとめ・レポート作成	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを作成する
11		繊維の定量	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを作成する
12		脂肪酸の定量	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを作成する
13		実験結果まとめ・レポート作成	該当するプリントのページを読んでくる	レポートを作成する
14	施設見学	食肉科学技術研究所	日程プリントの確認	レポートをまとめる
15	まとめ	実験結果について考察・総括	全レポートを確認する	プリント、レポートをまとめる

教科書	村上俊男:『改訂 基礎からの食品・栄養学実験』建帛社(2014)、他はプリントで配布。	参考書 資料	文部科学省科学技術・学術政策局政策課資料室監修:『日本食品標準成分表2015年版(七訂)分析マニュアル・解説』建帛社(2016)
------------	---	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・白衣を着用し、長い髪はまとめる。実験の説明中は私語を禁じる。グループ内で協力して実験する。 ・配布物はなくさないように整理する。レポートはためないで、項目毎に速やかに提出すること。 ・授業の進捗によってはスケジュールを変更することがある。 	レポート(70%)、授業態度、取り組み姿勢(30%)の総合評価。	積極的に授業に取り組み、食品の分析方法を理解し、レポートが提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
食品衛生学（食栄）	卒業必修	食栄	2年前学期	講義	2	みつほし 三星	さおり 沙織	単独	食物栄養専攻科目 （栄養士、FS、FC）	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
食品衛生の目的は、飲食によって発生する健康上の危害を防止することである。本科目は、食品の安全性を確保するために必要な食品衛生行政、関係法規について学び、食品に関する病原性微生物、化学物質、有害物質などに起因する健康被害を未然に防ぐ方策を科学的に学習する科目である。						<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全性の確保のために必要な知識が身につくようになる。 食品衛生に関する制度や法律について理解できるようになる。 飲食物を介して人に悪影響を与えるものとは何かが説明できるようになる。 食品に関する病原性微生物、化学物質、有害物質などに起因する健康被害を未然に防ぐ方策が理解できるようになる。 					

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	健康と食品衛生	食品衛生の概念・定義、飲食物の安全確保	シラバスを読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
2	食品衛生行政	食品衛生行政の沿革、行政システム	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
3	食品衛生関連法規	食品衛生に関連した主な法令	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
4	食品と微生物	微生物の種類と性状、微生物の増殖と環境条件	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
5	食品の変質とその防止	変質の概要、変質の防止	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
6	食中毒	食中毒の定義と分類、食中毒の発生状況	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
7		細菌性食中毒	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
8		ウイルス性食中毒	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
9		自然毒食中毒、化学性食中毒	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
10	食品の媒介による感染症・寄生虫	感染症の分類、主な感染症、寄生虫の概要、主な寄生虫	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
11	食品中の汚染物質	カビ毒、有害化学物質	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
12	食品添加物	食品添加物の概要、種類と用途、安全性評価	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
13	食品用器具と容器包装、安全性問題	素材と衛生、素材による環境汚染、水の衛生、輸入食品等の安全性	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
14	食品の衛生管理	食中毒の防止、食品の衛生管理	授業内容に該当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら内容を整理しておく。
15	学外講師による講義	食品衛生関連講習会（仮題）	疑問点や質問したいことなどを考えてくる。	講義内容をまとめ、感想を記入して提出する。

教科書	和泉喬、小田隆弘他著：『新入門食品衛生学』 南江堂（最新版）	参考書資料	(社)日本フードスペシャリスト協会編：『改訂 食品の安全性 第3版』 建帛社（2016） 日本フードコーディネーター協会編：『フードコーディネーター教本2017 3級資格認定試験対応テキスト』 柴田書店（2016）
------------	--------------------------------	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 各テーマの区切りごとに小テストを実施する。 私語の禁止。 携帯電話の操作禁止。 	定期試験(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)の総合評価。	積極的に授業に参加し、飲食物を介して人に悪影響を与えるものとは何かが説明でき、その原因や発生メカニズム、予防法および、食品衛生管理について理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
食品衛生学実験	選択	食栄	2年前学期	実験	1	みつほし 三星	さおり 沙織	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士、FS)	特になし	5, 9, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
食品添加物検査などの化学検査や、手指、空中、食品に付着する各種微生物の検査を行う。各検査を通して操作方法を学ぶとともに、食品の安全性や衛生管理について考える機会とする。また、食品工場・飲食店における衛生管理状況の実態も学習する。						<ul style="list-style-type: none"> 手指や食器の洗浄試験や食品の微生物検査、品質検査を通して、衛生管理の重要性について理解し、実践できるようになる。 基本的な実験手法を理解し、適切に行うことができるようになる。 					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	実習概要説明	実習の概要、実験設備・器具の使い方の説明	シラバスを読んでくる。	授業を振り返り、器具等の取扱いを覚える。
2	食品添加物の検査	食用色素混液の分離	実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。
3		食品中の食用色素分析(1)	実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。
4		食品中の食用色素分析(2)	実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。
5	洗浄度検査	手指の洗浄試験(1)	実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。
6		手指の洗浄試験(2)、食器の洗浄試験	実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。
7	食品の微生物検査	実習の説明、準備	実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。
8		空中落下菌の定量 付着菌の定量	実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。
9			実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。
10			実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。
11		食品中の微生物検査	実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。
12	実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。		実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。	
13	食品の品質試験	食品の品質試験	実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。
14		実験テーマに関連する部分について、食品衛生学の教科書を読んでくる。	実験内容を整理し、指定した内容のレポートを作成する。	
15	施設見学	施設見学	特に意識して見学したいことを考えてくる。	見学を通して得た知識や感想をまとめて提出する。

教科書	実験のテーマごとにプリントを配布する	参考書資料	(社)日本フードスペシャリスト協会編：『改訂 食品の安全性 第3版』 建帛社 (2016)
------------	--------------------	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 白衣を着用し、かかとのある靴を履くこと。長い髪は必ずまとめること。 実験は班ごとに行うが、レポートは各自で作成し提出すること。 実験器具等の都合により実験内容または順番を変更する場合がある。 実験結果の撮影以外での携帯電話の操作を禁止する。 	レポート(70%)、受講態度等(30%)の総合評価。	積極的に実験に取り組む姿勢が見られ、実験の内容を理解し、各実験の結果について考察されているすべてのレポートを提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
栄養学 I	卒業必修	食栄	1年前学期	講義	2	ふるたに 古谷	あきこ 彰子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士、FS、FC、社主事)	特になし	—
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要								授業の到達目標			
生命現象を営む上で栄養の摂取は必須である。なぜ必要であるか理解するために、各栄養素の生体内での代謝や生理作用について学習する。								栄養素の機能や体内でのはたらきについて理解できるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス、栄養の概念	栄養の定義、栄養と健康、疾患、遺伝形質と栄養の相互作用	シラバスを讀んでくる	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
2	食物の摂取	食欲、摂食量、食事のリズム	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
3	消化・吸収と栄養素	消化器系の構造、消化酵素の種類	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
4		消化の調節・吸収、栄養素の体内動態	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
5	糖質の栄養	糖質の消化・吸収・代謝、血糖とその調節	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
6	脂質の栄養①	脂質の化学、脂質の代謝と移動・輸送、	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
7	脂質の栄養②	脂肪酸および脂質の栄養機能	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
8	タンパク質の栄養①	タンパク質とアミノ酸、タンパク質の代謝	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
9	タンパク質の栄養②	タンパク質の評価	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
10	ビタミンの栄養	ビタミンの種類、代謝と栄養学的機能	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
11	ミネラル（無機質）の栄養	ミネラルの一般的機能	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
12	水、電解質の栄養的意義	水の機能、電解質の代謝	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
13	エネルギー代謝①	エネルギーの必要量と消費量	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
14	エネルギー代謝②	基礎代謝、測定方法	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
15	栄養学 I の総括	全講義の復習	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る

教科書	田地陽一／編：『基礎栄養学 第三版』 羊土社（2016年）	参考書資料	田地陽一／編：『基礎栄養学 ノート』 羊土社（2016年） 日本フードスペシャリスト協会 編『三訂 栄養と健康』 建帛社（2015） 日本フードコーディネーター協会編：『フードインテナー教本2017 3級資格認定試験対応テキスト』 柴田書店（2016）
------------	-------------------------------	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
・私語厳禁	定期試験(70%)、授業態度(30%)の総合評価。 定期試験の一部は栄養士実力認定試験に準ずる内容とする。	各栄養素のはたらき、代謝が理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
栄養学Ⅱ	卒業必修	食栄	1年 後学期	講義	2	ふるたに 古谷	あきこ 彰子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士、FS、FC、社主事)	特になし	—
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
人の一生を年齢に伴って区別したライフステージでは、それぞれ身体的・生理的特徴があり、栄養上配慮する必要がある。本授業ではライフステージごとの生理的特徴、栄養アセスメント、栄養と病態・疾患、栄養ケアのあり方について学び、食事摂取基準を中心とした個人に対する栄養管理の手法を学習する。						日本人の食事摂取基準について策定の考え方や科学的根拠を理解できるようになる。各ライフステージにおける身体的・生理的特徴を理解し、それに基づいた栄養管理について理解できるようになる。運動や環境にかかわる栄養素の機能について理解できるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	栄養ケア・マネジメント	授業の進め方、栄養ケア・マネジメント概要、栄養スクリーニング	シラバスを讀んでくる	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
2		栄養アセスメント、栄養ケア	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
3	日本人の食事摂取基準	基本的な考え方、策定の基礎理論	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
4		活用の基礎理論、エネルギー・栄養素別食事摂取基準	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
5	ライフステージ別の栄養	母性栄養(1)	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
6		母性栄養(2)	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
7		新生児期・乳児期の栄養(1)	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
8		新生児期・乳児期の栄養(2)	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
9		思春期の栄養	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
10		成長期の栄養(1)	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
11		成長期の栄養(2)	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
12		高齢期の栄養	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
13	環境と栄養①	生体リズムと栄養	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
14	環境と栄養②	ストレスと特殊環境の栄養ケア	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る
15	栄養学Ⅱの総括	全講義の復習	教科書の該当部分を読み、学習内容を把握する	授業の内容を復習し、学習内容の定着を図る

教科書	栢下 淳, 上西 一弘/編:『応用栄養学』羊土社(2014年)	参考書 資 料	栢下 淳, 上西 一弘/編:『応用栄養学ノート』羊土社(2016年) 日本フードスペシャリスト協会 編『三訂 栄養と健康』建帛社(2015) 日本フードコーディネーター協会編:『フードインテナー教本2017 3級資格認定試験対応テキスト』柴田書店(2016)
------------	---------------------------------	--------------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
・私語厳禁	定期試験(70%)、授業態度(30%)の総合評価。 定期試験の一部は栄養士実力認定試験に準ずる内容とする。	食事摂取基準、ライフステージに基づいた栄養管理、環境にかかわる栄養管理について理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
栄養学実習	選択	食栄	1年 後学期	実習	1	かんだ 神田	せいこ 聖子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士)	「栄養学Ⅱ」履修者	6・7, 9, 12, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
人の一生を年齢に伴って区別したライフステージでは、それぞれのステージにあった食事・栄養を摂ることは心身の健全な発育と発達・健康保持増進に不可欠である。本授業では、「栄養学Ⅱ」で学んでいる身体的・生理的特徴に基づいた栄養管理を具現化するべく、対象者に合った献立作成(P)及び実習(D)をグループワークで行う。実習後の評価で見出された課題や気づきを(C)次の実習課題につなげ(A)、望ましい栄養摂取の方法を習得する。						栄養士としての実践力を身につけるとともに給食管理実習Ⅱ（学外実習）及び栄養教諭教育実習に備える。 1. ライフステージごとの栄養特性を理解した献立作成と食事提供ができるようになる。 2. 周囲と円滑なコミュニケーションをとりながら、自分の役割を果たすことができるようになる。 3. PDCAサイクルを回し、課題解決ができるようになる。 4. 目的、方法、結果、考察に沿って論理的なレポート作成ができるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、乳児期の食事	授業の進め方、調乳、離乳食実習、市販ベビーフードの試食	教科書（乳児期）を読む	レポートを完成させる
2	ライフステージの特徴と問題(1) 乳幼児期・学童期の食事	献立作成の留意点、保育所・学校給食の食事計画（献立作成演習）	教科書（乳児期・学童期）を読む、「献立作成論」を復習する	保育所給食の課題を進めておく
3		食事計画（保育所給食献立作成演習）、発注書の書き方	総購入量の求め方を復習する	保育所給食の献立と発注書を完成させる
4	乳幼児期の食事（保育所給食）	食事計画に沿った実習	実習が円滑に進むよう準備をする	実習を振り返り、改善点を見出す
5		実習レポートの書き方（実習の評価方法と次回の実習への改善）	レポートの項目に沿って考えをまとめる	実習レポートを完成させる
6		食事計画（献立作成演習）	教科書（学童期）を読む、献立案を考える	学校給食の献立と発注書を完成させる
7	学童期の食事（学校給食）	食事計画に沿った実習	実習が円滑に進むよう準備をする	実習を振り返り、改善点を見出す
8		実習の評価と次回の実習への改善	レポートの項目に沿って考えをまとめる	実習レポートを完成させる
9	ライフステージの特徴と問題(2) 妊娠期・スポーツ栄養の食事	妊娠期・スポーツ栄養の食事計画 献立作成演習（栄養計算ソフトウェアの使い方）	教科書（妊娠期、スポーツ栄養）を読む	妊娠期の献立と発注書を完成させる
10	ライフステージの特徴と問題(3)	アレルギー対応給食の実習	教科書（アレルギー）を読む	レポートを完成させる
11	妊娠期の食事	食事計画に沿った実習	実習が円滑に進むよう準備をする	実習を振り返り、改善点を見出す
12		実習の評価と次回の実習への改善	レポートの項目に沿って考えをまとめる	実習レポートを完成させる 妊娠期の献立と発注書を完成させる
13	スポーツ栄養	食事計画に沿った実習	実習が円滑に進むよう準備をする	実習を振り返り、改善点を見出す
14		実習の評価と4サイクルを終了してのまとめ	レポートの項目に沿って考えをまとめる	実習レポートを完成させる
15	高齢者の食事（学外講師の招聘）	介護食（ユニバーサルデザインフード）	教科書（高齢期）を読む	実習レポートを作成する

教科書	栢下淳、上西一弘（編）：『栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学』 羊土社（最新版） 香川明夫監修：『七訂食品成分表2017』 女子栄養大学出版社（2017）	参考書 資 料	必要に応じてプリントを配布
-----	--	------------	---------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
1. 授業の順番あるいは内容を変更する場合がある。 2. 実習中にけがをしないよう、身支度を整える。 3. グループワークは各自責任をもち、協力して進める。 4. 授業中の携帯電話の操作（指示がある場合は除く）、パソコン室で授業を行う際の音楽や動画、インターネットの視聴、ゲームの操作を禁ずる。	献立課題(30%)、調理技術(20%)、実習レポート(30%)、受講態度(20%)の総合評価。	協調性をもって授業に取り組み、PDCAを回しながらライフステージに基づいた栄養管理（食事提供）及びレポート作成ができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
臨床栄養学 I	選択	食栄	1年 後学期	講義	2	おだしま 小田島	ゆみこ 祐美子	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
教科書中心にスケジュールの順に授業を進行する。各疾病について講義し、その栄養療法・食事療法について詳しく解説する。各疾病の授業終了時点で小テストを行う。						疾患とはどのように発症し、またどのような状態であるのかを学習し、疾患治療および疾病予防のための栄養・食事療法が理解できるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	授業の進め方 臨床栄養の概念	「臨床栄養の概念」の章を読んでくる。	臨床栄養の概念について復習する。
2	栄養・食事療法、栄養補給法	栄養・食事療法、栄養補給法	「栄養・食事療法、栄養補給法」の章を読んでくる。	栄養・食事療法、栄養補給法について復習し、小テスト対策を行う。
3	栄養・代謝・内分泌系疾患	代謝性疾患の病態と栄養管理①（るい瘦、肥満、糖尿病）	「栄養・代謝・内分泌系疾患」の章を読んでくる。	るい瘦、肥満、糖尿病について復習し、小テスト対策を行う。
4		代謝性疾患の病態と栄養管理②（脂質異常症）	「栄養・代謝・内分泌系疾患」の章を読んでくる。	脂質異常症について復習し、小テスト対策を行う。
5		代謝性疾患の病態と栄養管理③（痛風、高尿酸血症、メタボリックシンドローム）	「栄養・代謝・内分泌系疾患」の章を読んでくる。	痛風、高尿酸血症、メタボリックシンドロームについて復習し、小テスト対策を行う。
6		内分泌系疾患の病態と栄養管理（甲状腺機能亢進症・低下症）	「栄養・代謝・内分泌系疾患」の章を読んでくる。	甲状腺機能亢進症・低下症について復習し、小テスト対策を行う。
7	消化管疾患	消化管疾患の病態と栄養管理①（消化管）	「消化管疾患」の章を読んでくる。	消化管について復習し、小テスト対策を行う。
8		消化管疾患の病態と栄養管理②（肝・胆・膵）	「消化管疾患」の章を読んでくる。	肝・胆・膵について復習し、小テスト対策を行う。
9	循環器疾患	循環器疾患の病態と栄養管理	「循環器疾患」の章を読んでくる。	循環器疾患について復習し、小テスト対策を行う。
10	腎疾患	腎疾患の病態と栄養管理	「腎疾患」の章を読んでくる。	腎疾患について復習し、小テスト対策を行う。
11	血液疾患	血液疾患の病態と栄養管理	「血液疾患」の章を読んでくる。	血液疾患について復習し、小テスト対策を行う。
12	呼吸器疾患	呼吸器疾患の病態と栄養管理	「呼吸器疾患」の章を読んでくる。	呼吸器疾患について復習し、小テスト対策を行う。
13	筋・骨格系疾患	筋・骨疾患の病態と栄養管理	「筋・骨格系疾患」の章を読んでくる。	筋・骨疾患について復習し、小テスト対策を行う。
14	免疫・アレルギー疾患	免疫・アレルギーの病態と栄養管理	「免疫・アレルギー疾患」の章を読んでくる。	免疫・アレルギーについて復習し、小テスト対策を行う。
15	摂食機能低下、まとめ	摂食機能低下の栄養管理、全体の振り返り	「摂食機能低下」の章を読んでくる。	摂食機能低下と全体を振り返り、定期試験対策を行う。

教科書	友竹浩之・塚原丘美：『臨床栄養学概論』 講談社（最新刊）	参考書資料	授業内に適宜指示、プリントを配付
------------	------------------------------	--------------	------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、携帯電話使用禁止。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 	定期試験(60%)、小テスト(30%)、授業態度(10%)の総合評価	基本的な疾患を理解し、その栄養・食事療法について理解できていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
臨床栄養学Ⅱ	選択	食栄	2年後学期	講義	2	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士)	臨床栄養学Ⅰの単位取得者	8, 9, 11, 12, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
臨床検査から栄養状態および病態の評価方法について学ぶ。さらに具体的症例を臨床検査と食事内容から、グループで評価を行い、栄養指導案を作成、その内容の発表と栄養相談のロールプレイングを行う。同時にSOAPの記入方法についても学習する。						生活習慣病を中心とした病態について、臨床検査と栄養状態から評価を行い、具体的な栄養指導案を立案できるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス、各疾患について	授業の進め方	シラバスを読んでもくる。	取り上げた疾患について復習をする。
2	栄養評価の種類について	身体計測、生化学検査、臨床審査、食事調査について	教科書の栄養評価の章を読んでもくる。	栄養評価について復習する。
3	栄養評価	把握した情報の評価について	1回目で取り上げた疾患の章を読んでもくる。	栄養評価について復習する。
4	臨床検査について	血液検査、尿検査、BMIについて	教科書の巻末資料を読んでもくる。	臨床検査について復習する。
5	症例を臨床検査で読み解く	臨床検査結果からの評価方法と栄養指導の立案について	配付された資料を読んでもくる。	取り上げた症例の評価方法と指導案について復習する。
6	症例研究1 (グループワーク)	臨床検査結果から症例の評価を行い、栄養指導案を立案	配付された資料を読んでもくる。	担当症例の評価と指導案からパワーポイントを完成させる。
7	症例発表1	症例研究内容発表	作成したパワーポイントの確認を行う。	臨床検査について復習する。
8	症例を臨床検査結果と栄養評価で読み解く	臨床検査結果と栄養評価からの評価と栄養指導の立案方法について	配付された資料を読んでもくる。	栄養評価について復習する。
9	症例研究2 (グループワーク)	臨床検査結果と栄養評価から症例の評価と栄養指導案の立案	前回の授業内容について復習してくる。	担当症例の評価と指導案からパワーポイントを完成させる。
10	症例発表2	症例研究内容発表	作成したパワーポイントの確認を行う。	臨床検査と栄養評価について復習する。
11	SOAPに沿った指導記録の作成	SOAP記録による情報の分類について	対象者の情報について分類してみる。	SOAP記録について復習する。
12	栄養指導ロールプレイング	栄養指導のロールプレイングとSOAPに沿った栄養指導記録の作成	担当症例について情報をSOAPに分けてみる。	配布資料のロールプレイングを読み、ポイントをつかむ。
13	症例研究3 (グループワーク)	栄養指導のロールプレイング原稿の作成	配付資料のロールプレイングを読んでもくる。	担当症例のロールプレイングを完成させる。
14	症例研究3 (グループワーク)	栄養指導のロールプレイング原稿の作成とSOAPの記入	担当症例のロールプレイングのSOAPに記入について考えてくる。	担当症例のロールプレイングのSOAPの記入を完成させる。
15	症例発表3、まとめ	作成したロールプレイングの発表 全体の振り返り	担当症例のロールプレイングを読んでもくる。	全体を振り返り、定期試験対策を行う。

教科書	秋山栄一他著：『臨床栄養学概論』 化学同人（第1版）	参考書資料	授業内に適宜指示、プリントを配付
------------	----------------------------	--------------	------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、携帯電話使用禁止。 進行の都合により、内容が前後することがある。 	定期試験(60%)、症例研究(30%)、授業態度(10%)の総合評価	臨床検査値と栄養状態から評価を行い、具体的な栄養指導案を立案できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
臨床栄養学実習 I	選択	食栄	2年前学期	実習	1	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士)	臨床栄養学 I の履修者	6, 9, 12, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
一般・特別治療食を理解し、展開食の献立作成、栄養価計算、発注、原価計算 (P) をし、その実習 (D) を行う。実習後、評価を行い (C)、レポートにまとめ、その内容の発表を行う。それらを次回の展開食の献立作成、実習につなげ (A)、さらなる応用力をつける。						以下から病態に適した展開食の知識と技術の習得をする。 1. 治療食の概念と栄養管理の基礎的な手法が理解できるようになる。 2. 展開食の献立作成、発注、原価計算、調理ができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	授業の進め方 注意事項 展開食とは	シラバス、「臨床栄養学概論」14章を読んでもくる。	展開食の目的、手法について復習する。
2	特別治療食の献立作成	エネルギーコントロール食の考え方 献立作成 原価計算 発注 (演習)	教科書「エネルギーコントロールのための食事」の章を読んでもくる。	エネルギーコントロール食の展開食献立を完成させる。
3		塩分コントロール食の考え方 献立作成 原価計算 発注 (演習)	教科書「食塩を減らすための調理」の章を読んでもくる。	塩分コントロール食の展開食献立を完成させる。
4		エネルギーコントロール食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
5	特別治療食の実習	エネルギーコントロール食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
6		塩分コントロール食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
7		塩分コントロール食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
8	実習内容の発表	エネルギー・塩分コントロール食 実習振り返り (演習)	実習した献立を振り返り、発表内容をまとめる。	発表内容から改善点をまとめる。
9	一般治療食の献立作成	軟食の考え方 献立作成 原価計算 発注 (演習)	教科書「軟菜食のための食事」の章を読んでもくる。	軟菜食の展開食献立を完成させる。
10	特別治療食の献立作成	アレルギー食 除去および代替食品による献立作成 原価計算 発注 (演習)	「臨床栄養学学論」11章を読んでもくる。	アレルギー食の展開食献立を完成させる。
11	一般治療食の実習	軟菜食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
12		軟菜食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
13	特別治療食の実習	アレルギー食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
14		アレルギー食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
15	実習内容の発表	アレルギー食、軟食 実習振り返り (演習)	実習した献立を振り返り、発表内容をまとめる。	発表内容から改善点をまとめる。

教科書	玉川和子・口羽章子・木地明子著：『臨床調理』 医歯薬出版（最新版） 秋山栄一他著：『臨床栄養学概論』 化学同人（第1版）	参考書 資料	『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版部（最新刊） 香川芳子監修：『七訂食品成分表2017』 女子栄養大学出版部（2017）
------------	---	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容と順番を変更する場合がある。 貴重品は身に付け、責任をもって管理する。 欠席が事前にわかる場合は、事前に連絡をする。また、実習当日欠席する場合は電話連絡をする。 授業中の携帯電話操作を禁ずる。 	献立作成 (30%) 実習 (10%) レポート (40%) 授業態度 (20%)	展開食について理解し、展開食の献立作成ができ、実習に積極的に参加し、レポートが提出されていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
臨床栄養学実習Ⅱ	選択	食栄	2年 後学期	実習	1	おだしま 小田島	ゆみこ 祐美子	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士)	臨床栄養学実習Ⅰ単位取得者	6, 9, 12, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
展開食を理解した上で、常食1日分の献立作成、実習、発注、原価計算を行う。そのうちの一食について展開食の献立作成、栄養価計算、発注、原価計算(P)をし、その実習(D)を行う。実習後、評価を行い(C)、レポートにまとめ、その内容の発表を行う。それらを次回の展開食の献立作成、実習につなげ(A)、さらなる応用力をつける。						1. 常食を栄養価、食品構成、調味料の割合、主食、主菜、副菜のポーションサイズ、献立作成のポイントを考えて献立作成することができる。 2. 常食を病態に適した展開食に展開することができる。 3. 原価計算や発注書の計算ができる。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス、展開食のついて	授業の進め方 注意事項 展開食の復習	シラバス、「臨床栄養学概論」14章を読んでもくる。	常食の献立案を考える。
2	常食の献立作成	常食の考え方 献立作成 原価計算 発注(演習)	教科書「臨床調理の基本」の章とp136を読んでもくる。	常食の献立を完成させる。
3	特別治療食の献立作成	アレルギー食 除去および代替え食品による献立作成 (演習)	「臨床栄養学概論」11章を読んでもくる。	アレルギー食の展開食献立を完成させる。
4	常食の実習	常食の作成(実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習献立の変更箇所を訂正し、レポートを作成する。
5		常食の作成(実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習献立の変更箇所を訂正し、レポートを作成する。
6		常食の作成(実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習献立の変更箇所を訂正し、レポートを作成する。
7		常食の作成(実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習献立の変更箇所を訂正し、レポートを作成する。
8	特別治療食の献立作成	エネルギーコントロール食の考え方 献立作成 原価計算 発注(演習)	教科書「エネルギーコントロールのための食事」の章を読んでもくる。	エネルギーコントロール食の展開食献立を完成させる。
9	一般治療食の献立作成	軟食の考え方 献立作成 原価計算 発注(演習)	教科書「軟菜食のための食事」の章を読んでもくる。	軟菜食の展開食献立を完成させる。
10	特別治療食の実習	エネルギーコントロール食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
11		エネルギーコントロール食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
12	一般治療食の実習	軟菜食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
13		軟菜食への展開 (実習)	実習献立の作り方と作業工程表を作成してくる。	実習した献立のレポートを作成する。
14	実習内容の発表	実習全体の振り返り (演習)	実習した献立を振り返り、発表内容をまとめてくる。	発表内容から改善点をまとめる。
15		実習全体の振り返り (演習)	実習した献立を振り返り、発表内容をまとめてくる。	発表内容から改善点をまとめる。

教科書	玉川和子・口羽章子・木地明子著：『臨床調理』 医歯薬出版（最新版） 秋山栄一他著：『臨床栄養学概論』 化学同人（第1版）	参考書 資料	食品成分表(最新版)、『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版部（最新刊） 香川芳子監修：『七訂食品成分表2016』 女子栄養大学出版部（2016）
------------	---	-------------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容と順番を変更する場合がある。 貴重品は身に付け、責任をもって管理する。 欠席が事前にわかる場合は、事前に連絡をする。また、実習当日欠席する場合は、電話連絡をする。 授業中の携帯電話操作を禁ずる。 	献立作成(30%) 実習 (10%) レポート(40%) 授業態度(20%)	常食とその展開食の献立作成ができ、実習に積極的に参加し、レポートが提出されていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
栄養指導論 I	選択	食栄	2年前学期	講義	2	かんだ 神田	せいこ 聖子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士)	特になし	8, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
本授業では、栄養教育の意義や歴史、位置づけについて把握し、人々の健康保持・増進、疾病予防を目的とする栄養教育に必要な基礎知識について学習する。栄養教育をより効果的に行うために必要な行動科学及びカウンセリングの手法についても学ぶ。学生自身が食事調査を行なうことで自らの食生活を振り返り、栄養教育に必要な基礎知識を体験を通して学ぶとともに、自身の今後の食生活に役立てる。						栄養士としての基本的事項を理解するとともに学外実習に備える。 1. 栄養教育・指導は人々の健康の保持・増進と生活の質の向上に寄与することが目的であることが説明できるようになる。 2. 効果的な栄養教育を行なうための基礎知識がわかるようになる。 3. 対象者の行動変容を促すために必要な行動科学及びカウンセリングに関する理論がわかるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	栄養教育・栄養指導の概念	栄養教育・栄養指導とは、目的と必要性	教科書の該当ページを読む	本授業で身につける内容を確認する
2		食生活を取り巻く環境と栄養指導	教科書の該当ページを読む	自分ができる食品ロスの削減を実践する
3		栄養士と栄養指導	教科書の該当ページを読む	栄養士の社会的立場を考えて学習に取り組む
4		栄養教育の国際的動向	教科書の該当ページを読む	日本の栄養教育を相対的に捉える
5	栄養教育と関連施策	日本人の食事摂取基準	栄養学Ⅱで用いた教科書(pp. 23-46)を読む	専門用語を説明できるようにする
6		食生活指針と食事バランスガイド、運動指針、休養指針	栄養学Ⅱで用いた教科書(pp. 176-178)を読む	食事バランスガイドを意識して食生活を営む
7	食生活・栄養における諸調査	調査の目的、国民健康栄養調査、栄養調査法	栄養学Ⅱで用いた教科書(pp. 12-13)を読む	各種調査の方法をまとめる
8	栄養教育の方法論	行動科学と栄養教育、行動科学の理論とモデル	教科書の該当ページを読む、自身の食生活の問題点・改善点を考える	各理論・モデルの特徴をわかるようにする
9		栄養カウンセリング(1) ロールプレイを含む	教科書の該当ページを読む	日常生活で傾聴を実践する
10		栄養カウンセリング(2) ロールプレイを含む	自身の食生活の問題点・改善点を考える(カウンセリングのテーマとする)	日常生活で傾聴を実践する
11		組織・地域づくりへの展開、食環境づくりと栄養教育・栄養指導	教科書の該当ページを読む	栄養士と地域・社会のつながりを考える
12	栄養教育マネジメント	栄養教育マネジメントの概要 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント	教科書の該当ページを読む	栄養状態の評価法についてわかるようにする
13		栄養教育の目標設定	教科書の該当ページを読む	目標の種類をわかるようにする
14		栄養教育プログラムの実施	教科書の該当ページを読む	集団討議法の種類と特徴を捉える
15		栄養教育の評価	教科書の該当ページを読む	評価の必要性を見直す、栄養指導について理解を深める

教科書	城田知子ほか：『イラスト栄養教育・栄養指導論（第4版）』東京教学社（最新版） 江澤郁子ほか：『Nブックス 四訂 応用栄養学』建帛社（2016）	参考書 資料	菱田明、佐々木敏 監修：厚生労働省『日本人の食事摂取基準—2015年版』 第一出版（2014） 必要に応じてプリントを配布
------------	--	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
1. 授業中の携帯電話操作を禁ずる（電卓、検索機能及び記録のための撮影機能としても不可）。 2. 欠席した際は、次回までに内容をみなおしておく。 3. 授業終了時に毎回、振り返りシートを記入する。	定期試験(70%)、受講態度(30%)の総合評価。	栄養教育・指導の目的が説明でき、栄養教育を行なうための基礎知識及びカウンセリングの基本が理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
栄養指導論Ⅱ	選択	食栄	2年 後学期	講義	2	かんだ 神田	せいこ 聖子	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士)	特になし	9, 11, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
「栄養指導論Ⅰ」で学んだ基礎知識を応用し、ライフステージ・ライフスタイルごとに栄養アセスメントに応じた栄養教育・指導の方法を具体的な事例を交えて学習する。						栄養士としての基本的事項を理解するとともに学外実習に備える。 1. ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育の留意点ができるようになる。 2. 食育について幅広い意味を理解し、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、「生きる力」を身につけるための食教育ができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ライフステージ・ライフスタイル別 栄養教育・栄養指導	妊娠期・授乳期の栄養教育・栄養指導	教科書の該当ページを読む	「健康なからだづくり」を実践する
2		乳幼児期の栄養教育・栄養指導	教科書の該当ページを読む	離乳の進め方の目安を中心に復習する
3		学童期・思春期の栄養教育・栄養指導	教科書の該当ページを読む	鉄分が不足しないよう実践する
4		成人期の栄養教育・栄養指導(1)	教科書の該当ページを読む	社会問題と結び付けて復習する
5		成人期の栄養教育・栄養指導(2)	メタボリックシンドロームの概要を把握する	メタボリックシンドロームの診断基準を見直す
6		成人期の栄養教育・栄養指導(3)	メタボリックシンドロームの理解を深める	自身や身近な人に役立てる
7		高齢期の栄養教育・栄養指導	教科書の該当ページを読む、介護食講座（1年次栄養学実習）の資料を見直す	在宅栄養の必要性を考える
8		傷病者及び障がい者の栄養教育・栄養指導	教科書の該当ページを読む	留意点をまとめる
9		アスリートの栄養教育・栄養指導(1)	教科書の該当ページを読む	一般の人との違いをわかるようにする
10		アスリートの栄養教育・栄養指導(2)	教科書の該当ページを読む	「運動生理学」と結び付けて復習する
11	食育推進基本計画の推進と栄養教育	食育基本法の成立の背景、保育所と栄養教育	教科書の該当ページを読む	食育推進基本計画の1次、2次、3次の違いを捉える
12		学校教育と栄養教育	教科書の該当ページを読む	子どもの食育の重要性をまとめる
13		生活習慣病予防と栄養教育	教科書の該当ページを読む	職場における栄養教育の課題をわかるようにする
14		活動分野における栄養教育・栄養指導	教科書の該当ページを読む	活動分野ごとの特徴を捉える
15	まとめ	全体の振り返り	教科書の該当ページを読む	栄養指導について理解を深める

教科書	城田知子ほか：『イラスト栄養教育・栄養指導論（第4版）』 東京教学社（最新版）	参考書 資料	江澤郁子ほか：『Nブックス 四訂 応用栄養学』 建帛社（2016） 必要に応じてプリントを配布
------------	---	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
1. 授業中の携帯電話操作を禁ずる（電卓、検索機能及び記録のための撮影機能としても不可）。 2. 欠席をした際は、次回までに内容をみなおしておく。 3. 授業終了時に毎回、振り返りシートを記入する。	定期試験(70%)、受講態度(30%)の総合評価。	ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育の留意点、食育の意味、「生きる力」としての食教育について理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
栄養指導論実習 I	選択	食栄	2年前学期	実習	1	かんだ 神田	せいこ 聖子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士)	「栄養指導論 I」履修者	6・7, 8, 9, 11, 12, 15, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
<p>栄養教育・指導の目的は、健康の保持・増進、疾病予防及び治療のために、対象者の食行動を変容・習慣化させることである。本授業では「栄養指導論 I」の講義で学んだ集団討議法について実践を通して理解する。また、学んだ知識を活かして対象者にあった栄養教育・指導計画の作成 (P)、実践 (D)、評価 (C)、改善 (A) を行い、栄養教育・指導の基礎力を身につける。授業は主にグループ形式で行い、随時課題提出を求める。</p>						<p>栄養士としての実践力を身につけるとともに給食管理実習 II (学外実習) 及び栄養教諭教育実習に備える。</p> <p>1. 集団討議法の種類と特徴を説明できるようになる。 2. 集団を対象とした栄養教育・指導の計画を立て、実践できるようになる。</p>					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	栄養教育の方法と技法(1)	授業の進め方、栄養教育の概念、集団討議法(6・6討議法)	教科書(pp. 86-89)を読む	体験を通して感じたことをまとめる
2		集団討議法(KJ法)	KJ法とは何かを調べる	体験を通して感じたことをまとめる
3		指導案の立て方、食教育の展開例 (DVD視聴)	教科書(p. 79)を読む	指導案の立て方を復習する
4		集団栄養教育 (第1案) の原稿作成・媒体作成(1)	食の社会問題から模擬授業のテーマを考える	今後の進め方についてグループで話し合う
5		集団栄養教育 (第1案) の原稿作成・媒体作成(2)	リハーサルに向けて準備を進める	今後の進め方についてグループで話し合う
6		集団栄養教育 (第1案) の原稿作成・媒体作成(3)	リハーサルに向けて準備を進める	リハーサルに向けて実施方法・役割を確認する
7	栄養教育の実際(1)	学外講師による模擬授業栄養教育・食育の実際	成長期に必要な栄養管理について復習する	模擬授業に向けて取り入れられる点をまとめる
8	栄養教育の実際(2) 第1案 グループ発表	ロールプレイングによる模擬授業のリハーサル及びディスカッション(1)	リハーサルに向けて準備を進める	模擬授業に向けて改善点を見出す
9		ロールプレイングによる模擬授業のリハーサル及びディスカッション(2)	リハーサルに向けて準備を進める	模擬授業に向けて改善点を見出す
10	栄養教育の方法と技法(2)	集団栄養教育 (第2案) の原稿作成・媒体作成 (1)	改善点を活かして模擬授業の準備を進める	今後の進め方についてグループで話し合う
11		集団栄養教育 (第2案) の原稿作成・媒体作成 (2)	改善点を活かして模擬授業の準備を進める	今後の進め方についてグループで話し合う
12		集団栄養教育 (第2案) の原稿作成・媒体作成 (3)	改善点を活かして模擬授業の準備を進める	今後の進め方についてグループで話し合う
13	栄養教育の実際(3) 第2案 グループ発表	ロールプレイングによる模擬授業、ディスカッション(1)	改善点を活かして模擬授業の準備を進める	学外実習に向けて課題を見出す
14		ロールプレイングによる模擬授業、ディスカッション(2)	改善点を活かして模擬授業の準備を進める	学外実習に向けて課題を見出す
15	栄養教育の実際(4)	312弁当箱法	食事バランスガイドの復習をする	自身の食生活に「312弁当箱法」を取り入れる

教科書	城田知子ほか：『イラスト栄養教育・栄養指導論 (第4版)』 東京教学社 (最新版)	参考書資料	文部科学省：『食に関する指導の手引き 第一次改訂版』 東山書房 (2010) 必要に応じてプリントを配布
------------	---	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<p>1. 授業の順番あるいは内容を変更する場合がある。</p> <p>2. 授業中の携帯電話の操作を禁ずる (指示がある場合は除く)。</p> <p>3. パソコン室で授業を行う際は、音楽や動画、インターネットの視聴、ゲームの操作を禁ずる。</p> <p>4. グループワークは各自責任をもち、協力して進める。</p>	<p>模擬授業(40%)、実習レポート(30%)、受講態度(30%)の総合評価。</p>	<p>協調性をもって授業に取り組み、集団栄養教育・指導の基礎を理解した実践 (模擬授業) ができれば合格。</p>

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
栄養指導論実習Ⅱ	選択	食栄	2年 後学期	実習	1	かんだ 神田	せいこ 聖子	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士)	「栄養指導論Ⅰ及びⅡ」履修者	6・7, 8, 11, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
<p>栄養教育・指導を行なうためには、対象者の身体・食生活状況や食意識などの実態を正確に把握して問題点を捉えることが必要である。本授業では自らを対象者に見立てた実践の後、系列校の高校生を対象に食生活状況調査を実施する。評価結果から個々に応じた栄養計画を立て、個別指導を行なうことで栄養教育・指導の一連の流れを体得する。あわせて、パソコンを効率的に活用した栄養士業務についても学習する。</p>						<p>栄養士としての実践力を身につけるとともに給食管理実習Ⅱ（学外実習）及び栄養教諭教育実習に備える。</p> <p>1. 様々な栄養情報を整理し、正確に発信することができるようになる。 2. 栄養マネジメントの流れを実践を通してを理解し、個々に応じた栄養指導の実践ができるようになる。</p>				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	栄養教育と情報処理 及び有効な活用法	授業の進め方、栄養情報の収集及び栄養教育媒体の作成(1)	ワードの使い方を復習する	課題を完成させる
2		栄養情報の収集及び栄養教育媒体の作成(2)	エクセルの使い方を復習する	課題を完成させる
3	栄養教育の実際	学外講師による栄養教育講座	自宅にあるスパイスとハーブを調べる	実習レポートを作成する
4	栄養マネジメント(1) 対象者の実態把握方法と評価	身体状況調査（身体計測）	アセスメント方法(身体計測)を復習する	課題を完成させる、自身の身体的特徴を把握する
5		生活状況調査（タイムスタディ）	24時間の生活記録を記録する	課題を完成させる、自身で立てた目標を実践・モニタリングして実生活に活かす
6		食事調査(1)	平日と休日の食事記録を行なう	課題を完成させる、自身で立てた目標を実践・モニタリングして実生活に活かす
7		食事調査(2) ロールプレイ	教科書(カウンセリング)のページを読む	自己・他者評価から課題を見出す
8	栄養マネジメント(2) 食生活状況調査の実施及び評価	高校生を対象とした食生活状況調査の実施（聞き取り）	聞き取りの実践に向けて準備をする	聞き取り内容について見直し、特徴を捉える
9		食生活状況調査の整理と評価及び問題点の抽出	対象者の特徴を捉える	問題点をできるだけ挙げ、優先順位を付ける
10		対象者に合わせた栄養教育指導案作成のための情報収集	指導の方針を考える	情報が不足している場合は揃えておく
11		対象者に合わせた栄養教育指導案・媒体の作成(1)	結果報告のリハーサルに向けて準備をする	今後の計画を立て、遅れている場合は進める
12		対象者に合わせた栄養教育指導案・媒体の作成(2)	結果報告のリハーサルに向けて準備をする	今後の計画を立て、遅れている場合は進める
13		対象者に合わせた栄養教育指導案・媒体の作成(3)	結果報告のリハーサルに向けて準備をする	今後の計画を立て、遅れている場合は進める
14		結果報告のリハーサル（ロールプレイング）、栄養教育媒体の修正	結果報告のリハーサルに向けて準備をする	自己・他者評価から課題を見出す
15		高校生を対象とした食生活状況調査の実施（結果報告）	結果報告に向けて準備をする	結果報告を振り返る、実習レポートを完成させる

教科書	城田知子ほか：『イラスト栄養教育・栄養指導論（第4版）』 東京教学社（最新版）	参考書 資料	江澤郁子ほか：『Nブックス 四訂 応用栄養学』 建帛社（2016） 必要に応じてプリントを配布
------------	---	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<p>1. 授業の順番あるいは内容を変更する場合がある。 2. 欠席した際は、次回までに課題を進めておく。 3. 授業中の携帯電話の操作を禁ずる（指示がある場合は除く）。 4. パソコン室で授業を行う際は、音楽や動画、インターネットの視聴、ゲームの操作を禁ずる。</p>	<p>高校生への聞き取り及び個別指導（40%）、課題（40%）、受講態度（20%）の総合評価。</p>	<p>栄養情報の正しい理解と発信、栄養マネジメントの一連の流れを理解した個別栄養指導ができれば合格。</p>

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
公衆栄養学	選択	食栄	2年後学期	講義	2	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
社会的集団の健康・栄養上の問題を改善するため、地域・国・国際的な公衆栄養活動を推進する理論・実践の方法について学ぶ。						国内外の健康・栄養問題・食料の現状と施策の方向性を知り、調査研究に必要な技術を身につけ、各種データが示す意味を洞察する視点をもつことができる。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス、公衆栄養学の概念	ガイダンス、公衆栄養学の概念	「公衆栄養学の概念」の章を読んでもくる。	公衆栄養学の概念について復習する。
2	公衆栄養マネジメント	公衆栄養活動の進め方	「公衆栄養活動の進め方」の章を読んでもくる。	公衆栄養活動の進め方について復習し、小テスト対策を行う。
3		公衆栄養のマネジメントサイクル	「公衆栄養のマネジメントサイクル」の章を読んでもくる。	公衆栄養のマネジメントサイクルについて復習し、小テスト対策を行う。
4		公衆栄養プログラム	「公衆栄養プログラム」の章を読んでもくる。	公衆栄養プログラムについて復習し、小テスト対策を行う。
5	栄養免疫	栄養免疫に必要な指標、食習慣と健康・生活習慣病に関する栄養疫学研究の例	「栄養免疫に必要な指標、食習慣と健康・生活習慣病に関する栄養疫学研究の例」の章を読んでもくる。	栄養免疫に必要な指標、栄養疫学研究の例について復習し、小テスト対策を行う。
6		栄養疫学調査	「栄養疫学調査」の章を読んでもくる。	栄養疫学調査について復習し、小テスト対策を行う。
7		食事調査	「食事調査」の章を読んでもくる。	食事調査について復習し、小テスト対策を行う。
8	わが国の健康・栄養問題の現状と課題	国民の健康状態と公衆栄養施策の変遷	「国民の健康状態と公衆栄養施策の変遷」の章を読んでもくる。	国民の健康状態と公衆栄養施策の変遷について復習し、小テスト対策を行う。
9		食生活の変化について	「食生活の変化について」の章を読んでもくる。	食生活の変化について復習し、小テスト対策を行う。
10		高齢社会の健康・栄養問題	「高齢社会の健康・栄養問題」の章を読んでもくる。	高齢社会の健康・栄養問題について復習し、小テスト対策を行う。
11		食料需給と自給率	「食料需給と自給率」の章を読んでもくる。	食料需給と自給率について復習し、小テスト対策を行う。
12	わが国の健康・栄養政策	公衆栄養の施策と法規	「公衆栄養の施策と法規」の章を読んでもくる。	公衆栄養の施策と法規について復習し、小テスト対策を行う。
13		健康日本21、特定健診・特定保健指導	「健康日本21、特定健診・特定保健指導」の章を読んでもくる。	健康日本21、特定健診・特定保健指導について復習し、小テスト対策を行う。
14		健康・栄養指導の指針やガイドライン	「健康・栄養指導の指針やガイドライン」の章を読んでもくる。	健康・栄養指導の指針やガイドラインについて復習し、小テスト対策を行う。
15	諸外国の健康・栄養政策、まとめ	諸外国の健康・栄養政策、全体の振り返り	「諸外国の健康・栄養政策」の章を読んでもくる。	諸外国の健康・栄養政策、全体について復習し、敵試験対策を行う。

教科書	友竹浩之・郡俊之『公衆栄養学概論』講談社（最新刊）	参考書資料	授業内に適宜指示、プリントを配付
------------	---------------------------	--------------	------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、携帯電話使用禁止。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 	定期試験(60%)、小テスト(30%)、授業態度(10%)の総合評価	国内外の健康・栄養問題・食料の現状と施策の方向性を理解し、各種データが示す意味が理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
調理学（食栄）	卒業必修	食栄	1年前学期	講義	2	ひらお かずこ 平尾 和子	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士、FS、FC)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
<p>栄養士専門科目の基礎科目として、本授業では科学的で効率の良い調理学実習を効果的に行うために、食品の調理性、調理操作、調味操作、調理器具・食器等についての理論を学ぶ。また、食文化を背景とした各国の食事様式、食事計画の基礎および新しい食品素材や環境への配慮についても、今後の生活で利用できるように説明する。</p>						<p>調理学の理論を学び、次のことを理解できるようにする。①調理学の目的である食品の栄養性、安全性および嗜好性を向上させる方法、②食品のおいしさを感じる要因、③各国の食文化および食事様式を背景とした食事計画の方法、④各食品の調理性、⑤調理操作、調味操作ならびに調理器具・食器等について、④食品の衛生的な取り扱いおよび保存法等、⑤新規食品の利用法、⑥環境への調理上の配慮。</p>			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	調理学の意義と役割、食事計画	調理学の意義・目的、食事の意義・役割、食事計画の条件・方法	教科書p. 1～23を読んで予習する。	食事計画の要点を整理する。
2	調理と嗜好性	おいしさの要因・嗜好性の評価	教科書p. 23～41を読んで予習する。	おいしさの要因・嗜好性について内容を整理する。
3	調理操作論、調味操作論	非加熱操作・加熱操作、調味料の使用法	教科書p. 42～70を読んで予習する。	非加熱操作、加熱操作について整理する。
4	植物性食品の調理性	米	教科書p. 71～76を読んで予習する。	米・米の加工品の特性について整理する。
5		小麦粉、その他の穀類、雑穀	教科書p. 76～86を読んで予習する。	小麦粉や穀類・雑穀の特性について整理する。
6		イモ類、豆類、種実類	教科書p. 86～93を読んで予習する。	イモ類、豆・種実類の特性について整理する。
7		野菜、山菜、果物類、海藻、キノコ類	教科書p. 93～101を読んで予習する。	野菜、山菜、果物類、海藻、キノコ類の特性について整理する。
8	調理と環境	食環境とエコロジー、小テスト	テスト範囲の内容を復習する。	食環境とエコロジー調理について整理する。
9	動物性食品の調理性	食肉類	教科書p.101～109を読んで予習する。	食肉類の特性について整理する。
10		魚介類	教科書p. 109～117を読んで予習する。	魚介類の特性について整理する。
11		卵類、乳類	教科書p. 117～129を読んで予習する。	卵類、乳類の特性について整理する。
12	成分抽出素材の調理性	でんぷん、油脂、ゲル化食品	教科書p. 139～149を読んで予習する。	でんぷん、油脂、ゲル化剤の特性について整理する。
13	調味料・飲料類	調味料、だし汁、混合調味料、香辛料、飲料類	教科書p. 149～159を読んで予習する。	調味料、だし汁、混合調味料、香辛料、飲料類について整理する。
14	調理の設備・器具・エネルギー論	厨房設備、調理器具、食器、容器、エネルギー源	教科書p. 161～171を読んで予習する。	厨房設備、調理器具、食器、容器、エネルギー源について整理する。
15	調理文化論	日本の食事と歴史、外国の食事と歴史、行事食	教科書p. 173～180を読んで予習する。	日本の食事と歴史、外国の食事と歴史、行事食について整理する。定期試験の準備をする。

教科書	下村道子、和田淑子共編者：『新調理学』 光生館（2015） 日本フードコーディネーター協会編：『新版フードコーディネーター教本 2017 3級資格 認定試験対応テキスト』 柴田書店（2016）	参考書資料	高橋節子、平尾和子編著：『新調理学実習・実験—基礎から応用まで—』 時事通信社（2016） (社)日本フードスペシャリスト協会編：『調理学』 建帛社（2015）、必要に応じてプリント配布
------------	---	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 授業進行上、講義項目の順番を変更する場合がある。 授業中、私語や携帯電話の操作を禁じる。 「調理と嗜好性、嗜好性の評価」の詳細は、調理学実験および食品の官能評価・鑑別論で行う。 	定期試験(45%)、小テスト(45%)、授業参加態度(10%)の総合評価。	食文化、食事計画、各食品の調理性、だし・調味料、調理操作、調味操作、設備、器具・食器および調理と環境等の基礎的な調理理論の概念が理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
調理学実験	卒業必修	食栄	1年前学期	実験	1	よねやま 米山	ようこ 陽子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士、FS)	特になし	5, 9, 12, 15, 16, 17
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
食品の調理特性および基礎的な調理手法との結びつきを考慮しながら実験テーマを取り上げる。調理過程に起こる物理的・化学的变化を評価し、官能評価による食味特性を検討し、関連性を明らかにする。また得られた結果から調理への適用を考察し、調理が理論的に、しかも再現性よく行えるようにする。実験ごとに結果をまとめて考察し、レポートを提出する。実験のプレゼンテーションをグループワークで計画(P)、作成し行い(D)、評価(C)をもとに2回目のプレゼンテーションへつなぎ(A)、それらを活用し調理学実習へ結びつける。						調理は安全で、栄養がありおいしい食品を提供することを目的とする。効率的でより良い調理を行うためには、調理学ならびに実習を通して得た知識、疑問点などを実験に反映させ実施することにより再確認し、理解できるようになる。この授業では調理学に関する基礎的実験方法を習得し、得られた実験計画法および結果を考察する力を身につけ、実際の調理に利用する方法を結びつけられるようになる。さらに、レポートのまとめ方を習得できるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	体積測定、廃棄率、官能評価	レポートの書き方、廃棄率、体積の測定方法、掃除、官能評価の講義	教科書、実験についてを読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
2	調理と嗜好性・嗜好性の評価	食味の相互作用、官能評価の実際（五味識別テスト）	教科書、官能評価について読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
3	食塩の調理・生クリーム of 調理性	生野菜の放水と吸水、野菜の加熱軟化、生クリームの起泡性	教科書、野菜の調理性、クリームについて読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
4	小麦粉の調理性①	小麦粉の種類と性質、官能評価（2点嗜好試験法）	教科書、小麦粉の種類と性質について読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
5	小麦粉の調理性②	小麦粉の膨化、官能評価（評点法）	教科書、小麦粉の膨化について読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
6	野菜の調理	野菜の色と調理変化	教科書、野菜の色について読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
7	砂糖の調理性	糖度、砂糖溶液の加熱による変化、フォンダン、衣がけ、抜糸	教科書、砂糖の調理性について読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
8	プレゼンテーション I	実験の復習・発表・質疑応答（グループワーク）	パワーポイントをまとめ、発表準備、練習をする	発表の反省点をもとに次の改善策を考える
9	鶏卵の調理性	卵の鮮度の判定、卵液の加熱による凝固、歪率、官能評価（順位法）	教科書、砂糖の調理性について読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
10	油脂の調理性・機器測定	油脂の種類および添加量の影響、機器測定、官能評価（一対比較法）	教科書、油脂の調理性について読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
11	米粉の調理性	しん粉の吸水状態とこね方、物性測定、官能評価（順位法）	教科書、米粉の調理性について読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
12	ゼラチンの調理性	添加物の影響、放置による離漿	教科書、ゼラチンの調理性について読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
13	寒天・カラギーナンの調理性	寒天の分離、比重の異なる食材の添加方法、カラギーナンとの比較	教科書、寒天、カラギーナンの調理性について読んでくる	実験のレポートを書き、提出する
14	プレゼンテーション II	実験の復習・発表・質疑応答（グループワーク）	パワーポイントをまとめ、発表準備、練習をする	発表の反省点をもとに次の改善策を考える
15	包丁研ぎ講習	外部講師(包丁について、包丁研ぎ方実習)	包丁の扱い方についての質問を考えておく	自分で包丁を研ぎ復習する

教科書	高橋節子、平尾和子：『新調理学実習・実験－基礎から応用まで－』 時事通信社（2016） 下村道子、和田淑子共編著：『新 調理学』 光生館（2015）	参考書資料	(参考書) 高橋幸資編：『新 ポケット食品・調理実験辞典』 明誠出版（2016） (社)日本フードスペシャリスト協会編：『三訂 食品の官能評価・鑑別演習』 建帛社（2014） (資料) 必要に応じてプリントを配布する。
-----	---	-------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①実験の順番を変更する場合がある。②爪を短くし身支度を整える。③授業開始前に入室し、実験準備を行う。④貴重品は身につけ、各自で管理する。⑤授業中に携帯電話の操作を行わない。⑥欠席が事前にわかる場合は届けを出す。⑦当日欠席の場合は電話で連絡後、欠席届を出す。欠席でもレポートを書いて提出する。⑧レポートの提出は期限を守る。	実験レポート（60%）、発表（プレゼンテーション）（20%）、受講態度等（20%）の総合評価。レポートは実験ごとに指定の項目を満たしたものを各自期限内に提出すること。（レポート提出の無い場合は評価しない。）	基本的実験方法を理解する。得られた結果を調理理論や実習に結びつけて考えることができ、担当した結果を発表（プレゼンテーション）を行い、さらに各実験レポート全てを期日までに提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
調理学実習 I	卒業必修	食栄	1年 後学期	実験	1	よねやま 米山 陽子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養士、FS)	特になし	6・7, 9, 15, 16, 17
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
調理学の講義、基礎調理学実習、調理学実験により習得した調理上の知識を用い、基本の調理手法を科学的視野で学ぶ。日本・西洋・中国料理および行事食の特徴、調理材料の組み合わせを学び、食事計画に利用しやすい料理を学ぶ。最終回に実習テスト(復習・確認・実技、個人テスト)を実施し、レポートをまとめる。						各種食品の調理性に基づく調理および調味操作を学び、理論と実習の結びつきを理解する。栄養面、安全面、嗜好面の各種特性を高める食品の加工や調理の方法を理解して習得できるようになる。食材を見て調理方法および適切な調味方法を考案できるできるようになる。各料理様式別の調理、行事食を系統的に実習し、基本の調理手法を科学的に学び自分で献立を立て実習できるように応用力を身につけられるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション・掃除・実習	オリエンテーション、掃除、コーンスープ、マセドアンサラダ、マフィン	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
2	日本料理①揚げ物の調理、天つゆ	ゆかりご飯、天ぷら、天つゆ、赤出し味噌汁	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
3	日本料理②栗・魚の調理、煮物	栗ごはん、いわしのつみれ汁、かぼちゃの煮物	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
4	中国料理①小麦粉、肉、貝、寒天の調理	蛤蜊湯、餃子、杏仁豆腐、白飯、	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
5	中国料理②魚介・揚げ物・ゼラチンの調理	八宝菜、春巻、タピオカゼリー、白飯	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
6	日本料理③寿司飯、卵の調理	ちらし寿司、茶碗蒸し	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
7	西洋料理①魚・ルー、澱粉・牛乳の調理	コンソメジュリエヌ、鮭のバター焼き、白ソース、マッシュポテト、ブラマンジェ	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
8	西洋料理②湿式過熱、バターケーキ	ポークシチュー、ダッチアップルケーキ、グリーンサラダ	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
9	中国料理③点心・焼菜・湯菜、大麦	大麦炒飯、乾焼大蝦、奶湯火腿	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
10	西洋料理③貝類、小麦粉の調理	カキのチャウダー、サラダコンポーゼ、鶏のから揚げ	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
11	正月料理①正月料理について	栗きんとん、錦蒲鉾、お雑煮(田作り)	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
12	正月料理②煮物、酢の物、焼き物	煎鶏、紅白なます、伊達巻、(黒豆)	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
13	正月料理③焼き物、雑穀米、寄せ物	鮭の照り焼き、なめこおろし和え、日の出羹、雑穀米	授業予定部分を教科書「調理学」にて予習してくる	実習ノートをまとめる
14	冷凍食品の利用と実際	外部講師(冷凍食品についての講義と利用法)	冷凍食品についての質問をまとめてくる	実習テストの練習をする
15	実習テスト	実習テスト(復習・確認・実技・レポート)	実習テスト項目を復習、練習し、レポートを書いておく	レポートを提出する

教科書	高橋節子、平尾和子：『新調理学実習・実験－基礎から応用まで－』時事通信社(2016) 日本フードコーディネーター協会編：『フードコーディネーター教本 2017 3級資格 認定試験対応テキスト』柴田書店(2016) 下村道子、和田淑子共編著：『新 調理学』光生館(2015)	参考書資料	(参考書)高橋幸資編：『新 ポケット食品・調理実験辞典』明誠出版(2016) (社)日本フードスペシャリスト協会編：『三訂 食品の官能評価・鑑別演習』建帛社(2014) (資料)必要に応じてプリントを配布する。
------------	--	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①実習の順番を変更する場合がある。②身支度を整え、授業開始前に入室し、実習準備を行う。③貴重品は身につけ、各自で管理する。④授業中に携帯電話の操作を行わない。⑤欠席が事前にわかる場合は届けを出す。⑥当日欠席の場合は電話で連絡後、欠席届を出す。欠席でもノートを書いて提出する。⑦ノート提出は期日を守る。⑧衛生面に注意する。	実習ノート(60%)、実習テスト・レポート(20%)、受講態度等(20%)の総合評価 実習テストの評価は、グループで協力して行い、実習に必ず参加し、レポートを提出した場合に行う。	基本的な調理操作・器具の取り扱い、ならびに食品素材の特徴を理解して調理することができ、実習テストに参加してレポートを提出し指定の項目を満たした全ての回のノートを提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
調理学実習Ⅱ	選択	食栄	2年前学期	実習	1	ひらお かずこ 平尾 和子	単独	食物栄養専攻 (栄養士、FS)	調理学実習Ⅰの単位取得者	6・7,9,12
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
調理学、調理学実習Ⅰにより修得した理論および調理法を用いて、科学的な視野で応用調理を学ぶ。様式別調理から折衷料理、世界の料理への展開を図り、理論に即して効率的に実習を行う。また、日常食から供応料理まで、その特徴、調理材料の組み合わせおよび献立構成等を学ぶ。日常食だけでなく供応食や行事食の食事計画もできるかを確認するため、各々が目的・対象を設定する世界の料理について実習テストを行う。						調理学、基礎調理学実習および調理学実習Ⅰを基礎として、調理・調味操作および器具・食器の選択等について理論的に応用動作を行えるようにする。そのためには、食品の調理性、栄養特性、物性、衛生管理・保存法、官能評価、調理器具・食器、季節感、経済性等との関わりを確実に理解する必要がある。最終的には、科学的な視野に立ち、安全性、嗜好性、栄養性に優れた食事計画および調味操作等が各自でできるようにする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	Tea partyについて、小麦粉の調理	マーブルケーキ、レモンスフレ、ドライフルーツの漬け込み	Tea party について調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。
2	日本料理(1)：塩〆、酢〆	鱈のたたき、黄身酢和え、つみれ汁、田舎蒸しパン	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。
3	日本料理(2)：祝膳、澱粉の調理	赤飯、煮〆、厚焼き卵、わらび餅	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。
4	日本料理(3)：鯉一匹の取り扱い	鯉のたたき、みぞれたたき、すり流し汁、角煮、あら煮	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。
5	スペイン・ポルトガル料理	パエリア、セロリサラダ、ポルボローネ	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。
6	ロシア料理：小麦粉の膨化調理	ピロシキ、ボルシチ、ピクルス	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。
7	中国料理(1)：春餅、烤菜	春餅、鶏絲豆芽、蝦仁炒蛋、韭菜炒肉絲、烤肉、開口笑	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。
8	フランス・中東・北アフリカ料理	オニオングラタンスープ、ピタパン、シャクシュカ、クスクス	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。
9	フージョンフード：巻き寿司、和え物	カルフォルニアロール、沢煮椀、Buffet partyの説明	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。 Buffet partyのレポートを準備する。
10	クリスマス料理(1)：鶏一羽の扱い方	ローストチキン、トマトサラダ、グリドルケーキ	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。
11	クリスマス料理(2)：伊勢海老の調理	伊勢海老、クネルブランケット、X' masプディング、ミンスミートパイ	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。
12	中国料理(2)：澱粉の調理	涼拌粉皮、蝦仁麵包、東坡肉、黒胡麻プディング	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	関連事項を調べ、実習内容と共にノートに書く。
13	中国料理(3)：鯉の扱い方	辣汁青瓜、糖醋鯉魚、桂花西紅柿湯、刀削麵	該当部分の教科書を読み、不明な用語を調べる。	実習内容と関連事項を調べて、ノートに書く。 ノート提出の準備をする。
14	Buffet Partyの大量調理と自由献立実習テスト（半分交代制）	ブイヤベース、鶏のパピヨット、モスコビー、スコーン	Buffet の作り方を読み、すぐに実習ができるようにする。 レポート提出の準備をする。	実習テストとレポート提出の準備をする。
15		世界の料理の実習テスト	実習テストとレポート提出の準備をする。	Buffet の作り方を読み、すぐに実習ができるようにする。 レポート提出の準備をする。

教科書	高橋節子・平尾和子編著：『新調理学実習・実験—基礎から応用まで—』 時事通信社（2016） 高橋幸資編：『増補 ポケット食品・調理実験辞典』 明誠出版（2012）	参考書資料	山崎清子・島田キミエ・渋川祥子・下村道子ら共編著『NEW調理と理論』 同文書院（2011） 必要に応じてプリントを配布する。
------------	--	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①材料発注の都合で授業の順番を変更する場合がある。②爪を短くし、身支度を整える。体調が悪い場合は、事前に担当教員に申し出る。③授業開始前に入室し、実習準備を行う。④貴重品は身につけ、各自で管理する。⑤授業中に携帯電話の操作を行わない。⑥欠席が事前にわかる場合は届を出す。⑦当日欠席の場合は電話で連絡後、欠席届を出す。欠席でもノートを書いて提出する。	ノート(60%)、実習テスト・レポート(30%)、授業態度(10%)の総合評価。実習テストの評価は、各自で献立を立て、実習に必ず参加し、レポート・課題を提出した場合に行う。	調理理論に基づく食品の調理性、調理および調味操作、器具・食器の選択等の知識を理解して実習で発揮することができ、実習テストに参加してレポートを提出し、指定の項目を満たした全ての回のノートを提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
給食管理	選択	食栄	1年前学期	講義	2	なかの 中野	みやこ 都	単独 食物栄養専攻 (栄養士)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
特定多数の人を対象に継続的に食事を提供する給食について、栄養面・生産面・安全面・衛生面・経済面全般を具体的に学ぶ。さらに施設別の給食管理業務について、各種施設の特徴を理解し経営の実際について学ぶ。						特定給食施設における給食管理の目的と栄養士の役割を理解できるようになる。給食の運営や関連する業務について具体的な内容を把握し、給食管理実習Ⅰ・Ⅱの基礎知識を習得することを目標とする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	給食管理の概要	給食の定義、目標、目的	シラバスを讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
2		給食における栄養士の役割、関連法規	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
3	栄養・食事管理	給与栄養目標量の設定・献立作成、栄養管理報告書	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
4	生産管理	食材の流通と購買管理	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
5		調理工程管理	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
6		大量調理の実際・新調理システム	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
7	安全・衛生管理	人・施設・設備機器類・食材料・調理工程の衛生管理	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
8		HACCPに基づく衛生管理、食中毒の現状と予防対策	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
9	施設・設備管理	施設・設備管理の現状と計画、器具類、環境関連設備	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
10	会計・原価管理	原価構成、原価計算	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
11	危機管理	事故対策、災害対策	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
12	各種給食施設の特徴と経営の実際	病院・高齢者介護福祉施設	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
13		学校	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
14		事業所	教科書の該当箇所を讀んでくる。	学習した内容は復習し、確実に理解しておく。
15	給食管理実習室の見学	給食管理実習Ⅰの準備、使用機器の説明	大量調理作業動線について教科書を讀んで確認する。	給食管理実習室における作業の流れを復習する。

教科書	鈴木久乃他編：『健康・栄養科学シリーズ 給食経営管理論 改定第2版』 南江堂（最新版）	参考書資料	香川明夫監修：『七訂食品成分表2017』 女子栄養大学出版部（2017） 適宜資料プリントを配布
------------	---	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 項目ごとの確認小テストを行う。 食品成分表と電卓を持参する。 授業中の携帯電話の使用及び、私語は禁止する。 	定期試験（50%） 受講態度（30%） 確認小テスト（20%）	給食の実際と用語等に関する基本的事項について理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
給食管理実習 I	選択	食栄	1年 後学期	実習	1	なかの 中野	みやこ 都	単独 食物栄養専攻 (栄養士)	給食管理単位取得者	6・7,9,15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
「給食管理」で学んだ栄養・食事管理、生産管理、安全・衛生管理、施設・設備管理、会計管理、情報処理管理、危機管理を踏まえ、給食業務を円滑・安全に行うための運営法を校内で行う。クラスを4グループに分け、1グループ3回の実習の中で業務をローテーションし、PDCAサイクルに基づき業務全体を学ぶ。						本科目を通じて、給食管理の基本的な考え方や運営の方法を学び、計画・実施・評価・改善のPDCAサイクルで実習を進めながら、給食管理実習Ⅱ（学外実習）につながる総合的な運営管理能力を習得することを目標とする。また、小松菜等の伝統的地場産物を利用したメニューの開発を目指し、地産地消の意義を理解するとともに地域との繋がりを深めることができるようにする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	実習ガイダンス	給食の概念、実習における注意事項伝達	シラバスを読んでもくる。	給食の概念について復習する。
2		給食管理実習室の機器・器具の取り扱い方及び原価計算について	給食管理で使用した教科書の要点を読んでもくる。	資料プリントを見直し、給食提供の流れを復習する。
3	集団給食実習の実際(1)	P 栄養・食事計画（プレ実習を含む）	夏休みの課題を見直しておく。	本実習に活用する書類を完成させる。
4		D 本実習（生産・配食・提供）	実習内容を十分に把握して実習に臨む。	本実習の内容を振り返る。
5		C 評価（残食量確認、アンケート集計、実習レポート作成）	実習レポートの項目に沿って、考えをまとめておく。	レポートを完成させる。
6		A 改善（計画の見直し） P 栄養・食事計画	次回の実習に向け、改善点をまとめておく。	計画・実施・評価・改善の流れを振り返る。
7	会計・原価管理	食券の作り方（原価構成、原価計算）	教科書の該当箇所を読み、前期の復習を行う。	学習した内容は復習し、原価計算を確実にできるようにしておく。
8	集団給食実習の実際(2) 小松菜等の伝統的地場産物の活用	P 栄養・食事計画（プレ実習を含む）	現時点での予定献立を見直しておく。	本実習に活用する書類を完成させる。
9		D 本実習（生産・配食・提供）	実習内容を十分に把握して実習に臨む。	1回目の実習と併せて、本実習の内容を振り返る。
10		C 評価（残食量確認、アンケート集計、実習レポート作成）	実習レポートの項目に沿って、考えをまとめておく。	レポートを完成させる。
11		A 改善（計画の見直し） P 栄養・食事計画	次回の実習に向け、改善点をまとめておく。	計画・実施・評価・改善の流れを振り返る。
12	集団給食実習の実際(3)	P 栄養・食事計画（プレ実習を含む）	現時点での予定献立を見直しておく。	本実習に活用する書類を完成させる。
13		D 本実習（生産・配食・提供）	実習内容を十分に把握して実習に臨む。	1、2回目の実習と併せて、本実習の内容を振り返る。
14		C 評価（残食量確認、アンケート集計、実習レポート作成）	実習レポートの項目に沿って、考えをまとめておく。	レポートを完成させる。
15		A 改善（計画の見直し） P 栄養・食事計画	次回の実習に向け、改善点をまとめておく。	3回の実習サイクルから、給食の運営に関する一連の流れを振り返る。

教科書	鈴木久乃他編：『健康・栄養科学シリーズ 給食経営管理論 改定第2版』 南江堂（最新版）	参考書 資料	香川明夫監修：『七訂食品成分表2017』 女子栄養大学出版部（2017） 適宜資料プリント配布
------------	---	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・実習は爪を短くし、実習着・帽子・靴などの身支度を整える。 ・実習はグループでの作業中心に進めるため、互いにコミュニケーションをとることも重点をおく。 ・実習レポートは各項目について記入し提出期限は厳守する。 ・全12回分の振り返りについては、栄養管理報告書も含めて「栄養指導論Ⅰ」の中で扱う。 	受講態度 (40%) 実習レポート (30%) 調理技術 (30%)	大量調理において一定の調理能力とコミュニケーション能力を有し、役割分担作業を的確に遂行し、給食の運営に関する一連の流れを理解し、実践できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
給食管理実習Ⅱ	選択	食栄	2年 後学期	実習	1	なかの 中野	みやこ 都	単独 食物栄養専攻 (栄養士)	栄養士課程履修規程第5条に記載のとおり	17
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
病院・学校・事業所などの特定給食施設の中から各自1施設を選択し、40時間の学外実習を行い、給食運営及び栄養士業務の実際について学ぶ。学内においては学外実習の効果が上がるように事前指導を行い、実習後は指導担当者、教員一同、食物栄養専攻1年生参加の実習報告会を開催し、学外内からの講評を得る。						特定給食施設における実践を学び、給食管理業務に必要な食事の計画、衛生管理を含めた調理の実際、給食サービスの提供に関する知識・技術を修得することを目標とする。また、今までに本学で学んだ専門知識・技術を特定給食施設の栄養士業務に適用して、栄養士の役割、専門性を理解し、卒業後の職業実践に活かすことができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	学外実習の概要	実習目的・評価方法・各実習施設の説明	シラバスを讀んでくる。	実習の目的・評価方法・各実習施設について復習する。
2	学外実習の心得	校内オリエンテーション(実習態度、服装・身だしなみ、持ち物、注意事項、課題、自己紹介書、実習テーマ等の説明)	各実習施設の特徴について調べてくる。	オリエンテーションの内容を確認する。
3	学外実習事前指導	事前指導①(給食運営に必要な知識の確認、細菌検査、実習グループ決定、マナーについて、実習ノート説明、自己紹介書作成)	実習テーマについて予備知識を得る。	自己紹介書を完成させる。
4		事前指導②(実習先に応じた理解、個人及び班別実習テーマの検討、課題作成)	給食管理実習Ⅰでうまくいかなかった点や疑問に思っている点をまとめておく。	テーマに関連する社会の動きを捉える。
5	実習ガイダンス(校内)	実習施設別に実施	各実習施設の給食業務について調べてくる。	ガイダンス内容を実習ノートにまとめる。
6	実習施設別オリエンテーション	実習施設別に実施	実習に活用する書類を完成させる。	課題について取り組む。
7	学外実習 各実習施設における40時間の実習 (給食運営の基本業務)	栄養管理・食事管理(献立作成)	献立作成等の課題を完成させる。	栄養管理・食事管理について復習し、理解しておく。
8		生産管理(大量調理の実際)	包丁の使い方など調理技術向上に努めておく。	各実習施設の大量調理工程について復習し、理解しておく。
9		衛生管理	衛生管理について実践できるようにしておく。	各実習施設の衛生管理について復習し、理解しておく。
10		会計管理	原価計算方法を復習しておく。	各実習施設の会計管理について復習し、理解しておく。
11		栄養教育、栄養指導	栄養教育、栄養指導についての課題を完成させる。	各実習施設の栄養教育、栄養指導について復習し、理解しておく。
12		栄養士業務について	栄養士業務内容をまとめておく。	各実習施設の栄養士業務について復習する。
13	学外実習事後指導	事後指導①(御礼状作成、実習ノート完成)	各実習施設で学んだことをまとめておく。	給食の運営に関する一連の流れを振り返る。
14		事後指導②(実習報告会プレゼンテーション準備)	実習の背景、目的、内容、考察、まとめを考えてくる。	実習報告会に向けて発表の練習をする。
15	実習報告会(指導担当者招聘)	実習施設別の報告及び講評、反省会	実習の背景、目的、内容、考察、まとめを確実に報告できるように準備してくる。	他の実習班の報告内容を確認する。

教科書	鈴木久乃他編：『健康・栄養科学シリーズ 給食経営管理論 改定第2版』 南江堂 (2012)	参考書 資料	香川芳子監修：『七訂食品成分表2016』 女子栄養大学出版部 (2016) 適宜資料プリント配布
------------	---	-------------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・実習先では社会人としての意識をもって担当指導者の指示に従い、行動にも責任をもつ。 ・実習中は爪を短くし、髪の毛、実習着、靴などは担当指導者の指示に従う。 ・実習ガイダンス欠席者、必要提出物未提出者は原則として実習資格を与えない。 ・報告会の振り返りについては、「栄養指導論Ⅱ」で扱う。 	実習先の評価(30%)、実習レポート(35%)、報告会(15%)、実習参加態度(20%)の総合評価。	栄養士業務を理解し、学外実習および報告会に積極的に取り組めれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
献立作成論	選択	食栄	1年前学期	講義	2	おだしま 祐美子 小田島 祐美子	単独 食物栄養専攻科目 (栄養士)	特になし	14, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
栄養士業務の1つに献立作成があり、対象者の特性や生活状況、身体状況に合わせた食事計画と給食の提供が求められる。本授業では、献立作成に関する基礎理論について学習し、献立作成の演習、栄養価計算及び評価について学ぶ。発注業務や原価計算についても取り上げる。						以下3点を到達目標とし、後期以降の実習に備えるとともに、自身の食生活に結び付けてQOLの向上を図る。 1. 食品と栄養のつながりを理解できるようになる。 2. 一人分の食品重量と調味料の割合を把握し、主食、(汁物)、主菜、副菜の揃った献立作成ができるようになる。 3. 作成した献立について栄養価計算および評価、発注書作成、原価計算ができるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	栄養士とは、献立とは	シラバスを読んでくる。	献立について復習する。
2	食品成分表の要点と使い方	栄養素の項目、食品の選び方、廃棄率、重量変化率、栄養計算方法	食品成分表を見てくる。	廃棄率、重量変化率、栄養計算方法を復習する。
3	栄養価計算	食品成分表を使った栄養価計算	食品成分表には、どんな栄養成分があるか見てみる。	課題献立の栄養価計算を完成させる。
4	食品構成表	作成方法と献立作成への活用	課題献立の食品群について考える。	食品構成表に関して復習する。
5	食品の重量把握	身近な食品の重量(目安量)について	家庭にある身近な食品の重さを量ってみる。	食品の重量について復習する。
6	食事区分の重量の目安	主食、汁物、主菜、副菜、デザートのパーションサイズ	普段の食事の主食、主菜、副菜の重さを量ってみる。	食事区分の重量の目安について復習する。
7	調味料の割合	調味料の割合(だし汁、塩分・糖分、寒天・ゼラチンの濃度、吸油率等)	課題献立の調味料に印を付けてみる。	調味料の割合について復習する。
8	献立の評価	目標量に対する比率、エネルギー産生栄養素バランス等	課題献立の栄養価計算と目標量とを比較してみる。	エネルギー産生栄養素について復習する。
9	料理の組み合わせ	献立作成のポイント	献立作成のポイントについて気付く項目を考えてみる。	献立作成のポイントについて復習する。
10	献立作成の実際	献立作成演習	献立立案をする。	作成した献立を完成させる。
11		栄養計算	作成した献立の栄養価計算をし、問題点を抽出する。	作成した献立の栄養価計算をする。
12		栄養計算	作成した献立の栄養価計算をし、変更点を考える。	作成した献立の栄養価計算を完成させる。
13		献立評価	学んだ献立作成のポイントを満たしているか見直す。	献立評価に対して献立の変更を行う。
14		総購入量と原価計算	市販食品の価格について、調べてみる。	総購入量と原価計算書を完成させる。
15	全体のまとめ	全体の振り返り	作成した献立について振り返る。	献立作成全体について復習し、後期以降の実習に備える。

教科書	香川明夫監修：『七訂食品成分表2017』 女子栄養大学出版社 (2017)	参考書資料	授業内に適宜指示、プリントを配付
-----	---------------------------------------	-------	------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず欠席した場合は、次回までに連絡事項や提出物について聞きに来ること。 ・体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、携帯電話使用禁止。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 ・毎回電卓を持参する。 	定期試験(60%) 課題(30%) 受講態度(10%)	基本的な献立作成と栄養計算、評価ができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
食文化論	選択 教職必修	食栄	2年 前学期	講義	2	たけうち 竹内	ゆきこ 由紀子	単独	食物栄養専攻科目 (栄養教諭・FC)	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
人類が積み上げ、作り上げてきた現代の食生活。その意味・意義を理解するためには、食文化の歴史、地域によって異なる食文化の違いと気候風土、伝統などとの深い結びつきについて理解をしておく必要がある。食文化の歴史、地域による食文化の多様性について多面的に学び、食生活の理解、人間生活の理解を深める。						食文化についての基礎的な知識を身に付け、これを実生活に活用し、食生活を豊かにすることができる。本学栄養教諭養成の理念・構想にあるように、食生活の背景に食文化があることを理解した食育が実践できる。現代日本で「食育」や「和食」が重視されるようになった意味を理解できる。こうした理解を基に、本学教員養成の理念である、いかなる時代にあっても一人の人間として自立した精神を持つことの重要性を子どもたちに教え広めることができる栄養教諭を目指す。					

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	「食文化」とは 食育における意味	食育における食文化の意味を学び、この授業で学ぶ内容を概説する	「食育」「食文化」について、自分なりの考えをまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
2	人類文化としての食文化	人類が発展させてきた食料獲得法の歴史を概観する	大雑把に世界地図を頭に入れておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
3	日本食文化の歴史(1)	先史～古代の食文化を学ぶ	高校日本史の教科書で縄文～平安時代までを確認して、どのような時代だったか理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
4	日本食文化の歴史(2)	中世の食文化を学ぶ	高校日本史の教科書で鎌倉・室町時代までを確認して、どのような時代だったか理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
5	日本食文化の歴史(3)	近世の食文化を学ぶ	高校日本史の教科書で江戸時代がどのような時代だったかを確認し、理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
6	日本食文化の歴史(4)	近現代の食文化を学ぶ(日本における西洋料理も含む)	高校日本史の教科書で明治時代～現代までにどのような変遷があったかを確認し、理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
7	「和食」と日本の伝統文化	「和食」のユネスコ無形文化遺産登録について学び、日本料理を理解する上で必要な伝統文化(暦・年中行事など)を学ぶ	自分の知っている行事食を挙げてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
8	和菓子の歴史	和菓子の歴史について学ぶ	自分の知っている和菓子にはどのようなものがあるか挙げてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
9	中国食文化の歴史	中国食文化の歴史を学ぶ	高校世界史の教科書で中国の歴史を確認し、理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
10	中国料理の特徴	中国料理の特徴、各地域の料理の特徴などを学ぶ	自分の知っている中国料理についてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
11	ヨーロッパ食文化の歴史	ヨーロッパの食文化史を学ぶ(パンの歴史を含む)	高校世界史の教科書でヨーロッパの歴史を確認し、理解しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
12	西洋料理の特徴	西洋料理の特徴を学ぶ	自分の知っている西洋料理についてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
13	洋菓子の歴史	洋菓子の歴史を学ぶ	自分の知っている洋菓子にはどのようなものがあるか挙げてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
14	世界各地の食文化	世界各地の食文化を学ぶ	自分の知っているエスニック料理にはどのようなものがあるか挙げてまとめておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。
15	まとめ	本科目において学んだことを概観し、確認する	授業で取り上げた話題について質問を考えて整理しておく。	授業で学んだことを復習し、ノート・プリントを整理しておく。

教科書	日本フードコーディネーター協会編：『フードコーディネーター教本2017：3級資格認定試験対応テキスト』柴田書店(2016)	参考書資料	授業時に指示する。
------------	---	--------------	-----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 私語厳禁。 携帯電話使用厳禁。 授業内に小レポートを実施する。 	受講態度・取組み姿勢(10%) 小レポート(10%) 定期試験(80%)	授業態度が良く、小レポートで授業の省察ができ、定期試験では、食文化についての基本的な用語、考え方、大まかな歴史の流れが理解できていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
学校栄養教育論	選択 教職必修	食栄	2年 前学期	講義	2	かんだ 神田	せいこ 聖子	単独 食物栄養専攻科目	教職課程履修者	12
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
栄養に係わる教育に関する科目						・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・幼児、児童及び生徒の栄養に係わる課題に関する事項 ・食生活に関する歴史及び文化的事項 ・食に係わる指導の方法に関する事項				
授業の概要						授業の到達目標				
栄養教諭の役割と具体的な職務内容について学んだ上で、学校給食と食に関する指導の実際について理解を深める。近年の児童・生徒の食生活の実態を把握し、問題を分析し、望ましい食習慣の形成に向けた解決策を考える。食物アレルギーに関しては現職の栄養教諭による講義を受講し、より専門的な知識と対応法を学ぶ。						教育実習に備えるとともに、本学の栄養教諭教員理念である「食べる喜び・楽しさ」「食べ物を大切にする心」啓発でき、個別対応ができるようになる栄養教諭を目指す。 1. 学校における食育の重要性及び学校給食の管理を司る栄養教諭の役割と職務内容を説明できるようになる。 2. アレルギーに関する知識とアレルギー体質の児童・生徒への対応法がわかるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	栄養教諭制度と役割	栄養教諭制度、栄養教諭の役割と職務内容、栄養関連法規、諸制度	教科書の該当ページを読む	栄養教諭履修生としての自覚をもつ
2	学校給食、栄養教諭の位置づけ	学校給食の教育的意義と役割、学校組織と栄養教諭の位置づけ	教科書の該当ページを読む	実習校の学校給食目標、給食だよりを確認する
3	学校給食の歴史と食文化の変遷	学校給食の歴史、日本人の食生活と学校給食、地場産物の活用と郷土食	教科書の該当ページを読む、居住地の地場産物を調べる	実習校の献立表を確認する
4	子どもの発達と食生活	体位と健康、栄養素等摂取量、食生活、食習慣と心の健康	教科書の該当ページを読む	自分の生活と照らし合わせて復習する
5	学校教育活動における食に関する指導	全体計画と展開、児童生徒の実態の把握(1)	教科書の該当ページを読む	要点を捉えて復習する
6		児童生徒の実態の把握(2)	実態把握のためのアンケート項目を考える	実態と指導内容の関連を復習する
7		給食の時間	教科書の該当ページを読む	給食時間に行なう有効性をまとめておく
8		発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材	教科書の該当ページを読む、興味のある「たのしい食事つながる食育」を確認する	「たのしい食事つながる食育」を再度見直す
9		家庭科、技術・家庭	教科書の該当ページを読む	要点を捉えて復習する
10		体育及び保健体育	教科書の該当ページを読む	要点を捉えて復習する
11		道徳、特別活動、生活科	教科書の該当ページを読む	要点を捉えて復習する
12		総合学習、その他	教科書の該当ページを読む	要点を捉えて復習する
13		現職の栄養教諭によるアレルギーに関する講義（原因、症状、対応法）	教科書の該当ページを読む	レポートを完成させる
14		個別栄養相談指導（肥満、やせ、貧血、スポーツ栄養）	教科書の該当ページを読む	個別指導の重要性について理解を深める
15	家庭・地域との連携	ネットワーク例、連携の手順、地産地消を進めるための連携	教科書の該当ページを読む	要点を捉えて復習する

教科書	金田雅代編：『三訂 栄養教諭論 理論と実際』第3版 建帛社（2017）	文部科学省：『小学校学習指導要領』東京書籍（2008告示 最新版）
	文部科学省：『食に関する指導の手引き 第一次改訂版』東山書房（2010）	文部科学省：『中学校学習指導要領』東山書房（2008告示 最新版）

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
1. 授業中の携帯電話操作を禁ずる（電卓、検索機能及び記録のための撮影機能としても不可）。 2. 欠席をした際は、次回までに内容をみなおしておく。 3. 授業終了時に毎回、振り返りシートを記入する。	定期試験(70%)、受講態度(30%)の総合評価。	栄養教諭の役割及び食に関する指導の重要性を理解し、児童・生徒の望ましい食習慣の形成について自分なりの考えがもてれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
基礎化学演習	卒業必修	食栄	1年前学期	演習	1	なかだ 仲田	えいこ 瑛子	単独	食物栄養専攻科目	特になし	5, 9, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
食品学Ⅰ、栄養学Ⅰ等の科目の理解に必要な基礎的な事項を演習形式で学習する。また、食品学実験Ⅰ、食品衛生学実験、解剖生理学実験、生化学実験を行う上で必要な実験器具の取り扱い、試薬の調製方法の基礎についても学習する。						実験に必要な器具の使用法や操作方法など基礎的な実験技術を習得する。自然界に存在する元素や化学物質の構成成分・性質などを理解すること、パーセント濃度とモル濃度を理解し、試薬の調製ができるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	物質の構成成分	原子、分子、イオン	シラバスを讀んでくる	原子の構造、分子、イオンについて復習する
2		共有結合、イオン結合、金属結合	配布プリントを讀んでくる	原子の結合について復習する
3		有機化合物	配布プリントを讀んでくる	有機物の構造について復習する
4	原子、分子、イオンの重さ	モル数	配布プリントを讀んでくる	モル数・モル計算について復習する
5	物質の三態	物質の三態（固体、液体、気体）、コロイド溶液の特徴	配布プリントを讀んでくる	物質の三態・コロイドの性質について復習する
6	濃度について	重量と容量、パーセント濃度、モル濃度、規定濃度	配布プリントを讀んでくる	濃度に関して復習する
7	pH、中和、酸化還元	水素イオン濃度、中和反応、酸化還元反応	配布プリントを讀んでくる	pH、中和、酸化還元について復習する
8	実験に関する諸注意	実験における注意点、実験器具の取り扱い	配布プリントを讀んでくる	実験器具の名称・実験の注意点について復習する
9	天秤の取り扱い	天秤の種類と精度、有効数字	配布プリントを讀んでくる	有効数字について復習する
10	試薬の調製	試薬の調製(1)	配布プリントを讀んでくる	モル濃度について復習する
11		試薬の調製(2)	配布プリントを讀んでくる	試薬の取り扱いについて復習する
12	中和滴定	中和滴定(1)	配布プリントを讀んでくる	中和滴定について復習する
13		中和滴定(2)	配布プリントを讀んでくる	中和について復習する
14	実験レポートの書き方	実験レポートの構成	配布プリントを讀んでくる	レポートを作成する
15		結果のまとめ方、グラフの書き方	配布プリントを讀んでくる	レポートを作成・提出する

教科書	プリントを配布する	参考書資料	松井徳光他著：『わかる化学 知っておきたい食とくらしの基礎知識』 化学同人（最新版）
------------	-----------	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 小テストを行う。合格点（60点）に満たない場合は各自で申し出て再テストを受ける必要がある。 実験レポートを課す。（15回中1回） 電卓を持参する。実験を行う際は白衣を着用し、長い髪はまとめ、アクセサリ類は全て外す。 私語・携帯使用・飲食は禁ずる。（授業態度の評価に加味する） 授業内容を全体の理解度に応じて変更することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験(40%) レポート・小テスト(50%) 取り組み姿勢(10%) 	物質の構造を理解し、濃度の計算方法を修得し、正しい実験操作方が身につく、実験レポートの作成が適切にできれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
食品学実験Ⅱ (食品加工学実習を含む)	選択	食米	2年 後学期	実習	1	みつほし 三星	さおり 沙織	単独 食物栄養専攻科目	特になし	6・7,9,12
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
前半は、食品学Ⅰ・Ⅱ等で学んだ内容を基に、各食品中の成分や特徴を利用した食品の加工・保存等の実習を製造原理に基づき行う。製造した製品については市販品と比較して官能評価を行い、品質等を評価して考察する。 後半は、各自または各グループで一つの食品に焦点を絞り、販売を想定した製品開発に取り組む。開発は、計画・実施・評価・改善のPDCAサイクルを意識して進める。最終的に完成した製品についてプレゼンテーションを行う。						<ul style="list-style-type: none"> 各種食品の成分や特徴を理解して、食品の加工や保存ができるようになる。 本科目で取り上げた加工食品の製造原理が説明できるようになる。 これまでに学んだ食品に関する知識と技術を活用して製品を開発することができるようになる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、味噌の仕込み	授業の概要、シラバスの説明、味噌	シラバスを読んでくる。味噌の製造原理と手順を確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
2	乳の加工(1)	ヨーグルト、カッテージチーズ、バター、乳酸飲料	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
3	果物の加工と保存(1)、びん詰	ジャム(びん詰)	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
4	穀類の加工(1)	パン	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
5	畜肉の加工	ソーセージ	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
6	豆類の加工(1)	納豆、豆腐、おからドーナツ	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
7	いも類の加工、種実類の加工	こんにゃく、ピーナッツクリーム	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
8	果物の加工と保存(2)、缶詰	果物のシラップ漬け(缶詰)、ピーナッツタフィ	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
9	穀類の加工(2)	うどん・中華めん	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
10	豆類の加工(2)	小豆あん、天草寒天	該当する内容の製造原理・手順を教科書で確認してくる。	実習を振り返り、指定した内容のレポートをまとめる。
11	製品開発	調査、企画、製品コンセプトの決定、準備	開発したい製品について事前調査をしてくる。	企画内容、試作に必要なものをまとめ、提出する。
12		製品の試作、問題点の改善	試作手順について確認してくる。	試作を振り返り、問題点の改善法を考案して提出する。
13			試作手順について確認してくる。	試作を振り返り、問題点の改善法を考案して提出する。
14		レシピの決定、パッケージデザインの検討と決定	最終手順の確認とパッケージの事前調査をしてくる。	今回の開発について全体を振り返り、発表内容をまとめる。
15	成果発表(プレゼンテーション)	開発した製品についての成果発表	発表内容の確認と準備をしてくる。	他班の発表に対する感想とコメントをまとめて提出する。

教科書	谷口亜樹子編著：『食品加工学と実習・実験 第2版』 光生館 (2016)	参考書 資料	参考書：高橋幸資、山辺重雄編著：『新ポケット食品・調理実験辞典』 幸書房 (2016) 資料：必要に応じてプリントを配布する。
------------	--------------------------------------	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①材料発注の都合で授業の順番を変更する場合がある。 ②調理ができる身支度を整えて、入室すること。貴重品は各自で管理すること。 ③欠席が事前にわかる場合は欠席届を出し、当日欠席の場合は電話で連絡すること。 ④前半では、フードスペシャリスト認定試験の食物学分野の復習も兼ねた内容を扱う。	課題・レポート(60%)、成果発表(20%)、受講態度(20%)の総合評価。	食品の成分や特徴を理解して製造原理が説明できるとともに、適切な加工操作や保存操作を行うことができ、成果をまとめた発表を行って、全てのレポート・課題を提出すれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
食品の官能評価・鑑別論	選択	食米	2年後学期	講義	2	ひらお かずこ 平尾 和子	単独	食物栄養専攻科目 (FS)	特になし	12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
おいしく安全で栄養性のある食品を選択または提供するためには、食品についての深い知識と品質を見抜く能力、保存法を理解する能力が必要である。本授業では食品の品質を主観的、客観的に評価・鑑別する方法を理論的に学ぶ。主観的評価法では官能評価の知識を理解と実際の利用法を、客観的評価法では化学的、物理的品質評価法の具体的手法を理解する。食品鑑別法では、各食品の種類、原産地、製造法、表示法、保存法等を解説する。						食品の品質は、安全性、栄養性、嗜好性、機能性、商品性などを基準として総合的に評価される。本授業では、食品の品質評価法としての官能評価法、化学的評価法、物理的評価法等を理解し、食品の性質や鮮度を正しく評価する能力を磨く。また個別食品の鑑別や品質表示について学び、栄養学、食品学、調理学の知識も含めた食品の知識を深め、実生活の中で食品の選択法および保存法を実践できるようにする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	食品の品質、官能評価の目的と意義	食品の品質、官能評価の目的と意義、官能評価の問題点	教科書p. 1～5を読んで予習する。	官能評価の問題点についてまとめる。
2	官能評価の基本と実施法	パネルの構成・選定、手法の選択	教科書p. 5～30を読んで予習する。	官能評価のパネルと手法の選択についてまとめる。
3	食品の化学的評価法	水分活性、外観、色と品質、褐変	教科書p. 31～50を読んで予習する。	食品の化学的評価法についてまとめる。
4		糖度と酸度、魚の鮮度、油脂	教科書p. 50～58を読んで予習する。	食品の化学的評価法についてまとめる。
5	食品の物理的評価法	食品の状態	教科書p. 59～63を読んで予習する。	食品の化学的評価法についてまとめる。
6		レオロジーとテクスチャー、非破壊的評価	教科書p. 64～85を読んで予習する。	食品の物理的評価法についてまとめる。
7	個別食品の鑑別(1)	米、麦類	教科書p. 87～102を読んで予習する。	食品の物理的評価法についてまとめる。
8	個別食品の鑑別(2)	トウモロコシ、雑穀類、イモ類、豆類、種実類	教科書p. 102～118を読んで予習する。	授業で学んだ食材の選択法や保存法を実践する。
9	個別食品の鑑別(3)	野菜類・キノコ類、果実類、海藻類	教科書p. 118～138を読んで予習する。	授業で学んだ食材の選択法や保存法を実践する。
10	個別食品の鑑別(4)	魚介類、肉類、卵とその加工品	教科書p. 139～168を読んで予習する。	授業で学んだ食材の選択法や保存法を実践する。
11	個別食品の鑑別(5)	乳と乳製品、油脂、菓子類	教科書p. 168～187を読んで予習する。	授業で学んだ食材の選択法や保存法を実践する。
12	個別食品の鑑別(6)	酒類、茶類、コーヒー、ココア、清涼飲料、醸造食品、調味料	教科書p. 187～221を読んで予習する。	授業で学んだ食材の選択法や保存法を実践する。
13	個別食品の鑑別(7)	香辛料、インスタント食品、冷凍食品、弁当、機能性食品	教科書p. 222～243を読んで予習する。	課題発表の準備を行う。
14	課題の発表(1)	課題のプレゼンテーション(1)	担当部分を説明するための準備を行う。	課題発表の準備を行う。
15	課題の発表(2)	課題のプレゼンテーション(2)	担当部分を説明するための準備を行う。	定期試験の準備を行う。

教科書	(社)日本フードスペシャリスト協会編：『三訂 食品の官能評価・鑑別演習』 建帛社 (2012) 必要に応じてプリントを配布する。	参考書 資料	(社)日本フードスペシャリスト協会編：『調理学』 建帛社 (2015) 高橋節子、平尾和子編著：『新調理学実習・実験－基礎から応用まで－』 時事通信社 (2016)
------------	---	-------------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①授業進行上、講義項目の順番を変更する場合がある。 ②授業中、私語や携帯電話の操作を禁じる。 ③毎回の小テストは各自の知識の定着度を確認するために行うので、必ず参加する。 ④官能評価、その他の演習の一部は、調理学実験で行う。	定期試験(75%)、プレゼンテーション(15%)、授業態度(小テスト参加・授業参加状況等)(10%)の総合評価。	食品の品質表示、官能評価法、化学的品質評価法、物理的品質評価法および食品鑑別法の基本的概念が理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
フードスペシャリスト論	選択	食栄	1年前学期	講義	2	みつほ 三星	さおり 沙織	単独	食物栄養専攻科目 (FS)	特になし	4, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
<p>フードスペシャリストは食品の開発・流通から消費までの分野を担う専門職である。フードスペシャリストの意義と責務および概要（食品の開発調査、官能評価、鑑別、顧客に対する情報提供、販売促進、供食時の快適な食事のコーディネート、食育活動）について学習する。</p>						<ul style="list-style-type: none"> ・フードスペシャリストの概念、専門性の意義と活躍分野、責務が理解できるようになる。 ・食に関する歴史的背景から現代の食生活、食品産業の役割、消費者保護等のフードスペシャリストとして必要な基本的知識が理解できようになる。 					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	フードスペシャリストとは	食の専門職の成立と現状、フードスペシャリストの概念・業務と専門性	シラバスを読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
2		フードスペシャリストの養成と資格・活躍分野・責務	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
3	人類と食物	人類の歩みと食物、食品加工・保存技術史	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
4	世界の食	食作法・禁忌・忌避、世界各地の食事情	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
5	日本の食	日本食物史	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
6		食の地域差	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
7	現代日本の食生活	戦後の食生活の変化、食生活の現状と消費生活、食生活の変化と食産業	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
8		食料の供給と食料自給率、環境と食	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
9	食品産業の役割	フードシステムと食産業、食品製造業の規格と動向・目的と特徴	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
10		食品卸売業、食品小売業、外食産業	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
11	食品の品質規格と表示	食品の品質規格、表示にかかわる法律、食品表示法による表示	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
12		健康や栄養に関する表示制度、その他の法律による表示、コーデックスの規格	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
13	食情報と消費者保護	食情報の発信と受容・濫用	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
14		食品情報の管理、食品の安全、消費者保護の制度	内容に相当する部分の教科書を読んでくる。	教科書、配布プリントを参考にしながら授業内容を整理する。
15	学外研修	ファベックス（食の専門展）における研修、課題作成・提出	食に関する問題になっていることなどを調べておく。	研修を通して学んだことを振り返る。

教科書	(社) 日本フードスペシャリスト協会：『四訂 フードスペシャリスト論』(第4版) 建帛社 (2017)	参考書資料	(社) 日本フードスペシャリスト協会編：『フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』 建帛社 (2016) 資料は必要に応じて配布する
------------	---	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・私語・携帯電話の使用・飲食は禁止。 ・展示会開催日時により授業の順番が変更になる。 ・各テーマの区切りごとに認定試験の過去問題を用いた小テストを実施する。 	定期試験(55%)、小テスト(25%)、課題(10%)、受講態度(10%)の総合評価。	積極的に授業に取り組み、フードスペシャリストの専門性と責務、必要とされる基本的知識について理解していると判断でき、学外研修に参加して課題を提出できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
フードコーディネート論	選択	食栄	2年 後学期	講義	2	たけうち 竹内	ゆきこ 由紀子	単独 食物栄養専攻科目 (FS)	食文化論の履修が望ましい	1, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
食のアメニティを創造するフードコーディネートの知識は広範である。具体的には、メニュープランニング、テーブルウェアと食卓の演出、食卓のサービスとマナー、食空間のコーディネート、フードマネジメント、フードコーディネートの情報など、さまざまな知識を学ぶ。						フードスペシャリスト養成課程の必修科目である。「栄養がある」「おいしい」「安全」が提供できるだけでなく、快適に飲食ができるよう食空間をコーディネートするための基礎的概念を理解できるようになる。こうした「食のアメニティの創造」のための知識を応用し、実際の飲食業営業のシミュレーションができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	フードコーディネートの基本理念	おいしさの本質、おいしさとフードコーディネート	教科書の1章を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
2	食事の文化	食事とは、食のタブーと宗教	教科書の2章1～2節を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
3		日本の食事の歴史	教科書の2章3節を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
4		特別な日の食事、外国の食事	教科書の2章4～5節を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
5	食卓のコーディネート	テーブルコーディネートの要点、日本料理の食卓のコーディネート	教科書の3章1～2節を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
6		中国料理の食卓のコーディネート、西洋料理の食卓のコーディネート	教科書の3章3～4節を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
7	食卓のサービスとマナー	サービスとマナーの基本、日本料理のサービスとマナー	教科書の4章1～2節を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
8		中国料理のサービスとマナー、西洋料理のサービスとマナー	教科書の4章3～6節を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
9	メニュープランニング	メニュープランニングの要件、料理様式とメニュー開発の基礎	教科書の5章を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
10	食空間のコーディネート	店舗・食事空間・キッチンの食空間コーディネート	教科書の6章を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
11	フードサービスマネジメント	フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本	教科書の7章1～3節を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
12		投資計画の作成、収支計画の作成、損益分岐点売上げ高	教科書の7章4～6節を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
13	食企画の実践コーディネート	食企画の基本、食企画の基礎スキル、食企画の実践現場	教科書の8章を読んで、わからないことがあれば調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
14	食器の文化	食器の素材、食器の歴史、食器の多様性	自分が使用している食器について、種類や用途、素材について調べておく。	授業で学んだことを復習しておく。
15	まとめ	本科目において学んだことを概観し、確認する	授業で取り上げた話題について質問を考えて整理しておく。	授業で学んだことを復習しておく。

教科書	(社)日本フードスペシャリスト協会編：『三訂フードコーディネート論』 建帛社 (2012年)	参考書資料	授業時に指示する
------------	--	--------------	----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 初回授業までに必ず教科書を購入し、持参すること。 私語厳禁・携帯電話使用厳禁 授業内に小レポートを毎回、小テストを数回実施する。 授業は教科書やプリントのほか、映像も活用して進めていく。 	受講態度・取組み姿勢(10%) 小レポート・小テスト(10%) 定期試験(80%)	快適な食空間をコーディネートするためのさまざまな食に関する領域があることを理解し、それに関しての基本的な知識を習得し、食空間をコーディネートすることがイメージできていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
フードマーケティング論	選択	食栄	2年前学期	講義	2	えぎ 江木	のぶこ 伸子	単独	食物栄養専攻科目 (FS)	特になし	13, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
現在の多様化した食生活に対応する食品の流通と消費について学ぶ。小テストによりPDCAサイクルを活用する。						本授業の大きな目標は、わが国の食品の消費と流通の実態を理解し、より良い食品を選択できるようになる。さらには食の専門家として、より良い食生活を提案できるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	食市場の変化(1)	食生活を支える食市場	シラバスを読んでくる	プリントをまとめる
2	食市場の変化(2)	食品消費の変化	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
3	食市場の変化(3)	生活の多様化	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
4	食品の流通(1)	食品の卸売流通	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
5	食品の流通(2)	食品の小売流通	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
6	外食・中食産業(1)	外食産業	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
7	外食・中食産業(2)	中食産業	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
8	主要食品の流通(1)	商品の分類・温度帯別食品流通	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
9	主要食品の流通(2)	米・小麦・野菜の流通	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
10	主要食品の流通(3)	魚介類・食肉・鶏卵の流通	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
11	主要食品の流通(4)	乳類・大豆加工品・漬物・佃煮の流通	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
12	主要食品の流通(5)	惣菜・油脂・調味料の流通	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く
13	主要食品の流通(6)	菓子・茶・コーヒー・清涼飲料・酒の流通	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
14	フードマーケティング	フードビジネス	該当する教科書のページを読んでくる	プリントをまとめる
15	食料消費の課題	環境・安全問題	該当する教科書のページを読んでくる	プリント問題を解く、プリント問題総復習

教科書	(社) 日本フードスペシャリスト協会 編：『三訂 食品の消費と流通』 建帛社 (2016年)	参考書資料	(社) 日本フードスペシャリスト協会編：『フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』 建帛社 (2017) など
------------	--	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、私語や携帯操作を禁じる。 ・授業項目の終了毎に内容の要約と覚えるべき用語をプリントで提示し、これらの理解度を確認しながら授業を進める。定期試験は配布したプリントの中から出題するので整理し、紛失しないようにする。 ・授業の進捗によってはスケジュールを変更することがある。 	定期試験(50%)、ノート・プリントの整理(30%)、授業態度(20%)の総合評価	積極的に授業に取り組み、プリント問題・定期試験より理解していると判断できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
栄養統計学演習	選択	食栄	2年 後学期	演習	1	まえだ 前田	やすとも 康智	単独 食物栄養専攻科目	なし	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
本演習は、栄養士として求められる栄養データの管理や統計処理として、主にEXCELを用いた (1)栄養データの管理（データベースからの表、グラフ化、論理・検索・日付関数の使い方、データ集計、シート間の方法）(2)栄養データの統計処理の方法 に焦点をあてる。多くの栄養データを用いて、EXCELの様々な機能を使用して処理する練習問題を繰り返す行う。						(1)数多くの機能を持つ表計算ソフトEXCELを使って何ができるかを理解しながら、使えるようになる。 (2)今まで使うことがなかった機能(論理・検索関数、ピボット、統計処理、3D集計等)を使えるようになる。 (3)栄養データを客観的に取り扱い、表やグラフの持つ意味を理解し、EXCELの様々な機能を使えるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	基本操作	行列の操作、連続データの入力、シート・ブックの操作、3D集計	シラバスを読んでもくる	連続データの入力、3D集計について復習する
2	表の作成、セルの参照	数式の入力、関数の入力、表示スタイル	教科書の該当ページを読んでもくる	表示スタイルについて復習する
3	論理関数	IF、AND、OR、NOT関数、エラー処理	教科書の該当ページを読んでもくる	AND、OR関数とエラー処理について復習する
4	グラフの作成	大小比較、時間推移、推移平滑化グラフ、散布図、複合グラフなど	教科書の該当ページを読んでもくる	各種グラフ描画の意味と方法について復習する
5	統計分析1	基本統計量、度数分布表、相関係数、回帰分析	教科書の該当ページを読んでもくる	記述統計の意味と分析方法について復習する
6	統計分析2	推測統計学とは、平均の検定、分散の検定	教科書の該当ページを読んでもくる	推測統計の意味と検定の分析方法について復習する
7	統計分析3	平均の検定、分散の検定、2×2分割表の検定	教科書の該当ページを読んでもくる	推測統計の意味と検定の分析方法について復習する
8	データベース機能	データの並び替え、日本語の並び替え、データ・文字列の抽出	教科書の該当ページを読んでもくる	データベースの並び替え、抽出について復習する
9	データ集計とピボットテーブル	ピボットテーブルの作成、項目の変更とグループ化	教科書の該当ページを読んでもくる	クロス集計とピボットテーブルについて復習する
10	検索行列関数、日付時刻関数	INDEX、HLOOKUP、VLOOKUP関数、TODAY、DATEDIF関数	教科書の該当ページを読んでもくる	INDEX関数とLOOKUP関数の使い方について復習する
11	グラフの応用的な活用	補助縦棒グラフ付き円グラフ、スパークライン	今までの内容の教科書の該当部分を総復習する	複合グラフ他応用的なグラフ描画について復習する
12	データの多角的集計	ピボットグラフの作成	配布資料を読んでもくる	ピボットテーブルとピボットグラフについて復習する
13	統計分析4	記述統計のまとめ、正規分布と食事摂取基準	配布資料を読んでもくる	食事摂取基準に基づく統計手法について復習する
14	統計分析5	推定について、母平均の区間推定	配布資料を読んでもくる	推測統計の意味と推定の分析方法について復習する
15	統計分析6	官能検査、味覚能力判定、おいしさの判定と2項分布による検定	配布資料を読んでもくる	味覚判定と2項分布による検定について復習する

教科書	武藤志真子他編著：『健康・医療・栄養のためのExcelワーク改訂版』 アイ・ケイコーポレーション（最新版）	参考書資料	なし
------------	---	--------------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
授業ごとに、栄養データによるEXCELの計算課題がある。	授業中の態度(20%) 授業中の課題(80%)	栄養データのEXCELでの処理の仕方、統計処理の方法を理解し、実践できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
情報技術Ⅲ	選択	共通	1,2年後学期	演習	1	まえだ 前田	やすとも 康智	単独 共通教養科目	資格試験を必ず受験する意志があること（定期試験とする）※平成28年度受検料5670円	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
Word文書処理技能認定試験2級取得に求められる、通常のビジネス文書処理について、知識及び実践的な技能を得るための繰り返しの演習を通じて、正確にかつ迅速に処理できることを目指す。						Word文書処理技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)は、事務職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、Word文書処理技能認定試験2級の取得を目指し、ビジネス文書処理ができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	知識問題1前半/実技1前半	作業環境・環境の設定と変更/ページ設定、レイアウト変更など	シラバス及び知識練習問題1を読んでくる	知識問題1とページ設定、レイアウトを復習する
2	知識問題1後半/実技1中盤	作業環境・環境の設定と変更/ワードアートなど	知識練習問題1を読んでくる	知識問題1とページ設定、ワードアートを復習する
3	知識問題2前半/実技1後半	書式設定/図形の編集など	知識練習問題2を読んでくる	知識問題2と図の編集を復習する
4	知識問題2中盤/実技2前半	書式設定/ヘッダーとフッターの文字と図形編集など	知識練習問題2を読んでくる	知識問題2とヘッダーとフッターを復習する
5	知識問題2後半/実技2中盤	書式設定/スタイルの定義と適用など	知識練習問題2を読んでくる	知識問題2とスタイルの定義と適用を復習する
6	知識問題3/実技2後半	ファイル・ページ設定・印刷/表の編集など	知識練習問題3を読んでくる	知識問題3と表の編集を復習する
7	知識問題4前半/実技3前半	文書編集/文章の挿入、段落と改行など	知識練習問題4を読んでくる	知識問題4と文章の挿入、段落と改行を復習する
8	知識問題4後半/実技3中盤	文書編集/段組みと段区切りなど	知識練習問題4を読んでくる	知識問題4と段組みと段区切りを復習する
9	知識問題5前半/実技3後半	罫線と表/SMARTArtの作成と編集など	知識練習問題5を読んでくる	知識問題5とSMARTArtの作成と編集を復習する
10	知識問題5後半/実技4前半	罫線と表/タブとリーダーなど	知識練習問題5を読んでくる	知識問題5とタブとリーダーを復習する
11	知識問題6/実技4中盤	オブジェクト/箇条書きなど	知識練習問題6を読んでくる	知識問題6と箇条書きを復習する
12	知識模擬問題1と2/実技4後半	15分知識試験と解説の2回分/表の配置など	知識練習問題1～6を再復習する	知識模擬問題1と2と表の配置を復習する
13	知識模擬問題3/実技模擬問題3	15分知識試験と解説/実技のまとめ	実技練習問題1～4の方法を再復習する	知識模擬問題3を復習する
14	実技模擬問題1	実技問題1(90分)	実技練習問題1～4の方法を再復習する	実技問題1の内容を復習する
15	実技模擬問題2	実技問題2(90分)	知識問題と実技問題の模擬問題を再復習する	実技問題2の内容を復習する

教科書	『Word文書処理技能認定試験1・2級 問題集 2010対応』 サーティファイ（最新版）	参考書資料	なし
------------	--	--------------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 知識問題ではWord各機能の名称等について、全受講者が一斉に練習する。 実技練習問題では、問題文に沿って各受講者ごとに演習を行う形で実施する。その際に、時間を各自計り、かつ正確に実施できたかを含めて教員が個別に確認する。 課題作成が授業時間中に完成しない場合は、別途宿題を課すことがある。 	授業中の態度(20%) 授業中と授業後の課題提出(20%) 定期試験（資格試験）の成績(60%)	定期試験として、資格『Word文書処理技能認定試験2級』を必ず受験し、合格または、合格点の水準にほぼ達している、のいずれかが確認できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
情報技術Ⅳ	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	まえだ 前田	やすとも 康智	単独 共通教養科目	資格試験を必ず受験する意志があること（定期試験とする）※平成28年度受検料4680円	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級取得に求められる、通常のビジネスシーンを想定したプレゼンテーションについて、知識及び実践的な技能を得るための繰り返しの演習を通じて、正確にかつ迅速に処理できることを目指す。						PowerPointプレゼンテーション技能認定試験(サーティファイ、ソフトウェア活用能力認定委員会)は、販売・営業職には欠かせない資格として、学生・社会人を対象に実施される情報系の資格である。本授業は、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級の取得を目指し、プレゼンテーション処理ができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	知識問題1/実技1前半	作業環境・環境の設定と変更/スライドマスターの使い方など	シラバス及び知識練習問題1を読んてくる	知識練習問題1とスライドマスターを復習する
2	知識問題2/実技1中盤	書式設定/SMARTArtグラフィックの使い方など	知識練習問題2を読んてくる	知識練習問題2とSMARTArtグラフィックを復習する
3	知識問題3/実技1後半	スライド/アニメーションの使い方など	知識練習問題3を読んてくる	知識練習問題3とアニメーションを復習する
4	知識問題4/実技2前半	ファイル/表の編集など	知識練習問題4を読んてくる	知識練習問題4と表の編集を復習する
5	知識問題5/実技2中盤	編集/動作設定ボタンの使い方など	知識練習問題5を読んてくる	知識練習問題5と動作設定ボタンを復習する
6	知識問題6/実技2後半	罫線と表/画面切り替えの使い方など	知識練習問題6を読んてくる	知識練習問題6と画面切り替えを復習する
7	知識問題7/実技3前半	オブジェクト、図形/図の挿入など	知識練習問題7を読んてくる	知識練習問題7と図の挿入を復習する
8	知識問題8/実技3中盤	校閲/ハイパーリンクの使い方など	知識練習問題8を読んてくる	知識練習問題8とハイパーリンクを復習する
9	知識模擬問題1/実技3後半	15分知識試験と解説/画像の挿入など	知識練習問題1～8を再復習する	知識模擬問題1と画像の挿入を復習する
10	知識模擬問題2/実技4前半	15分知識試験と解説/スライドマスターの複製とスライド変更など	知識練習問題1～8を再復習する	知識模擬問題2とスライドマスター複写を復習する
11	知識模擬問題3/実技4後半	15分知識試験と解説/ワードアートの使い方など	知識練習問題1～8を再復習する	知識模擬問題3とワードアートを復習する
12	実技模擬問題1	実技問題1(90分)	実技練習問題1～4の方法を再復習する	実技問題1の内容を復習する
13	実技模擬問題2	実技問題2(90分)	実技練習問題1～4の方法を再復習する	実技問題2の内容を復習する
14	実技模擬問題3	実技問題3(90分)	実技練習問題1～4の方法を再復習する	実技問題3の内容を復習する
15	模擬試験	本試験対策	知識問題と実技問題の模擬問題を再復習する	模擬問題を復習する

教科書	『PowerPointプレゼンテーション技能認定試験 問題集 2010対応』 サーティファイ（最新版）	参考書 資料	なし
------------	---	-------------------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 知識問題では各機能の名称等について、全受講者が一斉に練習する。 実技練習問題では、問題文に沿って各受講者ごとに演習を行う形で実施する。その際に、時間を各自計り、かつ正確に実施できたかを含めて教員が個別に確認する。 課題作成が授業時間中に完成しない場合は、別途宿題を課すことがある。 	授業中の態度(20%) 授業中と授業後の課題提出(20%) 定期試験（資格試験）の成績(60%)	定期試験として、資格『PowerPointプレゼンテーション技能認定試験上級』を必ず受験し、合格または、合格点の水準にほぼ達している、のいずれかが確認できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
簿記 I	選択	共通	1,2年前学期	講義	2	おおやま 大山	みず穂 ほ	単独 共通教養科目	特になし	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
個人企業および企業は多様な経営活動のために、経営成績と財政状態を明らかにする必要があるため、簿記のしくみを理解し、取引を記帳できる能力を身に付けられるよう記帳練習を学習する。						主に個人企業に関する会計処理を学習する。 ・合計残高試算表を作成できるようになる。 ・日商簿記検定（日本商工会議所主催簿記検定試験）3級に合格することを目標とする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	簿記の基礎	資産・負債・資本と貸借対照表、収益費用と損益計算書	シラバスを読んでおくこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
2	日常の手続き（Ⅰ）	仕訳のルールと総勘定元帳への転記の仕方	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
3	日常の手続き（Ⅱ）	仕訳帳と合計残高試算表の作成	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
4	商品売買（Ⅰ）	分記法と三分法	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
5	商品売買（Ⅱ）	売掛金元帳、買掛金元帳	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
6		仕入帳、売上帳	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
7		商品有高帳（先入先出法、移動平均法）	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
8	各種取引の処理	現金、当座預金	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
9		小口現金、小口現金出納帳	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
10		手形取引、受取手形記入帳、支払手形記入帳	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
11	その他期中取引（Ⅰ）	その他の債権・債務	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
12	その他期中取引（Ⅱ）	固定資産、有価証券	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
13	その他期中取引（Ⅲ）	個人企業の税金の記帳	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
14	試算表の作成（Ⅰ）	合計残高試算表の応用	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
15	試算表の作成（Ⅱ）	合計試算表の作成	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。

教科書	よくわかる簿記シリーズ『合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 9.0』 TAC出版（最新版）	参考書資料	よくわかる簿記シリーズ『合格テキスト 日商簿記3級 Ver. 9.0』 TAC出版（最新版）
------------	--	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 各自勉強をするという意識を持ち授業に望み、学校や自宅で練習問題に励むこと。 電卓、赤ペン、定規必携。 	授業態度(80%)、試験の成績(20%)の総合評価。	合計残高試算表を作成できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
簿記Ⅱ	選択	共通	1,2年後学期	講義	2	おおやま 大山	ほ みず穂	単独 共通教養科目	簿記Ⅰの履修者及び簿記Ⅰ相当の勉強経験のある者	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
簿記の基本を理解した学生が次の段階として学習しなければならない決算の手続きについて学ぶ。						主に個人企業に関する会計処理を学習する。 ・精算表を作成できるようになる。 ・日商簿記検定（日本商工会議所主催簿記検定試験）3級に合格することを目標とする。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	仕訳の確認	合計残高試算表の作成	シラバスを読んでおくこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
2	決算の手続き（Ⅱ）	現金過不足の整理、費用の繰り延べ、商品に関する決算整理	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
3	決算の手続き（Ⅲ）	固定資産の減価償却費の計算	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
4	決算の手続き（Ⅳ）	貸し倒れの見積もり	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
5	合計残高試算表の作成	期中取引のまとめ	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
6	決算の手続き（Ⅴ）	費用・収益の繰り延べ、見越し	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
7	精算表の作成	精算表の作成	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
8		精算表の作成	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
9		精算表の作成	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
10	決算の手続き（Ⅵ）	各勘定の締め切り、当期純損益の資本金勘定への振り替え	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
11		損益計算書と貸借対照表の作成	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
12		損益勘定と繰越試算表の作成	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
13		合計残高試算表の応用	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
14	伝票式会計	3伝票制	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。
15		仕訳日計表	テキストの練習問題を自分で予習を兼ね行うこと。	テキストの練習問題を自分で復習を兼ね行うこと。

教科書	よくわかる簿記シリーズ『合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 9.0』 TAC出版（最新版）	参考書資料	よくわかる簿記シリーズ『合格テキスト 日商簿記3級 Ver. 8.0』 TAC出版（最新版）
------------	--	--------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 各自勉強をするという意識を持ち授業に望み、学校や自宅で練習問題に励むこと。 電卓、赤ペン、定規必携。 日本商工会議所主催簿記検定試験3級を受験希望の者は受験料として3,110円が必要となる。 	授業態度(80%)、試験の成績(20%)の総合評価。	精算表を作成できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
秘書技能	選択	共通	1,2年前学期	講義	2	おだしま ゆみこ 小田島 祐美子	単独	共通教養科目	特になし	14, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
秘書検定は、5つの章（マナー・接遇、技能、一般知識、必要とされる資質、職務知識）から出題される。章ごとに説明を行い、例題や過去問題に取り組む。授業開始時には、振り返りの小テストを行う。第13、14回目の授業では、模擬試験を実施し、その時点での実力を判定し、今後の各自の検定試験対策を行う。						<ul style="list-style-type: none"> ・秘書検定3級、2級の合格を目標とする。 ・社会人に求められるマナーや一般常識を身につけることができる。 				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス 必要とされる資質	秘書技能検定について 秘書の心構え	シラバス、「必要とされる資質」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする
2	必要とされる資質	要求される資質	「必要とされる資質」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする。
3	職務知識	秘書の機能と役割	「職務知識」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする。
4		秘書の業務	「職務知識」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする。
5	一般知識	企業と経営	「一般知識」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする。
6		社会常識	「一般知識」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする。
7	マナー・接遇	敬語と接続用語	「マナー・接遇」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする。
8		人間関係と話し方・聞き方	「マナー・接遇」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする。
9		電話・接遇・交際	「マナー・接遇」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする。
10	技能	会議	「技能」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする。
11		文書の作成・文書の取り扱い	「技能」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする。
12		資料管理・オフィス管理	「技能」の章を読んでくる。	授業内容と例題の復習をする。
13	模擬試験(1)	模擬試験演習	教科書全体を読み、苦手分野の復習をしてくる。	模擬試験の自己採点をする。
14	模擬試験(2)	模擬試験演習	教科書全体を読み、苦手分野の復習をしてくる。	模擬試験の自己採点をする。
15	模擬試験解答、まとめ	模擬試験演習解答、まとめ	模擬試験の解答を考えてくる。	秘書検定に向けて過去問題に取り組む。

教科書	ユーキャン秘書検定試験研究会『U-CANの秘書検定2・3級』(株)自由国民社(最新刊)	参考書資料	授業内に適宜指示、プリントで配布 過去問題集
------------	---	--------------	---------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良以外の途中退室禁止、私語禁止、携帯電話使用禁止。 ・進行の都合により、内容が前後することがある。 ・秘書検定を受験予定者は、さらに過去問題集を揃え、取り組むこと。 	定期試験(50%)、模擬試験演習(20%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)の総合評価。	授業に積極的に取り組み、小テスト、模擬試験、定期試験それぞれが合格ラインに達していれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
生活文化(茶道)	選択	共通	1,2年前学期	実技	1	むとう 武藤	れいこ 礼子	単独	共通教養科目	特になし	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
—						—					
授業の概要						授業の到達目標					
表千家について学びます。初回は、茶道への導入として、主な作法と心得を講義形式で行う。2・3回は教科書に従って利休の時代から現在までの茶道の在り方を学ぶ。4回から15回までは実技。割り稽古を数回行い、その後、実際の点前の練習に入る。						初心者でも、お客としてのマナーを身につけ、自分でも薄茶を点てることができるようになる。点前だけでなく、日本古来の伝統芸術である茶道の「心」を知り、それを日常生活に活かせるようになる。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	茶道への導入、作法、心得	挨拶、襖の開け閉め、畳の歩き方、水屋について	シラバスを読んてくる	作法、心得について復習する
2	茶の湯の歴史(講義)	利休の時代から現代までの茶の湯について	教科書の該当ページを読んてくる	茶の湯の歴史について復習する
3	稽古の基礎	お茶って何? 茶道具・割り稽古の説明、服紗さばき	教科書の該当ページを読んてくる	服紗さばきを何度も繰り返し練習する
4	割り稽古	服紗のつけ方・さばき方、棗・茶杓のふき方、茶巾のたたみ方	教科書の該当ページを読み、服紗さばきの練習	棗・茶杓の扱い、茶巾のたたみ方を復習する
5		茶筌通しと茶筌すすぎ、茶碗の拭き方、柄杓の扱い	教科書の該当ページを読み、棗・茶杓の扱いを復習	茶筌とおしと茶筌すすぎ、茶碗の拭き方を復習する
6	薄茶の運び点前	道具を運びお茶を点てる(前半)・客としての作法	教科書の該当ページを読み、茶筌の扱いを復習	教科書で確認し、実技の復習をする
7			教科書の該当ページを読んてくる	教科書で確認し、実技の復習をする
8			教科書の該当ページを読んてくる	教科書で確認し、実技の復習をする
9	お茶室でお茶会の実践	お茶室の席入り、濃茶・薄茶の頂き方	教科書の該当ページを読んてくる	茶室での茶会経験について感想文を書く
10	薄茶の運び点前	お茶を点て道具の片付け(後半)・客としての作法	教科書の該当ページを読んてくる	教科書で確認し、実技の復習をする
11			教科書の該当ページを読んてくる	教科書で確認し、実技の復習をする
12			教科書の該当ページを読んてくる	教科書で確認し、実技の復習をする
13			教科書の該当ページを読んてくる	教科書で確認し、実技の復習をする
14			教科書の該当ページを読んてくる	教科書で確認し、実技の復習をする
15	道具を運びお茶を点て、道具の片付け(通し)・客としての作法	教科書の該当ページを読んてくる	教科書で確認し、実技の復習をする	

教科書	千 宗左：『決定版 はじめての茶の湯』 主婦の友社 (2009)	参考書資料	特になし
------------	----------------------------------	--------------	------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないように 実技のため、必ず事後学習をする 実技で、服紗、懐紙、扇子、楊枝、白ソックスが必要 	取組み姿勢(50%) 点前・作法技術 (50%)	授業に積極的に取組み、実技の「客としての作法」と「薄茶の運び点前」が習得できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
生活文化（華道）	選択	共通	1,2年 後学期	実技	1	ごとう 後藤	よしこ 芳子	単独 共通教養科目	特になし	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
草月流の伝統を学び、「出会いの芸術」と呼ばれるいけばなの創造力を培う。						草月流は勅使河原茜家元をリーダーに現代の空間に合ういけばなを目指す。その基本となる花型法を理解し実践できるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	いけばな一般 草月のいけばな	歴史・諸道具の説明・実技	シラバスを読んでくる	もう一度いけてみる
2	基本傾真型	盛花・花型図	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
3	基本傾真型	盛花・花型図	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
4	基本傾真型	投入・留め方のテクニック	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
5	基本傾真型	復習・逆勝手でいける	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
6	行事の花	基本型でいける	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
7	基本傾真型	投入	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
8	自由花	花型をはなれて自由にいける	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
9	第一応用立真型	盛花・投入	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
10	第一応用傾真型	盛花・投入	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
11	第二応用立真型	盛花・投入	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
12	第二応用傾真型	盛花・投入	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
13	第三応用立真型	三方正面の花	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
14	第六応用傾真型	四方正面の花	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる
15	野菜・果実をいける	食材を素材として	教科書をよんでくる	もう一度いけてみる

教科書	勅使河原茜：『草月のいけばな(1)、(2)』（財）草月会（2008）	参考書 資 料	勅使河原蒼風著：『草月五十則』（財）草月会（2004）、 勅使河原茜：『草月のいけばな(3)、(4)』（財）草月（2008）
------------	------------------------------------	--------------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
遅刻をしないように。	受講態度(50%) 作品の完成度(50%)	基本立真型・傾真型の習得できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	パイ	AL
製菓製パン実習Ⅰ (製菓製パン実習)	選択	共通	1,2年 前学期	実習	1	たなか 田中	ともこ 智子	単独 共通教養科目	特になし	6・7
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
製菓製パン実習の際の材料の取り扱いかた、材料の混合のタイミング、泡立て、パン発酵法等、製菓製パン作成のポイントをわかりやすくていねいに解説する。製菓製パンの特徴を学び、確実に自分のものにし、一人で再現出来、自在に応用できるように解説指導する。						(1)実習に使用する食品材料の性質、加工特性を理解できるようにする。 (2)製菓製パンの基礎知識を身につけ、失敗しないコツを注意深く学び、1人で作れる様にする。失敗しても、フォローできることも多いので、諦めず制作過程を反省し欠点を発見し完成出来るようにする。 (3)実習を通して協調性を養い、グループの中で円滑なコミュニケーションがとれ、自分の役割を果たすことができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	注意事項伝達	和菓子の歴史、使用される主な調理食材を調べておく	実習内容のまとめ(初回授業で解説する)
2	和菓子基礎編	桜餅2種 うぐいす餅	求肥の応用と道明寺について調べておく	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
3	和菓子焼き物・和菓子(茹で用)	どら焼き(団子)	どら焼きの皮の応用を調べておく	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
4	スポンジ生地(別立て)	オレンジシフォンケーキ	スポンジケーキの作り方を調べておく	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
5	スポンジ生地(共だて)	マドレーヌ2種	溶かしバターの量の多いものに加え方	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
6	タルト生地	苺のタルト	カスタードクリームの作り方を調べておく	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
7	クッキー生地	クッキー4種	クッキーの種類を調べておく	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
8	チョコレート生地	ガトーショコラ・ザッハトルテ	チョコレートケーキの種類とチョコレートの扱いを調べておく	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
9	パイ生地	パイ2種	パイ生地の作り方を調べておく	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
10	パン作り基礎編(0)	プチパン・チーズクロスバンズ	プレーンパンの作り方について調べておく	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
11	パン作り基礎編(2)	バターロール・編みパン	バターロールの作り方とその応用について調べておく	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
12	パン作り基礎編(3)	ミートパン・スイートパン	世界のパンについてその種類、内容について調べておく	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
13	パン作り応用編	ピッツア4種	ピッツアの歴史と種類について調べておく	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
14	テスト	各班で構想したパンの検討会	実習テストの材料、器具について調べてまとめる	実習内容のまとめ・反省・感想を書く
15	テスト	発表・評価	実習テスト、応用実技、発表、レポートまとめ、プリント作成	レポートを提出する

教科書	なし	参考書資料	毎回プリントを配布
------------	----	--------------	-----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①材料の発注の都合で授業内容の順番、内容を変更する場合がある。 ②授業開始時間までに身支度を整え、貴重品は身につけること。 ③配布プリントを整理し、ファイルに保管する。 ④遅刻厳禁。欠席が事前にわかる場合は連絡する。	授業態度(40%)、実習記録レポートをファイルに入れて提出(30%)、実習小テスト(30%)の総合評価。	積極的に実習に取り組み、チームワークによる協調性を持ち、小テストにより理解度が深まれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
製菓製パン実習Ⅱ	選択	共通	1,2年 後学期	実習	1	よねやま 米山 陽子	単独	共通教養科目	特になし	6, 7, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
製菓実習での素材の取り扱い方、混ぜ方、泡立て方など、製菓を作るときのポイントをわかりやすく解説する。またそれぞれの菓子の特徴を学ぶ。習った項目の復習をし、1人で確実に作れるようにする。また、それぞれの製菓にふさわしいラッピングについても説明する。						製菓実習に使用される材料の性質及び加工特性を学習し、基本の生地やクリーム、ゲル化剤を用いることで、製菓の基礎知識と技術を身につける。失敗することなく美味しく、美しいお菓子が一人で作れるようになることを目標とする。万が一失敗しても、そこであきらめず、どこを間違えたかを考え、再チャレンジできるようにする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション・掃除・実習	オリエンテーション、掃除、蒸しパン	製菓用米粉について参考書などで調べておく	実習内容をまとめる(項目は初回授業で説明する)
2	クッキー生地	クッキー2種	クッキーの作り方について調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
3	スポンジ生地(その1)	シフォンケーキ(紅茶、プレーン)	スポンジケーキの作り方について調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
4	バター生地(その1)	パウンドケーキ	バター生地の作り方について調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
5	シュー生地	パリプレスト、クリームシャンティ	シュー生地について調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
6	冷菓	ゼリーとババロア(ゼラチン)	ゼラチンについて調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
7	チーズ生地	ベイクドチーズケーキ、クリームチーズケーキ	チーズケーキの作り方について調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
8	タルト生地	パートシュクレ、タルトアマンディーズ	タルト生地について調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
9	冷菓	チョコレートスフレ、オレンジムース(カラギーナン)	カラギーナンについて調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
10	いろいろな粉の扱い方	粉の違いとお菓子	粉の種類について調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
11	バター生地(その2)	フィナンシェ、ケーキサレ	バター生地の種類について調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
12	チョコレート	トリュフ(ラッピング)	テンパリングについて調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
13	スポンジ生地(その2)、バタークリーム	クリスマスケーキ(ブッシュドノエル)	バタークリームの作り方について調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
14	和菓子	正月用菓子(ねりきり)	ねりきりについて調べておく	実習内容をまとめ、反省・感想も書く
15	確認テスト	復習・応用・実技・レポート	実習テスト項目を復習、練習し、レポートを書いておく	レポートを提出する

教科書	なし	参考書 資料	毎回、プリントを配布する。
------------	----	-------------------	---------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①実習の順番を変更する場合がある。②身支度を整え、授業開始前に入室し、準備を行う。③貴重品は身につけ、各自で管理する。④授業中に携帯電話の操作を行わない。⑤欠席が事前にわかる場合は届けを出す。⑥当日欠席の場合は電話で連絡後、欠席届を出す。欠席でもノートを書いて提出する。⑦提出物は期日を守る。⑧衛生面に注意する。	プリントのまとめ方(50%)、確認テスト(20%)、授業態度等(30%)の総合評価。実習に必ず参加し、全ての回のプリントのまとめを提出した場合に行う。	基本的な製菓操作・器具の取り扱い、ならびに食品素材の特徴を理解して一人で製菓することができ、確認テストに参加してレポートを提出し、また全ての回のプリントをまとめて提出し、内容が理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
包装の文化と技術	選択	共通	1,2年 集中	演習	1	あおき 青木	ゆきこ 友紀子	単独 共通教養科目	特になし	1,6・7,16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
授業スケジュールに従って、包装の歴史や素材、演習内容の解説を行う。演習は繰り返し実習することで、基本の包み方、リボンの扱い方、手近な素材の利用法を学ぶ。授業の終盤では、学生が主体となり、課題を解決する方法を考え、企画を立てる学習を進める。さらに、振り返りを行うことで、その後の学習につなげる。						「礼」を重視する和式包装には歴史があり、マナーやしきたりが多く存在し、洋式包装には「彩り」を添えて贈り物を楽しく演出するための要素が多く存在する。双方の包装について深く理解し、贈る側の気持ちを具現化して商品を包装によって演出する手法を身につけることを目的としている。また企画を立て、商品開発に繋げていく方法も学ぶ。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	日程	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	包装の歴史、包装の基礎知識(素材と方法)	8/7	シラバスを読む	授業内容を復習する
2	合わせ包み(包み方の基本①)	合わせ包み	8/7	教科書を読む	授業内容を復習する
3	風呂敷包み(包み方の基本②)	風呂敷包み	8/7	教科書を読む	授業内容を復習する
4	斜め包み(包み方の基本③)	斜め包み	8/7	教科書を読む	授業内容を復習する
5	お菓子のラッピング①	紙袋を使ったラッピング	8/9	配布プリントを読む	授業内容を復習する
6	お菓子のラッピング②	クッキー、パウンドケーキを包む	8/9	配布プリントを読む	授業内容を復習する
7	お菓子のラッピング③	身近な素材(不織布、ペーパーナプキン、紙コップ)を使って	8/9	配布プリントを読む	授業内容を復習する
8	包装の企画(包装法の復習を含む)	包み方、リボン結びの復習、小テストの企画立案	8/9	配布プリントを読む	授業内容を復習する
9	和紙について	和紙の歴史、製法、種類、扱い方	8/10	配布プリントを読む	授業内容を復習する
10	和紙を使ったラッピング①	和紙を用いた包み	8/10	配布プリントを読む	授業内容を復習する
11	実践ラッピング演習①	贈る相手をイメージしたラッピング	8/10	贈る相手をイメージしたラッピングの原案を考える	授業内容を復習する
12	贈る文化①	祝儀、不祝儀の基本、風呂敷ふくさの扱い方について	9/11	配布プリントを読む	授業内容を復習する
13	贈る文化②	風呂敷を用いた包み	9/11	配布プリントを読む	授業内容を復習する
14	実践ラッピング演習②	贈る相手をイメージしたラッピング	9/12	贈る相手をイメージしたラッピングの原案を考える	授業内容を復習する
15	実践ラッピング演習③(発表会)	贈る相手をイメージしたラッピング	9/12	贈る相手をイメージしたラッピングの原案を考える	生活の中で実践する

教科書	『ラッピング・マニュアル』 株式会社ラッピング協会 (最新版)	参考書資料	配布プリント
------------	---------------------------------	--------------	--------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
①授業の進度に合わせて、授業内容の順番、内容を変更する場合がある。 ②配布プリントを整理し、ファイルに保管する。 ③遅刻厳禁。包材の準備があるため、欠席が事前にわかる場合は連絡する。 ④食品を扱う場合は、爪を短くする。	発表・レポート(40%)、ノート(20%)、授業態度(40%)の総合評価。	積極的に実習に取り組み、ノート、レポートを提出すれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
アロマテラピー概論	選択	共通	1, 2年前学期	講義	2	くぼた ひろこ 久保田 裕子	単独	共通教養科目	特になし	16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
アロマテラピー検定2級対応テキストに従って、アロマテラピーの基礎知識を学ぶ。検定対象範囲の精油を嗅ぎ分けしながら精油を学び、知識を身につける。單元ごとに確認の小テストをおこない、無理なく検定到達レベルの知識を身につけていく。						アロマテラピーの基礎を習得し、日常生活に知識を活かして心身の健康増進に役立てる。(公社)日本アロマ環境協会認定アロマテラピー検定2級の取得を目指し、合格できるようになる。販売業や福祉介護関係など、仕事にも役立てる知識を身につける。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	アロマテラピーとは 検定について	シラバスを読んでおく	ノートをまとめ、不明事項を復習する
2	安全に使用方法、利用法Ⅰ	使用上の注意事項、芳香浴法①	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
3	利用法Ⅱ	芳香浴法②、吸入法、フェイシャルスチーム法、湿布法	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
4	利用法Ⅲ	沐浴法、トリートメント法	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
5	利用法Ⅳ、基材について	手作り化粧品、基材の種類	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
6	基材について	基材の種類	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
7	まとめと復習①	まとめと復習	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
8	精油学Ⅰ	精油の定義	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
9	精油学Ⅱ	抽出法、使用濃度	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
10	まとめと復習②	まとめと復習	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
11	歴史	植物の活用とアロマテラピーの歴史	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
12	まとめと復習③	まとめと復習	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
13	アロマテラピーと環境	地球と生物の環境	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
14	まとめと復習④	まとめと復習	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する
15	総括	検定対策	範囲のテキストに目を通す	ノートをまとめ、不明事項を復習する

教科書	(公社)日本アロマ環境協会:『アロマテラピー検定テキスト2級』(2015年7月改訂版)	参考書資料	授業でその都度説明
------------	---	--------------	-----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
アロマテラピー検定対応テキストに沿って授業を進める。	定期試験 (80%) 小テスト (10%) 授業態度 (10%)	授業態度が良好で、アロマテラピー基礎知識の理解が試験により確認されれば合格

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
アロマテラピー演習	選択	共通	1, 2年 後学期	演習	1	くぼた ひろこ 久保田 裕子	単独	共通教養科目	アロマテラピー概論の履修者が望ましい	3, 6, 9, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
アロマテラピー検定2級対象範囲の精油を使用し、日用品を作成して実際に活用しながら無理なく精油とアロマテラピーの基礎知識を身につける。ハーブやスパイスの活用法も学ぶ。						アロマテラピーの基礎と活用法を身につけ、日常生活に活かして心身の健康増進を図り、セルフマネジメントに役立てる。(公社)日本アロマ環境協会認定アロマテラピー検定2級の取得を目指し、合格できるようになる。販売業や福祉介護関係など、仕事に活用できる知識を身につける。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	芳香浴	シラバスを読んでおく	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
2	安全に使用する方法	沐浴法の部分浴手浴法、吸入法、フェイシャルスチーム法、湿布法	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
3	基礎知識	ルームスプレー	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
4	使用上の注意	バスソルト	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
5	暮らしに活かす I	発泡入浴剤	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
6	暮らしに活かす II	ボディージェル	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
7	ハーブと精油 I	ハーブティーの試飲	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
8	ハーブと精油 II	ハーブティーの試飲	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
9	アロマテラピーと環境	お掃除用スプレー	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
10	スパイス I	スパイスココア	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
11	スパイス II	ブーケガルニ	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
12	まとめと復習①	ハーブソープ	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
13	まとめと復習②	スキンローション	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
14	まとめと復習③	保湿クリーム	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習 関連情報の収集 レポートまとめ
15	総括	10種の精油嗅ぎ分け	範囲のテキストに目を通す	不明事項を復習する

教科書	(公社)日本アロマ環境協会:『アロマテラピー検定テキスト2級』(2015年7月改訂版)	参考書資料	授業でその都度説明
------------	---	--------------	-----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
グループごとに演習をおこない、精油と基材を実際に使用して作成物を作って使用しながら身につけていく。毎回レポートを作成し、無理なく検定到達レベルの知識を身につけていく。	レポート (90%) 授業態度 (10%)	積極的に演習に取り組み、授業態度が良好であること。アロマテラピーの基礎知識の理解がレポートにより確認されれば合格

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
英会話	選択	共通	1,2年 後学期	演習	1	リチャード・オステン Richard S Austen	単独	共通教養科目	特になし	8, 9, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
リラックスした学習環境で楽しく英会話を学ぶ。授業ごとに英語を実際に話せるための、役に立つテーマについて学ぶ。授業の内容は主にスピーキング（40%）、リスニング（20%）、語彙とフレー（20%）、リーディング（20%）。						15回の授業を通し、以下のことを目指す：①文法や綴りよりも、会話に重点を置き、英語を使うことに対し喜びと自信を持つようになること ②ネイティブスピーカーと話すことにより「使える英語」を学び、異文化を知ること ③好きなことや趣味など身の回りのことについて話せるようになり、実際に外国人と話せるようになること ④2020年東京オリンピックにて外国人と対応できるようになること。				

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	Introduction Class	自己紹介を行う ・ 授業の流れに慣れる	シラバスを読んでくる	宿題・復習
2	Food and Drink	飲食についての話し方を学ぶ（好みや味など）	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	宿題・復習
3	Hobbies and Interests	趣味について詳しく話す	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	宿題・復習
4	Countries and Culture	行きたい国や旅行先でしたいことについて話す・異文化について学ぶ	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	宿題・復習
5	Family and Friends	自分の家族や友達について詳しく話す	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	宿題・復習
6	Appearance and Clothing	ファッション・服・外見・芸能人について話す	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	宿題・復習
7	Japanese Food and Cooking	日本の料理の説明やお勧めの言い方について学ぶ	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	宿題・復習
8	Travel	旅行先での役に立つフレーズや質問を学ぶ	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	宿題・復習
9	Weather	天気や日本の四季について話す	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	宿題・復習
10	Jobs	職場で使える英語の単語やフレーズを学び・様々な仕事について話す	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	宿題・復習
11	Making Foreign Friends	外国人とコミュニケーションを取ることに学ぶ	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	宿題・復習
12	Review and Practice	以前の授業で学んだことを復習し練習する — スピーキングに集中	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	復習
13	Review and Practice	以前の授業で学んだことを復習し練習する — スピーキングに集中	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	復習
14	Review and Practice	以前の授業で学んだことを復習し練習する — スピーキングに集中	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	復習
15	Review and Practice	以前の授業で学んだことを復習し練習する — スピーキングに集中	授業で使うフレーズや語彙などを予習する	復習

教科書	なし	参考書 資料	必要に応じてプリントを配布
------------	----	-------------------	---------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること 余儀なく欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること 意欲的に授業に取り組むこと — 英語で話すことをチャレンジする気持ちで授業に参加すること 	定期試験 - 口頭・筆記（80%）、授業態度（20%）の総合評価	コミュニケーションのレベル（積極性、自信、語彙力など）が初回の授業と比べて上達していれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
国語基礎演習a	—	共通	1年前学期	演習	1	しんやま 新山 みつ枝	単独 共通支援科目	国語基礎演習aクラス該当者	14, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
毎時SPIの問題集を解くことにより国語能力の向上を図る。また、新聞記事、エッセイ、詩、小論等の短文の内容についてまとめたり意見をまとめることにより、文章作成能力を身につける。また、発表を通して自分の考えの表現の仕方などを体得できるように授業を展開していく。						<ul style="list-style-type: none"> ・就職試験に対応できるように「読む、聞く、話す、書く」の言語能力を習得する。 ・SPI問題集の中で言語に関する部分を用いて演習を行い、各自の課題を認識することができる。 			

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	SPIについて	SPIについて説明し、本授業のガイダンスを行う	シラバスをよく読む	短文を読む事の習慣化を図るための計画書作成と実践
2	同意語	SPI問題集等を用いて同意語について学習する	配布プリントで同意語について予習する	同意語についての小テストを見直し、理解を深める
3	反意語	SPI問題集等を用いて反意語について学習する	配布プリントで反意語について予習する	反意語についての小テストを見直し、理解を深める
4	二語の関係	SPI問題集等を用いて二語の関係について学習する	配布プリントで二語の関係について予習する	二語の関係について小テストを見直し、理解を深める
5	文法	SPI問題集等を用いて文法について学習する	配布プリントで文法について予習する	文法について小テストを見直し、理解を深める
6	語句の意味	SPI問題集等を用いて語句の意味について学習する	配布プリントで語句の意味について予習する	語句の意味の小テストを見直し、理解を深める
7	短文の穴埋め	SPI問題集等を用いて短文の穴埋めの演習をする	配布プリントで予習する	短文穴埋めの演習問題を見直し、弱点補強する
8	文章整序	SPI問題集等を用いて文章整序の演習を行う	配布プリントで予習する	文章整序の演習問題を見直し、弱点補強する
9	空欄補充	SPI問題集等を用いて空欄補充の演習を行う	配布プリントで予習する	空欄補充の演習問題を見直し、弱点補強する
10	長文読解	SPI問題集等を用いて長文読解の演習を行う	配布プリントで予習する	長文読解の演習問題を見直し、弱点補強をする
11	第1回模擬試験	第1回模擬試験	第1回模擬試験の準備をする	第1回模擬試験の見直しをする
12	模擬試験の解説と創作文	模擬試験の解答を解説し、文章の創作に取り組む	文章創作の準備をする	創作文を完成させる
13	創作文の発表	第12回で作成した創作文を発表する	創作文発表の準備をする	他の発表者の発表を聞いた感想をまとめる
14	第2回模擬試験	第2回模擬試験	第1回模擬試験の見直し、第2回模擬試験の準備をする	第2回模擬試験の見直しをする
15	模擬試験の解説とまとめ	模擬試験の解答を解説し本授業のまとめを行う	配布プリントをすべて復習する	まとめを行う

教科書	なし(毎回資料を配布する)	参考書資料	特になし
-----	---------------	-------	------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事、エッセイ、詩、小論等を毎日読む習慣をつける。 ・毎時問題集の問題と短文資料を配布し、演習と授業を進行する。 ・国語辞典を持参すること(電子辞書可)。 	毎時小テストの合計点数(30%) 受講態度、発表の内容(30%) 2回の模擬試験の結果(40%)	本授業のトレーニングによって、自己表現能力、国語能力の向上が認められたら合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
国語基礎演習b	—	共通	1年前学期	演習	1	なかだ 仲田	えいこ 瑛子	単独 共通基礎科目	国語基礎演習bに該当する者	6・7,16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
食品学Ⅰ、栄養学Ⅰ等の科目の理解に必要な基礎的な事項を演習形式で学習する。また、食品学実験Ⅰ、食品衛生学実験、解剖生理学実験、生化学実験を行う上で必要な実験器具の取り扱い、試薬の調製方法の基礎についても学習する。						基礎からの復習を行い、語彙数を増やし、文章の読解力・表現力を向上させ、就職活動に結び付けられるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	文字と言葉	漢字の読み方・部首・同音異字・同訓異字・同音意義語	シラバスを読んてくる	同音異義語の意味を調べてくる
2		言葉の種類・熟語・類義語・対義語	配布プリントを読んてくる	対義語・類義語について復習する
3		四字熟語・慣用句・故事成語・ことわざ	配布プリントを読んてくる	ことわざの意味を調べてくる
4	文の構成	文の組立て、言葉の種類と働き	配布プリントを読んてくる	文章の組み立て方について復習する
5		文章を読み、要旨を捉える	新聞記事を探してくる	文章の組み立て方について復習する
6			新聞記事を探してくる	文章の組み立てについて復習する
7	文章の読解	文章を理解して要約する・内容を発表する	新聞記事を探してくる	文章の要約について復習する
8			配布プリントを読んてくる	感想文を書いてくる
9	文章を書く（表現）	敬語の種類・敬意表現	配布プリントを読んてくる	文章の書き方の基本について復習する
10		文章を書く・内容を発表する 手紙の書き方について学ぶ メールの書き方について学ぶ	配布プリントを読んてくる	感想文を書いてくる
11			配布プリントを読んてくる	手紙の書き方について復習する
12			配布プリントを読んてくる	敬語の種類について復習する
13			配布プリントを読んてくる	敬語の使い分けについて復習する
14	ビジネス文書について・SPIについて	配布プリントを読んてくる	ビジネス文書について復習する	
15	総復習	全体の復習・まとめ	配布プリントを読んてくる	授業内容を振り返って復習する

教科書	プリントを配布する。国語辞典を持参すること。	参考書資料	(参考書) 授業中に指示する。(資料) 必要に応じてプリント配布する。
------------	------------------------	--------------	-------------------------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 理解度・進行状況などにより、授業内容等を変更することがある。 国語辞典を持参すること。また、授業時に課題を課し、小テストを実施することがある。 欠席した学生は、各自配布プリント、課題を受け取りに来ること。 出席及び課題の提出を以て評価対象とする。 私語・携帯電話の使用は禁ずる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験(40%) 小テスト・課題提出(30%) 取り組み姿勢(30%) 	課題をすべて提出し、小テストを受け、読む・書くことの能力が向上したと認められた場合に合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
国語基礎演習c	—	共通	1年前学期	演習	1	たけうち ゆきこ 竹内 由紀子	単独	共通支援科目	国語基礎演習cクラスに該当する者	6・7, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
あらためて日本語を学ぶ必要などないように思いがちだが、一人前の社会人として認められるためにも、自分を豊かに表現する能力を高めるためにも、日本語リテラシー（読み書き能力）を向上させる必要がある。基本的な事項を再度学習し、能力の向上を図る。						社会生活を営むために必要な日本語リテラシー（読み書き能力）を身に付け、日常生活で活用できるようになる。具体的には、文章読解力を身に付け、本学で学ぶ教科書・配布資料を読みこなすことができるようになる。漢字の読み書き能力、文章表現力を身につけ、本学で課されるレポート類の作成や、校外実習先へのお礼状、就職活動に必要なエントリーシートの作成等が円滑にできるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	はじめに	なぜ国語力の向上が必要なのか 自分の国語力を知る	自分が苦手なものは何か考えてまとめておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
2	文章読解	演習	自分が苦手なものは何か考えてまとめておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
3	書体・文体が与えるイメージ	演習	今まで読んだ本の中で印象に残ったものをピックアップしておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
4	漢字を習得する	漢字の成り立ち 演習	漢字の成り立ちについて予習しておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
5	同音異義語、同訓異字	演習	「同音異義語」「同訓異字」とは何か、調べておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
6	対義語・同義語	演習	「対義語」「同義語」とは何か、調べておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
7	間違いやすい仮名づかい	演習	間違いやすい仮名づかいにはどのようなものがあるか、調べておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
8	尊敬語・謙譲語	演習	「尊敬語」「謙譲語」とは何か、調べておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
9	助詞の使い方	演習	「助詞」とは何か、どのようなものがあるか調べておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
10	叙述の副詞	演習	「副詞」とは何か、どのようなものがあるか調べておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
11	文脈と意味	演習	最近読んだ文章で、理解できなかったものを探しておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
12	同じ漢字を含んだ熟語の使い分け	演習	同じ漢字を使った熟語を探してくる。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
13	慣用句・四字熟語	演習	「慣用句」「四字熟語」とは何か、調べておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
14	文章の要約	演習	新聞等から、気になった記事を探してコピーしておく。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。
15	文章による自己表現	演習	授業でおこなったことで、苦手だったことを考察してくる。	授業中にできなかった問題は復習して完全なものにしておく。

教科書	プリントを配布する	参考書資料	授業中に指示する
------------	-----------	--------------	----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・私語厳禁。携帯電話使用厳禁。 ・毎回授業時に小テストを実施する。 ・翌週までの課題を提示する。課題はすべて提出する。 ・国語辞典を各自持参すること（電子辞書可）。 	受講態度(20%) 課題提出・小テスト(30%) 定期試験(50%)	①受講態度が良く、課題がすべて提出できており、小テストは学んだ内容が身につけている。 ②定期試験により15回の授業を通じて学んだことが身につけている。上記①②が確認できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
英語基礎演習a	—	共通	1年前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独	共通支援科目	英語基礎演習 a クラスに該当する者	6, 7, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
基礎文法と基礎語彙の確認を経て、プリント等により、次の段階の定着を図る。一部平易なリスニングの練習も行う。英語に関する各種資格試験を意識した内容とする。						英語の基礎力の確認をしつつ、英語を利用して情報収集するなど応用力形成の土台を作ることができる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	be動詞、一般動詞、文の種類	be動詞、一般動詞、疑問文	シラバスの該当ページを読む	課題の演習
2		特殊な文	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
3	時制	未来形、進行形	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
4		完了形	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
5	代名詞、助動詞、受動態、比較	代名詞・助動詞	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
6		受動態・比較	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
7	準動詞	不定詞	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
8		分詞・動名詞	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
9	節	接続詞	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
10		関係代名詞	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
11	熟語、it	熟語、it	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
12	会話表現	会話表現	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
13	TOEIC、就職試験等への準備	応用演習	テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
14			テキストの指定されたページを予習する	課題の演習
15			テキストの指定されたページを予習する	課題の演習

教科書	なし	参考書資料	大坂四郎：『First Steps to English Grammar』 南雲堂（最新版）プリントを配布する。CD, DVDを使用する。
------------	----	--------------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・私語厳禁。 積極的な参加が求められる。 必ず英和及び英和辞典を持参する。 	取組姿勢 (30%) 小テスト (30%) 定期試験 (40%)	授業に積極的に取り組み、小テスト・定期試験にて短期大学の英語学習をするための基礎力の習得が確認されれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
英語基礎演習b	—	共通	1年前学期	演習	1	まえだ 前田	やすとも 康智	単独 共通支援科目	英語基礎演習bクラスに該当する者	6・7,16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
本演習は、入学時試験によりクラス分けされた、基礎英語の再復習を要するクラスのための授業として、基礎文法と基礎語彙に焦点をあて、多くの問題を与え、繰り返し学習する。						英語の基礎文法と基礎語彙を再習得することにより、 (1)英語の基礎習熟度を上げること (2)次段階のリーディング、リスニング、英字新聞読解、身近な英語的話題の理解につなげることを目標とする。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	be動詞・現在形(1)	主語と動詞、名詞の単数形と複数形、am、is、areの使い分け	シラバスを読んでくる	教科書6ページについて復習する
2	be動詞・現在形(2)	be動詞のある文の疑問文、否定文	教科書7ページを読んでくる	教科書8,9ページについて復習する
3	一般動詞・現在形(1)	一般動詞の使い方、一般動詞のs	教科書11ページを読んでくる	教科書10ページについて復習する
4	一般動詞・現在形(2)	一般動詞の疑問文とその答え方、一般動詞の否定文	教科書11ページを読んでくる	教科書12,13ページについて復習する
5	多様な疑問文	疑問詞の使い方、疑問詞who、whose、where、when、orのある疑問文	教科書15ページを読んでくる	教科書14~17ページについて復習する
6	be動詞・過去形(1)	wasとwere、過去形と一緒に使われる語句	教科書19ページを読んでくる	教科書18ページについて復習する
7	be動詞・過去形(2)	疑問文とその答え方、否定文	教科書19ページを読んでくる	教科書20,21ページについて復習する
8	一般動詞・過去形(1)	規則動詞、不規則動詞、疑問文とその答え方	教科書23ページを読んでくる	教科書22ページについて復習する
9	一般動詞・過去形(2)	否定文、疑問詞のついた過去形の疑問文	教科書23ページを読んでくる	教科書24,25ページについて復習する
10	特殊な文(1)	There (is) are~の文、There (was) were~の文、命令文	教科書27ページを読んでくる	教科書26ページについて復習する
11	特殊な文(2)	否定の命令文、感嘆文	教科書27ページを読んでくる	教科書28,29ページについて復習する
12	未来形(1)	willの用法、未来形の疑問文とその答え方、否定文	教科書31ページを読んでくる	教科書30ページについて復習する
13	未来形(2)／進行形(1)	be going to~、現在進行形、過去進行形	教科書31ページを読んでくる	教科書32,33ページについて復習する
14	進行形(2)	疑問文とその答え方、否定文	教科書35ページを読んでくる	教科書34~37ページについて復習する
15	総復習	試験対策	教科書35ページを読んでくる	教科書6~37ページについて再復習する

教科書	大坂四郎：『First Steps to English Grammar カレッジ英文法入門』 南雲堂（最新版）	参考書資料	なし
------------	--	--------------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元によってレポートを課す。 ・ 必ず辞書を持参すること。 ・ 授業の最初の10分間は単語テストを行う。 	授業中の態度(20%) 単語テストとレポート(30%) 定期試験(50%)	短期大学で求められる英語の基礎力が習得されていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
英語基礎演習c	—	共通	1年前学期	演習	1	なかだ 仲田	えいこ 瑛子	単独 共通基礎科目	英語基礎演習cクラスに該当する者	6・7,16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
食品学Ⅰ、栄養学Ⅰ等の科目の理解に必要な基礎的な事項を演習形式で学習する。また、食品学実験Ⅰ、食品衛生学実験、解剖生理学実験、生化学実験を行う上で必要な実験器具の取り扱い、試薬の調製方法の基礎についても学習する。						英語の基礎文法と基礎語彙を再習得することにより、 (1)英語を基礎から学び直し、基礎習熟度を上げること (2)次段階のリーディング、リスニング、身近な英語的話題の理解につなげることができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	be動詞・現在形(1)	主語と動詞、名詞の単数形と複数形、am、is、areの使い分け	シラバスを読んてくる	主語と動詞、名詞の単数・複数形について復習する
2	be動詞・現在形(2)	be動詞のある文の疑問文、否定文	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	be動詞の文について復習する
3	一般動詞・現在形(1)	一般動詞の使い方、一般動詞のs	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	三単現について復習する
4	一般動詞・現在形(2)	一般動詞の疑問文とその答え方、一般動詞の否定文	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	一般動詞の文について復習する
5	多様な疑問文	疑問詞の使い方、疑問詞who、whose、where、when、orのある疑問文	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	疑問詞について復習する
6	be動詞・過去形(1)	wasとwere、過去形と一緒に使われる語句	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	be動詞の過去形について復習する
7	be動詞・過去形(2)	疑問文とその答え方、否定文	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	be動詞の過去形について復習する
8	一般動詞・過去形(1)	規則動詞、不規則動詞、疑問文とその答え方	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	一般動詞の過去形について復習する
9	一般動詞・過去形(2)	否定文、疑問詞のついた過去形の疑問文	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	一般動詞の過去形について復習する
10	特殊な文(1)	There (is) are～の文、There (was) were～の文、命令文	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	thereの使い方について復習する
11	特殊な文(2)	否定の命令文、感嘆文	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	命令文などについて復習する
12	未来形(1)	willの用法、未来形の疑問文とその答え方、否定文	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	未来形について復習する
13	未来形(2)／進行形(1)	be going to～、現在進行形、過去進行形	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	未来形について復習する
14	進行形(2)	疑問文とその答え方、否定文	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	進行形について復習する
15	総復習	全体の復習・まとめ	配布資料・教科書の該当ページを読んてくる	全体について復習する

教科書	大坂四郎：『First Steps to English Grammar カレッジ英文法入門』 南雲堂（11刷2015年3月30日）	参考書資料	必要に応じて資料を配布する
------------	--	--------------	---------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとに小テストを課す。合格点（60点）に満たない場合は再テストを課す。 ・ 必ず辞書を持参すること。（電子辞書可） ・ 理解度・進行状況などにより、授業内容等を変更することがある。 ・ 私語・携帯電話の使用は禁ずる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験(40%) ・ レポート・小テスト(50%) ・ 取り組み姿勢(10%) 	短期大学で求められる英語の基礎力が習得されていれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
数学基礎演習a	—	共通	1年前学期	演習	1	まえだ 前田	やすとも 康智	単独 共通支援科目	数学基礎演習aクラスに該当する者	6・7, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
日常生活において必要な計算や各専攻科目の授業に必要な基礎的な数学の問題から、簡単な就職試験問題について演習を行う。毎回、課題レポートの提出と小テストの実施を行う。						家政及び食物栄養専攻の専攻科目に必要な数学を基礎から応用まで演習方式で学び、各専攻の授業に活かすことができる。また、数多くの問題を解くことで、迅速かつ正確に計算できるようにする。さらに、簡単な就職試験にも対応できるような力をつける。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	分数の掛算と割算	分数と整数、分数と分数の掛算・割算	シラバスを読んてくる	配布したプリントを復習する
2	分数と小数	小数の概念、小数の四則計算	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
3		分数から小数	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
4		分数と小数の計算	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
5	四捨五入・単位	単位量あたりの大きさ、量と単位（1）	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
6		単位量あたりの大きさ、量と単位（2）	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
7	比	比、等しい比、比の応用	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
8	割合・%・歩合	割合と百分率（1）	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
9		割合と百分率（2）	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
10	割引と割増	損益算（1）	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
11	原価計算	損益算（2）	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
12	濃度	濃度算（1）	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
13		濃度算（2）	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
14	栄養計算	栄養計算	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する
15	総復習	総合問題	配布したプリントを予習する	配布したプリントを復習する

教科書	プリントを配布する	参考書 資料	なし
------------	-----------	-------------------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、復習のためのレポートを課す。 ・毎回、小テストを実施する。 ・毎回、予習すべき内容をプリントしたものを配布する。 	定期試験(50%) レポート(10%) 小テスト(20%) 取り組み姿勢(20%)	分数、小数の計算を正確に行うことができ、割合、濃度について理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
数学基礎演習 b1	—	共通	1年前学期	演習	1	えぎのぶこ 江木 伸子	単独	共通支援科目	数学基礎演習cクラスに該当する者	6, 7, 14, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
—						—				
授業の概要						授業の到達目標				
基礎的な数学知識に焦点をあて、中学、高校で学んだ数学の再学習を行う。多くの問題を解くことにより、素早く正確な計算ができるようにする。						社会生活や栄養計算において、必要な基礎的数学を習得する。計算処理能力のさらなる向上を目指す。数学的思考を身に着けるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	四則計算	四則混合計算	シラバスを讀んでくる	プリントをまとめる
2	分数(1)	分数の掛け算	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
3	分数(2)	分数の割り算	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く
4	小数(1)	小数の足し算、引き算、掛け算	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く
5	小数(2)	小数の割り算	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く
6	分数、小数	分数から小数	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
7	単位	四捨五入	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く
8	比	比	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く
9	割合・%・歩合	割合・%・歩合	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
10	割引と割増	損益算数	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
11	濃度	濃度算	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
12	構成	構成比	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
13	文章題	文章問題	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
14	栄養計算	栄養計算	プリントを讀んでくる	プリント問題を解く、プリントをまとめる
15	総復習	総復習	プリントを讀んでくる	プリント問題総復習

教科書	プリントを配布する	参考書資料	なし
------------	-----------	--------------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、私語や携帯操作を禁じる。 ・授業項目の終了毎に内容の要約と覚えるべき用語をプリントで提示し、これらの理解度を確認しながら授業を進める。定期試験は配布したプリントの中から出題するので紛失しないように整理する。 ・授業の進捗によってはスケジュールを変更することがある。 	定期試験(70%)、授業態度(30%)の総合評価。授業態度には配布プリントの整理と演習問題への取り組みを含む。	分数、小数、割合、濃度について理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
数学基礎演習 b2	—	共通	1年前学期	演習	1	わたなべ じゅん 渡辺 淳	単独 共通支援科目	数学基礎演習b2クラスに該当する者	6・7, 14, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
—						—			
授業の概要						授業の到達目標			
本演習は、社会生活や栄養士に必要不可欠である基礎的な数学知識に焦点をあて、中学・高校で学んだ数学の再学習を行う。毎回多くの計算問題を与え、早く正確に解く。						(1) 社会生活や栄養計算において、必要不可欠な基礎的数学を再習得することができる。 (2) さらなる計算処理能力を身に着けることができる。 (3) 日常生活において、数学的思考を応用することができるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	四則混合計算	四則混合計算	シラバスの該当ページを読む	課題の演習
2	分数の掛け算	分数の掛け算	配布されたプリントの予習	課題の演習
3	分数の割り算	分数の割り算	配布されたプリントの予習	課題の演習
4	小数の足・引・掛け算	小数の足・引・掛け算	配布されたプリントの予習	課題の演習
5	小数の割り算	小数の割り算	配布されたプリントの予習	課題の演習
6	分数から小数	分数から小数	配布されたプリントの予習	課題の演習
7	四捨五入, 単位	四捨五入, 単位	配布されたプリントの予習	課題の演習
8	比	比	配布されたプリントの予習	課題の演習
9	割合・%・歩合	割合・%・歩合	配布されたプリントの予習	課題の演習
10	割引と割増	割引と割増	配布されたプリントの予習	課題の演習
11	濃度	濃度	配布されたプリントの予習	課題の演習
12	構成比	構成比	配布されたプリントの予習	課題の演習
13	文章題	文章題	配布されたプリントの予習	課題の演習
14	栄養計算	栄養計算	配布されたプリントの予習	課題の演習
15	総復習	総復習	配布されたプリントの予習	課題の演習

教科書	なし (毎回プリントを配布する)	参考書資料	なし
------------	------------------	--------------	----

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 練習問題を繰り返し行う。 定期的にノート提出を課する。 	取り組み姿勢(20%) 小テスト・提出物(30%) 定期試験(50%)	家政専攻に求められる寸法の単位や長さの解釈、栄養士に求められる濃度解釈、加えて総合的に求められる割合の計算が理解できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
教職入門	教職必修	共通	1年前学期	講義	2	しんやま 新山 みつ枝	単独 教職課程科目	教職課程履修者	11, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教職に関する科目(教職の意義等に関する科目)						・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、サービス及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等			
授業の概要						授業の到達目標			
教員の使命および教員の役割、教員の職務内容を講義する。学習指導方法については、中学校教員または栄養教諭として必要な知識を指導事例や先行研究などを通して、実践的に学び、授業の可能性、すばらしさ、楽しさが体験できるようにする。						本学の教員養成の理念に基づき、一人の人間として自立した精神を持ち、社会生活と家庭生活をバランス良く両立させることが人間の幸福にとって重要であることを次世代の子どもたちに教え広めることのできる教員を目指すことができるようになる。具体的には、教員の使命及び教員の役割を理解できるようになる。教員の職務内容、学習指導の方法及び事例研究など、幅広い見地から教職について学び、教職への確かな動機づけができるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	教職という仕事、教師の学び	シラバスを読む	理想とする教師像について継続して考えていく
2	教員の使命	絵本、小説、映画などに取り上げている教師像	絵本、小説、映画などから様々な教師像を探る	教師像についての発表を聴いてレポートを書く
3	教職の沿革	免許法、教員養成制度、栄養教諭制度	配布プリント「栄養教諭制度」についてを読む	栄養教諭や中学校教諭の仕事について考える
4	教員の職務	校務分掌、学級経営、生徒指導	配布プリント「坊っちゃん」をよむ	授業以外の教師の仕事について考える
5		道徳、総合的な学習の時間、特別活動	配布プリント「教員の仕事」を読む	授業以外の教師の仕事についてまとめる
6		教科指導(小学校・中学校家庭科)	小学校、中学校の家庭科教科書を見てくる	教科指導の実際について考える
7		特別支援教育、食育	配布プリント「食に関する全体計画」を読む	食育と特別支援教育についてまとめる
8		キャリア教育、消費者教育、環境教育	配布プリント「地球家族」を読む	学校教育全体で行う指導についてまとめる
9	教員の専門性	教員の養成、研修、成長	「教師の学び」を読み、発表準備する	教師の学びについてレポートを書き提出する
10	学習指導の方法	授業の構成、授業内容の知識	配布プリントを読む	授業の構成の仕方、教材研究の仕方をまとめる
11		カリキュラム、学習指導案	配布プリント「学習指導案の書き方」を読む	学習指導案を書いて提出する
12	授業・給食指導の見学	近隣の学校見学(授業、給食)	見学の注意を確認する	近隣の学校見学の報告書をまとめて提出する
13		指導事例の検討(家族・家庭と子どもの成長、食生活と自立、食育)公開模擬授業①の見学	配布プリント「学習指導案①」を読む	公開模擬授業①についてレポート提出
14		指導事例の検討②(衣生活・住生活と自立、身近な消費生活と環境)公開模擬授業②の見学	配布プリント「学習指導案②」を読む	公開模擬授業②についてレポート提出
15	教職をめざして	教育実習、教職についての情報、教職の魅力	配布プリントを読む	まとめを行う

教科書	文部科学省：『小学校学習指導要領』(H20年告示)東京書籍(2009) 文部科学省：『中学校学習指導要領』(H20年告示)東山書房(2015)	参考資料	八島太郎：『からすたろう』偕成社(1979)、パトリシア・ボラコ：『ありがとうチュウ先生』岩崎書店(2013)、灰谷健次郎：『兎の眼』角川書店(1998)、前田康裕：『まんがで知る教師の学び』さくら社(2016)
-----	--	------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 毎回の出席を基本とする 積極的に授業に取り組み、学習したことが必ず自分の身につくように努力する 自身が教職に就くことについてしっかり考える 	受講態度、取り組み姿勢(20%) レポート(80%)	教職の意義や職務を理解し、教職への確かな動機づけができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
教育原理	教職必修	共通	1年前学期	講義	2	しんやま 新山 みつ枝	単独 教職課程科目	教職課程履修者	11, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教職に関する科目(教育の基礎理論に関する科目)						<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 			
授業の概要						授業の到達目標			
<p>教員になるために身につけておくべき教育の意義、歴史、制度、授業計画と評価、教師の仕事等に関する広汎かつ基礎的・基本的考え方を講義する。教育課題に関する最新の情報や社会情報を授業の初めに取り上げるので、関心の高いテーマを各自で決め、調査する。最終回では、各自のテーマの調査結果の発表・討議を行う。</p>						<p>本学の教員養成の理念に基づき、一人の人間として自立した精神を持ち、社会生活と家庭生活をバランス良く両立させることが人間の幸福にとって重要であることを次世代の子どもたちに教え広めることのできる教員を目指すことができるようになる。具体的には、教員の使命及び教員の役割を理解できるようになる。教員の職務内容、学習指導の方法及び事例研究など、幅広い見地から教職について学び、教職への確かな動機づけができるようになる。</p>			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	ガイダンス	科目の位置づけと授業の概要・進め方について	シラバスを読み授業計画を理解する	教育に関する課題について常に興味を持つ
2	教育とは何か	教育の目的と機能	教科書P1～P8を読む	「学ぶ」と「教える」についてまとめる
3		教育と教化と形成	人間の育ちについてのことわざをさがす	教育とは何かについてまとめる
4	学校教育の歴史の変遷	古代から中世の学校の成り立ち	教科書P39～P45を読む キーワードを4つ探す	なぜ学校が必要になったか考える
5		近代公教育制度の成立とその性質	教科書P45～P55を読む キーワードを4つ探す	中世の学校についてまとめる
6		現代における日本の教育改革	教科書P57～P77を読む キーワードを4つ探す	日本の教育制度についてまとめる
7	授業の計画・実施・評価	教授学習の方法原理	学習指導方法について配布プリントを読む	学習指導方法の工夫について考える
8		指導の技術	教科書P159～P168を読む キーワードを4つ探す	教育の技術についてまとめる
9		教育目標と教育評価	教科書P133～P143を読む キーワードを4つ探す	教育目標と評価の意義を確認する
10	教師の仕事	教師に求められる力・学生時代に学ぶこと	教科書P177～P188を読む キーワードを4つ探す	今後どのような勉強が必要か考えてまとめる
11		教師の資質と能力	教科書P188～P201を読む キーワードを4つ探す	教員の資質を高める方法について考える
12	社会教育と生涯学習	生涯学習の理念と展開	教科書P219～P232を読む キーワードを4つ探す	生涯学習の必要性についてまとめる
13	教育への権利	憲法・教育基本法と子どもの権利条約	教科書P233～P247を読む キーワードを4つ探す	憲法や教育基本法について確認する
14	現代の学校と教育課題	子どもを取り巻く教育課題	現代の学校と子どもをめぐる教育課題のテーマ決定	子どもを取り巻く教育課題のレポートをまとめる
15		課題発表・討議	課題発表の準備をする	討論会についてまとめる

教科書	田嶋一他：『やさしい教育原理 新版補訂版』 有斐閣（2016）	参考書資料	授業中に配布する
-----	---------------------------------	-------	----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に取り組み、学習したことが必ず自分の身につくように努力する。 ・教育に関する新聞記事やニュース、映画、小説などに常に興味を持つようにする ・自分の関心のあるテーマを早めに決め、最終回で発表できるように準備する。 	受講態度 (20%) 発表 (30%) レポート (50%)	授業に積極的に取り組み、課題を発表し、教員になるために必要な教育学の基本的な理解ができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL	
教育心理	教職必修	共通	1年前学期	講義	2	つきもと 月本	ゆきこ 由紀子	単独	教職課程科目	教職課程履修者	11, 14, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項					
教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）						幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身発達及び学習の過程を含む）					
授業の概要						授業の到達目標					
基本的な心理学の理論の中でも、子どもの発達や学習理論を主として扱う。発達分野では子どもの正常発達と発達上の問題について確認する。学習分野では、学校教育に関わる学習理論について扱う。また、授業内においては、こまめに復讐課題を実施し、学習内容の確実な習得を目標とする。						幼児、児童及び生徒の学習過程と心身の発達の諸特徴に関する教育心理学の知見について学び、そして、諸知見を学校教育において生かすための能力を養うことを目標とする。					

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	教育心理学とは	教育心理学を学ぶ意義	教科書を読み、教育心理学を学ぶ意義について考えておく	教科書のまとめの問題を解く
2	発達とは何か	発達の 遺伝説と定義、環境説	教科書を読み、遺伝と環境について考えておく	教科書の遺伝説と環境説のまとめの問題を解く
3	乳児期の発達	乳児期の心身の発達	教科書を読み、乳児期の発達について考えておく	教科書の乳児期のまとめの問題を解く
4	幼児期の発達	幼児期の心身の発達	教科書を読むとともに、自分の幼児期について思い出しておく	教科書の幼児期のまとめの問題を解く
5	子どもの認知発達理論	子どもの思考の発達	教科書を読むとともに、自分の児童期について思い出しておく	教科書のまとめの問題を解く
6	児童期の発達	児童期の社会性の発達	教科書を読み、教育心理学を学ぶ意義について考えておく	教科書の児童期のまとめの問題を解く
7	青年期の発達	思春期～青年期の心身の発達	教科書を読むとともに、自分の中学生、高校生の時のことを思い出しておく	教科書の青年期のまとめの問題を解く
8	発達と教育	主要な発達理論	教科書を読み、発達理論について予習しておく	教科書の発達理論のまとめの問題を解く
9	学習とは何か	学習の定義	教科書を読み、学習理論について予習しておく	教科書の学習についてのまとめの問題を解く
10	学習の諸相	学習の諸相	教科書を読み、学習の諸相について予習しておく	教科書のまとめの問題を解く
11	学習と記憶	学習と記憶	教科書を読み、学習と記憶について予習しておく	教科書の記憶についてのまとめの問題を解く
12	動機づけとは	動機づけ	教科書を読み、動機づけについて予習しておく	教科書の動機づけのまとめの問題を解く
13	障害のある子どもの指導(1)	障害の種類と概要	教科書を読み、障害の種類について予習しておく	教科書の障害についてのまとめの問題を解く
14	障害のある子どもの指導(2)	障害のある子どもの発達過程	教科書を読み、障害のある子どもの発達過程について予習しておく	教科書の障害のある子どもの発達過程のまとめの問題を解く
15	障害のある子どもの指導(3)	障害のある子どもの指導	教科書を読み、障害のある子どもの指導について予習しておく	教科書の障害のある子どもの指導のまとめの問題を解く

教科書	柏崎秀子（編著）：『教職ベーシック 発達・学習の心理学』 北樹出版（2010）	参考書資料	必要に応じて講義内で配布、紹介いたします
------------	---	--------------	----------------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・欠席・遅刻をしないこと。 ・授業内では、許可された場合を除いて私語や携帯電話の使用を禁じる。 	定期試験(90%)、授業態度(10%)の総合評価	授業内で取り扱った、学校教育に関する心理学の基礎的事項について基本的な理解ができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
教育の課程及び方法	教職必修	共通	1年後学期	講義	2	さなだ ちえこ 真田 知恵子 こたか 小高 さほみ オム ニバ ス	教職課程	教職課程履修者	1, 9, 11, 13
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）						<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義及び編成の方法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む） 			
授業の概要						授業の到達目標			
<p>学校教育において、教育課程、教師の指導方法、技術は学習目標の達成に大きく関わるものである。授業における教師の役割を考え、学習意欲を引き出す工夫と授業技術を身に付けるとともに、教育メディアを効率的に利用する方法、教育評価の手法を学習する。授業実践のために必要となる教育方法・技術についての基礎的知識を獲得し、具体的な学習指導案作成、模擬授業を通して情報機器及び教材の有効活用法を学習する。</p>						<p>本学の教員養成の理念に基づき、一人の人間として自立した精神を持ち、社会生活と家庭生活をバランス良く両立させることが人間の幸福にとって重要であることを次世代の子どもたちに教え広めることのできる教員を目指すことができるようになる。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における教育課程の意義、編成方法を理解できるようになる。 ・基礎となる学習理論、授業設計、教育評価の手法及び学習指導を効果的に行うために必要な教育の方法を理解し、学習指導案が作成できるようになる。 ・教育メディアや情報機器を活用して教材開発や資料作成、プレゼンテーションができるようになる。 			

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当	事前学習	事後学習
1	はじめに	教育課程の概念	小高	授業相当部分について教科書を読んでくる。	授業内容を振り返りノート等を整理する。
2	教育課程の開発と評価(1)	教育課程編成の意義と原理	小高	授業相当部分について教科書を読んでくる。	授業内容を振り返りノート等を整理する。
3	教育メディアとその活用	教育メディアの意味、活用の理論	真田	授業相当部分について教科書を読んでくる。	授業内容を振り返りノート等を整理する。
4	学習指導要領	学習指導要領の変遷と内容	真田	授業相当部分について教科書を読んでくる。	授業内容を振り返りノート等を整理する。
5	教育課程実施における教師の役割	授業における教師の役割	真田	授業相当部分について教科書を読んでくる。	授業内容を振り返りノート等を整理する。
6	教育課程実施における教師の指導技術	学習意欲を引き出す工夫と授業技術	真田	授業相当部分について教科書を読んでくる。	授業内容を振り返りノート等を整理する。
7	教授組織と学習組織・学習指導案(1)	教授組織と学習組織の諸形態・学習指導案の作成方法	真田	授業相当部分について教科書を読んでくる。	学習指導案を作成する。
8	学習指導案(2)	学習指導案の作成	真田	前回の授業時に出された課題に取り組む。	学習指導案を作成する。
9	模擬授業	模擬授業	真田	模擬授業の教材研究を行う。	学習指導案を手直しする。
10	模擬授業	模擬授業	真田	模擬授業の教材研究を行う。	学習指導案を手直しする。
11	模擬授業	模擬授業	真田	模擬授業の教材研究を行う。	学習指導案を手直しする。
12	授業における評価	授業評価の方法	真田	授業相当部分について教科書を読んでくる。	授業内容を振り返りノート等を整理する。
13	評価材料の種類と活用法	模擬授業における評価材料の見直しと再作成	真田	模擬授業の評価材料を見直す。	模擬授業の評価材料を改善する。
14	教育課程の開発と評価(2)	教育課程の編成方法	小高	授業相当部分について教科書を読んでくる。	授業内容を振り返りノート等を整理する。
15	まとめ	教育課程における教師の役割や指導技術	小高	授業相当部分について教科書を読んでくる。	授業内容を振り返りノート等を整理する。

教科書	文部科学省：『小学校学習指導要領』（2008）、『中学校学習指導要領』（2008） 広岡義之編：『はじめて学ぶ教育課程』ミネルヴァ書房（2016）	参考書 資料	（参考書）根津朋美・吉江守男編：『教職シリーズ3教育内容・方法』培風館（2010）
-----	--	-----------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の使用及び私語禁止。 ・学習指導案などパソコンの活用を伴う課題を課すことがある。 	課題(80%)、受講態度(20%)の総合評価	教育課程について理解し、教育メディアや情報機器を活用して教材開発や資料作成を行い、学習指導を効果的に行うために必要な教育の方法を理解して学習指導案の作成、模擬授業実践ができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
家庭科教育法	教職必修	家政	1年 後学期	講義	2	かめい ゆうこ 亀井 佑子	単独 教職課程科目	教職課程履修者	6・7, 8, 11, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）						各教科の指導法			
授業の概要						授業の到達目標			
学校教育における家庭科教育の全体像を把握し、中学校家庭科の目標、指導内容、方法を理解し、中学校家庭科教員として教科指導に関わる知識や技術を習得する。PDCAサイクルを実施している。						本学の教員養成の理念に基づき、一人の人間として自立した精神を持ち、社会生活と家庭生活をバランス良く両立させることが人間の幸福にとって重要であることを次世代の子どもたちに教え広めることのできる教員を目指すことができるようになる。中学校の家庭科教諭として、生徒を指導するために必要な専門的能力の育成を目的とし、家庭科教育の意義、教科の特性、教育課程、学習指導要領の読み取り、学習指導案の立て方、書き方、教材研究の方法、授業の作り方、模擬授業の実施、評価等について基礎的・基本的知識や技			

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	家庭科教育の意義	家庭科教育の意義・理念・目標	シラバスを読んてくる	配布プリントについて復習する
2	学校教育における家庭科教育	小・中・高の家庭科教育の内容	配布プリントを読んてくる	説明を思い出し配布プリントについて復習する
3	中学校家庭科学習指導要領	教育課程、学習指導要領、教育関連の法律	中学校学習指導要領の中の関連法令を読んてくる	説明された内容の復習をする
4		中学校家庭科教科書の内容構造	中学校教科書を読んてくる	中学校教科書で学習内容を確認する
5	年間指導計画	年間指導計画の立て方	中学校教科書を読んてくる	年間指導計画を立ててみる
6	学習指導の計画	学習指導案の立て方、書き方	教科書P35～P53を読んてくる	教科書P129～P132を読んておく
7		学習指導の方法、教材研究の方法	教科書P54～P73を読んてくる	教材研究をする
8	授業研究	中学校家庭科授業の参観	訪問中学校のホームページを見んてくる	中学校訪問の報告書を書んてくる
9	学習指導案の作成	A 家族・家庭と子どもの成長 (P)	教科書を見んて授業するところを決める	指導案を書んてくる
10		B 食生活と自立 (P)	教科書を見んて授業するところを決める	指導案を書んてくる
11		C 衣生活・住生活と自立 (P)	教科書を見んて授業するところを決める	指導案を書んてくる
12		D 身近な消費生活と環境 (P)	教科書を見んて授業するところを決める	指導案を書んてくる
13	模擬授業	模擬授業の実施、評価 (D, C, A)	教科書P101～P116を読んて指導案を完成する	指導案の修正を実施する
14	家庭科の評価	評価の目的、観念、方法	P108～P154の該当場所と評価のプリントを読んてくる	配布プリントについて復習する
15	家庭科の施設・設備	施設・設備、産業教育とのかかわり	配布プリントを読んてくる	配布プリントについて復習する

教科書	鶴田敦子、伊藤葉子編著：『授業力UP 家庭科の授業』 日本標準（最新版） 【中学校教科書】 佐藤文子他：『新しい技術・家庭 家庭分野』 東京書籍（最新版） 文部科学省：『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』（最新版） 文部科学省：『中学校学習指導要領（2008）』	参考書 資料	授業時に指示する
-----	---	-----------	----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること 余儀なく欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること 教師を目指すものとしての自覚を持ち、意欲的に授業に取り組むこと 	学習指導案・模擬授業(70%) 観察記録(10%) 授業態度(20%)の総合評価	家庭科教育の全体像を理解し、家庭科の目標、内容、指導に関する知識や技術が身につく、課題提出と模擬授業ができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
道徳及び特別活動の指導法	教職必修	共通	1年後学期	講義	2	かめい ゆうこ 亀井 佑子 しんやま みつえ 新山 みつ枝	オムニバス 教職課程科目	教職課程履修者	6・7, 8, 11, 12, 16

教育職員免許法施行規則に定める区分

各科目に含めることが必要な事項

教職に関する科目(教育課程に関する科目)

道徳及び特別活動に関する内容

授業の概要

道徳とは何か、道徳教育の歴史、現行の学習指導要領や道徳教育の基礎となる理論について講義する。道徳諸問題や事例研究、指導案作成では演習形式により活動の場を提供する。ふりかえり用紙を活用する。特別活動については、学級活動・生徒会活動・クラブ活動・学校行事について内容、特質、目的等について基礎的知識を学ぶ。学級活動について過去の体験や実践例を調べて模擬授業の指導案の作成、授業実践を行う。

授業の到達目標

本学の教員養成の理念に基づき、一人の人間として自立した精神を持ち、社会生活と家庭生活をバランス良く両立させることが人間の幸福にとって重要であることを次世代の子どもたちに教え広めることのできる教員を目指すことができるようになる。具体的には、教員の使命及び教員の役割を理解できるようになる。教員の職務内容、学習指導の方法及び事例研究など、幅広い見地から教職について学び、教職への確かな動機づけができるようになる。

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当	事前学習	事後学習
1	学習指導案の作成	学習指導案の読み取りと学習指導案の作成方法	亀井	シラバスをよく読む	学習指導案を整理しておく
2	特別活動とは	体験した特別活動の振り返り、特別活動の目的・意義	亀井	体験した特別活動をまとめておく	特別活動の目的、意義の復習をする
3	学級活動(ホームルーム活動)	学級活動(ホームルーム活動)の目的・意義と実際	亀井	学級活動の目的、意義について考える	学級活動での授業の流れを考える
4	生徒会活動	生徒会活動の目的・意義と実際	亀井	生徒会活動の目的、意義について考える	生徒会活動での授業の流れを考える
5	学校行事、クラブ活動・部活動	学校行事、クラブ活動・部活動の目的・意義と実際	亀井	学校行事、クラブ活動の目的、意義について考える	学校行事、クラブ活動での授業の流れを考える
6	学級活動の指導案作成	学級活動の指導案・ワークシートの作成	亀井	学級活動の指導案について考える	学級活動での授業の流れについて考える
7	学級活動の模擬授業	模擬授業の実施	亀井	指導案を作成し、模擬授業を実施してみる	模擬授業の振り返りをして、指導案、ワークシートの修正をする
8	特別活動の見学	近隣の中学校訪問による特別活動見学	新山	中学校見学の際の注意事項を考える	見学後の報告レポートをまとめる
9	道徳教育とは	道徳教育の目的	新山	小中学校の道徳授業について振り返る	道徳教育の意義をまとめる
10	道徳教育の歴史	日本における道徳教育の歴史	新山	日本の道徳教育の歴史を調べる	日本の道徳教育の歴史をまとめる
11	学習指導要領と道徳	学習指導要領の内容理解と検討	新山	学習指導要領解説書(H27)を読む	H27年の改訂の趣旨を確認する
12	道徳教育の諸理論	コールバーグの道徳性発達理論とモラルジレンマ学習の理論	新山	道徳授業の背景にある理論を調べる	モラルジレンマ学習の実践例を検索する
13	現代における道徳諸問題	社会状況の変化、家庭をめぐる問題、教科化、評価	新山	H27改訂により道徳教育はどう変わったか調べる	改訂による課題をみつける
14	学習指導案の書き方と事例研究	学習指導案の読み取りと学習指導案の作成方法	新山	H27改訂以後の指導案を検索する	指導案作成を完成させる
15	学習指導案の発表・検討	作成した指導案の発表・検討	新山	作成した指導案で模擬授業(または発表)の準備する	まとめを行う

教科書	文部科学省：『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成27年3月告示 Web版 『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』平成27年3月告示 Web版 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』ぎょうせい(2013)	参考書 資料	高旗正人、倉田侃司編：『新しい特別活動指導論 第2版』ミネルヴァ書房(2011) 柳沼良太、『問題解決的な学習で創る道徳授業 超入門 「読む道徳」から「考え、議論する道徳」へ』明治図書出版(2016)
-----	--	-----------	---

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること 余儀なく欠席の場合は、登校した日に必ず、研究室に連絡を取ること 教師を目指すものとしての自覚をもち意欲的に授業に取り組むこと 	レポート(80%) 授業態度・取組姿勢(20%)	道徳教育、特別活動に関する基本的な知識を習得して、道徳教育、特別活動を実際に行えるような指導案を作成し発表できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
生徒指導 (栄養教諭)	教職必修	食栄	2年 前学期	講義	2	かめい ゆうこ 亀井 佑子	単独 教職課程科目	教職課程履修者	8, 11, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教職に関する科目（生徒指導・教育相談及び進路指導に関する科目）						<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の理論及び方法 進路指導の理論及び方法 			
授業の概要						授業の到達目標			
すべての児童生徒の自己実現に向けて教師として果たす役割は何か、また「生きる力」を生徒指導・進路指導の領域でどのようにつけるべきかについて、指導理論、方法論からアプローチする。今日的課題を整理し、その課題解決のための方策について、講義、資料検討及び関係諸機関の見学を行う。						本学の教員養成の理念に基づき、一人の人間として自立した精神を持ち、社会生活と家庭生活をバランス良く両立させることが人間の幸福にとって重要であることを次世代の子どもたちに教え広めることのできる教員を目指すことができるようになる。すべての児童生徒の個性の伸長を図りながら同時に社会的な資質や能力・態度を育成、さらに将来において社会的に自己実現できる生徒指導のあり方がわかるようになる。さらに、現状と課題を理解すると共に、キャリア教育の視点をとらえたよりよい進路指導ができるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	生徒指導の意義と原理	生徒指導の意義と課題、教育課程における生徒指導の位置づけ	シラバスを読んでくる	授業で習ったことを復習する
2		生徒指導の前提となる発達観と指導観	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
3	教育課程と生徒指導	教科、道徳教育における生徒指導	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
4		総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
5	児童生徒の心理と児童生徒理解	児童生徒理解の基本、児童期の心理と発達	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
6		青年期の心理と発達、児童生徒理解の資料とその収集	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
7	学校における生徒指導体制	生徒指導体制の基本的な考え方、生徒指導の組織、年間指導計画	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
8		教員研修、資料の活用、指導要録、全校指導体制、評価と改善	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
9	生徒指導の進め方	児童生徒全体への指導、組織的対応と関係機関との連携	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
10		児童生徒全体への指導、基本的な生活習慣の確立	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
11	生徒指導の進め方	個別の課題を抱える児童生徒への指導、問題行動の早期発見、指導	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
12		個別の課題を抱える児童生徒への指導、少年非行、いじめ等	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
13		中学校での生徒指導の見学	訪問校についてホームページを見て確認する	報告書に記入する
14	生徒指導に関する法制度等	校則、懲戒、体罰、出席停止、青少年の保護育成に関する法令等	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する
15	学校と家庭・地域・関係機関等との連携活動	学校を中心とした家庭・地域・関係機関等との連携活動	教科書の該当部分を読んでくる	授業で習ったことを復習する

教科書	文部科学省：『生徒指導提要』 教育図書（2012）	参考書資料	プリント配布
-----	---------------------------	-------	--------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること 余儀なく欠席の場合は、登校した日に必ず担当教員に連絡を取ること 時間管理もきちんと行い、内容の完成度の高い模擬授業を実施すること 教師を目指すものとして自覚を持ち、意欲的に授業に取り組むこと 	レポート(60%) 課題 (20%) 授業態度(20%)	生徒指導の今日的課題や生徒指導の方法が具体的に理解でき実践する態度が育成できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
教育相談	教職必修	共通	2年前学期	講義	2	佐藤 秋子 勝浦 節子 オムニバス	教職課程科目	教職課程履修者	8, 9, 11, 15
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教職に関する科目（制度指導・教育相談および進路指導に関する科目）						教育相談（カウンセリングに関する小曾的な知識を含む）の理論および方法			
授業の概要						授業の到達目標			
教育実習を控えているため、具体的な問題について先に扱い、理論は具体例・実践を纏めるものとして、後から学ぶ。演繹的な学習方法ではなく、帰納的な学習方法である。また、教育相談では生徒への対応だけでなく、保護者への対応も重要である。問題に対応するには学校内外の連携が欠かせない。その他、医学的知識など教育相談に関わる諸事項についても扱う。						学校現場において必要とされる教育相談の理論や技法について学ぶ。学校現場の抱える課題を知り、生徒の問題行動、心理的問題、発達障害などについて知識を得るだけでなく、様々な問題への対応・実践について理解を深めることを目的とする。そのためには「カウンセリングマインド」を始め、様々な臨床的技法が学校場面でどう活かされるのか、具体例の紹介、具体的場面を設定してのロールプレイなどを通じて、実践力を養うことを旨としたい。			

授業のスケジュール

回	項目	内容	担当	事前学習	事後学習
1	教育相談とはなにか	教育相談を学ぶ意義及び学内での連携について	佐藤	シラバスを読んでくる	授業への感想や意見をまとめる
2	問題への対応1：いじめ・不登校	いじめ・不登校の現状、心理の理解とその対応・支援	佐藤	新聞の切り抜きから。その記事に関するコメントをする	授業内容に関する小課題をまとめる
3	特別支援教育1：自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラムの理解とその対応・支援	佐藤	授業の中から課題を一つ選択し、簡単にコメントする	授業内容に関する小課題をまとめる
4	特別支援教育2：AD/HD、LD	注意欠陥・多動性障害、学習障害の理解とその対応・支援	佐藤	授業の中から課題を一つ選択し、簡単にコメントする	授業内容に関する小課題をまとめる
5	問題への対応1：非行・虐待	非行・虐待の現状、心理の理解とその対応・支援	佐藤	授業の中から課題を一つ選択し、簡単にコメントする	授業内容に関する小課題をまとめる
6	学校内外の連携	保護者・家族への対応と連携、地域との連携のあり方	佐藤	授業の中から課題を一つ選択し、簡単にコメントする	授業内容に関する小課題をまとめる
7	問題への対応：リストカット他	リストカット、自殺（未遂）、場面緘黙、チックなどへの対応と支援	佐藤	授業の中から課題を一つ選択し、簡単にコメントする	授業内容に関する小課題をまとめる
8	教育相談に必要な医学的知識	不安神経症・うつ病などの理解について	佐藤	授業の中から課題を一つ選択し、簡単にコメントする	授業内容に関する小課題をまとめる
9	カウンセリングの理論と技法(1)	来談者中心療法の理論・ロールプレイによって技法を学ぶ	勝浦	これまでの授業で学習したことを復習する	授業内容を復習し、疑問点などを整理する
10	カウンセリングの理論と技法(2)	精神分析及び精神分析的療法の理論と技法（含箱庭療法）	勝浦	前回の授業の最後に出た質問に答える準備をする	授業内容を復習し、疑問点などを整理する
11	カウンセリングの理論と技法(3)	行動療法、認知療法、認知行動療法の理論と技法	勝浦	前回の授業の最後に出た質問に答える準備をする	授業内容を復習し、疑問点などを整理する
12	カウンセリングの理論と技法(4)	遊戯療法、表現療法について：絵画療法の実技を経験してみる	勝浦	前回の授業の最後に出た質問に答える準備をする	授業内容を復習し、疑問点などを整理する
13	カウンセリングの理論と技法(5)	構成的グループエンカウンターによるディスカッション	勝浦	前回の授業の最後に出た質問に答える準備をする	授業内容を復習し、疑問点などを整理する
14	ロールプレイによる問題の理解と対応	いじめ、不登校、非行などの場面を設定し、ロールプレイにより、疑似体験的に理解する	勝浦	前回の授業の最後に出た質問に答える準備をする	授業内容を復習し、疑問点などを整理する
15	心理テストについて	質問紙、投影法など心理テストの紹介。ペアワークでその一部を体験	勝浦	前回の授業の最後に出た質問に答える準備をする	これまでの授業内容を復習し、まとめる

教科書	講義内で資料などを配布	参考書資料	必要に応じて講義内で紹介する
-----	-------------	-------	----------------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 欠席・遅刻をしないこと。 授業内では、許可された場合をのぞいて私語や携帯電話の操作を禁じる。授業時に課題を提出すること。 授業の展開においては、シラバスと異なることもある。 	定期試験(80%)、課題の評価(10%)、授業態度(10%)の総合評価。	授業内で取り扱った、学校教育に関する心理学の基礎的事項について基本的な理解ができれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
教育実習 I	教職必修	家政	1年 後学期	演習	1	かめい ゆうこ 亀井 佑子 しんやま え 新山 みつ枝	オムニ バス 教職課程科目	教職課程履修者	6・7, 8, 11, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教職に関する科目（教育実習）						—			
授業の概要						授業の到達目標			
本授業は、教育実習の事前指導である。実習生としての自覚を持ち、年間計画、教材研究、学習指導案作成、教科指導や教科外指導の内容、方法を学び、模擬授業ではそれらを統合する力と、思考力、判断力、表現力も指導する。PDCAサイクルを実施している。						本学の教員養成の理念に基づき、一人の人間として自立した精神を持ち、社会生活と家庭生活をバランス良く両立させることが人間の幸福にとって重要であることを次世代の子どもたちに教え広めることのできる教員を目指すことができるようになる。具体的には、教育実習の意義を理解し、年間計画作成、教材研究、指導案作成、模擬授業を通して、教育実習を行うために必要な基礎知識、基礎技能を習得し、実践できるようになる。			

授業のスケジュール

回	項目	内 容	事前学習	事後学習	
1	教育実習の意義	教育実習の意義、実習生としての自覚、事前対応の方法	シラバスを読んてくる	中学校の教科書の目次を読んてくる	
2	教科指導の実際 教材研究 学習指導案の作成 (P) 模擬授業 (D) 研究協議 (C, A)	B 食生活の自立 (P, D, C, A)	教材研究をする	教材研究をし、指導案を書く	
3			指導案を書いて模擬授業の練習をする	指導された点を修正し、指導案の完成を図る	
4		調理実習 (P, D, C, A)	教材研究をする	教材研究をし、指導案を書く	
5			指導案を書いて模擬授業の練習をする	指導された点を修正し、指導案の完成を図る	
6		C 衣生活・住生活と自立 (P, D, C, A)	教材研究をする	教材研究をし、指導案を書く	
7			指導案を書いて模擬授業の練習をする	指導された点を修正し、指導案の完成を図る	
8		被服実習 (P, D, C, A)	教材研究をする	教材研究をし、指導案を書く	
9			指導案を書いて模擬授業の練習をする	指導された点を修正し、指導案の完成を図る	
10		D 身近な消費生活と環境 (P, D, C, A)	教材研究をする	教材研究をし、指導案を書く	
11			指導案を書いて模擬授業の練習をする	指導された点を修正し、指導案の完成を図る	
12		A 家族・家庭と子どもの成長 (P, D, C, A)	教材研究をする	教材研究をし、指導案を書く	
13			指導案を書いて模擬授業の練習をする	指導された点を修正し、指導案の完成を図る	
14		教育実習の実際	中学校で行われている教育実習の見学(学校現場体験)	訪問学校のホームページを読み、研究する	見学記録を書く
15		教科外指導の実際	特別活動・学級活動・学校行事への参加	配布プリントを読んてくる	配布プリントについて復習する

教科書	文部科学省：『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』（最新版） 【中学校教科書】佐藤文子他：『新しい技術・家庭 家庭分野』東京書籍（最新版）	参考書 資料	柴田義松、木内剛編著：『教育実習ハンドブック』学文社（2008） 高野和子、岩田康之編：『教師教育テキストシリーズ教育実習』学文社（2010）
------------	---	-------------------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席はしないように体調管理をきちんとすること 余儀なく欠席の場合は、登校した日に必ず担当教員に連絡を取ること 時間管理もきちんと行い、内容の完成度の高い模擬授業を実施すること 教師を目指すものとして自覚を持ち、意欲的に授業に取り組むこと 	学習指導案・教材の作成(40%)、模擬授業(30%)、公開模擬授業の評価（30%）の総合評価	単元ごとの教授内容や教材について、自分で調べ、アイデアを出し、学習指導案を作成し指導目標に対応した授業が実施できれば合格。

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
栄養教諭教育実習	教職必修	食栄	2年 通年	実習	3	かめい 祐子・新山 聖子 みづえ 枝・神田 聖子 複数 オム パス	教職課程科目	教職課程履修者	6・7, 8, 11, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教職課程科目（教職に関する科目）						—			
授業の概要						授業の到達目標			
本授業は、教育実習の事前事後指導である。実習生としての自覚を持ち、学習指導案作成、教材研究、教科指導や教科外指導の方法を学び、模擬授業ではそれらを統合する力と表現力も指導する。「人に教える」ことの難しさ、責任の重さを実践から理解する。PDCAサイクルを回している。						本学の教員養成の理念に基づき、一人の人間として自立した精神を持ち、社会生活と家庭生活をバランス良く両立させることが人間の幸福にとって重要であることを次世代の子どもたちに教え広めることのできる教員を目指すことができるようになる。具体的には、教育実習の意義を理解し、教材研究、指導案作成、模擬授業を通して、教育実習を行うために必要な基礎的な知識と技能を習得し、栄養教諭としての実践ができるようになる。			

授業のスケジュール（前学期）

回	項目	内 容	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション	教育実習の意義と目的、求められる教員像、実習生としての意志確認	前年度報告会の感想をまとめる	教育実習に向けて前学期に身につけたい力を考える
2	「生きた教材」を活用した食に関する指導（模擬授業1）	給食時間における学習指導案及び教材の作成 1 (P)	自身の体験から給食時間の指導の意義を考える	学習指導案の書き方を復習する
3		給食時間における学習指導案及び教材の作成 2 (P)	学習指導案及び教材作成を進める	学習指導案及び教材作成について見直しをする
4		模擬授業(D)及びディスカッション (C, A)	模擬授業に向けて準備をする	他者・自己評価から次回への課題を考える
5	教科等における食に関する指導（模擬授業2 特別活動）	テーマに沿った指導の構成と展開 1 (P)	教科書を一読し、取り上げるテーマを考える	進まなかった部分について見直しをする
6		テーマに沿った指導の構成と展開 2 (P)	模擬授業に向けて準備をする	進まなかった部分について見直しをする
7		模擬授業(D)及びディスカッション (C, A)	模擬授業に向けて準備をする	他者・自己評価から次回への課題を考える
8	学校現場体験	教育実習校の教育活動見学	教育実習校の特徴や活動について調べる	体験して感じたこと・考えたことをまとめる
9	教科等における食に関する指導（模擬授業3 家庭科）	公開模擬授業に向けた学習指導案及び教材の作成 1 (P)	教科書を一読し、取り上げるテーマを考える	進まなかった部分について見直しをする
10		公開模擬授業に向けた学習指導案及び教材の作成 2 (P)	模擬授業のリハーサルに向けて準備をする	進まなかった部分について見直しをする
11		公開模擬授業に向けた学習指導案及び教材の作成 3 (P)	模擬授業のリハーサルに向けて準備をする	進まなかった部分について見直しをする
12		公開模擬授業(D)のリハーサル及びディスカッション (C, A)	模擬授業のリハーサルに向けて準備をする	他者・自己評価から公開模擬授業への課題を考える
13	公開模擬授業	家庭科または特別活動における模擬授業及びディスカッション 1	公開模擬授業に向けて準備をする	他者・自己評価から後期への課題を考える
14		家庭科または特別活動における模擬授業及びディスカッション 2	公開模擬授業に向けて準備をする	他者・自己評価から後期への課題を考える
15	前学期のまとめ	前学期の振り返り、履修カルテの入力	前学期に身につけたい力がついたかまとめる	履修カルテの完成

教科書	文部科学省：『食に関する指導の手引き 第一次改訂版』東山書房（2010） 文部科学省：『小学校学習指導要領』東京書籍、『中学校学習指導要領』東山書房（2008告示 最新版）	参考書 資料	笠原賀子ほか：『栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート』医歯薬出版（最新版） 江口敏幸ほか：『食育教材「そのまんま料理カード」活用事例集 はじめての食育授業 小学校・特別支援学校』群羊社（2011）
-----	---	-----------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
・教育実習における食に関する指導を充実させるために模擬授業を中心に進める。 ・『食に関する指導の手引－第一次改訂版－』をよく理解し、学習指導案の作成、教材研究に積極的に取り組む姿勢と技術を指導する。		

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員	科目区分	履修条件	AL
栄養教諭教育実習	教職必修	食栄	2年 通年	実習	3	かめい ゆうこ しんやま 亀井 佑子・新山 みつえ 枝 神田 聖子 複数 オム パス	教職課程科目	教職課程履修者	6・7, 8, 11, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項			
教職課程科目（教職に関する科目）						—			
授業の概要						授業の到達目標			

授業のスケジュール（後学期）

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	教育実習の準備	教育実習の準備と心得(教育実習ノートの書き方)、実習校周辺地域の理解	教育実習校周辺地域の特徴や活動について調べる	実習ノートをよく読む、他の学校・地域と比較して特徴を理解する
2		教育実習におけるコミュニケーションのとり方、児童・生徒の心と体、いじめや不登校、特別支援教育等、今日的な教育課題等	「特別活動の指導法」を復習する	理解不足であった点を見直しておく
3	発達段階に応じた食に関する指導	間食のとり方（ロールプレイング、ディスカッション）	自身のこれまでの間食の摂り方を振り返る	発達段階による間食の摂り方を復習する
4	個別的な相談指導の進め方	食物アレルギー（ロールプレイング、ディスカッション）	集団指導と個別指導の違いを考える	食物アレルギーの個別対応の必要性を振り返る
5	教科等における食に関する指導 (模擬授業4)	公開模擬授業に向けた学習指導案及び教材の作成 1 (P)	題材の選定と前期からの改善点をまとめる	公開模擬授業に向けて計画を立てる
6		公開模擬授業に向けた学習指導案及び教材の作成 2 (P)	公開模擬授業のリハーサルに向けて準備をする	進まなかった部分について見直しをする
7		公開模擬授業に向けた学習指導案及び教材の作成 3 (P)	公開模擬授業のリハーサルに向けて準備をする	進まなかった部分について見直しをする
8		公開模擬授業(D)のリハーサル及びディスカッション(C, A)	公開模擬授業のリハーサルに向けて準備をする	他者・自己評価から公開模擬授業への課題を考える
9	公開模擬授業	教育実習における研究課題に関する模擬授業及びディスカッション 1	公開模擬授業に向けて準備をする	他者・自己評価から後学期への課題を考える
10		教育実習における研究課題に関する模擬授業及びディスカッション 2	公開模擬授業に向けて準備をする	他者・自己評価から後学期への課題を考える
11	教育実習の実際	実習校における教育実習	持ち物や課題等の確認をする	実習ノートをまとめる
12	教育実習の反省、まとめ	お礼状の書き方、教育実習の反省、課題の整理、教育実習報告会準備	教育実習中の学びを振り返る	お礼状の完成・投函、実習ノートの完成
13		教育実習報告会リハーサル	報告会に向けたパワーポイント及び原稿作成	改善点を修正する
14	教育実習報告会	教育実習の報告	報告会に向けたパワーポイント及び原稿修正	クラスメイトの報告を含めて実習を振り返る
15	教育実習報告会後の反省、まとめ	全体の振り返り	栄養教諭とは、求められる力とは何かを考える	2年間を振り返り、自身の将来を考える

教科書		参考書 資料	
-----	--	-----------	--

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
	取り組み姿勢(20%) 学習指導案の作成・模擬授業(30%) 公開模擬授業の評価(20%) 実習校における実習(30%)	熱心に取り組む、指導目標に対応した内容・方法の授業を構成し、 栄養教諭としての実践力が身につけば合格。

シラバス(様式)

授業科目名: 教職実践演習(栄養教諭)		単位数: 2単位		教職担当教員: ^{かめいゆうこ} 亀井佑子、 ^{しんやま え} 新山みつ枝 教科担当教員: ^{かんだせいこ} 神田聖子	
科目	教職に関する科目(教職実践演習)				
履修時期	2年次後期	履修履歴の把握※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	3人				
<p>教員の連携・協力体制: 学生及び教職課程の各科目担当教員により記載された履修カルテを基に、栄養教諭指導分科会において履修学生の得意分野と不得意分野を確認する。履修学生が必要な知識及び技術を補充できるよう、教職に関する科目担当教員等も必要に応じて授業に参加しサポートを行う。さらに、江戸川区教育委員会及び現職教員を招聘し、学校現場の現状について学ぶ機会を設ける。</p>					
<p>授業の到達目標及びテーマ: 履修カルテに基づいてこれまでの学修を振り返り、その上で栄養教諭として、①不足している専門知識・技術を補充して実践的指導力を定着させ、②使命感や責任感、教育的愛情をもち、社会性や対人関係能力、児童・生徒理解力等の資質能力向上を図る取り組みを行う。なお、これらの達成度については、グループ討論や模擬授業、レポート等で各自確認する。</p>					
<p>授業の概要: 履修カルテを基に、栄養教諭としての自己課題を明確化し、不足知識・技能を補充するとともに、資質能力と実践的指導力の向上を図る。さらに、江戸川区教育委員会及び現職教員を招聘し、学校現場の現状について学ぶ。授業の方法としては、事例研究、現地調査、グループ討論、ロールプレイング等の演習を中心に展開し、食に関する指導については主に教科に関する科目担当教員が担当する。</p>					
<p>授業計画</p> <p>第1回 これまでの履修状況カルテに基づいた学修内容の振り返り、及び補充すべき専門知識・技術の確認 [亀井、新山、神田]</p> <p>第2回 教職の意義や教員の役割、学校の組織、校務分掌体系の理解についてのグループ討論 [亀井、新山、神田]</p> <p>第3回 教員として求められる社会性や対人関係能力についての講義及びグループ討論 [亀井、新山、神田]</p> <p>第4回 社会性、対人関係能力、幼児児童生徒理解についてのグループ討論 [亀井、新山、神田]</p> <p>第5回 いじめや不登校、特別支援教育等、今日的な教育課題についての講義及びグループ討論 [亀井、新山、神田]</p> <p>第6回 幼児児童生徒理解や食に関する課題(食物アレルギー、肥満)についてのグループ討論 [亀井、新山、神田]</p> <p>第7回 個別相談指導における児童・生徒及び保護者への対応: 食物アレルギー、肥満等を想定したロールプレイング及びグループ討論 [亀井、新山、神田]</p> <p>第8回 学校給食管理についてのグループ討論 [亀井、新山、神田]</p> <p>第9回 学校現場(給食室を含む)及び地域の伝統野菜(小松菜)農家の見学 [亀井、新山、神田]</p> <p>第10回 学校現場(給食室を含む)及び小松菜農家の見学に関する報告会及びグループ討論 [亀井、新山、神田]</p> <p>第11回 校内の教職員や家庭、地域との連携のためのコーディネートについてのグループ討論 [亀井、新山、神田]</p> <p>第12回 学校給食を教材とした食に関する指導案作成 [亀井、新山、神田]</p> <p>第13回 学校給食を教材とした食に関する指導(模擬授業)及びグループ討論 [亀井、新山、神田]</p> <p>第14回 教育委員会及び現職教員による講演: 小松菜給食の実施、食物アレルギーについて [教育委員会からの学外講師、現職教員、亀井、新山、神田]</p> <p>第15回 まとめ: 栄養教諭としての資質能力の確認 [亀井、新山、神田]</p>					
<p>テキスト: 金田雅代編: 『三訂 栄養教諭論 理論と実際』第2版 建帛社及び教職課程科目で使用した教科書</p>					
<p>参考書・参考資料等: 履修カルテ</p>					
<p>学生に対する評価: 授業におけるグループ討論、模擬授業、レポート等を踏まえ、栄養教諭として必要な専門知識と技術が得られたか、また使命感や責任感、倫理観といった栄養教諭としての資質能力が身についているかを確認する。これらが身につけていると判定されれば合格。</p>					

科目名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担当教員		科目区分	履修条件	AL
介護等体験（事前事後指導を含む）	教職必修	家政	1年前学期	講義	2	たけうち 竹内	ゆきこ 由紀子	単独 教職課程	教職課程履修者	3, 6, 11, 12, 16
教育職員免許法施行規則に定める区分						各科目に含めることが必要な事項				
教科又は教職に関する科目										
授業の概要						授業の到達目標				
現在の学校現場では、いじめや不登校など困難な問題を多く抱えている。教職履修者が、計7日間の社会福祉施設・特別支援学校で介護・介助・交流を経験することは、人の心の痛みや、相違する価値観の他者を認められる心情を培う経験となる。この体験を実施するために必要な知識や思考、姿勢などを学び、体験に備える。体験終了後は、この貴重な体験から学んだことを定着させ、教員の資質を向上させるよう考察を深める。						高齢者や障がい者の介護や交流を通じて、多様な人間の存在とその価値、考え方の違いを認識し、人間に対してより深く理解できるようになる。 多様な人との交流を通じてコミュニケーションの重要性や方法を学び、個人の尊厳や人権、共生、社会連帯などについて理解できるようになる。本学教員養成の理念である、進んで社会に奉仕する態度を身につけ、実習体験でこれを実践することができるようになる。				

授業のスケジュール

回	項目	内容	事前学習	事後学習
1	はじめに	人間の尊厳 教師の資質	「人間の尊厳」「教師の資質」とは何か、自分で考えてみる。	受講前に考えていたことと比較し、どのような新たな気づきがあったか整理しておく。
2	社会の変化と教育	人間性の育成	最近教育界で起こった事件・話題を調べ、何が問題なのか、どのようにして解決したらいいか	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
3	介護等体験の意義と課題	法案の成立 介護等体験の実施について	教科書pp. 18-19を読み、わからない言葉や事項を調べておく。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
4	介護等体験の実際	介護等体験では実際に何をするのか	介護等体験の実習に行くことについて、不安なことや課題だと考えることをまとめておく。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
5	特別支援学校	特別支援学校とは	「特別支援学校」とは何か、あらかじめ調べておく。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
6			「特別支援学校」に実習に行くことについて、どのような課題があるか考えをまとめておく。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
7			発表のためのまとめを作成する。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
8		特別支援学校での体験へ向けて（各自発表）	発表のためのまとめを作成する。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
9	社会福祉施設	社会福祉施設とは	「社会福祉施設」とは何か、あらかじめ調べておく。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
10			「社会福祉施設」に実習に行くことについて、どのような課題があるか考えをまとめておく。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
11			発表のためのまとめを作成する。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
12		社会福祉施設での体験へ向けて（各自発表）	発表のためのまとめを作成する。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
13	介護等体験の事後指導	体験したことをまとめ、プレゼンテーションの準備をする	発表のためのまとめを作成する。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
14			発表のためのまとめを作成する。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。
15			発表のためのまとめを作成する。	授業中、学生同士で話し合ったことを整理し、まとめておく。

教科書	現代教師養成研究会編：『教師を目指す人の介護等体験ハンドブック四訂版』 大修館書店 (2014)	参考書資料	授業中に紹介する
------------	--	--------------	----------

履修上の注意・備考・メッセージ	成績評価方法	成績評価基準
授業の性格上、講義の内容を理解することはもちろんだが、自らが体験し、学び取ることが重要である。教師を目指すものとして自覚をもち、積極的に授業や体験に取り組むこと。意見を求められた時は積極的に意見を述べ、出された課題には意欲的に取り組むこと。「教育実習・介護等体験報告会」においてプレゼンテーションする。	レポート(30%) 体験(50%) 授業中の課題発表(10%) 受講態度(10%)	レポート・体験・課題とも、介護等体験の意義を理解し、体験に対する意欲や共感的・受容的人間理解を深める努力が認められ、体験を終了することができれば合格。

講座名	担当教員	開講時期
医療事務講座Ⅰ	なかの みやこ 中野 都	1,2年前学期
受講条件	医療事務を履修し、技能認定進行協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とする者。	

講座の概要
「医療事務の基礎知識」「点数算定とレセプトの書き方」「公費負担医療、その他の制度」について、医療事務の授業内容をわかりやすく解説し、点数算定の方法を整理・復習し、最終的には医療事務管理士技能認定試験合格を目指す。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	株式会社ソラスト作成 医療事務講座テキスト一式
参考書資料	社会保険研究所 医科診療報酬点数表 平成27年4月版

講座についてのメッセージ
医療事務管理士技能認定試験に合格するためには、「医療事務」の授業内容を確実に理解し、練習問題をこなし、着実に学習を進める必要がある。本講座では、「医療事務」の授業内容をわかりやすく解説し、一問でも多くの練習問題に取り組んでいくので、欠席、遅刻、早退のないよう、授業に臨むこと。

講座名	担当教員	開講時期
栄養士実力養成演習	えぎ のぶこ 江木 伸子	1,2年次5月から12月
受講条件	1、2年生または卒業生で栄養士免許取得見込みの者。および栄養士免許を保有する卒業生。	

講座の概要
栄養士実力認定試験科目である 1. 公衆衛生学、2. 社会福祉概論、3. 解剖・生理学、4. 生化学、5. 食品学総論、6. 食品学各論、7. 栄養学総論、8. 栄養学各論、9. 臨床栄養学概論、10. 栄養指導論、11. 公衆栄養学概論、12. 調理学、13. 食品衛生学、14. 給食管理論 の過去問（『栄養士実力認定試験過去問題集』）を解き、試験内容を理解することにより認定試験に備える。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	(社) 全国栄養士養成施設協会 編：『栄養士実力認定試験過去問題集』 建帛社（最新版）
参考書資料	栄養士実力認定試験科目(1～14)に該当する科目で指定されている教科書

講座についてのメッセージ
事前学習：学習用のノートに教科書をもとに演習問題を解き、疑問点を明確にすること。授業は答え合わせと、疑問点の解決のための時間とします。過去問は何度も使用するので、学習用ノートは必須です。またこのノートに授業で配布したプリントを貼ります。 事後学習：この授業だけでは演習時間は足りません。授業当日の復習はその日の内に行う。見返しができるようにプリントとノートをまとめる。その後はノートをもとに、繰り返し復習をする。

講座名	担当教員名	開講時期
医療事務講座Ⅱ	なかの みやこ 中野 都	1,2年前学期
受講条件	医療事務を履修し、技能認定進行協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とする者。	

講座の概要
前期で行った「医療事務の基礎知識」「点数算定とレセプトの書き方」「公費負担医療、その他の制度」について、復習する。「点検」「外来」「入院」レセプト作成が確実にできるよう、練習問題、試験の過去問題などを多く実施し、最終的には医療事務管理士技能認定試験合格を目指す。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	株式会社ソラスト作成 医療事務講座テキスト一式
参考書資料	社会保険研究所 医科診療報酬点数表 平成27年4月版

講座についてのメッセージ
医療事務管理士技能認定試験に合格するためには、「医療事務」の授業内容を確実に理解し、練習問題、過去問題をこなし、着実に学習を進める必要がある。本講座では、前期の「医療事務」の授業内容をわかりやすく解説し、一問でも多くの練習問題、過去問題に取り組み、合格に向けての勉強方法も指導していくので、欠席、遅刻、早退のないよう、授業に臨むこと。

講座名	担当教員名	開講時期
フードスペシャリスト受験演習	えぎ のぶこ 江木 伸子	1,2年次5月から12月
受講条件	フードスペシャリスト規定科目単位取得見込み且つ3月に卒業見込みの者。また卒業生で規定科目の単位の取得者あるいは取得見込みの者。	

講座の概要
フードスペシャリスト資格認定試験受験科目である 1. フードスペシャリスト論、2. 食品の官能評価・鑑別論、3. 食物学に関する科目、4. 食品の安全性に関する科目、5. 調理学に関する科目、6. 栄養と健康に関する科目、7. 食品流通・消費に関する科目、8. フードコーディネーター論 の過去問（『フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』）を解き、試験内容を理解することにより受験に備える。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	(社) 日本フードスペシャリスト協会 編：『フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』 建帛社（最新版）
参考書資料	フードスペシャリスト資格認定試験受験科目(1～8)に該当する科目で指定されている教科書

講座についてのメッセージ
事前学習：学習用のノートに教科書をもとに演習問題を解き、疑問点を明確にすること。授業は答え合わせと、疑問点の解決のための時間とします。過去問は何度も使用するので、学習用ノートは必須です。またこのノートに授業で配布したプリントを貼ります。 事後学習：この授業だけでは演習時間は足りません。授業当日の復習はその日の内に行う。見返しができるようにプリントとノートをまとめる。その後はノートをもとに、繰り返し復習をする。

講座名	担当教員	開講時期
情報技術活用講座	まえだ やすとも 前田 康智	前後学期
受講条件	情報技術Ⅰab受講者、または情報技術Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ受講者で、パソコン操作や資格取得に意欲があり、積極的に取り組む姿勢のある学生を対象とする。	

講座の概要
Microsoft Word, Excel, PowerPointの各機能について、特に難しい操作について、繰り返し練習する。Wordであれば、特にインデント、タブ、図形の作成について、Excelであれば、特に構成比、関数（順位、四捨五入、検索）の操作について、PowerPointであれば、特にインデント、スライドマスター等の操作についてそれぞれ繰り返し練習する。前期は情報技術Ⅰab受講者を対象に3回程度、後期は情報技術Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ受講者を対象に8回程度実施する予定。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	なし（情報技術Ⅰ、Ⅲ、Ⅳで使用した教科書を使用し、必要に応じてプリントを配布する）
参考書資料	特になし

講座についてのメッセージ
前期については、情報技術Ⅰabの受講者の中で、特に再練習が必要と思われる学生を個別に呼び出し、または個人的に練習を熱望する学生について、それぞれの学生の空き時間を設定して実施する。後期については、情報技術Ⅲ、Ⅳ受講学生に対して、資格支援のために、授業の延長として実施する。情報技術Ⅱの教職課程履修学生に対して、情報技術Ⅰの成績が芳しくない学生に対しては復習問題を課し、必要に応じて再練習のための時間を設定する。

講座名	担当教員名	開講時期
公務員試験・進学対策講座	新山・渡辺・前田	学生の依頼により決定 （個別対応）
受講条件	公務員試験および編入試験について、意欲があり、積極的に取り組む姿勢のある学生を対象とする。途中で意欲が感じられなくなった場合は、支援を中止する。	

講座の概要
公務員試験受験および4年制大学編入を希望する学生に対し、その要望に応じて個別に対応し指導する講座である。希望者は、まず事務局に申し出て指示を仰ぐ。相談の結果、それぞれの進路に適した教員の指導を受ける。指導科目としては、一応、国語・英語・数学・社会が設置されているが、学生の希望によって支援可能な場合は、他の教員の指導を受けることもできる。

教科書・参考書・参考資料	
教科書	相談により決定
参考書資料	特になし

講座についてのメッセージ
本学は学生の将来を考え、一人ひとりを大切に教育したいと考えています。意欲のある学生が、各自の能力をさらに伸ばせるようにこの講座を設定しました。将来的な展望をもって本学の教育を受け、卒業後に大きく羽ばたくため、この支援講座を大いに活用してください。